
全国ボランティア活動実態調査 報告書

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

もくじ

I. 調査の概要	7
II. 調査結果の概要	13
ボランティア組織対象調査	14
個人対象調査	23
III. ボランティア組織対象調査	31
1. プロフィール	32
(1) 団体のプロフィール	32
1. ボランティア活動の位置づけ	32
2. 親団体	33
3. 活動歴	35
(2) 代表者プロフィール	37
1. 代表者の年齢	37
2. 代表者の性別	38
3. 代表者の職業	39
4. 代表としての年数	40
2. ボランティア組織の概要	42
(1) 構成メンバー	42
1. 参加メンバーの人数	42
2. 構成メンバーの年齢層	43
3. 構成メンバーの職業	46
(2) メンバー数の増減と共通性	48
1. 構成メンバー数の増減	48
2. メンバーの共通点	50
3. 活動の現状	53
(1) 活動の範囲	53
1. 活動エリア	53
2. 活動分野	54
(2) 活動のパターン	57
1. ボランティア活動の曜日パターン	57
(3) 活動時間帯	58
1. 平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯	58
2. 休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯	59

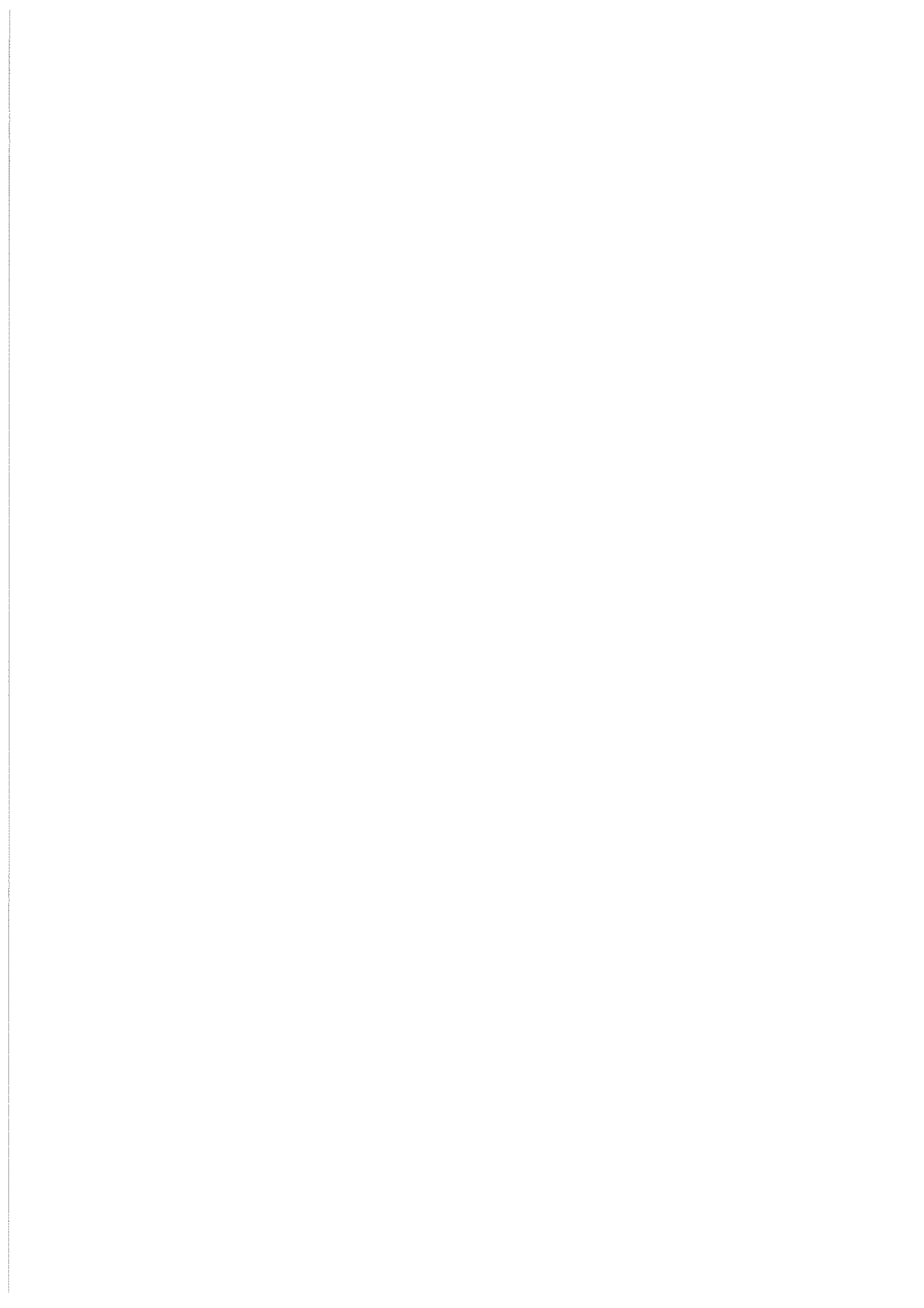
3. 曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯	61
(4) 活動の頻度	62
1. 活動の頻度	62
(5) 活動の予算	64
1. 年間予算規模	64
2. 予算規模の適正感	66
3. 活動経費の主な収入源	68
4. 助成団体・機関	71
(6) 運営における IT 化	72
1. 情報技術の活用状況	72
(7) 活動プログラムと支援団体	75
1. 活動プログラムの提供元組織	75
2. ボランティア活動支援機関の利用状況	76
3. ボランティア活動支援機関	78
4. 利用している／役立っているボランティア活動支援機関のサービス	79
5. 期待しているボランティア活動支援機関のサービス	81
(8) 活動に対する自己評価	83
1. 活動の社会的効果	83
4. ボランティア活動の課題	86
(1) 活動における苦勞	86
1. 苦勞の有無	86
2. 苦勞の内容	87
(2) 活動継続の意向	89
1. 中断意向の有無	89
2. 中断意向の理由	91
(3) 活動実施のうえでの課題	93
1. 活動における困難の有無	93
2. 困難の内容	95
5. 今後の活動方針	98
(1) 今後の活動意向と方針	98

IV. ボランティア個人対象調査	101
-------------------------	------------

1. ボランティア活動者のプロフィール	102
(1) 活動参加者（回答者）の属性	102
1. 性別	102
2. 年齢	102
3. 職業	103

4. 職種	104
(2) ボランティア活動歴	105
1. 初めてボランティア活動をしてからの期間	105
2. ボランティア活動の現状	107
(1) ボランティア活動参加の動機	107
1. ボランティア活動に参加した理由	107
(2) 活動の分野	110
1. ボランティア活動の分野	110
(3) 活動の内容	114
1. 行っている具体的な活動	114
(4) 参加プログラムの実施主体	118
1. 参加プログラムの実施施設や機関	118
(5) 活動のパターン	121
1. ボランティア活動の曜日パターン	121
(6) 活動時間帯	124
1. 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯	124
2. 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯	126
3. 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯	129
(7) 活動の頻度	130
1. 1か月のボランティア活動時間	130
(8) 活動のエリア	132
1. ボランティア活動を行っているエリア	132
(9) 活動経費	134
1. 日頃の活動に要する支出金額	134
2. まとまった大きな支出金額	136
3. ボランティア活動に対する手当	137
3. ボランティア活動推進の課題	139
(1) ボランティア活動推進の課題	139
1. ボランティアセンターの利用方法	139
2. ボランティア活動で得られたこと	141
3. 望んでいる社会的支援や環境整備	143
(2) ボランティア活動上の困難と今後の意向	146
1. ボランティア活動を行うにあたって困っていること	146
2. ボランティア活動中断、休止の意向	148
3. 中断、やめたいと思った理由	150
4. 今後の活動への意向	153
(1) 今後の活動への意向	153

V-1. 全体図表編（ボランティアー組織対象調査）	159
V-2. 全体図表編（ボランティア個人対象調査）	177
VI. 〔資料編〕 調査票	195
VII. 〔参考〕 ボランティア個人対象調査＜WEB 調査＞	213



「社会生活の質」に関する調査を実施するにあたって、調査対象となる世帯の抽出方法、調査の実施方法、調査結果の活用方法等について、調査の趣旨を説明する。

I. 調査の概要

調査の実施方法

①調査対象となる世帯の抽出方法、②調査の実施方法、③調査結果の活用方法等について、調査の趣旨を説明する。

④調査の実施方法、⑤調査結果の活用方法等について、調査の趣旨を説明する。

⑥調査の実施方法、⑦調査結果の活用方法等について、調査の趣旨を説明する。

⑧調査の実施方法、⑨調査結果の活用方法等について、調査の趣旨を説明する。

1. 調査の目的

ボランティア活動を行っている団体・個人の活動内容や活動形態を調査・把握し、その分析を行うことにより、今後のボランティア活動推進のための課題を探ることを主な目的として実施した。

2. 調査実施団体

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

3. 調査概要

(1) 調査の構成

①「ボランティア組織向け調査」(以下、団体調査)、②「個人向け調査」(以下、個人調査)及び③「(WEBによる)個人向け調査」(以下、WEB調査)の3種類を実施した。

(2) 調査対象について

前回(平成14年)の調査時には、社会福祉協議会を通じての調査のみであったことで、社協とのつながりの深い福祉関係のボランティア組織・個人に調査対象が限定されていたことがあった。

ボランティア・市民活動実践者の実態をより幅広く捉えることを狙いとして、今回の調査では、社協に加えて社協以外の関係団体を通じての調査票の配布を行うこと、あわせてインターネットを通じての調査を別途行うこととした。

(3) 調査の実施方法

①団体調査及び②個人調査は、市区町村社協及び関係団体を通じて紙媒体による調査を行った。

市区町村社協：団体調査票4,000、個人調査票4,000

400市区町村社協を無作為抽出、各社協に団体調査票・個人調査票ともに10ずつをメール便にて配布し、ボランティア活動者・団体に対しての配布を依頼した。

関係団体：団体調査票3,970、個人調査票3,970

「広がれボランティアの輪」連絡会議(※)の構成団体等を通じて、367箇所に対して団体調査票・個人調査票を各10もしくは20票配布し、ボランティア活動者・組織に対しての配布を依頼した。

回収方法

受取人払いの返信用封筒にて回収した。

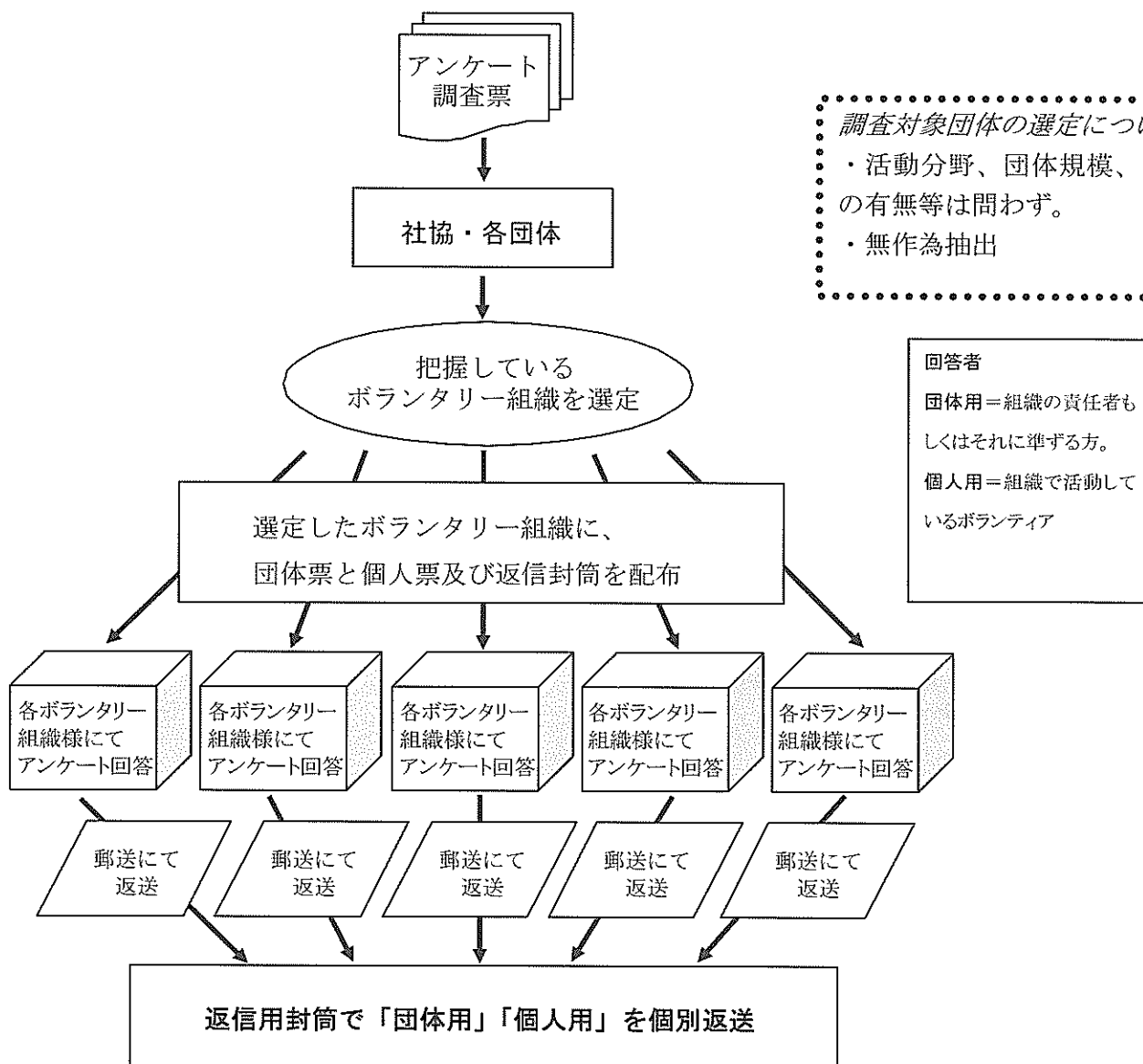
③WEB調査は、インターネットを通じて、調査会社に登録しているボランティア活動を行っているモニターからの回答による調査を行った。

過去2年以内のボランティア活動者1,000人(有効回答者のみ)

※「広がれボランティアの輪」連絡会議

全国的なボランティア・市民活動推進団体や学校教育・社会教育関係団体、青少年団体、経済・商工団体、労働団体、マスコミ系社会事業団等により平成6年6月に結成され、現在55団体により構成され、全国的なボランティア・市民活動への参加よびかけ、ボランティア・市民活動のあり方に関する懇談会の開催、提言活動等の広報・啓発活動を推進している。事務局は、全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター。

①団体調査 ②個人調査 実施フロー



調査対象団体の選定について

- ・活動分野、団体規模、法人格の有無等は問わず。
- ・無作為抽出

回答者

団体用＝組織の責任者もしくはそれに準ずる方。

個人用＝組織で活動しているボランティア

- 調査対象団体の選定について
 - ・活動分野、団体規模、法人格の有無等は問わず
 - ・無作為抽出

- 回答者について
 - ・団体：組織の責任者もしくはそれに準ずる方
 - ・個人：組織で活動しているボランティア

(4) 調査項目

ボランティア組織対象調査

- 団体のプロフィール
- 代表者プロフィール
- 構成メンバー
- メンバーの増減と共通性
- 活動の範囲
- 活動のパターン
- 活動時間帯
- 活動の頻度
- 活動の予算
- 運営における IT 化
- 活動プログラムと支援団体
- 活動に対する自己評価
- 活動における苦勞
- 活動継続の意向
- 活動実施のうえでの課題
- 今後の活動意向と方針

個人対象調査

- 活動参加者の属性
- ボランティア活動歴
- ボランティア活動参加の動機
- 活動の分野
- 活動の内容
- 参加プログラムの実施主体
- 活動のパターン
- 活動時間帯
- 活動の頻度
- 活動のエリア
- 活動経費
- ボランティア活動の支援と促進
- ボランティア活動上の困難と今後の意向
- 今後の活動への意向

(5) 調査時点

平成 21 年 9 月末日時点

(6) 調査実施期間

WEB 調査：平成 21 年 11 月 25 日 ～ 平成 21 年 11 月 30 日

紙媒体調査：平成 21 年 12 月 18 日 ～ 平成 22 年 2 月 1 日

(7) 回収結果(調査実施期間中の回収件数)

団体調査票 2,357 件 (回収率 29.6%)

個人調査票 2,288 件 (回収率 28.7%)

4. 前回調査との関係について

前回は、平成13年12月31日現在／調査期間：平成14年4月1日～4月15日で実施したが、今回は調査対象、方法、調査項目について大きく見直しを行っている。

前回の調査対象は、社会福祉協議会に登録しているボランティア団体・グループ3,000団体と活動者3,000人を無作為抽出により選定している。また、3,000団体を抽出するにあたっては「ボランティア活動を主目的とする団体・グループ」と「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループ」の割合に応じたサンプリングを行っている。個人についても、「ボランティア活動を主目的とする団体・グループに所属しているボランティア」と「ボランティア活動を主目的としていない団体・グループに所属しているボランティア」、「団体・グループに所属せず個人で活動しているボランティア」の割合に応じたサンプリングを行っている。今回は、活動団体や活動者について、割合によるサンプリングを行っていない。

また、調査項目としても、前回は活動分野を細分化して尋ねていないため、その分野ごとの傾向分析を行うようなことはしていない。

今回の調査結果だが、前回調査と類似する設問結果については、〔参考〕として比較を行っているが、その数値の変化要因は、趨勢による傾向の変化だけでなく、前述のとおり調査対象や方法が異なっていることが少なからず影響を及ぼしていることを含み置きいただく必要がある。

5. WEB（ウェブ）調査の実施

「3. 調査概要(2) 調査対象について」にあるように、今回はよりその傾向を幅広くとらえるために社協だけでなく社協以外の関係団体にも調査協力をいただいた。加えて、ボランティア・市民団体等との関係を直接持たないボランティア活動者個人も含めた動向を捉えるために、インターネット調査を行う調査会社に登録をしているモニターでボランティア活動を行っている人を対象としたWEB調査（インターネットによる調査）を実施した。

対象者の選出は、まず予備調査を行って、過去2年間にボランティア活動を行ったことがある人に限定をした。さらに本調査で、無効回答ははじいて、有効回答1,000をもって集計を行った。

上記のように、WEB調査は団体経由での郵送による調査と異なる手法をあえてとっていることから、自ずと回答者のボランティア活動の種類やその背景・環境などが違ってくることを想定して実施した。

そのため、本体の調査とWEB調査との間に傾向の違いが多々現れているが、どちらもボランティア活動の実態を表していることには相違ないと本会では捉えている。

とはいえ、本調査は社会福祉関係者が行うボランティア活動実態調査であることから、詳細な分析は、関係団体を通じた個人及び団体調査について行うこととし、WEB調査は参考値として集計データの公表に留めた。

ボランティア組織対象調査

1. プロフィール

(1) 団体のプロフィール

1. ボランティア活動の位置づけ

- ◆「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」が全体の 70.6%、「活動の一環としてボランティア活動を行っている」が 24.4%となっている。
- ◆「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」は 10 人未満規模では 74.9%、100 人以上規模では 63.4%を占めている。
- ◆障害者の福祉活動団体・グループでは「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」の割合が 82.3%ともっとも高い。

2. 親団体

- ◆活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループの親団体は「趣味の会・グループ」の 21.2%がもっとも多い。
- ◆「趣味の会・グループ」は教育、文化、スポーツ振興分野や自治会・町内会・地区社協等の活動団体・グループに多い。

3. 活動歴

- ◆団体・グループとしての活動年数は幅広く分布している。
- ◆子育て（乳幼児）に関する活動を行う団体・グループでは、10 年未満の団体・グループが 6 割近くを占めており、比較的新しい組織が多くみられる。

ボランティア活動の組織は、ボランティアを主たる目的にした組織が多くを占めている。日常的な活動からボランティア活動に派生した組織は 24.4%であり、主たる目的にした組織を大きく下回る。新たにボランティアという形で活動団体を組織することに比べれば、現在の趣味、地域活動など既存組織の活動から派生するケースの方が、一般的に組織の立ち上げや運営が容易である。ボランティア拡大の方策の一つとして、既存組織とのタイアップや既存組織への働きかけ、理解促進がボランティア確保には有効といえる。

近年では子育て（乳幼児）などの問題意識やニーズの高まりなどから、新たな団体・グループが設立され、ボランティア組織の活動歴は幅広く分布している。

(2) 代表者プロフィール

1. 年齢

- ◆団体・グループの代表者の年齢は「60代」がもっとも多く、4割超を占めている。
- ◆活動年数が 10 年未満の団体・グループでは「50代」以下の代表者の占める割合が高くなっている。

2. 性別

- ◆団体・グループの代表者の約3人に2人（66.1％）は「女性」で構成されている。
- ◆10年未満の団体・グループでは「男性」比率が高まり、とりわけ5年未満では「男性」が「女性」とほぼ同率の約5割に及んでいる。

3. 職業

- ◆代表者の現在の職業は「無職（これまでにフルタイムで働いた経験がある）」がもっとも多く、全体の26.0％を占める。
- ◆活動開始10年未満の団体・グループでは、「定年退職後」とする代表者がもっとも多く、3割近くに及んでいる。

4. 代表としての年数

- ◆代表となってからの就任年数は「5～10年未満」（23.2％）がもっとも多い。
- ◆活動開始20年以上の団体・グループでも10年未満が6割程度以上存在している。

現在の団体・グループの代表者は60歳以上が約7割を占め、高い年齢層が多くを占めている。定年退職後とした代表者も多いなど、高齢者が中心になるボランティア団体・グループの状況は構造的なものといえる。一方、比較的新しい団体・グループでは40代以下の代表者も目立ち、若い世代が積極的に立ち上げるケースもみられる。定年退職後以外の参加者が代表として中核になることを可能とするような環境や支援が待たれる。

2. ボランティア組織の概要

（1）構成メンバー

1. 参加メンバーの人数

- ◆メンバー数は「10～20人未満」がもっとも多く、全体の30.6％を占める。
- ◆年間予算5万円未満の団体・グループにおけるメンバー数は、20人未満が全体の76.5％を占めている。
- ◆子育て（乳幼児）に関する活動を行う団体・グループでは小規模組織が多く、「10人未満」が35.0％を占めている。

2. 構成メンバーの年齢層

- ◆メンバーの年齢層では「60代」が82.6％ともっとも多くなっている。
- ◆中心になる年齢層でも「60代」が41.4％でもっとも多い。
- ◆防災、防犯、交通安全などの活動、人権擁護に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動
団体・グループの年齢層は「50代」にシフトしている。

3. 構成メンバーの職業

- ◆メンバーの職業は「主婦・主夫（仕事をもっていない方）」（79.3％）がもっとも多い。
- ◆団体を構成する主なメンバーの職業は「主婦・主夫（仕事をもっていない方）」（41.7％）と「定年退職後の方」（16.0％）が多く、約6割の団体・グループで非就業者が中心メンバーとなっている。

ボランティア組織の約半数が 20 人未満のメンバーで構成されている。参加者は多くの団体・グループで 60 代以上が中心となっており、ボランティア組織は高齢者が活動の主力を形成している。多様な参加者が相互に刺激したり、教えあったりすることで組織としてシナジー効果を期待することができる。基本的には現在の主力である「主婦・主夫（仕事をもっていない方）」、「定年退職後の方」に加え、それら以外の属性の参加がテーマとして浮上している。そのためにはボランティアのリクルーティングのあり方や募集広報方法の見直しも必要となっている。

（２）メンバーの増減と共通性

1. 構成メンバーの増減

- ◆約半数（49.9%）の団体・グループではメンバー数が「変わらない」。「増えている」とした団体・グループは 25.1%にとどまる。
- ◆ボランティア活動を主目的とした団体・グループで「増えている」とする割合はやや高くなっている。
- ◆10 人未満と 100 人以上の団体・グループにおいては、「減っている」が「増えている」とする団体・グループの割合を 10 ポイント前後上回る。

2. メンバーの共通点

- ◆立ち上げメンバーに共通する要素は「ボランティア活動を推進する機関の呼びかけで集まった人達」（24.6%）がもっとも多い。
- ◆障害者の福祉活動では「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」、教育、文化、スポーツ振興や地域の美化・環境保全に関する活動分野では「趣味が同じ仲間」が多い。

参加メンバーが「減っている」団体・グループも 2 割超を占めている。とりわけ、メンバー 100 人以上の大規模組織においての減少が顕著で、一部の団体・グループではボランティア参加者の確保が困難になっている状況がみてとれる。減少の背景にあることを分析し、組織として現在のボランティア参加者が継続的に活動できる環境を整えたり、新しいボランティア参加者が魅力的に感じる要素などの提供が必要であるといえる。

3. 活動の現状

（１）活動の範囲

1. 活動エリア

- ◆活動エリアは「市町村全域を範囲とした活動」がもっとも多く、全体の 61.7%を占める。
- ◆100 人未満規模では「在宅での活動が中心」を含めて市町村の範囲を超えないエリアでの活動団体・グループが 75%前後を占める。
- ◆高齢者の福祉活動、地域の美化・環境保全に関する活動などは、市町村の範囲を超えないエリアの活動を行う団体・グループの割合が 8 割超に達する。

2. 活動分野

- ◆活動の分野は「高齢者の福祉活動」の 36.3%を最大に、「障害者の福祉活動」、「地域の美化・環境保全に関する活動」、「まちづくりなどに関する活動」などの分野が多い。
- ◆市町村の範囲を超えないエリアの活動を行う団体・グループは「高齢者の福祉活動」がもっとも多い。

ボランティアの活動範囲は、市町村の範囲を超えない活動を行う団体・グループが多くを占める。ボランティア参加者の年齢や職業などを考えると、活動の範囲が制約されることは避けられないものとみられる。また、市町村の範囲を超えないという中では、活動分野などにも制約があり、分野が特定されがちになることも避けられない。

(2) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

- ◆「平日に活動している」団体・グループは 63.5%となっている。
- ◆20代以下では「土日祝日に活動している」とする割合が7割前後が多い。

(3) 活動時間帯

1. 平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

- ◆平日にボランティア活動を行っている団体・グループの活動時間帯は「午後」(67.5%)よりも「午前中」(76.4%)がやや多くなっている。

2. 休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

- ◆土日祝日にボランティア活動を行っている団体・グループの活動時間帯は「午前中」と「午後」がいずれも70%台でほぼ同率となっている。

3. 曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯

- ◆平日・土日祝日には特に関係なく日頃活動している団体・グループの活動時間帯は「夕方」と「夜間」の割合がそれぞれ24.3%、17.6%であり、この割合は平日に活動する団体・グループや休日に活動する団体・グループに比べるといずれも割合が高くなっている。

(4) 活動の頻度

1. 活動の頻度

- ◆定期的なボランティア活動を行っている団体・グループの活動頻度で、もっとも多いのが「月2～3日」(27.9%)であり、「週1日」が14.9%と続く。
- ◆人権擁護に関する活動は「毎日」、健康や医療に関する活動は「週4～5日」、国際交流・国際協力に関する活動は「週1日」がそれぞれもっとも多くなっている。

6割超の団体・グループが平日にボランティア活動している。また、「土日祝日に活動している」、「平日・土日祝日に関係なく活動している」団体・グループもそれぞれ3割強存在している。数字をみる限りは、活動の曜日に大きな偏在はないといえる。

一方、時間帯では午前中や午後などのいわゆる日中では、どのパターンをとっても一定以上のボランティア活動が行われているが、早朝や夕方、夜間などの特定の時間帯に限ると活動を行っていない団体・グループが極端に増える。ボランティア供給量は時間帯によって偏在し、時間帯によっては必要な活動に支障が生じたり、サービス低下が避けられない状況が生じている可能性がある。安定的にボランティアを供給できるための参加者の確保や配員ローテーションなどのシステム整備などが課題になる。現在は「月2～3日」の活動団体・グループがもっとも多いが、これらの活動の頻度をあげるため解決すべき課題は多い。

(5) 活動の予算

1. 年間予算規模

- ◆平成20年度における年間予算は「5万円未満」がもっとも多く、全体の26.2%を占める。
- ◆25年以上活動している団体・グループでは3割近くが年間予算50万円以上となっている。
- ◆人権擁護に関する活動では100万円以上の団体・グループが47.8%を占めた。

2. 予算規模の適正感

- ◆現在の予算について「現在の活動を行うには資金がやや不足している」、「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」とした団体・グループは、合わせると半数近く(47.3%)を占めている。
- ◆予算規模別には予算規模が小さい団体・グループほど「不足感はない」とする割合が高くなっている。
- ◆「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」とした団体・グループは、健康や医療に関する活動、障害者の福祉活動、高齢者の福祉活動でやや多い。

3. 活動経費の収入源

- ◆活動経費に「会費」(40.6%)と「毎年決まって助成される助成金・補助金・委託金」(33.7%)を主な収入源としている団体・グループが多くなっている。
- ◆予算規模別には500万円以上規模で「事業収入」と「個人や企業からの寄付金」を主な収入源とする団体・グループの割合が大幅に高まっている。

4. 助成団体・機関

- ◆助成金・補助金・委託金の交付元は「社会福祉協議会」が多く、その割合は6割を超える。
- ◆国際交流・国際協力に関する活動、まちづくりなどに関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動では半数超の団体・グループが「行政等公的機関」が交付元。

ボランティア団体・グループの年間予算は5万円未満が26.2%でもっとも多く、20万円未満まで合わせると、全体の半数を超える。活動の基盤となる経費は「会費」、「助成金・補助金・委託金」への依存が高くなっているが、大規模団体・グループでは「事業収入」や「寄付金」などの独自の活動や資金源によってカバーするケースも多くなっている。

(6) 運営における IT 化

1. 情報技術の活用状況

- ◆コンピュータやインターネット等の情報技術の運営や活動における利用では、39.1%の団体・グループで「会報や活動記録の作成・保存に活用している」。
- ◆50人以上の団体・グループにおける「団体の事務管理に活用」や「会報や活動記録の作成・保存に活用」は50%を超えている。

業務、運営、管理の効率化にはコンピュータやインターネット等の情報技術は欠かせない存在になっているが、ボランティア団体・グループにおいては、「会報や活動記録の作成・保存」などの活用にとどまっている。現状では広報目的のインターネットや参加者のコミュニケーションツールとして利用している団体・グループは多いとはいえ、情報技術の活用による運営の効率化・効果アップが期待される。

(7) 活動プログラムと支援団体

1. 活動プログラムの提供元組織

- ◆活動を「自分達で活動を企画している」団体・グループは38.6%であり、ほぼ6割の団体・グループは特定の機関や団体のプログラム活用や要請を受けて活動している。
- ◆“自分達で活動を企画している”団体・グループは地域の美化・環境保全に関する活動をはじめ、国際交流・国際協力に関する活動などの分野に多い。

2. ボランティア活動支援機関の利用状況

- ◆ボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループは全体の77.5%を占め、「利用していない」(19.2%)団体・グループは少数となっている。
- ◆100人未満規模ではほぼ8割前後がボランティア活動支援機関を「利用している」が、100人以上のその割合は67.7%に低下する。
- ◆子育て(乳幼児)に関する活動と人権擁護に関する活動では87.0%の団体・グループがボランティア活動支援機関を利用。

3. ボランティア活動支援機関

- ◆利用がもっとも多かったボランティア活動支援機関・団体は「社会福祉協議会(ボランティアセンター)」であり、約8割の団体・グループが利用。
- ◆「社会福祉協議会」を軸に、防災、防犯、交通安全などの活動や国際交流・国際協力に関する活動では「行政機関のボランティア活動支援部署」、まちづくりなどに関する活動では「市民活動やNPO活動を支援するNPO」などの利用割合が高い。

4. 利用している/役立っているボランティア活動支援機関のサービス

- ◆利用しているサービスは「事務所や活動拠点の提供」、「活動に関連する研修機会の提供」、「活動費等の助成」、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」などが40%台で多くなっている。
- ◆100人以上の大規模団体・グループでは「活動に関連する研修機会の提供」、50~100人未満では「活動費等の助成」を半数以上の団体・グループが利用。
- ◆役立っているサービスは「事務所や活動拠点の提供」が14.4%でもっとも多く、「活動費等の

助成」、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」と続いている。

5. 期待しているボランティア活動支援機関のサービス

- ◆期待している支援やサービスは「活動費等の助成」の 26.1%を最大に、「事務所や活動拠点の提供」(13.8%)、「活動に関連する研修機会の提供」(11.5%)が多い。
- ◆10人未満の小規模団体・グループでは支援機関に対し「活動・組織運営に関する相談」や「ボランティア募集への協力」に期待する割合がやや高くなっている。

ボランティア活動を「自分達で活動を企画」している自主活動団体・グループは4割弱である。ほぼ6割の団体・グループは特定の機関や団体のプログラム活用や要請を受けており、それらは活動には不可欠な存在となっている。

また、8割近い団体・グループがボランティア活動支援機関を利用しながら活動している。特定の機関や団体および活動支援機関との連携が、ボランティア活動に大きな影響力を持つ状況がある。具体的には「事務所や活動拠点」、「活動に関連する研修機会」、「活動費等」、「必要な備品や機器」をはじめ、多くのサービスを利用している。団体・グループの利用分野はかなり広がり示しており、団体・グループのニーズは多様であることがうかがえる。活動支援機関は多様なニーズに応えることができるように多くのサービスメニューを準備する必要がある。

(8) 活動に対する自己評価

1. 活動の社会的効果

- ◆活動の社会的な効果について、「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」(52.9%)がもっとも多く、「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」、「対象問題について、社会の関心を集めることができた」、「社会的な課題や困難なニーズ解決に直接役立つことができた」が3割台で続く。

規模を問わず「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」ことに加え、大規模団体・グループほど多くのボランティア活動の社会的な効果や意義を評価する傾向が強い。こうしたボランティア活動の意義や活動によって得られることの認識の浸透などを通し、魅力あるボランティア像を一般に広く伝えていくことが求められる。

4. ボランティア活動の課題

(1) 活動における苦勞

1. 苦勞の有無

- ◆団体・グループの立ち上げ時(活動を開始する前後)に苦勞した経験が「ある」とした団体・グループは52.7%であり、苦勞した経験が「ない」団体・グループよりも約14ポイント多い。
- ◆苦勞した経験が「ある」団体・グループは30~50人未満の団体・グループが多く、その割合は6割近くに及んでいる。

2. 苦勞の内容

- ◆苦勞内容は「活動のメンバーが集まらなかった」こと（35.4%）を最大に、「立ち上がり資金が不足していた」、「活動の拠点を探すことが難しかった」、「どのようにはじめられるかわからなかった」、「役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった」、「具体的になにをしたらよいかわからなかった」が2割超で続く。
- ◆10人未満の団体・グループでは「活動のメンバーが集まらなかった」や「活動をはじめてみたがニーズがなかった」が他の規模に比べると高い割合になっている。

（2）活動継続の意向

1. 中断意向の有無

- ◆これまでに団体・グループとしての活動をやめよう、休止しようと考えた経験が「ない」とした団体・グループ（75.1%）が多数を占めている。
- ◆10人未満の団体・グループにおいて、活動をやめよう、休止しようと考えた経験の「ある」団体・グループは25.6%と、高くなっている。

2. 中断意向の理由

- ◆活動停止、休止の意向の背景としては「新しいメンバーが入ってこなかった」（48.2%）がもっとも多く、また「メンバーの世代交代がうまくいかなかった」（32.4%）、「中心的なメンバーが活動できなくなった」（26.1%）など、メンバーの確保が課題となっている。
- ◆10人未満の団体・グループでは「中心的なメンバーが活動できなくなった」（33.3%）、100人以上の団体・グループでは「新しいメンバーが入ってこなかった」や「活動がマンネリ化し、活発でなくなった」ことをあげる傾向がある。

（3）活動実施のうえでの課題

1. 活動における困難の有無

- ◆活動を行ううえで困っていることが「ある」とした割合は75.1%に達している。
- ◆活動分野別には子育て（乳幼児）に関する活動団体・グループの87.0%が困っていることが「ある」としたのを最大に、障害者の福祉活動、まちづくりなどに関する活動では8割を超える。

2. 困難の内容

- ◆現在、活動を困難にしている原因としては、「メンバーが高齢化している」（65.3%）がもっとも多く、「新しいメンバーが集まらない」（56.7%）、「中心となるメンバーが不足している」（35.9%）が続いている。
- ◆メンバーの人数が10人以上規模では「メンバーが高齢化している」ことがトップになっているのに対し、10人未満規模では「新しいメンバーが集まらない」ことをあげる団体・グループが相対的に多い。

団体・グループの立ち上げ時（活動を開始する前後）に苦勞した経験が「ある」とした団体・グループが52.7%存在している。立ち上げ時ということもあって、活動ノウハウや対応スキル、ボランティアのマンパワー、資金などが十分とはいえないケースも多いことがうかがえる。

このような現実を背景の一つとして、ボランティア活動を中断、休止しようとした団体・グループも、数は少ないが2割弱存在している。ボランティア団体・グループが十分に機能し、長期間にわたり活動を持続させるためには、適切な指導やアドバイスの機関や機会が不可欠になっているといえる。

5. 今後の活動方針

(1) 今後の活動意向と方針

- ◆今後の活動については63.8%の団体・グループが「現在の活動を持続させていく」としている。
- ◆「現在の活動の密度を上げていく」は人権擁護に関する活動、災害時のボランティア活動で3割を超え、他の分野を上回る。

今後について多くの団体・グループが活動を継続していく意向を示しているものの、活動の密度を上げたり、範囲を広げるなどの拡充意向は少なく、現状を持続させる団体・グループが多い。活動密度を高めたり、活動範囲を広げるなどの拡充の方向で活動を展開するには、人・モノ・資金の経営資源の増大が不可欠であり、現時点ではこれらが不十分というケースが多くあるものとみられる。ボランティア活動の発展には、意欲ある団体・グループをサポートする体制の確立が鍵を握る。

ボランティア個人対象調査

1. ボランティア活動参加者のプロフィール

(1) 活動参加者の属性

1. 性別

◆「女性」の構成割合は68.8%であり、「男性」(31.0%)の2倍以上の割合を占める。

2. 年齢

◆回答者の年齢は「60代」がもっとも多く、全体の40.9%に及んでいる。ついで「70代」と「50代」がそれぞれ2割前後の割合で続く。

◆女性では50代以下が35.9%を占め、男性のその割合を上回る。男性では70代以上の高齢層の占める割合がやや高くなっている。

3. 職業

◆ボランティアの35.6%は「主婦・主夫」となっている。

◆「自営業」、「団体職員(社会福祉法人、社会福祉協議会等含む)」など就業者のボランティア参加者は合わせても27.1%を占めるにとどまり、ボランティア参加者は非就業者が多くを占めている。

◆男性参加者の約半数(47.9%)を「定年退職後の方」が占めている。一方、女性では「主婦・主夫(仕事をもっていない方)」(51.4%)を中心に、非就業者が68.1%を占める。

4. 職種

◆現在の職種(過去に勤務経験のあるボランティアは最後の職種)では、「事務的職種」(22.2%)がもっとも多く、「専門職・技術職」、「教育関係職」が10%台でこれに続いている。

◆男性では「管理職」(21.4%)、女性では「事務的職種」(26.9%)がそれぞれ多くなっている。

ボランティア参加者が、60代の高齢者を中心にした構成であることは、『ボランティア組織対象調査』の結果と符合している。また、女性ではボランティアの多くが主婦、男性では定年退職後に参加しているという特性についても、先にみた通りである。これからのボランティア確保は既存ルートの参加者に加えて、男性や就業者の取り込みが、欠かせない要素の一つと言える。

(2) ボランティア活動歴

1. 初めてボランティア活動をしてからの期間

◆初めてボランティアをしてから、「5～10年未満」が22.5%でもっとも多いが、全体の半数超(51.4%)が10年以上のボランティア歴をもつ。

◆女性ではボランティア歴10年以上が54.3%に及んでいるのに対し、男性ではそれを約10ポイント下回る44.9%となっている。

ボランティア参加者の活動歴はかなり幅広く分布している。しかし、ボランティア歴3年未満の割合が1割強にとどまっている。このことは、ボランティアへの近年の新規参加者が多くなく、ボランティアが過去からの継続的な参加者に支えられ、次代の中核となるべき層が育成されにくいという問題を提起する。

2. ボランティア活動の現状

(1) ボランティア活動参加の動機

1. ボランティア活動に参加した理由

- ◆「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」(39.3%)を最大に、「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」、「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」、「地域や社会を知りたかった」がいずれも3割以上の割合を占める。
- ◆男性では「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」、女性では「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」がそれぞれ4割超でもっとも多い。
- ◆30代以下では「自分の人格形成や成長」、40代や50代では「自分自身の関心や趣味の活動」、60代以上では「社会やお世話になったことに対する恩返し」がもっとも多い。

(2) 活動の分野

1. ボランティア活動の分野

- ◆複数回答では「高齢者の福祉活動」(44.1%)がもっとも多く、「障害者の福祉活動」、「自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動」、「まちづくりなどに関する活動」、「地域の美化・環境保全に関する活動」が多くなっている。
- ◆主な活動として単一回答でたずねた結果でも「高齢者の福祉活動」が16.5%ともっとも多い。
- ◆「高齢者の福祉活動」は男性の36.1%に対し、女性では47.7%と、男性の割合を10ポイント以上上回っている。「子育て(乳幼児)に関する活動」は女性では23.0%であるが、男性では6.3%。
- ◆「高齢者の福祉活動」、「災害時のボランティア活動」、「自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動」などの分野では、60代以上の年齢層の参加率が高い。

ボランティアの動機として、自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった参加者が約4割を占め、日常の活動の中から自然発生的に派生している参加者がもっとも多い。こうした“ボランティアの芽”に対して、必要なアドバイスや支援を行うことが、ボランティア参加者を拡大するうえで有効であることを示している。活動分野は高齢者の福祉活動を中心に多様な分野に広がっている。ボランティアが求められている状況についての広報を、関連する趣味などのサークルやグループに対して行い、参加への動機付けや意識の喚起を行うことが必要と言える。

(3) 活動の内容

1. 行っている具体的な活動

- ◆「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」の活動が39.2%でもっとも多い。ついで33.5%のボランティアが「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」を行っている。
- ◆男性では「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」、女性では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」がそれぞれ4割台でもっとも多い。
- ◆小・中学校区などの狭い範囲における活動や市町村全域を範囲とした活動では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」、市町村域を超えた活動では「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」が多い。

(4) 参加プログラムの実施主体

1. 参加プログラムの実施施設や機関

- ◆参加しているボランティア活動のプログラムを実施している施設や機関は「社会福祉協議会」が57.7%でもっとも多く、ついで「高齢者を対象とした福祉施設」が31.2%となっている。
- ◆性別では、上位の施設や機関は基本的には変らないものの、男性では「その他のNPO・NGO」が、女性では「学校」がそれぞれ上位5項目に入っている。
- ◆20代を中心に若い年齢層では、「その他のNPO・NGO」などの割合が高齢層などに比べると相対的に高い。

ボランティアが参加している活動に関するプログラムの実施主体は、社会福祉協議会が突出している。施設や病院など、活動先が直接プログラムや実施内容を提供しているケースも少なくない。参加者が自分達で活動を企画しているケースは2割程度にとどまり、全体としてはやや受動的な活動になっている可能性もある。ボランティア参加者が積極的にプログラムや運営に直接参加すれば、ボランティアの魅力も強く感じられ、達成感も大きなものにすることが可能になる。こうした能動的なボランティア参加が進めば、活動の継続期間が延びる要素にもつながる。

(5) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

- ◆ボランティア活動を行う曜日のパターンとしては「平日に活動している」ボランティアがもっとも多く、65.0%を占める。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」と「土日祝日に活動している」はそれぞれ36%前後。
- ◆企業（被雇用者）、公務員などの就業者と学生では「土日祝日に活動している」がもっとも多い。

(6) 活動時間帯

1. 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

- ◆平日に活動をしているボランティアの活動時間帯は「午前中」と「午後」が多く、それぞれ78.1%、66.9%。

◆主な時間帯を1つだけ選択した結果は「午前中」が42.5%、「午後」が25.1%。

2. 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

◆休日に活動をしているボランティアの活動時間帯は、「午前中」と「午後」がそれぞれ約7割～8割弱、この時間帯以外では「夕方」、「夜間」が1割台、「早朝」は1割未満の活動率となっている。

3. 曜日に関係なく活動を行っているボランティアの活動時間帯

◆平日・土日祝日に関係なく日頃活動しているボランティアの活動時間帯は「午前中」と「午後」が8割前後でほぼ同率、「午後」の割合は3パターンの中ではもっとも高くなっている。

(7) 活動の頻度

1. 1か月のボランティア活動時間

◆1か月間のボランティア時間は「5～10時間未満」がもっとも多く、ボランティアの4人に1人(26.1%)に及んでいる。ボランティアの7割超は20時間未満の活動となっている。

◆男性の「50時間以上」の参加者は約1割を占め、女性の2倍近い割合となっている。

平日に活動するボランティアが6割を超えている。一方、土日祝日など休日に活動するボランティアは3割半ばとなっている。ただし、ボランティアの最大の担い手である主婦は平日にシフトし、学生および企業勤務者など就業者では土日祝日など休日の活動が増えている。また、活動の時間帯についても日中がほとんどで、早朝、夜間などの時間帯は活動が少ない。現在のボランティア活動の課題の一つにはこうした供給の偏在がある。さらに、1か月間のボランティア時間は10時間未満が約半数を占めており、短時間ボランティアが多くなっている。

曜日や時間帯によって、ボランティアの活動量に差がある現状を是正するためには、多くの層からの参加を可能にするメンバー編成が大切であるが、現状ではそのような構成にはなっていないことが調査から明らかになった。また、現在の参加者一人ひとりのボランティア時間を増加すれば、総量としてのボランティア活動時間が増えることになる。そのことは新たな参加者の確保と同様な効果がある。新規参加者の確保が困難なボランティア団体・グループでは、現有の参加者のスキルアップやボランティア時間の拡大などが求められる。

(8) 活動のエリア

1. ボランティア活動を行っているエリア

◆活動の範囲については、ボランティアの56.9%が「市町村全域を範囲とした活動」としている。

7割以上が市町村を超えない範囲で活動しており、「市町村域を超えた活動(県域・海外など)」の広域ボランティアは1割程度にとどまる。

◆「市町村域を超えた活動(県域・海外など)」は、学生のほか、公務員、自営業、NPO・NGO職員、企業(被雇用者)などの就業者にやや多くなっている。

(9) 活動経費

1. 日頃の活動に要する支出金額

- ◆ ボランティア活動にともなう1か月間の支出について、約4割のボランティアが1,000円未満(0円を含む)としているが、活動に3,000円以上支出しているボランティアも4人に1人(25.0%)を占めている。
- ◆ 活動時間の増大とともに月間支出は増えており、50時間以上のボランティアでは「10,000円以上」が半数近くを占める。

2. まとまった大きな支出金額

- ◆ 研修や制服、備品などの購入のために支出した年間費用が「まったくない(0円)」としたボランティアは35.7%であり、およそ6割のボランティアでは一定以上の支出がある。
- ◆ ボランティア歴が長いほど、年間のまとまった支出は大きくなる。

3. ボランティア活動に対する手当

- ◆ ボランティア活動に対する手当が「まったくない」は64.2%。手当が支給されるケースでも「実費が手当でされる」(17.4%)とする実費支給が多く、「活動量・回数や活動時間に応じた活動費用を手当てされる」ボランティアは1割に満たない。
- ◆ 小・中学校区などの狭い範囲における活動では「まったくない」とした割合が74.3%を占める。

ボランティア活動にともなう支出はボランティア参加者の約4割が月あたり1,000円以下(0円を含む)としている。また、研修や制服、備品などの購入のための支出も「まったくない(0円)」とした割合が4割近くを占め、多くはボランティアにともなう経済的な負担はほとんどない。ただ、その一方で50時間以上のボランティアでは「10,000円以上」の支出がある人が半数近くを占めるなど、ボランティア活動に多く参加するほど費用の持ち出しになる傾向もみられる。経費の自己負担の増加がボランティア活動の時間数拡大を抑制している側面があるとすれば、自己負担を軽減することで、ボランティア活動が活発化する可能性を示している。そのためには、団体・グループの経済的自立性やそれを支援する補助の充実などが求められる。

3. ボランティア活動推進の課題

(1) ボランティア活動推進の課題

1. ボランティアセンターの利用方法

- ◆ 「ボランティアセンターに行ったことや、職員等と話をしたことはない」は17.0%であり、多くのボランティアは、センターとのなんらかの関わりのなかで活動をしている。ただ、関わり方の程度についてはかなり個人差が大きい。

2. ボランティア活動で得られたこと

- ◆ ボランティア活動で得られたことのトップは「多くの仲間ができた」(64.0%)となっている。以下「活動自体が楽しい」、「地域社会とのつながりをつくることのできた」、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」、「新しい知識や技術を習得することができた」、「ボランティア活動が必要不可欠なものであることを実感した」、「自分が社会や他の人に役立っていることを

実感できた」などが40%以上の高い割合で続く。

- ◆女性では「人と協力したり連携したりする楽しさを知った」で男性を約13ポイント上回ったのを最大に、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」、「新しい知識や技術を習得することができた」、「活動自体が楽しい」で男性を10ポイント前後上回った。
- ◆20代以下のボランティアでは「活動自体が楽しい」をはじめとして、多くの項目で他の年齢層の評価割合を上回る傾向がある。

3. 望んでいる社会的支援や環境整備

- ◆「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」(50.8%)がもっとも多く、「活動者同士の交流機会」、「活動や研修に必要な経費の援助」、「活動に対する社会的な理解」、「活動の機会やボランティア団体に関する様々な情報紹介」を望む意見がそれぞれ30%以上に及んでいる。
- ◆年齢別に要望の特徴をみると、20代以下では「活動に対する社会的な理解」、「活動の経験が社会的な資格取得につながる」、「活動の経験が、進学・就職時に評価されること」などを要望。

ボランティアセンターの利用経験がまったくないボランティアは2割程度にとどまるが、ボランティアセンターに「あまり行くことはない」、「年に数回程度」の利用者も3割半ばに及んでいる。一方、「頻繁」、「月に1回以上」の高頻度利用者も4割を超え、ボランティアセンターの利用状況はかなり個人差が大きい。ボランティアの多くが活動のためのスキルや知識の習得機会を求めたり、交流の場、情報などを求めており、センターがボランティア参加者のニーズに沿った機能や役割を拡充することで、利用率は向上することが期待できる。

ボランティア自体の意義とともに、人間関係の形成、自己の研鑽、スキルの獲得などの“利益”を評価する意見も多くみられる。こうしたボランティアのもつ、副次的なメリット側面も、ボランティア未経験者に広く知られ、理解されることがボランティアの底辺拡大につながる。

(2) ボランティア活動上の困難と今後の意向

1. ボランティア活動を行うにあたって困っていること

- ◆現在、活動をするにあたって「特に困っていることはない」とするボランティアの割合は全体の34.3%。
- ◆困っていることがあるとしたボランティアは、「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」、「活動に求められる知識や技術が不足している」、「活動中の事故が心配である」などの問題をあげている。
- ◆活動をするにあたって「特に困っていることはない」とする割合は60代以上の年齢層で高い。

2. ボランティア活動中断、休止の意向

- ◆これまでに活動を中断、やめたいと思ったことが「ない」ボランティアは63.4%を占め、「ある」(27.9%)とするボランティアを大きく上回る。
- ◆中断、やめたいと思ったことが「ある」ボランティアは、年齢別には10代を除くと、20代から40代へと年齢が進むにつれて多くなり、それ以降は減少するが70代以降増加傾向に転じる。

3. 中断、やめたいと思った理由

- ◆理由(複数回答)のトップは、「健康上の理由や体力的な限界を感じた」(34.3%)、以下「学校や仕事が忙しくなった」と「期待や要請が大きくなって負担になった」が20%前後で続く。
- ◆女性に多い理由としては、約13ポイント差の「子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった」(17.9%)をはじめ、「期待や要請が大きくなって負担になった」(21.8%)など。
- ◆40代以前の年齢層では「学校や仕事が忙しくなった」こと、60代以降では「健康上の理由や体力的な限界を感じた」をあげるボランティアがもっとも多くなっている。

現在のボランティアから中断者や休止者を最小限にすることが、新規参加者の増加を促進することと同様に、ボランティアの確保の上で重要な視点である。ボランティア対象調査では組織立ち上げ時の問題として3割超の団体・グループがメンバーが集まらないことを指摘しており、メンバーの継続参加の成否はメンバーの確保、組織運営に強く影響する。

健康上の理由や体力的な限界、学校や仕事との兼ね合い、期待や要請の負担感などがボランティアの中断や休止の背景はさまざまだが、こうした状況を作りださないマネジメント、システム作りが求められる。

4. 今後の活動への意向

(1) 今後の活動への意向

- ◆7割以上が「現在の活動を続けていきたい」(71.2%)としており、ボランティアの多くは現状維持しながらの継続意向となっている。「活動の範囲を広げていきたい」(9.6%)や「現在の活動回数を増やしていきたい」(3.3%)など拡充する方向での継続意向は1割強。
- ◆「活動の範囲を広げていきたい」や「現在の活動回数を増やしていきたい」の拡充型は20代を中心に若い年齢層に多くなっている。
- ◆「活動の範囲を広げていきたい」とする拡充意向をもつボランティアは、学生が47.4%と突出して多くなっている。
- ◆ボランティア歴3年未満では「活動の範囲を広げていきたい」とする割合が2割前後を占めている。

活動を休止、中断したいという意見はわずかで、活動を続けていきたいとしたボランティアは8割を超える。活動範囲や活動回数を広げたいとしたボランティアは1割強となっている。多くはボランティア活動の継続に意欲的であるといえるが、現状からさらに発展させ、活動を拡大する意見は多いとはいえない。拡充型への移行を促すにはボランティアのやる気を支え、ボランティア活動の障害になっている要因にこまやかに対応する施策の推進が必要である。

1. プロフィール

(1) 団体のプロフィール

1. ボランティア活動の位置づけ

回答 2,357 団体・グループのうち、「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」が 70.6% を占めている。ついで「活動の一環としてボランティア活動を行っている」とする団体・グループが 24.4% となっており、「ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた」組織は 2.1% である。

〔参考〕 前回調査では「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」が 71.5%、「活動の一環としてボランティア活動を行っている」とする団体・グループが 24.4% を占めており、今回の結果とほぼ同様となっている。

図表 1-1-1-①ボランティア活動の位置づけ(全体)

調査数	< 単一回答 : % >			
	ボランティア活動を主目的とした団体・グループである	ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた	活動の一環としてボランティア活動を行っている	無回答
全体 2357	70.6	2.1	24.4	2.9

<参加メンバー規模別>

メンバー規模別に見ると、10人未満規模では「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」が 74.9% を占めているのに対し、100人以上規模では 63.4% にその割合が低下している。

図表 1-1-1-②ボランティア活動の位置づけ(参加メンバー規模別)

参加メンバー規模別	調査数	< 単一回答 : % >			
		ボランティア活動を主目的とした団体・グループである	ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた	活動の一環としてボランティア活動を行っている	無回答
10人未満	386	74.9	2.3	21.0	2.4
10~20人未満	721	73.0	2.8	21.1	3.2
20~30人未満	385	70.9	2.1	23.6	3.4
30~50人未満	296	70.3	1.4	25.7	2.7
50~100人未満	218	70.2	1.4	24.3	4.1
100人以上	328	63.4	0.9	32.9	2.7

〈主たる活動分野別〉

障害者の福祉活動団体・グループのなかでは「ボランティア活動を主目的とした団体・グループ」の割合がもっとも高く、82.3%を占めている。一方、教育、文化、スポーツ振興分野の団体・グループのその割合はもっとも低く 43.7%にとどまり、「活動の一環としてボランティア活動を行っている」が過半数（51.4%）に達している。

図表 1-1-1-③ボランティア活動の位置づけ〈主たる活動分野別〉

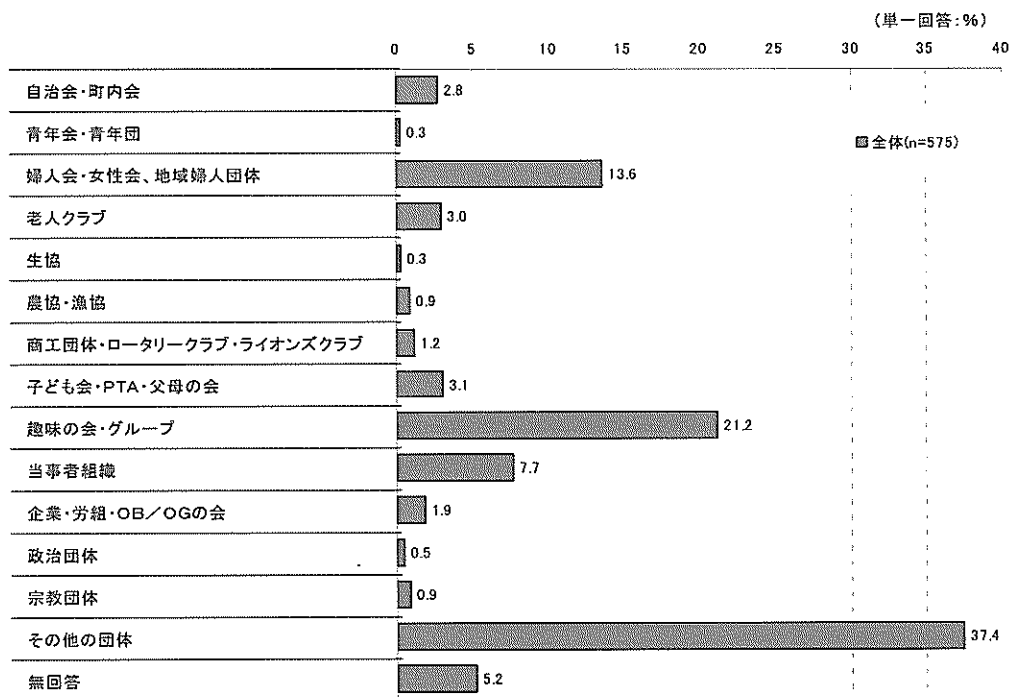
主たる活動分野別	調査数	〈単一回答・%〉			
		ボランティア活動を主目的とした団体・グループである	ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた	活動の一環としてボランティア活動を行っている	無回答
障害者の福祉活動	396	82.3	1.5	13.4	2.8
高齢者の福祉活動	389	75.6	2.8	19.5	2.4
教育、文化、スポーツ振興	142	43.7	3.5	51.4	2.4
地域の美化・環境保全に関する活動	142	51.4	3.5	41.5	3.5
子育て(乳幼児)に関する活動	100	78.0	1.0	17.0	4.0
青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	69.9	3.2	23.7	3.2
災害時のボランティア活動	86	74.4	—	18.6	7.0
自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	65.9	—	32.9	2.4
まちづくりなどに関する活動	73	60.3	2.7	34.2	2.7
健康や医療に関する活動	61	70.5	1.6	21.3	6.6
国際交流・国際協力に関する活動	43	81.4	2.3	7.0	9.3
防災、防犯、交通安全などの活動	36	75.0	—	22.2	2.8
人権擁護に関する活動	23	73.9	—	26.1	—
その他	281	76.2	1.4	19.9	2.5

2. 親団体

「活動の一環としてボランティア活動を行っている」団体・グループの親団体は「趣味の会・グループ」の21.2%がもっとも多く、「婦人会・女性会、地域婦人団体」(13.6%)、「当事者組織」(7.7%)が比較的多くなっている。

〔参考〕「活動の一環としてボランティア活動を行っている」団体・グループは女性組織が主体となる既存組織を中心に形成される傾向があり、この傾向は前回調査と一致している。

図表 1-1-2-①親団体〈全体〉



〈主たる活動分野別〉

活動の親団体として比較的大きな割合の「趣味の会・グループ」と「婦人会・女性会、地域婦人団体」について、集計数 20 件以上の主たる活動分野別の特徴をみると、「趣味の会・グループ」は教育、文化、スポーツ振興分野や自治会・町内会・地区社協等の活動団体・グループに多く、「婦人会・女性会、地域婦人団体」は災害時のボランティア活動や高齢者の福祉活動団体・グループに多くなっている。

図表 1-1-2-②親団体〈主たる活動分野別〉

(単一回答:96)

	調査数	自治会・町内会	青年会・青年団	婦人会・女性会、地域婦人団体	老人クラブ	生協	農協・漁協	商工団体・ロータリークラブ・ライオンズクラブ	子ども会・PTA・父母の会	趣味の会・グループ	当事者組織	企業・労組・OB/OGの会	政治団体	宗教団体	その他の団体	無回答	
全体	575	2.8	0.3	13.6	3.0	0.3	0.9	1.2	3.1	21.2	7.7	1.9	0.5	0.9	37.4	5.2	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	53	-	-	1.9	-	-	-	1.9	18.9	22.6	-	-	-	50.9	3.8	
	高齢者の福祉活動	76	5.3	-	23.7	3.9	1.3	2.6	-	15.8	15.8	-	1.3	-	27.6	2.6	
	教育、文化、スポーツ振興	73	-	1.4	1.4	1.4	-	-	6.8	45.2	1.4	1.4	1.4	-	38.4	1.4	
	地域の美化・環境保全に関する活動	59	6.8	-	16.9	6.8	-	3.4	1.7	11.9	6.8	11.9	-	1.7	25.4	6.8	
	子育て(乳幼児)に関する活動	17	-	-	5.9	-	-	-	5.9	17.6	5.9	-	-	-	64.7	-	
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	22	4.5	-	4.5	-	-	4.5	18.2	18.2	13.6	-	-	-	27.3	9.1	
	災害時のボランティア活動	16	-	-	25.0	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	62.5	-	
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	27	11.1	-	11.1	3.7	-	3.7	-	37.0	-	-	-	3.7	14.8	14.8	
	まちづくりなどに関する活動	25	4.0	-	16.0	4.0	-	-	8.0	-	16.0	-	-	-	36.0	16.0	
	健康や医療に関する活動	13	-	7.7	-	-	-	-	-	15.4	7.7	7.7	-	-	61.5	-	
	国際交流・国際協力に関する活動	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	防災、防犯、交通安全などの活動	8	-	-	62.5	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	25.0	-	
	人権擁護に関する活動	6	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	83.3	-	
	その他	56	1.8	-	7.1	3.6	-	1.8	1.8	1.8	25.0	3.6	1.8	-	1.8	48.2	1.8

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

3. 活動歴

団体・グループとしての平成21年9月末日現在の活動年数は「25年以上」が24.0%でもっとも多い。一方、「10～15年未満」「5～10年未満」など比較的新しい団体・グループもそれぞれ2割を超えており、団体・グループのボランティア活動年数は幅広く分布している。

〔参考〕前回調査と比べると、20年以上の団体・グループは、前回の20.6%から40.6%に倍増している。

図表 1-1-3-①活動歴<全体>

		<単一回答：%>					
		5年未満	5～10年未満	10～15年未満	20～25年未満	25年以上	無回答
調査数							
全体	2357	13.1	20.4	21.9	16.6	24.0	3.9

<主たる活動分野別>

主たる活動分野別にボランティア活動年数をみると、子育て（乳幼児）に関する活動では10年未満の団体・グループが6割近くを占めており、比較的新しい組織が多くみられる。一方、災害時のボランティア活動や障害者の福祉活動、自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動などの分野では20年以上の長期にわたる活動実績をもつ団体・グループが半数以上を占めている。

図表 1-1-3-②活動歴<主たる活動分野別>

		<単一回答：%>						
		5年未満	5～10年未満	10～15年未満	20～25年未満	25年以上	無回答	
調査数								
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	6.8	14.9	23.0	23.7	29.3	2.3
	高齢者の福祉活動	389	13.6	18.3	27.0	19.5	17.5	4.1
	教育、文化、スポーツ振興	142	14.8	29.6	21.1	13.4	16.9	4.2
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	19.7	25.4	33.1	5.6	14.8	4.4
	子育て（乳幼児）に関する活動	100	22.0	35.0	17.0	13.0	10.0	3.0
	青少年（児童）の健全育成に関する活動	93	17.2	25.8	8.6	9.7	36.6	2.2
	災害時のボランティア活動	86	10.5	14.0	15.1	8.1	50.0	2.3
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	6.1	23.2	13.4	18.3	31.7	7.3
	まちづくりなどに関する活動	73	16.4	27.4	17.8	12.3	20.5	5.5
	健康や医療に関する活動	61	21.3	13.1	18.0	9.8	32.8	4.9
	国際交流・国際協力に関する活動	43	14.0	16.3	34.9	18.6	14.0	2.3
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	25.0	19.4	8.3	3.3	36.1	2.8
	人権擁護に関する活動	23	17.4	13.0	30.4	13.0	21.7	4.3
	その他	281	16.0	22.4	21.0	18.9	18.9	2.8

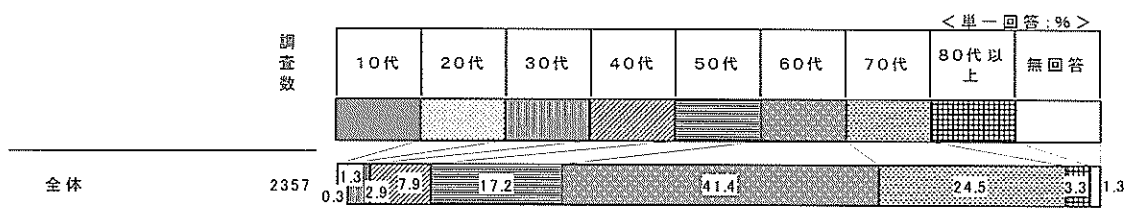
(2) 代表者プロフィール

1. 代表者の年齢

団体・グループの代表者の年齢は「60代」がもっとも多く、4割超を占めている。ついで「70代」が24.5%に及んでいる。60歳以上の代表者は、全体の7割近くに達している。一方、50歳未満はおよそ3割を占めるが、その多くは「50代」であり、「30代」以下は5%に満たない。

〔参考〕前回調査における代表者の年齢は60代以上が約半数(49.0%)を占めている。今回調査では60代以上が7割近くを占め、代表者の年齢は高齢にシフトしている。

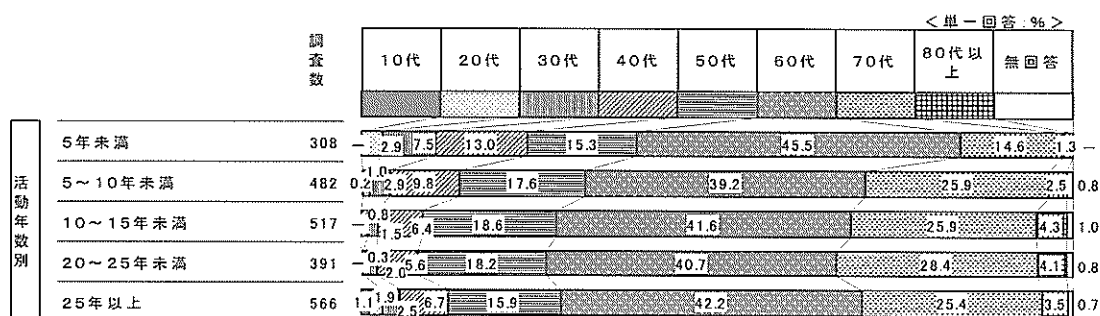
図表 1-2-1-①代表者の年齢(全体)



〈活動年数別〉

団体・グループの活動年数別にみても、代表者の年齢は「60代」が最大であることに変わりはないものの、活動年数が10年未満の団体・グループでは「50代」以下の代表者の占める割合が高くなっている。とりわけ5年以下の団体・グループでは「30代」や「20代」の代表も相対的に多くを占めている。

図表 1-2-1-②代表者の年齢(活動年数別)



2. 代表者の性別

団体・グループの代表者の約3人に2人(66.1%)は「女性」であり、「男性」は「女性」のほぼ半数(32.8%)を占めているに過ぎない。

[参考]「婦人会・女性会、地域婦人団体」など女性を主体にした組織がボランティア団体・グループの母体になっていることも多く、こうした組織の沿革や形成の特性が女性比率を高める要因の一つとみられる。ただ、今回調査では「男性」の占める比率が前回調査よりも約9ポイント増えている。

図表 1-2-2-①代表者の性別〈全体〉

		〈単一回答：％〉		
		男性	女性	無回答
全体	2357	32.8	66.1	0.1

〈活動年数別〉

活動年数別に代表者の性別をみると、活動開始10年以上の団体・グループの「男性」比率は3割以下にとどまり、「女性」の比率が大きく上回っている。一方、10年未満の団体・グループでは「男性」比率が高まり、とりわけ5年未満では「男性」が「女性」とほぼ同率の約5割に及んでいる。新しい団体・グループほど、「男性」が代表者に就任している傾向がみられる。

図表 1-2-2-②代表者の性別〈活動年数別〉

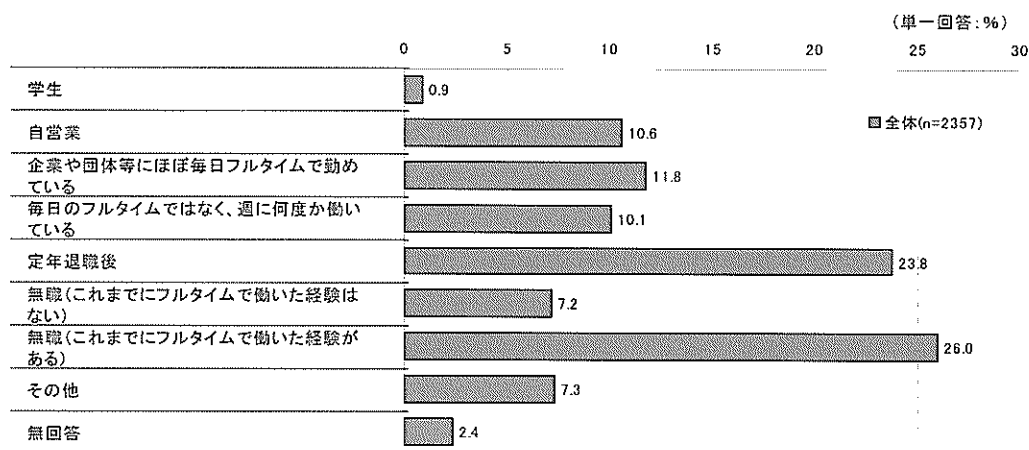
		〈単一回答：％〉			
		男性	女性	無回答	
活動年数別	調査数				
	5年未満	308	49.7	50.3	0.0
	5～10年未満	482	40.5	58.7	0.8
	10～15年未満	517	30.2	69.2	0.6
	20～25年未満	391	20.5	79.3	0.2
	25年以上	566	29.3	70.1	0.6

3. 代表者の職業

代表者の現在の職業は「無職（これまでにフルタイムで働いた経験がある）」がもっとも多く、26.0%を占める。また、「定年退職後」とする代表者も23.8%を占めている。合わせると代表者のおよそ半数はフルタイム勤務就業経験のある無職者となっている。一方、「企業や団体等にほぼ毎日フルタイムで勤めている」「毎日のフルタイムではなく、週に何度か働いている」「自営業」など就業しながら団体・グループの代表を務めるケースも3割超に及んでいる。

〔参考〕回答肢は若干異なるが、前回調査に比べると、「無職（これまでにフルタイムで働いた経験がある）」と「定年退職後」とする代表者の割合が増加している。

図表 1-2-3-①代表者の職業<全体>



<活動年数別>

団体・グループの活動年数別に代表者の職業をみると、活動開始10年未満では、「定年退職後」とする代表者がもっとも多く、いずれも3割近くに及んでいる。一方、10年以上とする団体・グループでは「無職（これまでにフルタイムで働いた経験がある）」とする代表者がそれぞれ3割前後で最大となっている。

図表 1-2-3-②代表者の職業(活動年数別)

(単一回答: 96)

	調査数	学生	自営業	ほぼ毎日フルタイムで勤めている	企業や団体等にほぼ毎日フルタイムで働いている	毎日のフルタイムではなく、週に何度か働いている	毎日のフルタイムではないが、週に何度か働いている	定年退職後	フルタイムで働いた経験はない	無職(これまでフルタイムで働いた経験がある)	無職(これまでフルタイムで働いた経験がない)	その他	無回答
全体	2357	0.9	10.6	11.8	10.1	23.8	7.2	26.0	7.3	2.4			
活動年数別													
5年未満	308	1.9	9.1	16.2	12.3	27.3	1.9	24.0	6.5	0.6			
5～10年未満	482	0.6	9.1	12.0	12.4	29.3	5.2	23.4	5.2	2.7			
10～15年未満	517	0.2	8.9	10.4	11.2	25.0	7.7	26.7	7.5	2.3			
20～25年未満	391	-	10.5	12.5	7.2	20.5	10.7	30.9	6.4	1.3			
25年以上	566	1.8	14.5	10.4	7.6	19.1	9.0	26.7	9.7	1.2			

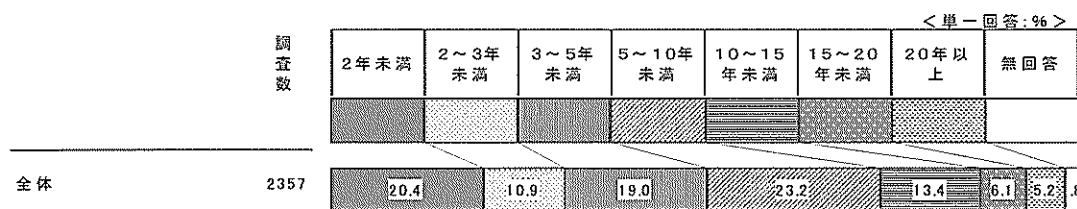
白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

4. 代表としての年数

代表となつてからの就任年数は「5～10年未満」(23.2%)がもっとも多いが、「2年未満」や「3～5年未満」なども2割前後となっている。一方、就任10年を超える団体・グループ代表者もほぼ25%に及ぶなど、団体・グループによって代表者の就任年数には大きな差がみられる。

[参考]代表となつてからの就任年数は前回調査においても「5～10年未満」がもっとも多く、今回調査でも傾向としては大きくは変わらない。

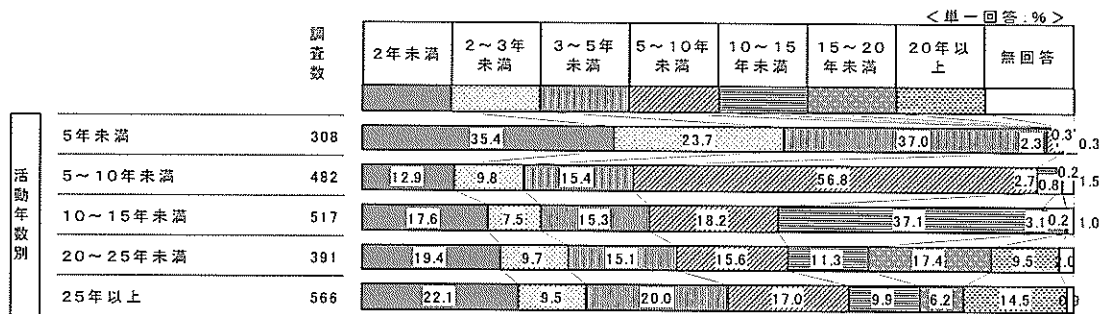
図表 1-2-4-①代表としての年数(全体)



〈活動年数別〉

団体・グループの活動年数別に、代表となつてからの経過年数をみると、活動5年以上の団体・グループでは活動年数が長いほど代表者の就任年数は「2年未満」が多くなっている。活動開始20年以上の団体・グループでも就任10年未満が6割程度から7割近く存在しており、世代交代が進んでいるものとみられる。

図表 1-2-4-②代表としての年数〈活動年数別〉



2. ボランティア組織の概要

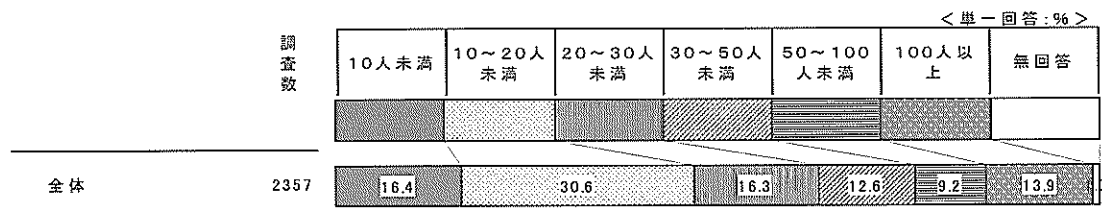
(1) 構成メンバー

1. 参加メンバーの人数

団体・グループを構成するメンバー数は「10～20人未満」がもっとも多く、全体の30.6%を占める。「10人未満」は16.4%であり、合わせると20人未満の団体・グループが半数近くに及んでいる。一方、100人以上のメンバーを抱える団体・グループも13.9%を占めている。

〔参考〕前回調査と比べると、20人未満の団体・グループと100人以上の団体・グループがそれぞれ増加する傾向がみられ、中間規模の団体・グループが減少している。

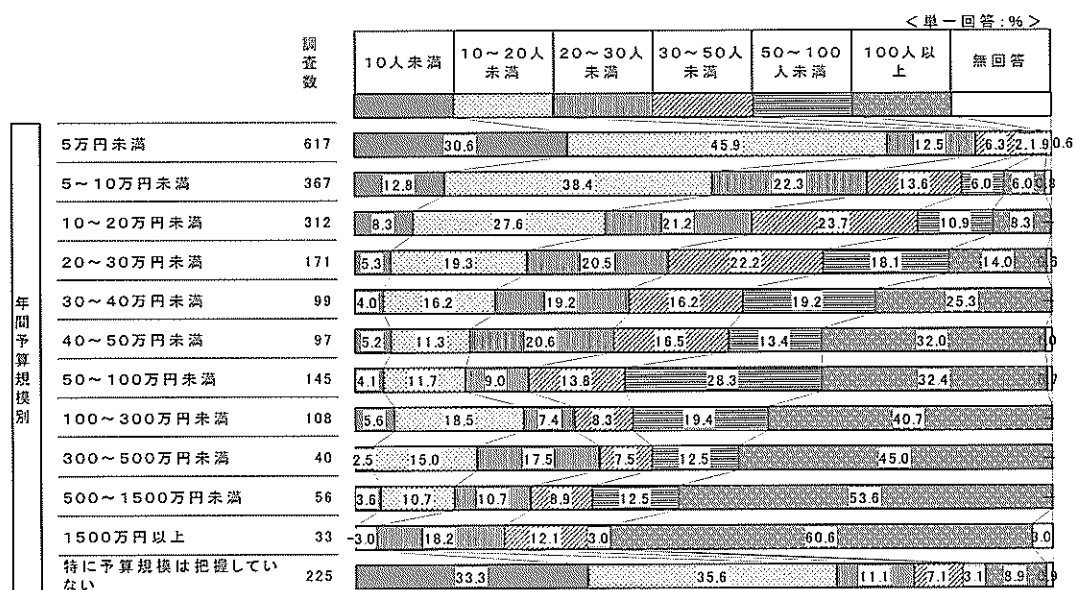
図表 2-1-1-①構成メンバーの人数〈全体〉



〈年間予算規模別〉

年間予算別にメンバー数をみると、予算規模とメンバー数の規模は正の相関関係にある。年間予算5万円未満の団体・グループにおけるメンバー数は76.5%が20人未満であるのに対し、500万円以上では100人以上の団体・グループが半数を超えている。

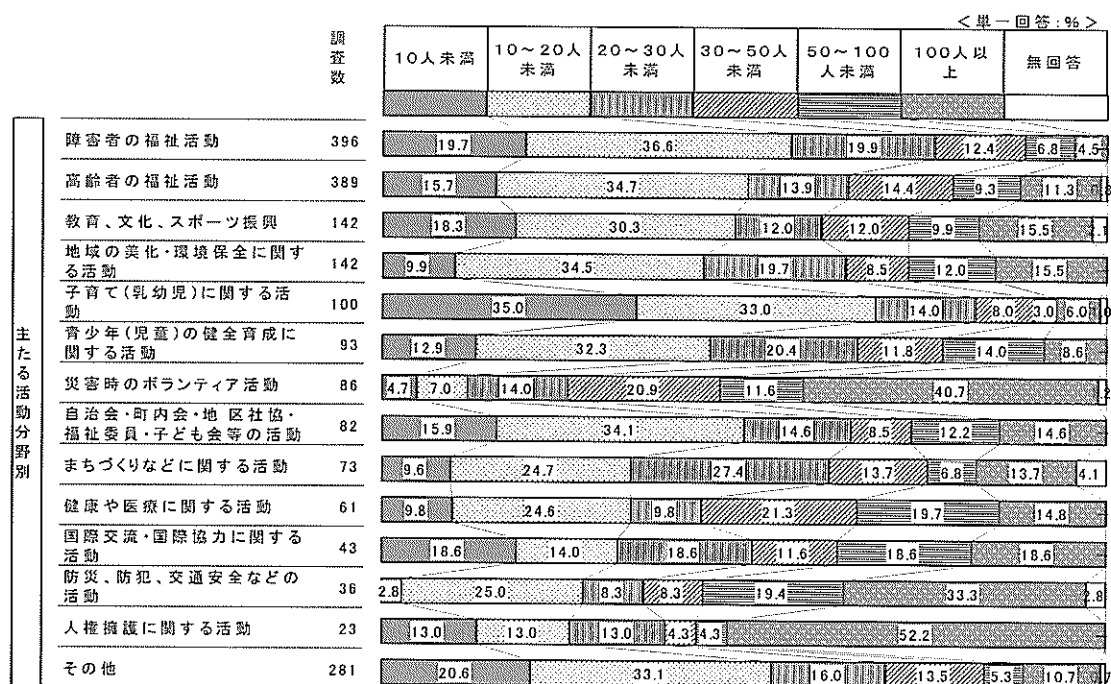
図表 2-1-1-②構成メンバーの人数〈年間予算規模別〉



〈主たる活動分野別〉

メンバー数を主たる活動分野別にみると、半数以上の分野で「10～20人未満」の割合が30%超となっている。しかし、子育て（乳幼児）に関する活動では小規模組織の割合が多く、「10人未満」が35.0%を占めている。これに対し人権擁護に関する活動や災害時のボランティア活動では「100人以上」の大規模団体・グループが4割超から半数超に及び、メンバー数は活動分野による差が大きい。

図表 2-1-1-③構成メンバーの人数〈主たる活動分野別〉



2. 構成メンバーの年齢層

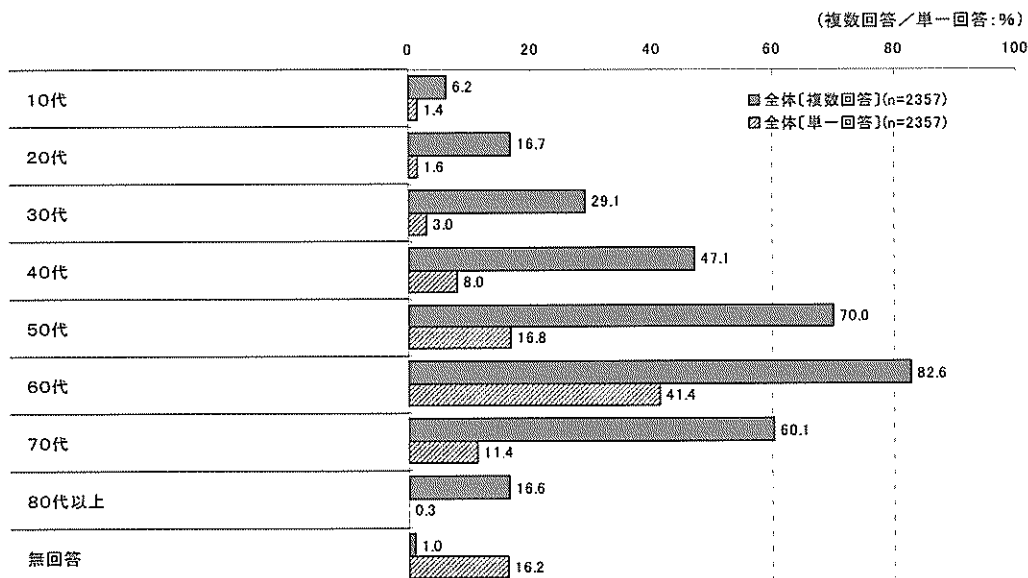
〈全体／複数回答〉

メンバーの年齢層では「60代」がいる団体・グループが82.6%と、もっとも多くなっている。ついで「50代」「70代」が6～7割程度となっている。「80代以上」のメンバーがいる団体・グループは16.6%と少数である。一方、40代以前では「40代」（47.1%）が半数近くの団体・グループに存在するものの、「30代」「20代」「10代」と年齢層が低下するとともに、これらが活動に参加している団体・グループは少なくなっている。

〈全体／単一回答〉

メンバーの年齢層のうち、中心になる年齢層では「60代」の41.4%を最大に、「50代」「70代」がいずれも10%台となっている。中心になる年齢層として30代以下をあげる団体・グループは6%程度に過ぎない。

図表 2-1-2-①構成メンバーの年齢層〈全体／複数回答／単一回答〉



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にメンバーの年齢層をみると、8活動分野で「60代」が8割超ともっとも多くなっている。「60代」が多くを占めていることに変わりはないものの、防災、防犯、交通安全などの活動、人権擁護に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動団体・グループでは割合の最大値が「50代」にシフトしている。

図表 2-1-2-②構成メンバーの年齢層(主たる活動分野別)

メンバーの年齢層(複数回答) (複数回答:%)

	調査数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	
全体[複数回答]	2357	6.2	16.7	29.1	47.1	70.0	82.6	60.1	16.6	1.0	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	7.6	25.3	44.7	67.2	83.8	86.6	59.6	14.6	-
	高齢者の福祉活動	389	2.6	4.6	10.0	28.0	64.3	88.4	67.9	21.1	1.0
	教育、文化、スポーツ振興	142	14.8	16.2	33.1	52.8	72.5	82.4	59.2	23.2	0.7
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	4.2	16.9	23.2	38.0	53.5	81.0	61.3	17.6	-
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	6.0	25.0	55.0	64.0	65.0	68.0	39.0	8.0	-
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	17.2	28.0	44.1	55.9	63.4	67.7	38.7	8.6	-
	災害時のボランティア活動	86	7.0	20.9	30.2	47.7	74.4	83.7	59.3	16.3	1.2
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	3.7	1.2	7.3	28.0	62.2	85.4	72.0	13.4	-
	まちづくりなどに関する活動	73	8.2	19.2	32.9	41.1	61.6	69.9	45.2	12.3	2.7
	健康や医療に関する活動	61	4.9	29.5	34.4	55.7	70.5	82.0	68.9	18.0	-
	国際交流・国際協力に関する活動	43	14.0	53.5	65.1	67.4	81.4	79.1	51.2	16.3	2.3
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	-	13.9	22.2	55.6	86.1	86.1	50.0	5.6	2.8
	人権擁護に関する活動	23	4.3	30.4	56.5	73.9	82.6	78.3	56.5	13.0	4.3
	その他	281	3.2	14.2	25.3	43.4	70.1	86.5	62.6	21.0	0.4

主なメンバーの年齢層(単一回答) (単一回答:%)

	調査数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	
全体[単一回答]	2357	1.4	1.6	3.0	8.0	16.8	41.4	11.4	0.3	16.2	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	0.5	1.3	3.3	12.6	26.3	36.6	4.0	0.3	12.1
	高齢者の福祉活動	389	1.3	0.3	0.3	2.3	11.3	56.6	13.6	0.3	14.1
	教育、文化、スポーツ振興	142	2.1	0.7	1.4	13.4	18.9	36.6	9.2	-	18.3
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	-	1.4	2.8	3.5	9.2	54.2	14.8	-	14.1
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	2.0	-	14.0	20.0	17.0	29.0	6.0	-	12.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	9.7	11.8	3.2	15.1	16.1	26.9	6.5	-	10.8
	災害時のボランティア活動	86	1.2	2.3	4.7	9.3	11.6	40.7	8.1	-	22.1
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	2.4	-	-	2.4	14.6	45.1	22.0	-	13.4
	まちづくりなどに関する活動	73	1.4	2.7	4.1	15.1	15.1	31.5	16.1	-	15.1
	健康や医療に関する活動	61	1.6	3.3	4.9	4.9	16.4	44.3	8.2	-	16.4
	国際交流・国際協力に関する活動	43	-	7.0	7.0	14.0	30.2	16.3	2.3	-	23.3
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	-	-	-	8.3	25.0	36.1	16.7	-	13.9
	人権擁護に関する活動	23	-	4.3	4.3	4.3	52.2	26.1	-	-	8.7
	その他	281	0.4	0.7	2.8	7.1	12.5	44.8	16.7	1.1	13.9

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

3. 構成メンバーの職業

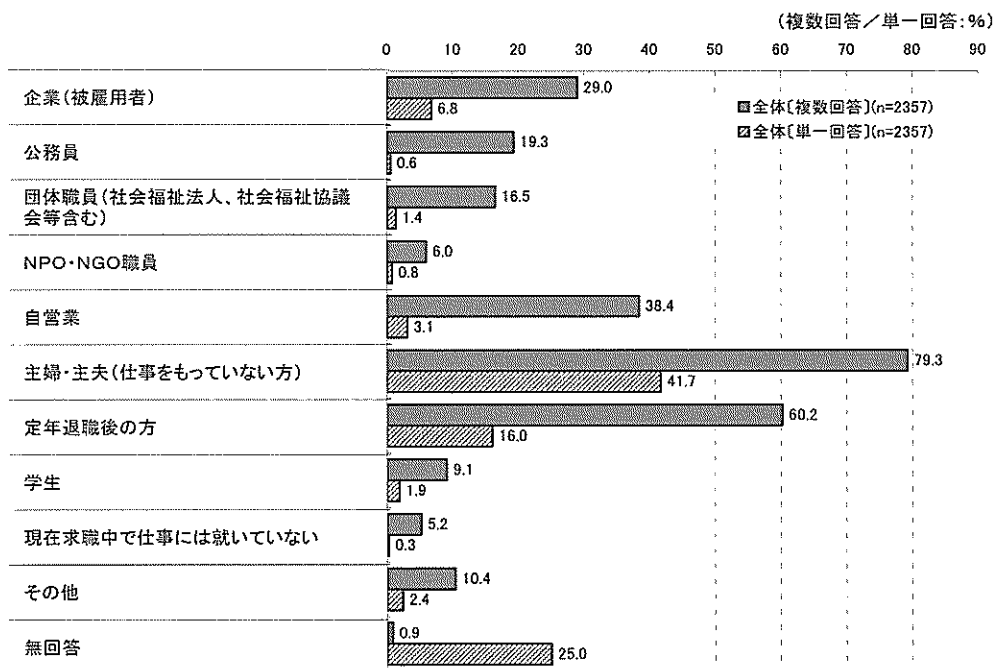
〈全体／複数回答〉

メンバーの職業は「主婦・主夫（仕事をもっていない方）」がいる団体・グループが 79.3%と最も多く、ついで「定年退職後の方」（60.2%）など、現在、非就業者がボランティアに参加している団体・グループが多くなっている。「企業（被雇用者）」「公務員」「団体職員（社会福祉法人、社会福祉協議会等含む）」などの就業者が参加している団体・グループは、約 2 割～3 割程度にとどまる。

〈全体／単一回答〉

団体を構成する主なメンバー（最も多い）の職業は「主婦・主夫（仕事をもっていない方）」（41.7%）と、次いで「定年退職後の方」（16.0%）が多く、「学生」なども含めると、約 6 割の団体・グループで非就業者が中心メンバーとなっている。一方、「企業（被雇用者）」など就業者が主なメンバーとなっている団体・グループは 1 割強に過ぎない。

図表 2-1-3-①構成メンバーの職業〈全体／複数回答／単一回答〉



〈主たる活動分野別〉

国際交流・国際協力に関する活動では「企業（被雇用者）」、人権擁護に関する活動では「企業（被雇用者）」「公務員」、防災、防犯、交通安全などの活動では「定年退職後の方」「自営業」などの職業をもつ人の参加も多くなっている。

図表 2-1-3-②構成メンバーの職業(主たる活動分野別/複数回答/単一回答)

メンバーの職業(複数回答) (複数回答:96)

	調査数	企業 (被雇用者)	公務員	団体職員	員 N P O ・ N G O 職	自営業	主婦・主夫	定年退職後の方	学生	には就いていない 現在求職中で仕事	その他	無回答	
全体(複数回答)	2357	29.0	19.3	16.5	6.0	38.4	79.3	60.2	9.1	5.2	10.4	0.9	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	35.1	18.7	20.2	5.6	31.6	88.9	58.8	9.6	7.1	12.1	0.5
	高齢者の福祉活動	389	18.5	6.2	11.6	4.4	30.6	86.1	59.8	3.3	3.3	9.0	0.8
	教育、文化、スポーツ振興	142	39.4	31.0	20.4	2.8	45.8	75.1	62.0	18.3	4.2	7.0	-
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	30.3	22.5	8.5	6.3	45.8	70.4	66.9	7.0	2.8	10.6	-
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	29.0	18.0	12.0	8.0	37.0	87.0	40.0	7.0	7.0	15.0	-
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	41.9	37.6	26.9	5.4	43.0	63.4	53.8	23.7	8.6	11.8	-
	災害時のボランティア活動	86	37.2	31.4	19.8	5.8	55.8	69.8	67.4	9.3	7.0	7.0	1.2
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	13.4	15.9	19.5	2.4	36.6	75.6	64.6	1.2	1.2	14.6	1.2
	まちづくりなどに関する活動	73	31.5	26.0	21.9	16.4	45.2	60.3	56.2	12.3	6.8	5.5	2.7
	健康や医療に関する活動	61	32.8	18.0	13.1	1.6	39.3	85.2	72.1	23.0	13.1	14.8	-
	国際交流・国際協力に関する活動	43	58.1	30.2	25.6	9.3	44.2	83.7	74.4	32.6	9.3	4.7	-
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	27.8	22.2	30.6	5.6	61.1	80.6	80.6	-	2.8	2.8	-
	人権擁護に関する活動	23	56.5	52.2	34.8	21.7	60.9	87.0	65.2	21.7	8.7	4.3	-
	その他	281	24.9	18.9	10.3	5.3	33.8	77.2	59.1	6.0	4.3	13.2	0.4

主なメンバーの職業(単一回答) (単一回答:96)

	調査数	企業 (被雇用者)	公務員	団体職員	員 N P O ・ N G O 職	自営業	主婦・主夫	定年退職後の方	学生	には就いていない 現在求職中で仕事	その他	無回答	
全体(単一回答)	2357	6.8	0.6	1.4	0.8	3.1	41.7	16.0	1.9	0.3	2.4	25.0	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	10.9	0.3	2.8	1.0	1.0	50.3	7.6	1.0	0.3	2.0	23.0
	高齢者の福祉活動	389	1.5	-	0.5	1.0	2.8	56.0	14.1	1.5	-	1.8	20.6
	教育、文化、スポーツ振興	142	7.7	0.7	1.4	0.7	2.8	31.7	28.2	2.8	-	1.4	22.5
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	7.0	0.7	-	0.7	4.9	23.6	31.0	0.7	-	4.2	21.1
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	5.0	-	3.0	1.0	1.0	50.0	7.0	1.0	-	6.0	26.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	12.9	3.2	-	-	2.2	21.5	14.0	15.1	2.2	3.2	25.8
	災害時のボランティア活動	86	11.6	1.2	-	1.2	3.5	37.2	15.1	1.2	-	3.5	25.6
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	2.4	-	2.4	-	2.4	37.8	29.3	1.2	-	2.4	22.0
	まちづくりなどに関する活動	73	8.2	-	1.4	2.7	9.6	16.4	24.7	1.4	-	2.7	32.9
	健康や医療に関する活動	61	4.9	1.6	1.6	-	3.3	39.3	13.1	4.9	-	1.6	29.5
	国際交流・国際協力に関する活動	43	20.9	2.3	-	2.3	-	32.6	9.3	4.7	-	-	27.9
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	5.6	-	-	-	2.8	47.2	27.8	-	-	-	16.7
	人権擁護に関する活動	23	21.7	-	4.3	4.3	-	60.9	-	-	-	4.3	4.3
	その他	281	7.1	1.1	0.7	-	4.3	42.3	19.2	0.4	0.4	2.8	21.7

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

(2) メンバー数の増減と共通性

1. 構成メンバー数の増減

1年前と比較したメンバー数の変動については、約半数（49.9%）の団体・グループが「変わらない」としている。一方、「増えている」とした団体・グループは25.1%であるが、「減っている」とした団体・グループ（23.8%）もほぼ同率となっている。

〔参考〕前回調査と比較すると、「増えている」はわずかに減少し、「減っている」とする団体・グループがやや増加する傾向がみられる。

図表 2-2-1-①構成メンバー数の増減<全体>

		<単一回答：%>			
調査数		増えている	減っている	変わらない	無回答
全体	2357	25.1	23.8	49.9	1.3

<団体目的別>

メンバー数の変動状況は、「ボランティア活動を主目的とした」団体・グループで「増えている」とする割合が高く、「活動をするための団体に分かれた」「活動の一環として行っている」団体・グループをそれぞれ6ポイント程度上回る。また、「活動の一環として行っている」団体・グループでは、「減っている」が「増えている」とする団体・グループの割合を約7ポイント上回る。

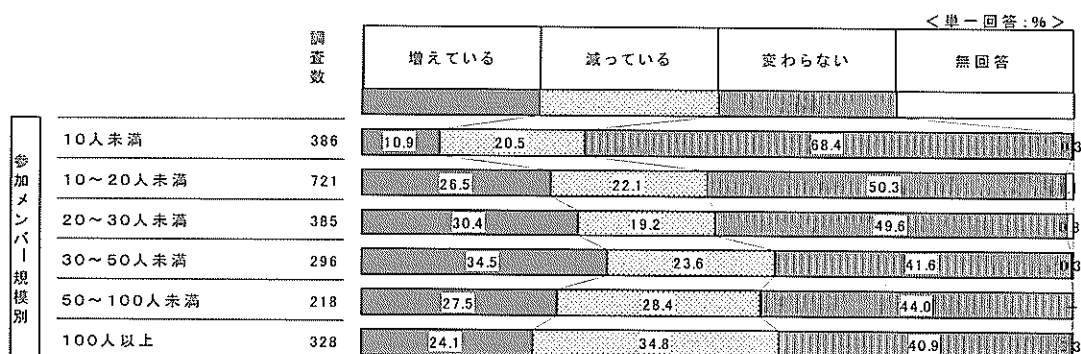
図表 2-2-1-②構成メンバー数の増減<団体目的別>

		<単一回答：%>				
調査数		増えている	減っている	変わらない	無回答	
主目的別	活動を主目的とした団体である	1664	26.9	22.4	49.8	1.0
	活動をするための団体に分かれた	49	20.4	20.4	55.1	4.1
	活動の一環として行っている	575	20.9	27.7	49.4	1.9

〈参加メンバー規模別〉

構成メンバー規模別にはいずれの規模においても「変わらない」が4割を超えてもっとも多いが、10人未満の小規模と100人以上の大規模団体・グループにおいては、「減っている」が「増えている」とする団体・グループの割合を10ポイント前後上回る。

図表 2-2-1-③構成メンバー数の増減(参加メンバー規模別)



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にみたメンバー数の変動については、いずれの分野においても「変わらない」が最大割合となっているが、国際交流・国際協力に関する活動や健康や医療に関する活動の団体・グループでは「増えている」が「減っている」を大きく上回り、メンバー数は拡大傾向にあるケースが多くなっている。これに対し、人権擁護に関する活動や防災、防犯、交通安全などの活動では、「減っている」の割合が高く、メンバー数が減少する傾向の団体・グループがやや多くなっている。

図表 2-2-1-④構成メンバー数の増減<主たる活動分野別>

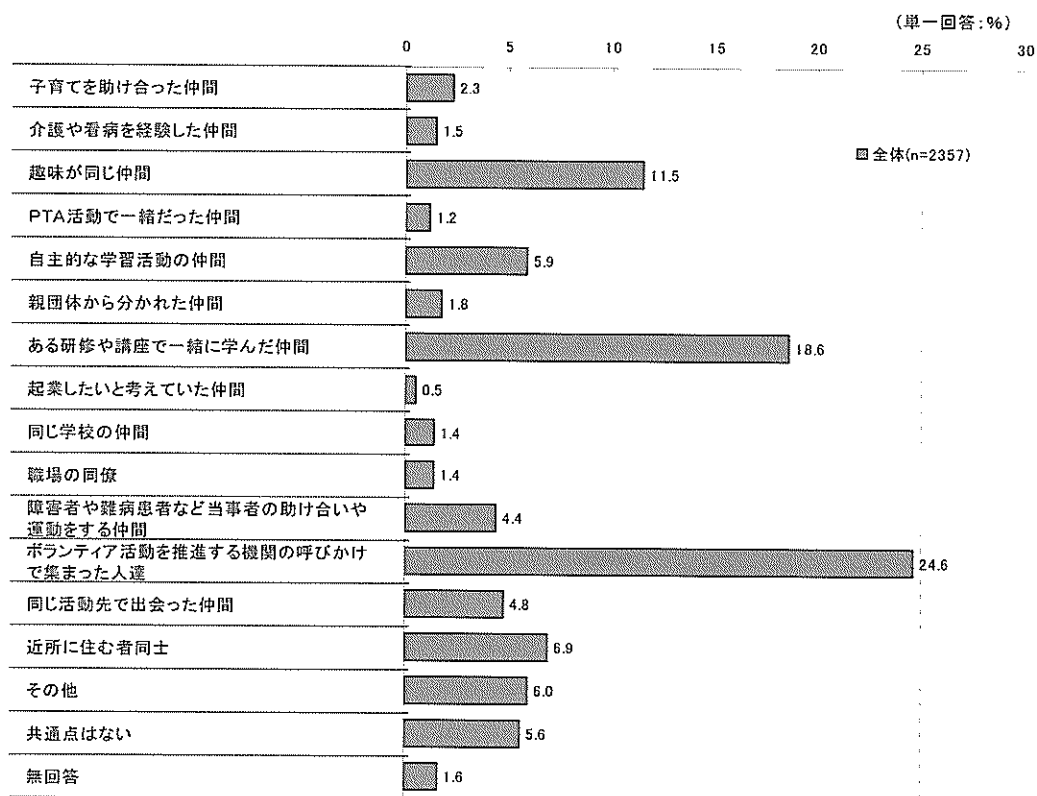
		<単一回答：％>				
		増えている	減っている	変わらない	無回答	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	26.0	23.2	50.5	0.3
	高齢者の福祉活動	389	22.1	24.7	51.9	0.3
	教育、文化、スポーツ振興	142	26.8	24.6	47.9	0.7
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	23.9	27.5	47.9	0.7
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	23.0	21.0	55.0	0.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	24.7	21.5	52.7	0.1
	災害時のボランティア活動	86	29.1	31.4	38.4	0.2
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	29.3	20.7	50.0	0.0
	まちづくりなどに関する活動	73	23.3	20.5	52.1	4.1
	健康や医療に関する活動	61	31.1	14.8	54.1	0.0
	国際交流・国際協力に関する活動	43	34.9	11.6	53.5	0.0
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	22.2	27.8	50.0	0.0
	人権擁護に関する活動	23	21.7	30.4	47.8	0.0
	その他	281	27.4	21.7	49.5	0.4

2. メンバーの共通点

団体・グループの立ち上げメンバーに「共通点はない」とした団体・グループは5.6%と少数であり、多くは共通要素をもったメンバーによって設立・運営される傾向がある。その中でもっとも多かったのは「ボランティア活動を推進する機関の呼びかけで集まった人達」(24.6%)であり、以下「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」が18.6%と続く。また、「趣味が同じ仲間」も1割を超えている。

[参考] 前回調査においても「ボランティア活動を推進する機関の呼びかけで集まった人達」と「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」が中心になっていることに変わりはないが、今回調査では「趣味が同じ仲間」がわずかに増加傾向にある。

図表 2-2-2-①メンバーの共通点〈全体〉



〈主たる活動分野別〉

「ボランティア活動を推進する機関の呼びかけで集まった人達」がいずれの分野の団体・グループでも多い傾向があるが、障害者の福祉活動では「ある研修や講座で一緒に学んだ仲間」、教育、文化、スポーツ振興や地域の美化・環境保全に関する活動分野では「趣味が同じ仲間」、子育て（乳幼児）に関する活動分野では「子育てを助け合った仲間」がもっとも多い。

図表 2-2-2-②メンバーの共通点(主たる活動分野別)

(単一回答:%)

	調査数	子育てを助け合った仲間	介護や看病を経験した仲間	趣味が同じ仲間	P T A活動で一緒だった仲間	自主的な学習活動の仲間	親団体から分かれた仲間	ある研修や講座で一緒に学んだ仲間	起業したいと考えていた仲間	同じ学校の仲間	職場の同僚	助け合いや運動をする仲間	障害者や難病患者など当事者の仲間	ボランティア活動を推進する機	関の呼びかけで集まった人達	同じ活動先で出会った仲間	近所に住む者同士	その他	共通点はない	無回答
全体	2357	2.3	1.5	11.5	1.2	5.9	1.8	18.6	0.5	1.4	1.4	4.4	24.6	4.8	6.9	6.0	5.6	1.6		
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	-	1.3	3.5	0.3	6.1	1.3	35.1	-	1.3	0.5	16.2	23.5	2.0	1.3	1.3	5.3	1.3	
	高齢者の福祉活動	389	0.8	4.6	6.4	1.0	5.1	1.3	9.5	0.3	1.5	0.8	0.3	29.8	4.1	12.9	4.4	5.7	1.5	
	教育、文化、スポーツ振興	142	2.1	-	37.3	4.9	10.6	0.7	14.8	-	1.4	-	1.4	9.9	2.8	4.9	3.5	4.9	0.7	
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	2.8	-	16.9	-	5.6	2.1	9.2	0.7	1.4	7.0	1.4	16.9	7.0	13.4	9.2	5.6	0.7	
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	18.0	-	11.0	2.0	4.0	2.0	18.0	-	1.0	1.0	1.0	18.0	7.0	6.0	7.0	4.0	-	
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	5.4	-	12.9	6.5	9.7	2.2	10.8	1.1	4.3	2.2	3.2	16.1	5.4	7.5	5.4	7.5	-	
	災害時のボランティア活動	86	-	1.2	15.1	-	3.5	1.2	9.3	-	2.3	-	-	38.4	9.3	2.3	8.1	8.1	1.2	
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	2.4	-	14.6	-	4.9	2.4	12.2	1.2	-	-	1.2	24.4	6.1	15.9	11.0	2.4	1.2	
	まちづくりなどに関する活動	73	2.7	-	9.6	-	6.8	2.7	16.4	2.7	-	1.4	-	26.0	1.4	8.2	12.3	6.8	2.7	
	健康や医療に関する活動	61	-	8.2	6.6	1.6	9.8	-	13.1	-	4.9	3.3	3.3	29.5	4.9	4.9	3.3	6.6	-	
	国際交流・国際協力に関する活動	43	2.3	-	2.3	-	7.0	4.7	16.8	-	4.7	-	2.3	34.9	9.3	-	7.0	7.0	-	
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	-	-	5.6	-	8.3	2.8	13.9	-	-	-	-	36.1	2.8	8.3	13.9	8.3	-	
	人権擁護に関する活動	23	4.3	-	-	-	8.7	4.3	21.7	-	4.3	-	4.3	34.8	8.7	-	4.3	4.3	-	
	その他	281	0.4	0.7	16.4	1.4	3.9	0.7	17.1	0.7	0.7	2.8	3.9	23.1	4.6	5.3	10.3	5.7	2.1	

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

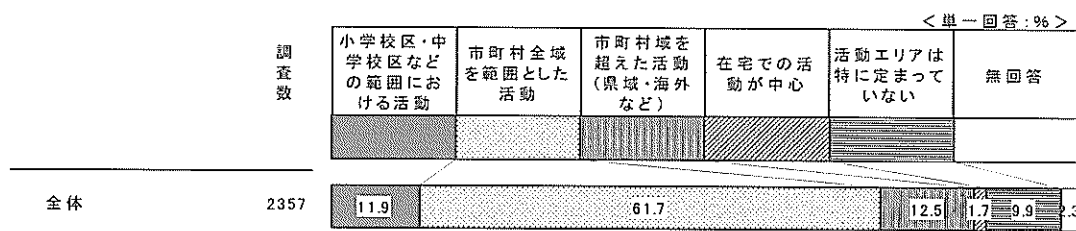
3. 活動の現状

(1) 活動の範囲

1. 活動エリア

ボランティア活動を行っているエリアについて、もっとも多かったものは「市町村全域を範囲とした活動」であり、全体の61.7%を占める。また「小学校区・中学校区などの範囲における活動」は11.9%であり、ボランティア活動範囲は、市町村の範囲を超えない範囲の団体・グループが多い。一方、「市町村域を超えた活動」など、広域をカバーするボランティア活動は12.5%の団体・グループにとどまる。

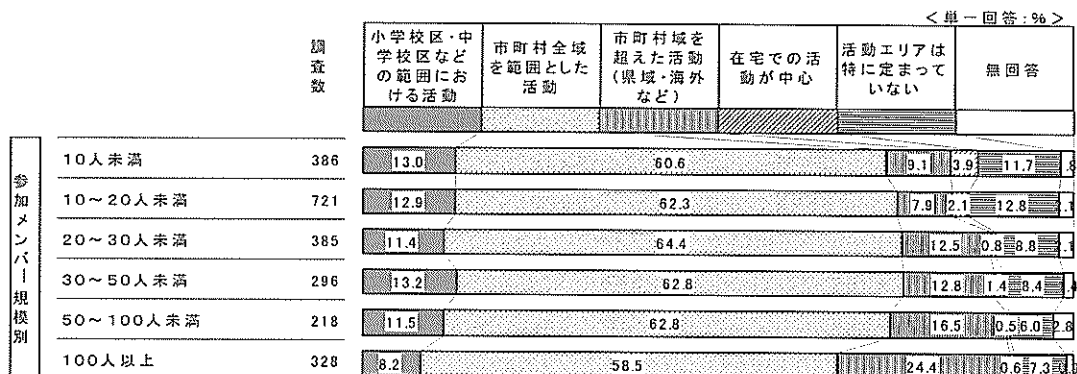
図表 3-1-1-①活動エリア<全体>



<参加メンバー規模別>

参加メンバー規模別にみると、100人未満規模では「在宅での活動が中心」を含めて市町村の範囲を超えない活動団体・グループが75%前後と、ほぼ共通している。一方、100人以上の団体・グループでは市町村の範囲を超えないエリアで活動する団体・グループの割合が低下し、「市町村域を超えた活動」など広域をカバーする団体・グループの割合が24.4%に上昇している。

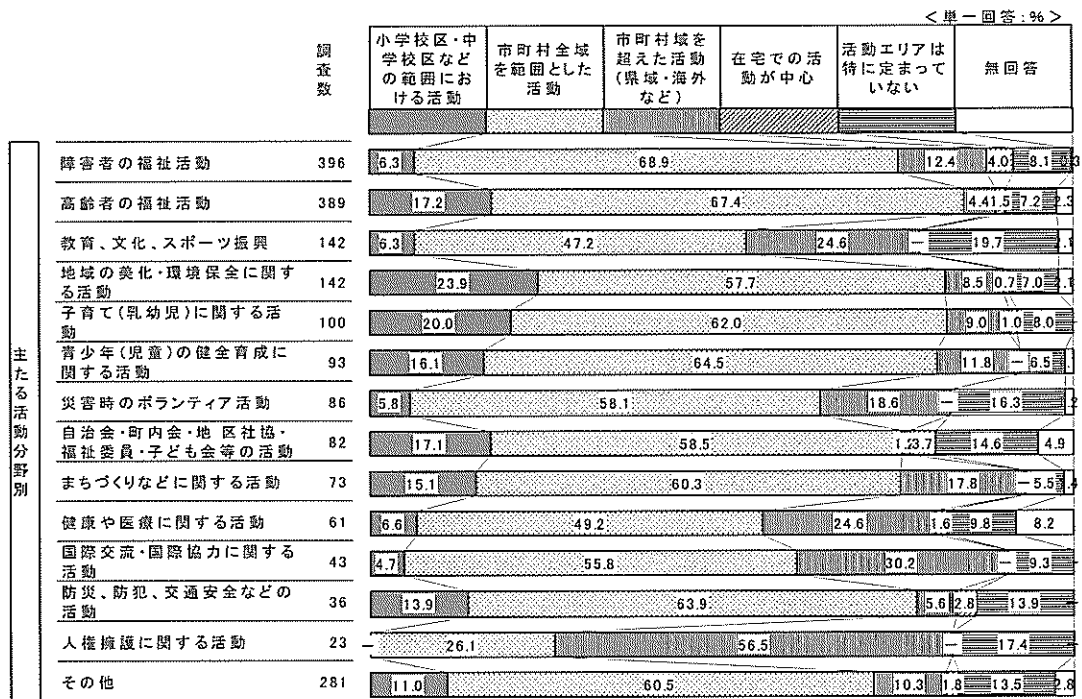
図表 3-1-1-②活動エリア<参加メンバー規模別>



〈主たる活動分野別〉

「市町村域を超えた活動」などの広域をカバーするボランティア活動は、人権擁護に関する活動(56.5%)を最大に、国際交流・国際協力に関する活動、教育、文化、スポーツ振興、健康や医療に関する活動などを行っている団体・グループに比較的多くみられる。一方、高齢者の福祉活動、地域の美化・環境保全に関する活動などは、市町村の範囲を超えないエリアでの活動を行う団体・グループの割合が8割超に及び、地域密着型の活動・組織となっている。

図表 3-1-1-③活動エリア(主たる活動分野別)



2. 活動分野

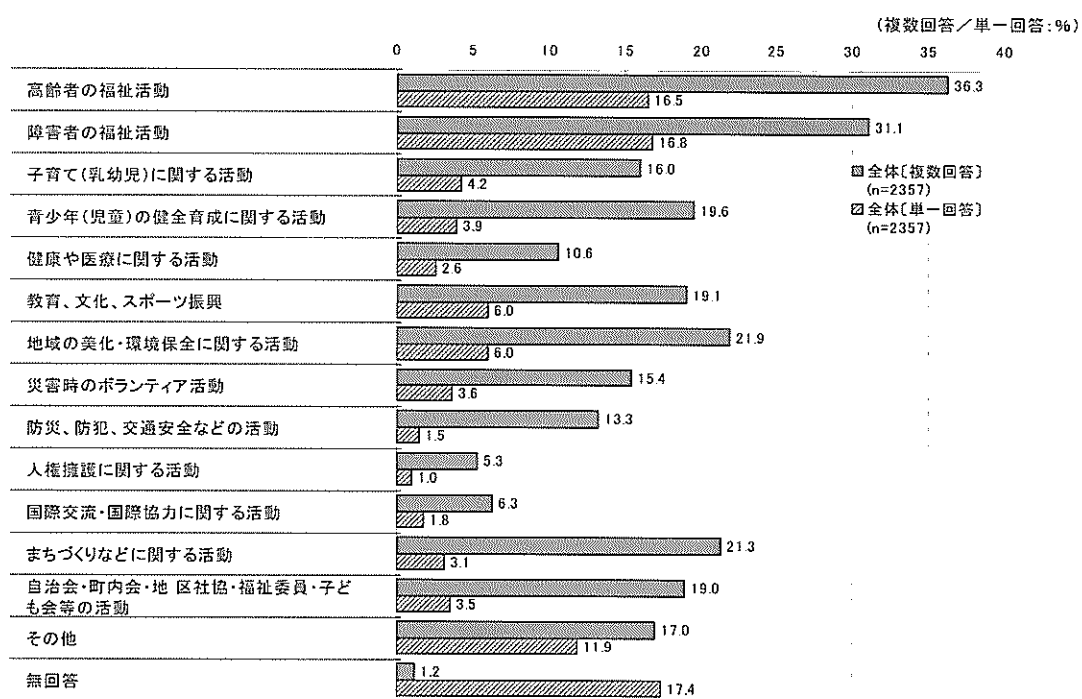
〈全体／複数回答〉

現在行っているボランティア活動の分野は「高齢者の福祉活動」の36.3%を最大に、「障害者の福祉活動」(31.1%)、「地域の美化・環境保全に関する活動」(21.9%)、「まちづくりなどに関する活動」(21.3%)などの分野のボランティア活動を行う団体・グループが多くなっている。一方、「人権擁護に関する活動」、「国際交流・国際協力に関する活動」はいずれも1割に届いておらず、これら分野のボランティア活動を実施する団体・グループは相対的に少ない。

〈全体／単一回答〉

現在行っているボランティア活動のうち、主な活動では「障害者の福祉活動」と「高齢者の福祉活動」に順位が入れ替わるものの、トップ2を形成していることに変わりはない。以下「教育、文化、スポーツ振興」、「地域の美化・環境保全に関する活動」、「子育て（乳幼児）に関する活動」が続いている。

図表 3-1-2-①活動分野〈全体／複数回答／単一回答〉



〈参加メンバー規模別〉

参加メンバー規模別にみても「高齢者の福祉活動」や「障害者の福祉活動」に分野が集中していることに変わりはないが、100人以上の大規模団体・グループでは「地域の美化・環境保全に関する活動」がトップに浮上しているのが特徴である。

〈活動エリア別〉

「市町村域を超えた活動」などの広域をカバーするボランティア活動を行う団体・グループのトップは「障害者の福祉活動」であり、市町村の範囲を超えない活動団体・グループでは「高齢者の福祉活動」がトップとなっている。

図表 3-1-2-②活動分野(参加メンバー規模別/活動エリア別/中心となるメンバー年齢層別)

(複数回答:96)

	調査数	高齢者の福祉活動	障害者の福祉活動	子育て(乳幼児)に関する活動	青少年(児童)の健全育成に関する活動	健康や医療に関する活動	教育、文化、スポーツ振興	地域の美化・環境保全に関する活動	災害時のボランティア活動	防災、防犯など、地域社会を暮らしやすくするための活動	人権擁護に関する活動	国際交流・国際協力に関する活動	まちづくりなどに関する活動	福祉委員・子ども会等の活動	自治会・町内会・地区社協	その他	無回答
全体	2357	36.3	31.3	16.0	19.6	10.6	19.1	21.9	15.4	13.3	5.3	6.3	21.3	19.0	17.0	1.2	
参加メンバー規模別	10人未満	386	30.8	30.9	16.3	11.7	5.7	15.5	10.9	4.9	3.1	2.3	4.4	9.1	11.9	18.9	1.8
	10~20人未満	721	36.9	35.1	16.1	16.9	8.3	16.2	16.6	9.0	7.2	2.9	4.3	18.2	17.8	17.2	1.0
	20~30人未満	385	34.0	34.0	13.0	19.7	8.8	18.4	22.6	12.5	10.9	3.1	5.5	22.6	20.0	17.4	0.8
	30~50人未満	296	41.2	31.4	12.8	19.9	12.2	20.3	24.3	23.0	15.5	4.7	4.7	22.6	19.9	18.6	0.7
	50~100人未満	218	36.7	26.6	14.2	26.6	15.6	21.6	27.5	17.9	17.0	5.5	8.3	28.9	22.5	11.0	1.4
	100人以上	328	40.2	24.7	22.6	30.5	19.5	27.4	40.5	36.9	36.6	17.1	14.3	34.1	25.6	16.8	0.3
活動エリア別	小・中学校区などの範囲における活動	280	43.6	16.1	18.6	21.4	6.8	16.4	28.2	12.1	14.3	2.9	3.6	23.2	27.5	16.1	0.7
	市町村全域を範囲とした活動	1454	38.4	35.6	17.2	19.3	10.6	17.9	22.1	15.7	13.7	4.5	5.2	22.7	19.3	16.8	0.8
	市町村域を超えた活動	294	26.2	31.0	15.6	25.5	15.6	27.6	20.4	19.4	13.9	13.6	16.7	20.7	9.2	14.6	0.3
	在宅での活動が中心	40	36.0	47.5	7.5	10.0	7.5	10.0	2.5	5.0	10.0	2.5	-	7.5	25.0	17.5	2.5
活動エリアは特に定まっていない	234	28.6	24.4	9.8	16.7	8.1	23.5	20.9	15.0	10.3	3.8	6.0	15.0	19.7	20.5	2.1	
中心となるメンバー年齢層別	10代	33	45.5	30.3	24.2	45.5	18.2	42.4	48.5	18.2	24.2	-	27.3	30.3	27.3	12.1	3.0
	20代	38	18.4	31.6	7.9	39.5	13.2	18.4	21.1	23.7	10.5	10.5	18.4	18.4	10.5	15.8	-
	30代	70	7.1	22.9	31.4	21.4	7.1	22.9	18.6	14.3	10.0	4.3	8.6	20.0	8.6	12.9	-
	40代	189	13.8	33.9	27.0	36.7	5.3	26.5	13.2	12.2	9.5	3.7	6.3	23.3	10.1	12.7	-
	50代	395	27.1	40.3	16.5	22.3	11.9	20.5	15.7	13.9	12.2	7.1	8.4	18.5	16.2	12.9	0.3
	60代	976	44.0	31.1	14.2	16.7	10.9	16.8	24.5	16.7	13.9	4.5	4.2	21.6	21.9	17.8	0.8
	70代	268	45.5	21.3	13.1	15.7	9.3	13.4	26.0	14.9	16.8	4.5	5.6	22.4	23.1	25.7	2.2
	80代以上	6	49.4	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	16.7	-	-	16.7	33.3	50.0	-

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

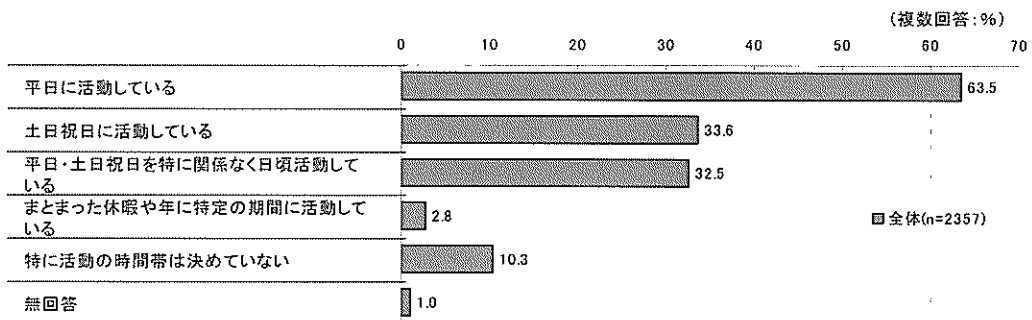
(2) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

ボランティア活動を行っている曜日のパターンを複数回答でたずねた。63.5%の団体・グループが平日に活動している。以下割合は低下するものの、「土日祝日に活動している」(33.6%)と「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」(32.5%)がほぼ同率で並ぶ。また、「特に活動の時間帯は決めていない」とする応需型も1割程度存在している。

〔参考〕選択肢は一部異なるものの、前回調査における「平日に活動している」とする割合は51.9%であったが、今回は10ポイント以上割合が大きく増加している。また、「土日祝日に活動している」とする団体・グループも大幅に増加している。

図表 3-2-1-①ボランティア活動の曜日パターン〈全体〉



〈中心となるメンバー年齢層別〉

主な年齢層別にもっとも多いパターンをみると、20代以下では「土日祝日に活動している」団体・グループが7割前後と多く、30代以上では「平日に活動している」団体・グループが最大となっている。

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にみてもほとんどの分野で「平日に活動している」が最大割合となっているが、人権擁護に関する活動分野のみ「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」とする団体・グループがもっとも多くなっている。

図表 3-2-1-②ボランティア活動の曜日パターン(中心となるメンバー年齢層別/主たる活動分野別)

(複数回答:%)

		調査数	平日に活動している	土日祝日に活動している	特に関係なく祝日頃を	平日・土日祝日に活動している	年・特定の日曜日に活動している	まとまった休暇にや	は決めていない	特に活動の時間帯	無回答
全体		2357	63.5	33.6	32.5	2.8	10.3	1.0			
中心となるメンバー年齢層別	10代	33	42.4	66.7	12.1	18.2	6.1	-			
	20代	38	63.2	73.7	10.5	13.2	2.6	-			
	30代	70	52.9	38.6	20.0	4.3	12.9	-			
	40代	189	55.0	46.6	29.6	5.8	11.1	1.1			
	50代	395	58.7	38.7	33.7	1.0	12.7	0.8			
	60代	976	69.0	29.8	33.8	2.7	8.5	0.7			
	70代	268	67.9	23.1	37.7	1.5	11.2	0.7			
	80代以上	6	50.0	-	33.8	-	33.8	-			
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	69.2	30.8	27.0	0.8	10.6	0.5			
	高齢者の福祉活動	389	74.3	22.9	29.8	2.1	7.7	0.3			
	教育、文化、スポーツ振興	142	40.8	40.1	35.2	3.5	14.1	0.7			
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	50.0	47.9	31.7	4.9	12.0	-			
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	77.0	41.0	28.0	1.0	3.0	-			
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	59.1	57.0	28.0	12.9	4.3	-			
	災害時のボランティア活動	86	43.0	33.7	29.1	3.5	34.9	-			
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	62.2	34.1	45.1	2.4	13.4	-			
	まちづくりなどに関する活動	73	54.8	47.9	37.0	2.7	12.3	1.4			
	健康や医療に関する活動	61	67.2	23.0	31.1	-	3.3	1.6			
	国際交流・国際協力に関する活動	43	74.4	48.5	27.9	4.7	2.3	-			
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	55.6	25.0	56.0	-	13.9	-			
	人権擁護に関する活動	23	30.4	26.1	56.5	-	4.3	8.7			
	その他	281	70.1	31.3	29.9	2.5	7.1	0.4			

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

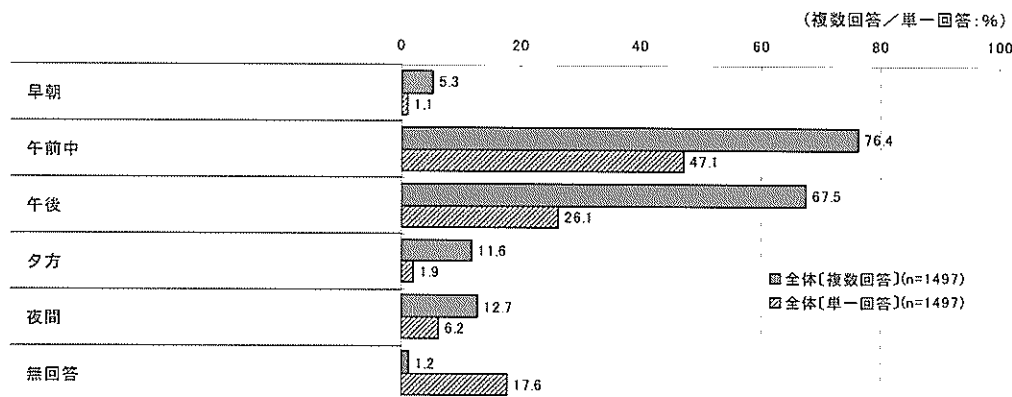
(3) 活動時間帯

1. 平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

平日にボランティア活動を行っている団体・グループの活動時間帯は「午前中」がもっとも多く、76.4%を占める。「午後」とした割合は「午前中」を約9ポイント下回る67.5%となっている。「夕方」「夜間」は1割強、「早朝」は5.3%と、この時間帯に活動を行う団体・グループは少数となっている。

主な時間帯として単一回答でたずねた結果でも「午前中」が47.1%と最も多い。

図表 3-3-1-①平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈全体〉



〈中心となるメンバー年齢層別〉

主な年齢層別にみた平日のボランティア活動時間帯でも「午前中」を中心に「午後」への集中がみられるが、10代では「午後」、20代では「夜間」がもっとも多い。

図表 3-3-1-②平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈中心となるメンバー年齢層別〉

		調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体〔複数回答〕		1497	5.3	76.4	67.5	11.6	12.7	1.2
中心となるメンバー年齢層別	10代	14	-	28.6	50.0	28.6	28.6	7.1
	20代	24	4.2	33.3	33.3	29.2	62.5	4.2
	30代	37	8.1	64.9	40.5	18.9	35.1	-
	40代	104	6.7	72.1	63.5	21.2	33.7	1.0
	50代	232	3.9	72.0	67.2	14.2	20.3	2.2
	60代	673	6.4	81.6	72.5	9.8	6.8	0.9
	70代	182	4.9	78.0	64.3	6.0	2.2	-
	80代以上	3	-	66.7	66.7	33.3	-	33.3

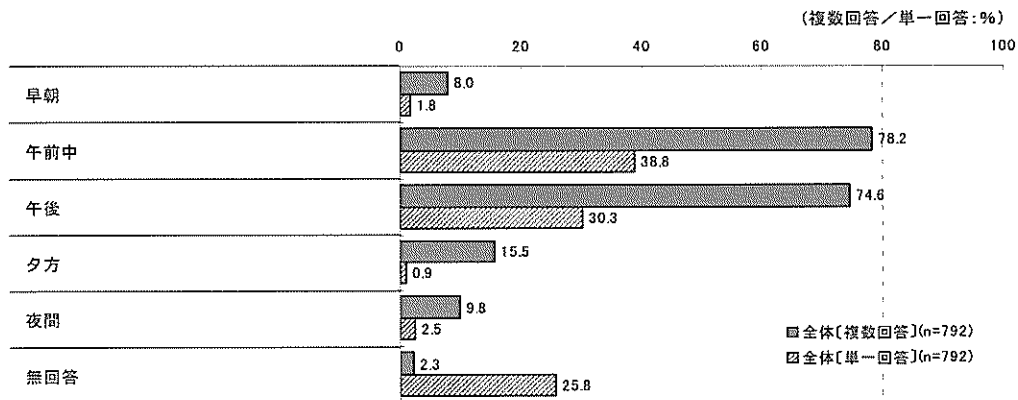
白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

2. 休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

土日祝日にボランティア活動を行っている団体・グループの活動時間帯は「午前中」と「午後」がいずれも70%台でほぼ同率となっている。平日型と比べると、「午後」と「夕方」の割合がやや増加している。「夜間」「早朝」は平日の活動同様にこの時間帯の活動団体・グループは少ない。

主な時間帯として単一回答でたずねた結果でも「午前中」と「午後」への集中が顕著で、それ以外の時間帯は少数にとどまる。

図表 3-3-2-①休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈全体〉



〈中心となるメンバー年齢層別〉

主な年齢層別にみた土日祝日のボランティア活動時間帯は、30代では「早朝」、10代では「午前中」、20代や40代では「夜間」の割合が全体の割合に比べると、やや多くなっている。

図表 3-3-2-②休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈中心となるメンバー年齢層別〉

(複数回答:%)

	調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答	
全体(複数回答)	792	8.0	78.2	74.6	15.5	9.8	2.3	
中心となるメンバー年齢層別	10代	22	-	86.4	77.3	13.6	4.5	4.5
	20代	28	7.1	85.7	82.1	39.3	21.4	3.6
	30代	27	14.8	81.5	70.4	29.6	7.4	7.4
	40代	88	10.2	81.8	80.7	22.7	20.5	-
	50代	153	7.2	77.8	75.2	18.3	13.1	2.6
	60代	291	9.3	77.0	72.2	12.7	7.9	1.7
	70代	62	6.5	77.4	75.8	3.2	3.2	1.6
	80代以上	-	-	-	-	-	-	-

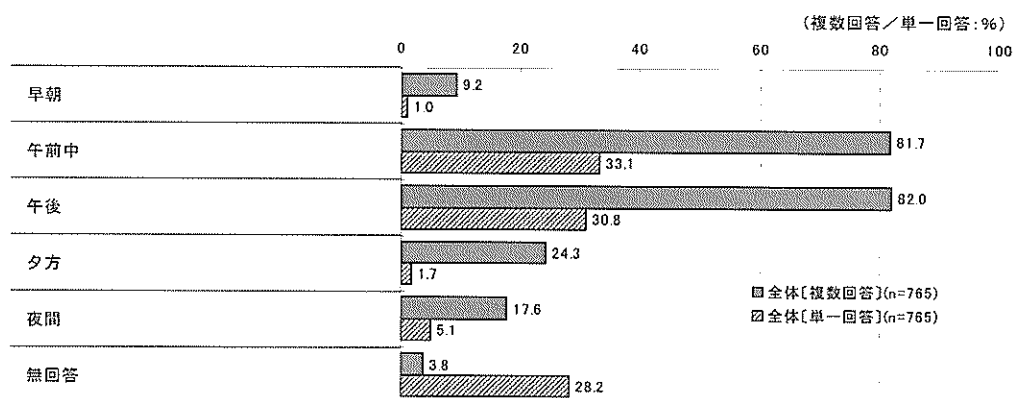
白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

3. 曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯

平日・土日祝日には特に関係なく日頃活動している団体・グループの活動時間帯は「午前中」と「午後」が8割強でほとんど同率となっている。「夕方」と「夜間」の割合はそれぞれ24.3%、17.6%であり、この割合は平日や休日に活動する団体・グループに比べるといずれも割合が高くなっている。

曜日に関係なく活動している団体・グループの時間帯（単一回答）は「午前中」と「午後」が3割を超えたものの、それ以外の時間帯は5%程度以下にとどまる。

図表 3-3-3-①曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈全体〉



図表 3-3-3-②曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈中心となるメンバー年齢層別〉

(複数回答:%)

		調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体[複数回答]		765	9.2	81.7	82.0	24.3	17.6	3.8
中心となるメンバー年齢層別	10代	4	-	50.0	50.0	50.0	75.0	-
	20代	4	25.0	50.0	75.0	100.0	75.0	-
	30代	14	7.1	78.6	84.3	64.3	35.7	-
	40代	56	10.7	82.1	87.5	41.1	41.1	1.8
	50代	133	12.8	79.7	79.7	30.8	30.1	5.3
	60代	325	8.9	86.2	84.6	18.5	11.4	3.7
	70代	101	9.9	77.2	78.2	15.8	5.9	3.0
	80代以上	2	-	-	100.0	100.0	-	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

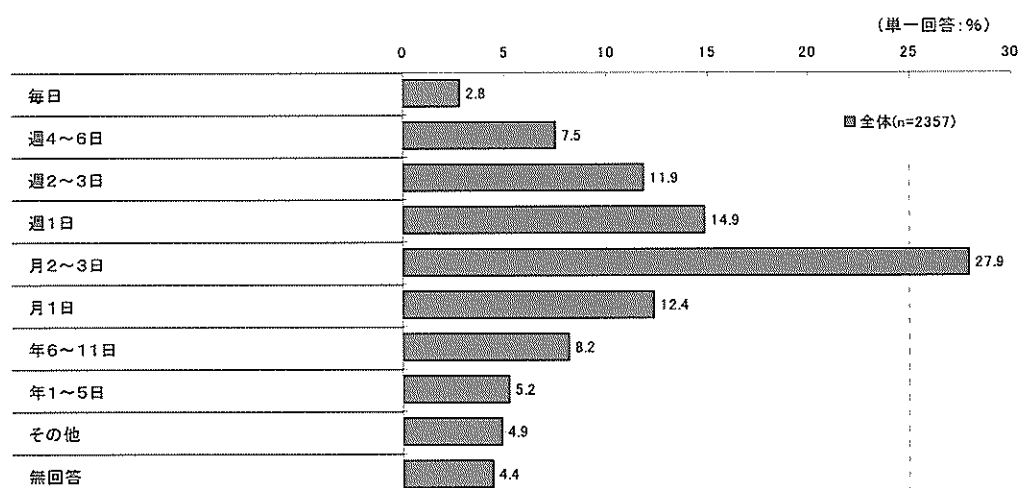
(4) 活動の頻度

1. 活動の頻度

定期的なボランティア活動を行っている団体・グループ（不定期で活動している団体・グループは20年度の平均実績）の活動頻度をたずねた。もっとも多いのが「月2～3日」の27.9%であり、「週1日」が14.9%と続く。以下、「月1日」と「週2～3日」が12%前後で、比較的集中がみられる。週に4日以上活動する団体・グループは合わせても1割程度にとどまる。

〔参考〕前回調査との比較では「月2～3日」に集中していることに変わりはなく、それぞれの頻度の割合にもほとんど変化はない。

図表 3-4-1-①活動の頻度〈全体〉



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別に頻度をみるといずれの分野も「月2～3日」の頻度の活動がもっとも多くなっている。そのなかにあつて、人権擁護に関する活動は「毎日」、健康や医療に関する活動は「週4～5日」、国際交流・国際協力に関する活動は「週1日」がそれぞれもっとも多くなっている。

図表 3-4-1-②活動の頻度〈主たる活動分野別〉

(単一回答:%)

	調査数	毎日	週4 ～ 6日	週2 ～ 3日	週1日	月2 ～ 3日	月1日	年6 ～ 11日	年1 ～ 5日	その他	無回答	
全体	2357	2.8	7.5	11.9	14.9	27.9	12.4	8.2	5.2	4.9	4.4	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	1.8	5.8	11.9	26.0	31.1	8.3	5.3	2.8	4.0	3.0
	高齢者の福祉活動	389	1.8	9.8	13.6	15.2	29.6	17.0	5.9	1.3	3.6	2.3
	教育、文化、スポーツ振興	142	3.5	8.5	9.9	12.0	25.1	9.9	9.9	9.2	4.9	6.3
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	0.7	2.8	9.9	8.5	28.2	15.9	9.9	15.5	4.2	3.5
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	2.0	6.0	20.0	13.0	36.0	13.0	4.0	2.0	2.0	2.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	-	4.3	18.3	12.9	28.0	16.1	10.8	4.3	5.4	-
	災害時のボランティア活動	86	1.2	-	9.3	2.3	32.6	11.6	16.3	11.6	10.5	4.7
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	-	3.7	8.5	13.4	31.7	11.0	9.8	8.5	7.3	6.1
	まちづくりなどに関する活動	73	4.1	11.0	9.6	12.3	27.4	11.0	8.2	6.8	4.1	5.5
	健康や医療に関する活動	61	4.9	26.2	11.5	9.8	23.0	8.2	6.6	3.3	3.3	3.3
	国際交流・国際協力に関する活動	43	9.3	18.6	11.6	32.6	14.0	4.7	2.3	7.0	-	-
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	2.8	13.9	8.3	-	36.1	8.3	13.9	2.8	2.8	11.1
	人権擁護に関する活動	23	34.8	4.3	4.3	4.3	17.4	8.7	8.7	-	8.7	8.7
	その他	281	4.3	7.5	10.3	14.2	22.4	14.6	8.9	5.3	7.5	5.0

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

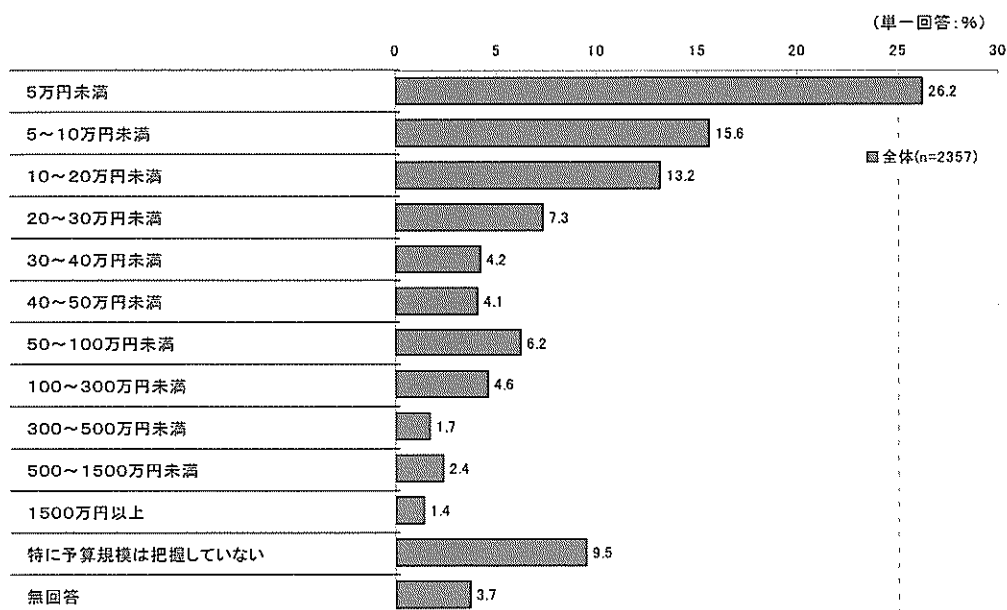
(5) 活動の予算

1. 年間予算規模

平成 20 年度における年間予算は「5 万円未満」がもっとも多く、全体の 26.2%を占める。以下、「5～10 万円未満」「10～20 万円未満」「20～30 万円未満」と予算規模が拡大するにつれ、該当団体・グループの割合は低下し、300 万円以上規模の団体・グループは 5.5%に過ぎない。

〔参考〕前回調査においても予算規模は「5 万円未満」がもっとも多く、20 万円未満の団体・グループが約 6 割を占める。今回調査でも過半数に達しており、小規模予算の団体・グループが多数を占める状況に変わりはない。

図表 3-5-1-①年間予算規模(全体)



〈活動年数別〉

活動年数別にみた年間予算は、25 年以上活動の団体・グループの予算規模が相対的に大きく、25 年未満の 1 割前後が 50 万円以上規模であるのに対し、25 年以上では 3 割近くが 50 万円以上の団体・グループとなっている。

図表 3-5-1-②年間予算規模(活動年数別)

(単一回答:96)

	調査数	5万円未満	5万円10万円未満	10万円20万円未満	20万円30万円未満	30万円40万円未満	40万円50万円未満	50万円未満	100万円未満	300万円未満	500万円以上	特に予算規模は把握していない	無回答	
全体	2357	26.2	15.6	13.2	7.3	4.2	4.1	6.2	4.6	1.7	2.4	1.4	9.5	3.7
5年未満	308	36.4	15.6	10.1	4.9	2.9	2.9	3.6	3.9	1.9	1.9	0.3	12.7	2.9
活動年数別														
5～10年未満	482	31.3	14.3	11.2	7.5	3.3	4.4	3.9	4.1	1.0	1.9	1.5	12.9	2.7
10～15年未満	517	29.0	17.0	13.7	5.6	2.9	3.9	4.8	3.1	1.2	3.1	0.8	11.0	3.9
20～25年未満	391	26.6	14.9	16.9	6.4	3.8	3.8	4.3	2.3	1.3	1.8	1.3	7.9	3.6
25年以上	566	12.9	12.9	14.1	10.1	7.4	5.5	12.4	8.3	2.8	3.0	2.5	5.3	2.8

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

団体・グループの多くが5万円未満であるが、主たる活動分野別にみた年間予算は人権擁護に関する活動では100万円以上の団体・グループが47.8%、まちづくりなどに関する活動が26.0%と多くなっている。一方、災害時のボランティア活動、障害者の福祉活動、高齢者の福祉活動などにおける100万円以上の割合は2～6%程度にとどまり、予算規模は分野によって大きな差がある。

図表 3-5-1-③年間予算規模(主たる活動分野別)

(単一回答:96)

	調査数	予算規模												特に予算規模は把握していない	無回答
		5万円未満	5万円以上10万円未満	10万円以上20万円未満	20万円以上30万円未満	30万円以上40万円未満	40万円以上50万円未満	50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上1000万円未満	1000万円以上		
全体	2357	26.2	15.6	13.2	7.3	4.2	4.1	6.2	4.6	1.7	2.4	1.4	9.5	3.7	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	33.9	18.4	16.2	6.8	3.8	2.0	4.0	3.3	0.8	1.0	-	7.6	2.3
	高齢者の福祉活動	389	29.6	16.7	14.1	6.4	2.6	3.3	6.4	4.4	-	0.5	0.5	10.8	4.6
	教育、文化、スポーツ振興	142	20.3	12.0	14.8	7.0	2.8	6.3	2.1	5.6	2.1	5.6	4.2	9.2	1.4
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	26.7	15.5	6.3	7.0	7.0	3.5	6.3	4.9	2.8	2.1	0.7	14.1	3.5
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	28.0	20.0	6.0	8.0	5.0	5.0	5.0	9.0	1.0	2.0	1.0	7.0	3.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	21.5	16.1	20.4	7.5	8.6	5.4	8.6	2.2	3.2	-	-	5.4	1.1
	災害時のボランティア活動	86	11.6	17.4	22.1	15.1	7.0	8.1	8.1	2.3	-	-	-	4.7	3.5
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	29.3	13.4	13.4	6.1	2.4	3.7	3.7	2.4	2.4	1.2	-	4.6	7.3
	まちづくりなどに関する活動	73	19.2	8.2	9.6	12.3	4.1	8.2	5.5	6.8	4.1	5.5	9.6	6.8	-
	健康や医療に関する活動	61	29.5	11.5	9.8	3.3	6.6	6.6	8.2	8.2	1.6	3.3	1.6	8.2	1.6
	国際交流・国際協力に関する活動	43	20.9	18.6	4.7	11.6	-	7.0	14.0	2.3	9.3	4.7	-	7.0	-
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	25.0	11.1	11.1	8.3	11.1	2.8	8.3	2.8	-	2.8	-	11.1	5.6
	人権擁護に関する活動	23	30.4	4.3	-	-	-	-	8.7	-	-	21.7	26.1	8.7	-
	その他	281	26.0	11.4	11.0	7.1	3.6	2.8	5.7	4.6	3.6	3.6	1.1	16.7	2.8

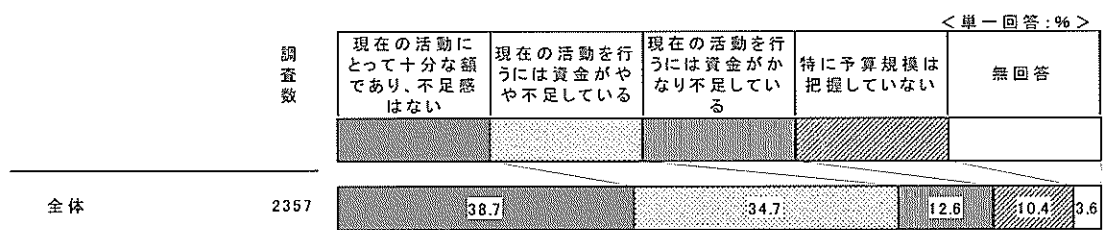
白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

2. 予算規模の適正感

現在の予算について「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」とした団体・グループは38.7%である。一方、「現在の活動を行うには資金がやや不足している」「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」とした団体・グループは合わせると半数近く(47.3%)を占め、予算不足の団体・グループが多くなっている。

[参考] 前回調査とは選択肢が異なるものの、「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」とした団体・グループは前回調査の45.6%から38.7%に減少し、活動予算が不足する団体・グループが増えている。

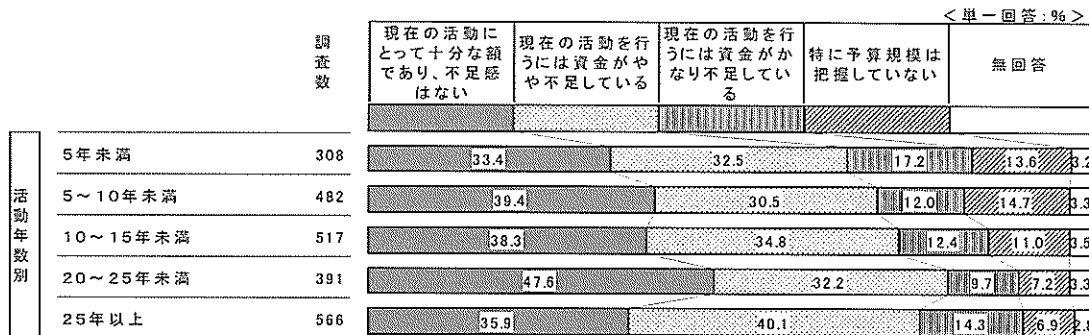
図表 3-5-2-①予算規模の適正感(全体)



〈活動年数別〉

年間予算を活動年数別にみると「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」とした強いひっ迫感をもつ団体・グループは25年以上の活動団体・グループと5年未満の団体・グループにやや多くなっている。

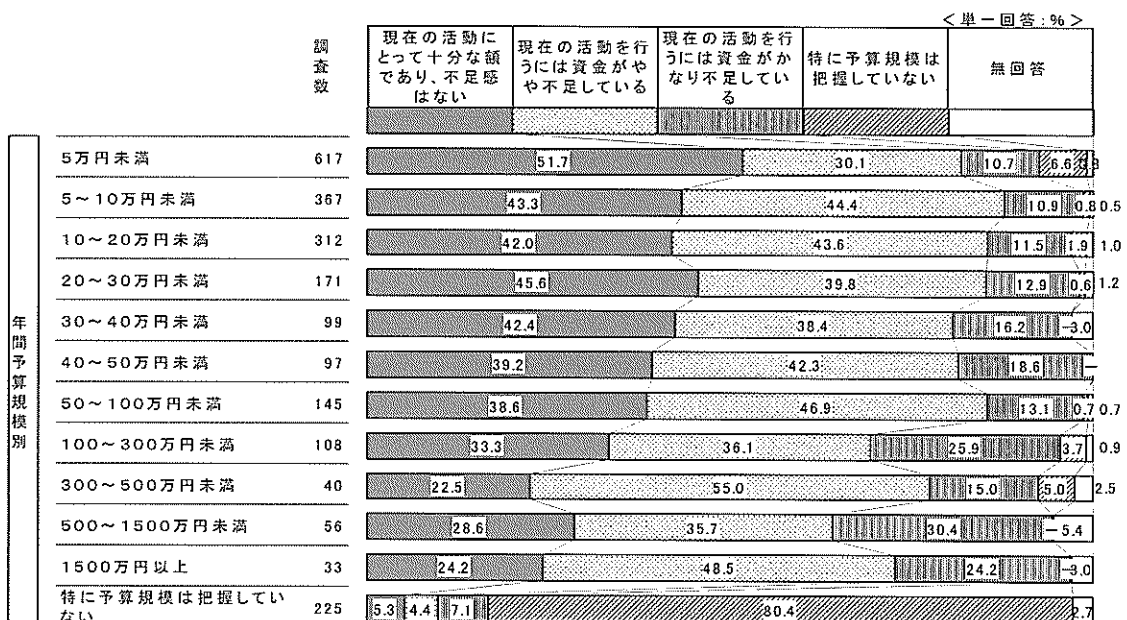
図表 3-5-2-② 予算規模の適正感(活動年数別)



〈年間予算規模別〉

予算規模別には予算規模が小さい団体・グループほど「不足感はない」とする割合が高くなっている。ちなみに300万円以上の団体・グループの「不足感はない」が2割台であるのに対し、5万円未満では過半数の51.7%にまで割合が増加している。

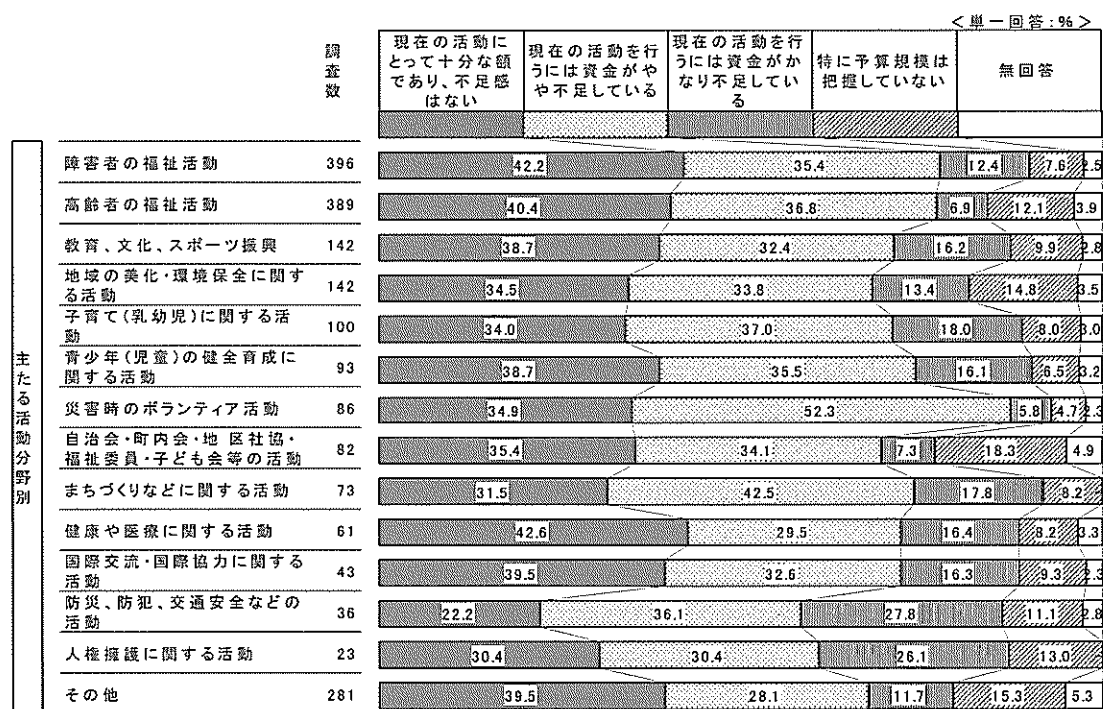
図表 3-5-2-③ 予算規模の適正感(年間予算規模別)



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にみた年間予算では、「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」とした団体・グループは、健康や医療に関する活動、障害者の福祉活動、高齢者の福祉活動でやや多く、その割合はいずれも4割超に及んでいる。一方、防災、防犯、交通安全などの活動や人権擁護に関する活動のその割合は3割程度以下にとどまり、「資金がかなり不足している」とする団体・グループの割合が他の活動分野に比べて高い。

図表 3-5-2-④ 予算規模の適正感〈主たる活動分野別〉

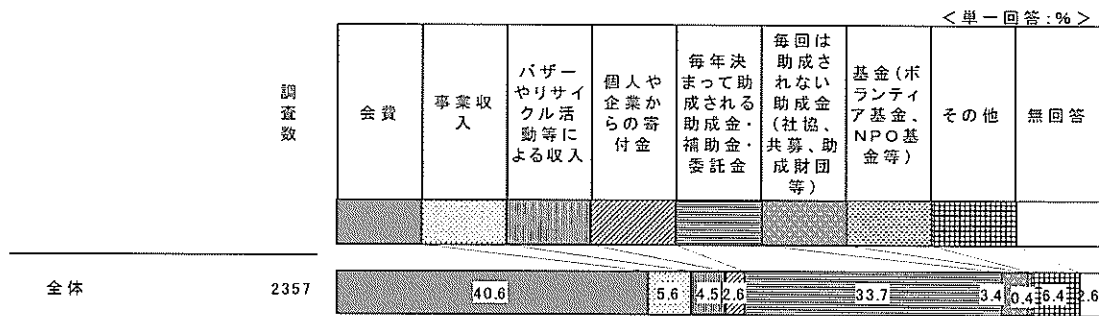


3. 活動経費の主な収入源

活動経費に「会費」(40.6%)と「毎年決まって助成される助成金・補助金・委託金」(33.7%)を主な収入源としている団体・グループが多くなっている。主な収入源としてこれら以外をあげる団体・グループはそれぞれ数%に過ぎない。

〔参考〕前回調査との比較では、「会費」が29.2%から40.6%に増加した。一方、「毎年決まって助成される助成金・補助金・委託金」は前回調査の37.8%から33.7%に減少している。

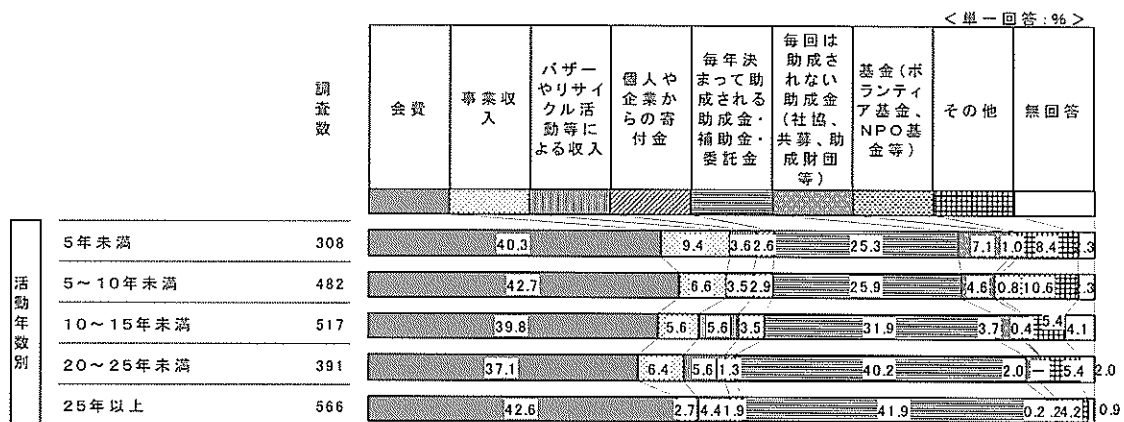
図表 3-5-3-①活動経費の収入源(全体)



<活動年数別>

主たる収入源が「会費」である団体・グループの割合は活動年数別にみてもあまり差がない。「助成金・補助金・委託金」の割合は10年未満の団体・グループでは2割台であるが、20年以上になると4割を超えている。

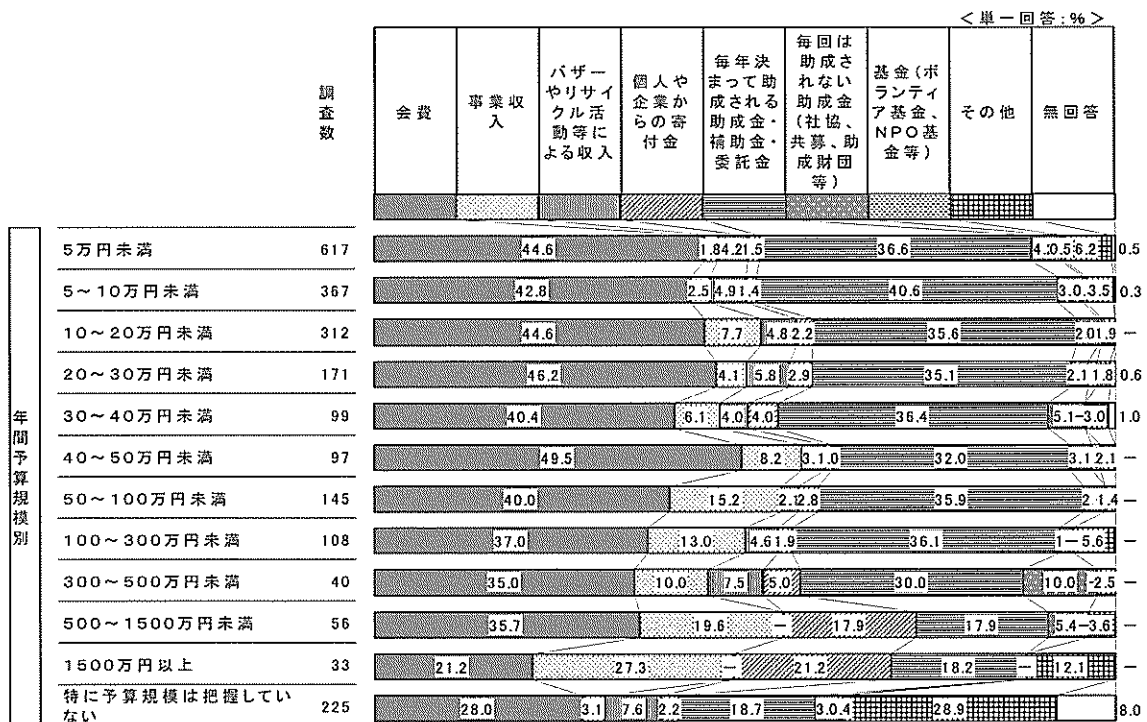
図表 3-5-3-②活動経費の収入源(活動年数別)



〈予算規模別〉

予算規模別には100万円未満の団体・グループでは、「会費」を主な収入源とする団体・グループが4割～5割を占めている。一方、500万円以上では「事業収入」と「個人や企業からの寄付金」を主な収入源とする団体・グループの割合が大幅に高まっている。

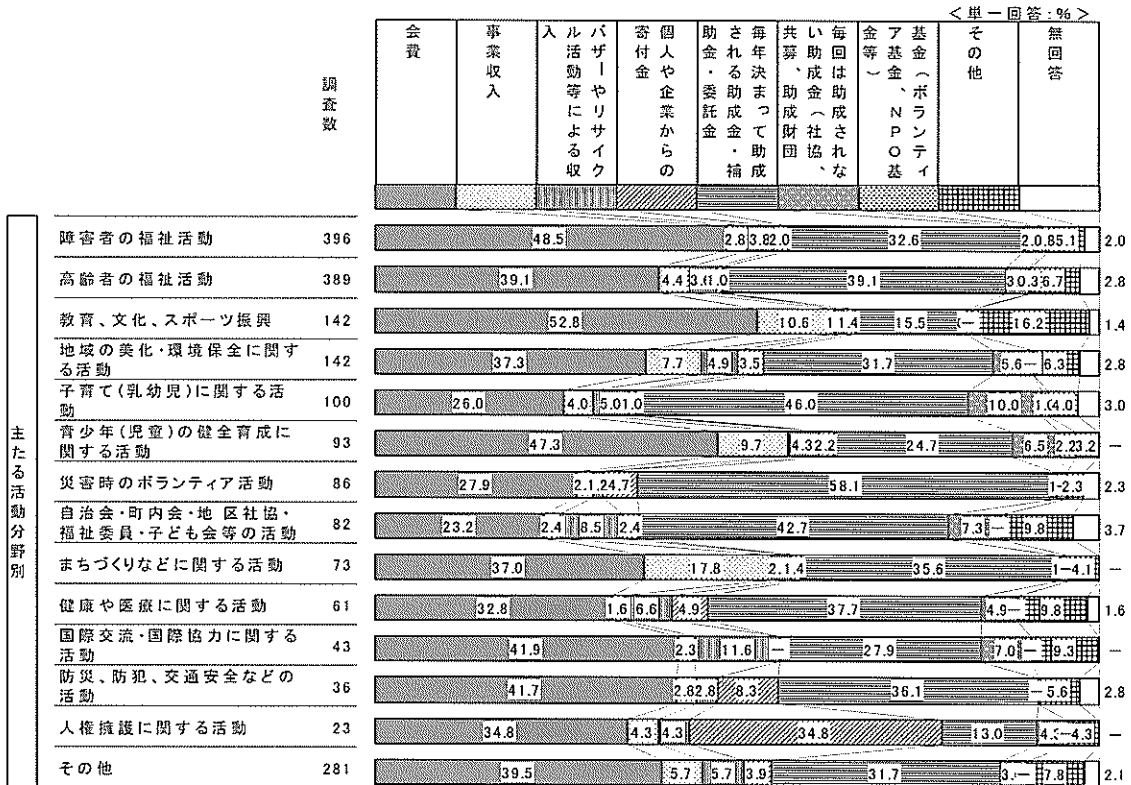
図表 3-5-3-③活動経費の収入源〈年間予算規模別〉



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別の主な収入源では、教育、文化、スポーツ振興や障害者の福祉活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動などは「会費」を主な収入源とする団体・グループが半数前後を占める。一方、災害時のボランティア活動、子育て（乳幼児）に関する活動、自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動では「助成金・補助金・委託金」を主な収入源とする団体・グループが多くなっている。

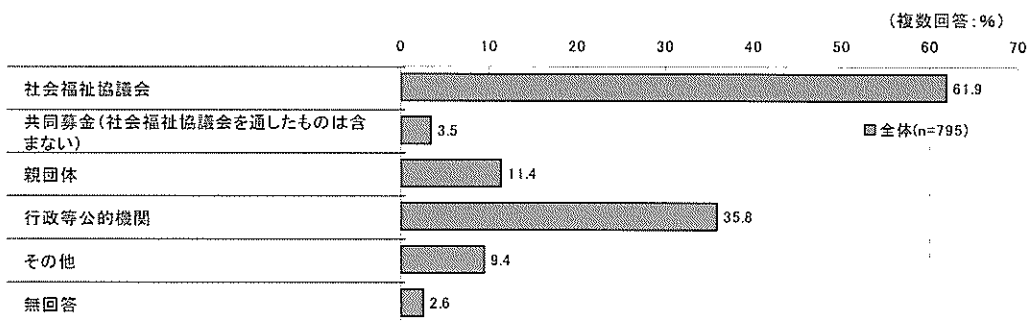
図表 3-5-3-④活動経費の収入源(主たる活動分野別)



4. 助成団体・機関

助成金・補助金・委託金の交付元は「社会福祉協議会」が多く、その割合は6割を超える。ついで「行政等公的機関」が35.8%で多く、助成金等は大きくはこの2つの交付元が中心になっている。これら以外では「親団体」と「その他」がそれぞれ1割前後を占めている。

図表 3-5-4-①助成団体・機関(全体)



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別の助成金等の交付元は、高齢者の福祉活動、障害者の福祉活動、自治会・町内会・地区社協等の活動、子育て（乳幼児）に関する活動では6割以上の団体・グループが「社会福祉協議会」から助成金を得ている。一方、国際交流・国際協力に関する活動、まちづくりなどに関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動では半数超の団体・グループが「行政等公的機関」を交付元としてあげている。（以上、サンプル数が10以上の団体・グループ）

図表 3-5-4-②助成団体・機関〈主たる活動分野別〉

(複数回答: 96)

	調査数	社会福祉協議会	共同募金(社会福祉協議会を含まない)	親団体	行政等公的機関	その他	無回答	
全体	795	61.9	3.5	11.4	45.8	9.4	2.6	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	129	74.4	3.9	3.9	28.7	7.0	2.3
	高齢者の福祉活動	152	80.9	3.3	6.6	25.0	7.2	2.6
	教育、文化、スポーツ振興	22	45.5	-	18.2	50.0	9.1	-
	地域の美化・環境保全に関する活動	45	44.4	-	13.3	53.3	6.7	2.2
	子育て(乳幼児)に関する活動	46	65.2	4.3	2.2	41.3	2.2	4.3
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	23	39.1	-	17.4	47.8	8.7	-
	災害時のボランティア活動	50	26.0	6.0	36.0	30.0	28.0	6.0
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	35	65.7	-	11.4	45.7	8.6	5.7
	まちづくりなどに関する活動	26	50.0	3.8	3.8	57.7	11.5	3.8
	健康や医療に関する活動	23	30.4	4.3	43.5	43.5	4.3	-
	国際交流・国際協力に関する活動	12	33.3	-	-	66.7	25.0	-
	防災、防犯、交通安全などの活動	13	46.2	-	15.4	46.2	7.7	-
	人権擁護に関する活動	3	-	-	-	66.7	33.3	-
	その他	89	69.7	6.7	11.2	38.2	10.1	1.1

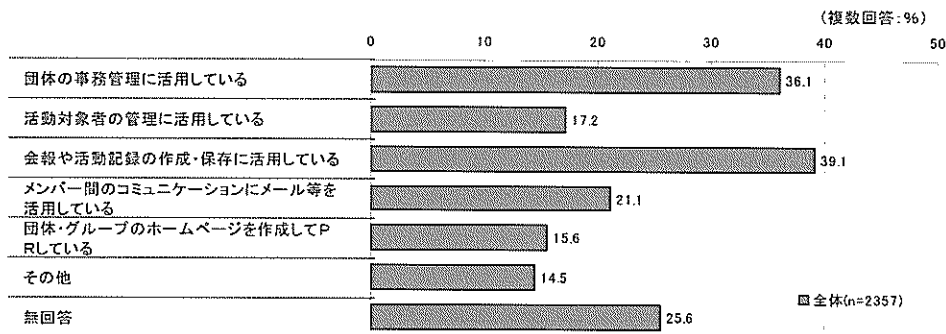
白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

(6) 運営における IT 化

1. 情報技術の活用状況

団体運営や活動におけるコンピュータやインターネット等の情報技術の利用状況は、「会報や活動記録の作成・保存に活用している」団体・グループがもっとも多く、39.1%に及んでいる。ついで「団体の事務管理に活用している」が36.1%と続く。「メンバー間のコミュニケーションにメール等を活用している」、「活動対象者の管理に活用している」、「団体・グループのホームページを作成してPRしている」は2割前後にとどまり、記録や事務管理などに比べると活用している団体・グループはやや少ない。

図表 3-6-1-①情報技術の活用状況<全体>



<参加メンバー規模別>

規模が大きくなるほど情報技術を運営や活動に利用する場面が増大している。50人以上の団体・グループにおける「団体の事務管理に活用」や「会報や活動記録の作成・保存に活用」は50%を超えているが、10人未満ではいずれの活用も3割に満たない。「活動対象者の管理に活用」「団体・グループのホームページを作成」は100人以上規模でも28.0%となっており、利用が進んでいるとはいえない。

図表 3-6-1-②情報技術の活用状況<参加メンバー規模別>

		(複数回答: %)							
	調査数	団体の事務管理に活用している	活動対象者の管理に活用している	会報や活動記録の作成・保存に活用している	メンバー間のコミュニケーションにメール等を活用している	団体・グループのホームページを作成してPRしている	その他	無回答	
全体	2357	36.1	17.2	39.1	21.1	15.6	14.5	25.6	
参加メンバー規模別	10人未満	386	18.9	8.0	25.4	17.1	8.3	20.2	36.3
	10~20人未満	721	27.7	12.8	32.7	21.1	11.4	18.0	27.6
	20~30人未満	385	32.7	14.5	39.5	21.3	16.9	12.2	26.0
	30~50人未満	296	48.6	23.0	47.3	21.3	15.5	9.5	24.7
	50~100人未満	218	51.8	24.3	53.7	27.1	22.9	13.8	15.6
	100人以上	328	58.5	31.7	53.4	22.6	28.0	7.9	13.1

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別の情報技術の導入傾向をみると、「団体の事務管理に活用」は人権擁護に関する活動の73.9%を最大に、健康や医療に関する活動、災害時のボランティア活動、国際交流・国際協力に関する活動分野の団体・グループでの導入が進んでいる。人権擁護に関する活動分野では、情報技術を運営や活動に利用する団体・グループが多く、いずれの利用場面でも割合はトップを占めている。

図表 3-6-1-③情報技術の活用状況(主たる活動分野別)

(複数回答:96)

	調査数	団体の事務管理に活用している	活動対象者の管理に活用している	会報や活動記録の作成・保存に活用している	メンバー間のコミュニケーションに活用している	ホームページの作成・PRに活用している	その他	無回答	
全体	2357	36.1	17.2	39.1	21.1	15.6	14.5	25.6	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	28.8	10.4	38.9	24.5	10.9	20.5	23.5
	高齢者の福祉活動	389	29.8	13.6	30.3	8.7	5.9	17.5	32.4
	教育、文化、スポーツ振興	142	43.0	20.4	42.3	23.2	19.0	13.4	20.4
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	38.0	20.4	45.8	22.5	14.8	9.2	28.9
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	41.0	22.0	45.0	30.0	23.0	6.0	25.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	45.2	21.5	58.1	32.3	25.8	10.8	9.7
	災害時のボランティア活動	86	55.8	25.6	46.5	31.4	15.1	3.5	18.6
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	19.5	8.5	23.2	8.5	6.1	17.1	36.6
	まちづくりなどに関する活動	73	47.9	20.5	49.3	35.6	35.6	11.0	11.0
	健康や医療に関する活動	61	59.0	37.7	59.0	29.5	32.8	13.1	11.5
	国際交流・国際協力に関する活動	43	53.5	27.9	58.1	55.8	46.5	9.3	4.7
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	38.9	8.3	58.3	19.4	19.4	13.9	19.4
	人権擁護に関する活動	23	73.9	43.5	73.9	56.5	69.6	8.7	4.3
	その他	281	31.3	12.8	31.7	19.2	17.1	17.1	29.9

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

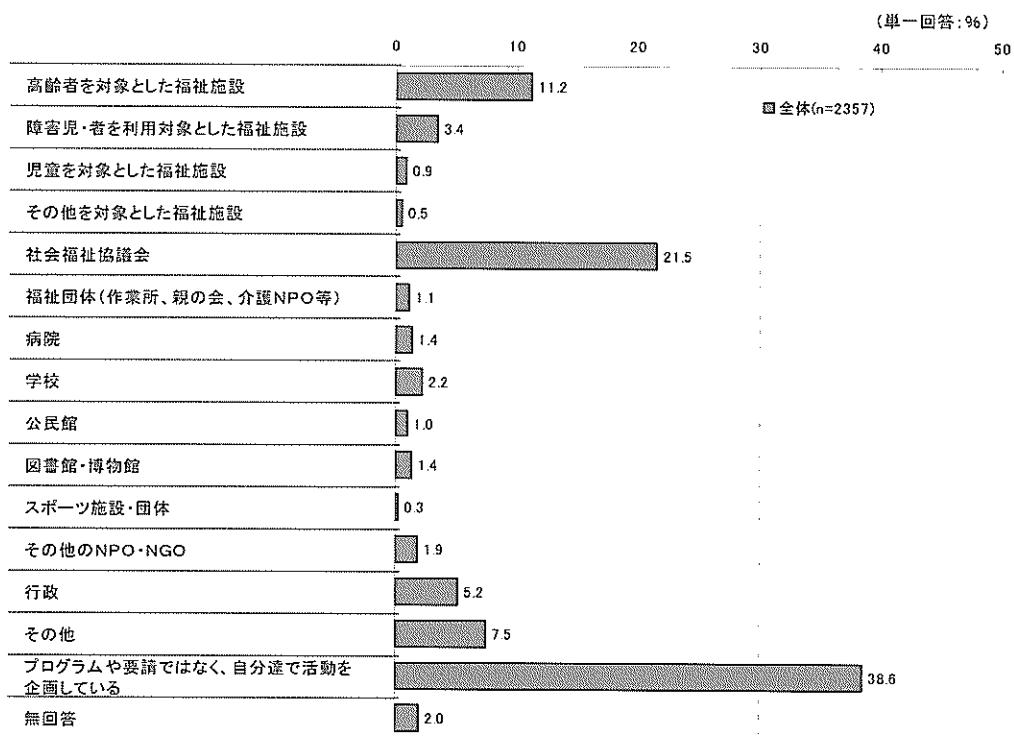
(7) 活動プログラムと支援団体

1. 活動プログラムの提供元組織

活動プログラムが「決まった機関や団体のプログラムや要請によるものではなく、自分達で活動を企画している」団体・グループは38.6%であり、ほぼ6割の団体・グループは特定の機関や団体のプログラム活用や要請を受けて活動している。もっとも多かったのは「社会福祉協議会」であり、21.5%に及んでいる。ついで「高齢者を対象とした福祉施設」が11.2%で続く。これら以外は数%にとどまり、活動のプログラムや要請は多岐にわたる。

〔参考〕設問・選択肢は異なるが、前回調査では「決まった機関や団体のプログラムや要請ではなく、自分達で活動を企画している」団体・グループは32.2%であったが、今回調査では38.6%に増加している。

図表 3-7-1-①活動プログラムの提供元組織〈全体〉



〈主たる活動分野別〉

“自分達で活動を企画している”団体・グループは地域の美化・環境保全に関する活動をはじめ、国際交流・国際協力に関する活動などに多い。全般に「社会福祉協議会」のプログラムや要請によるものが多いが、高齢者の福祉活動は「高齢者を対象とした福祉施設」、青少年(児童)の健全育成に関する活動は「学校」、健康や医療に関する活動は「病院」の要請によるものが多くなっている。

図表 3-7-1-②活動プログラムの提供元組織(主たる活動分野別)

(単一回答:%)

	調査数	高年齢者を対象とした福祉施設	障害児・者を利用対象とした福祉施設	児童を対象とした福祉施設	その他を対象とした福祉施設	社会福祉協議会	福祉団体(作業所、親の会、介護NPO等)	病院	学校	公民館	図書館・博物館	スポーツ施設・団体	その他のNPO・NGO	行政	その他	自分で活動を企画している	無回答
全体	2357	11.2	3.4	0.9	0.5	21.5	1.1	1.4	2.2	1.0	1.4	0.3	1.9	5.2	7.5	38.6	2.0
障害者の福祉活動	396	1.8	14.1	0.3	-	25.8	3.5	-	0.8	0.3	1.0	-	1.0	6.1	5.1	38.1	2.3
高齢者の福祉活動	389	31.4	1.3	-	-	30.3	0.5	0.8	0.3	1.0	-	-	1.3	1.3	2.6	27.8	1.5
教育、文化、スポーツ振興	142	5.6	-	2.1	1.4	11.3	0.7	0.7	3.5	2.1	9.9	2.8	2.8	4.2	10.6	41.5	0.7
地域の美化・環境保全に関する活動	142	2.8	1.4	-	0.7	14.1	-	-	2.1	-	-	-	2.1	4.9	2.8	66.9	2.1
子育て(乳幼児)に関する活動	100	3.0	1.0	9.0	-	17.0	-	-	3.0	-	4.0	-	1.0	9.0	4.0	47.0	2.0
青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	1.1	1.1	3.2	1.1	9.7	-	-	17.2	1.1	3.2	-	1.1	6.5	10.8	43.0	1.1
災害時のボランティア活動	86	7.0	-	-	-	10.5	1.2	-	1.2	-	-	-	2.3	9.3	25.6	40.7	2.3
自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	8.5	2.4	-	-	39.0	1.2	-	2.4	6.1	1.2	-	-	4.9	7.3	26.8	-
まちづくりなどに関する活動	73	2.7	1.4	-	1.4	24.7	-	-	-	-	-	-	8.2	2.7	4.1	50.7	4.1
健康や医療に関する活動	61	6.6	-	-	-	3.3	-	36.1	-	-	-	-	3.3	9.8	6.6	32.8	1.6
国際交流・国際協力に関する活動	43	-	-	-	-	2.3	-	-	-	2.3	-	-	2.3	14.0	14.0	65.1	-
防災、防犯、交通安全などの活動	36	-	-	2.8	-	16.7	-	-	2.8	2.8	-	-	-	13.9	11.1	44.4	5.6
人権擁護に関する活動	23	-	-	-	-	-	4.3	-	4.3	-	-	-	8.7	17.4	8.7	56.5	-
その他	281	13.2	0.7	0.7	1.4	39.9	1.1	0.7	2.8	0.7	0.7	0.4	1.8	3.9	12.1	38.4	1.4

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

2. ボランティア活動支援機関の利用状況

社協(ボランティアセンター)等のボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループは全体の77.5%を占め、「利用していない」(19.2%)団体・グループは少数となっている。

[参考] 前回調査でもボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループの割合は75.0%であり、利用割合にはほとんど変化がない。

図表 3-7-2-①ボランティア活動支援機関の利用状況(全体)

		<単一回答: %>		
調査数		利用している	利用していない	無回答
全体	2357	77.5	19.2	3.3

〈参加メンバー規模別〉

参加メンバー規模別には100人未満規模ではほぼ8割前後がボランティア活動支援機関を「利用している」としたが、100人以上のその割合は67.7%にとどまり、「利用していない」が3割近くに増加する。

図表 3-7-2-②ボランティア活動支援機関の利用状況〈参加メンバー規模別〉

		〈単一回答：％〉			
		利用している	利用していない	無回答	
参加メンバー規模別	10人未満	386	77.5	19.7	2.8
	10～20人未満	721	78.9	17.5	3.6
	20～30人未満	385	82.3	14.8	2.9
	30～50人未満	296	78.4	19.9	1.7
	50～100人未満	218	80.7	16.1	3.2
	100人以上	328	67.7	28.7	3.7

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別には子育て（乳幼児）に関する活動と人権擁護に関する活動で87.0%の団体・グループがボランティア活動支援機関を「利用している」としたのをはじめ、障害者の福祉活動、高齢者の福祉活動などに多い。一方、災害時のボランティア活動の34.9%をはじめとし、地域の美化・環境保全に関する活動、教育、文化、スポーツ振興などは相対的に「利用していない」が多い。

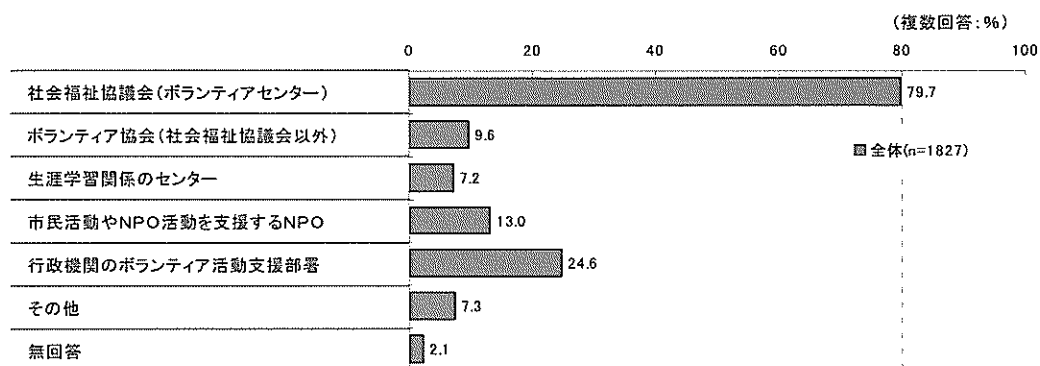
図表 3-7-2-③ボランティア活動支援機関の利用状況(主たる活動分野別)

		＜単一回答：％＞			
		利用している	利用していない	無回答	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	93.8	14.1	4.0
	高齢者の福祉活動	389	83.3	13.9	3.8
	教育、文化、スポーツ振興	142	71.1	26.1	2.8
	地域の美化・環境保全に関する活動	142	66.2	27.5	6.3
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	97.0	11.0	4.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	80.6	18.3	1.1
	災害時のボランティア活動	86	62.8	34.9	4.3
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	72.0	24.4	3.7
	まちづくりなどに関する活動	73	74.0	23.3	2.7
	健康や医療に関する活動	61	77.0	18.0	4.9
	国際交流・国際協力に関する活動	43	74.4	23.3	4.3
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	77.8	19.4	2.8
	人権擁護に関する活動	23	87.0	13.0	0.0
	その他	281	75.4	21.0	3.6

3. ボランティア活動支援機関

ボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループで利用がもっとも多かった機関・団体は「社会福祉協議会（ボランティアセンター）」であり、約8割の団体・グループが利用している。ついで「行政機関のボランティア活動支援部署」、「市民活動やNPO活動を支援するNPO」「ボランティア協会（社会福祉協議会以外）」の順に多くなっているが、「社会福祉協議会（ボランティアセンター）」の利用率とはいずれも50ポイント以上の差がある。

図表 3-7-3-①ボランティア活動支援機関(全体)



〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にみても人権擁護に関する活動を除き「社会福祉協議会（ボランティアセンター）」の利用が最大となっていることに変わりはないが、利用率には多少の差が表れている。人権擁護に関する分野をはじめ、防災、防犯、交通安全などの活動や国際交流・国際協力に関する活動や健康では「行政機関のボランティア活動支援部署」、まちづくりなどに関する活動では「市民活動やNPO活動を支援するNPO」などの割合が高くなっている。

図表 3-7-3-②ボランティア活動支援機関〈主たる活動分野別〉

(複数回答:%)

	調査数	社会福祉協議会 (ボランティアセンター)	ボランティア協会 (社会福祉協議会以外)	生涯学習関係の ボランティア	P O	市民活動や NPOを支援する NPO	署 行政機関の ボランティア活動 支援部署	その他	無 回 答
全体	1827	79.7	9.6	7.2	13.0	24.6	7.3	2.1	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	332	88.6	12.7	4.5	6.6	16.6	7.5	2.1
	高齢者の福祉活動	324	95.7	10.2	4.3	7.1	18.5	5.6	-
	教育、文化、スポーツ振興	101	63.4	9.9	23.8	21.8	26.7	6.9	4.0
	地域の美化・環境保全に関する活動	94	60.6	6.4	4.3	23.4	37.2	5.3	-
	子育て(乳幼児)に関する活動	87	81.5	5.7	5.7	21.8	19.5	3.4	-
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	75	78.7	12.0	13.3	13.3	36.0	6.7	1.3
	災害時のボランティア活動	54	64.8	1.9	1.9	14.8	27.8	31.5	3.7
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	59	89.8	16.9	10.2	1.7	20.3	3.4	-
	まちづくりなどに関する活動	54	63.0	7.4	11.1	38.9	35.2	3.7	1.9
	健康や医療に関する活動	47	57.4	23.4	4.3	23.4	29.8	10.6	4.3
	国際交流・国際協力に関する活動	32	43.8	12.5	12.5	18.8	40.6	9.4	3.1
	防災、防犯、交通安全などの活動	28	60.7	7.1	10.7	10.7	50.0	3.6	-
	人権擁護に関する活動	20	36.0	15.0	5.0	20.0	80.0	-	5.0
	その他	212	83.0	5.7	5.7	10.8	22.6	8.5	0.9

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

4. 利用している／役立っているボランティア活動支援機関のサービス

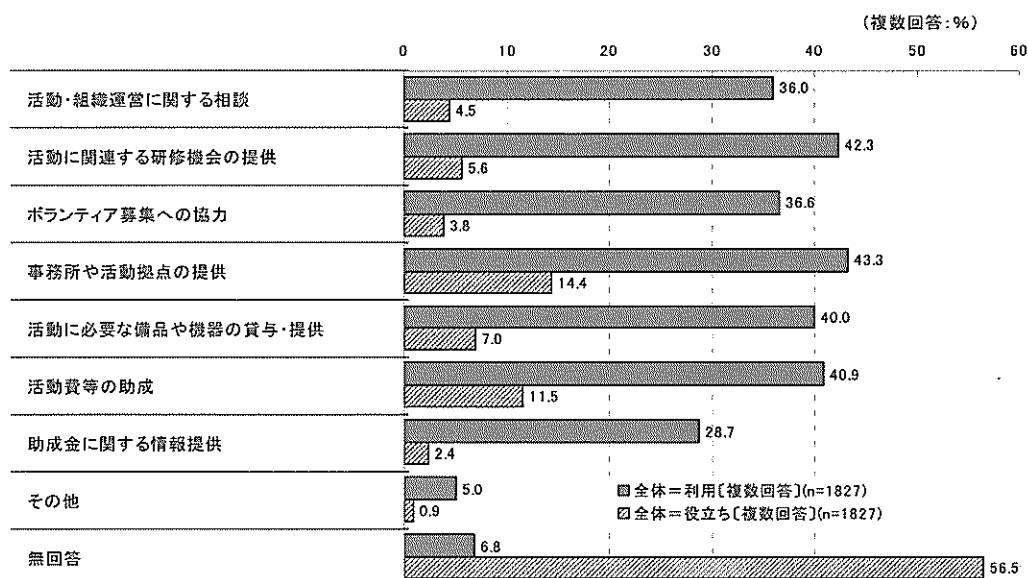
〈利用しているサービス〉

ボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループにおける利用サービスは「事務所や活動拠点の提供」がもっとも多く、43.3%となっている。以下、40%台で「活動に関連する研修機会の提供」、「活動費等の助成」、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」が続く。

〈役立っているサービス〉

ボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループが役立っていると評価するサービスは「事務所や活動拠点の提供」が14.4%でもっとも多くなっている。ついで、「活動費等の助成」「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」と続いている。無回答が半数を超え、役立っていることの評価を保留した団体・グループも多い。

図表 3-7-4-①利用している／役立っているボランティア活動支援機関のサービス(全体)



〈参加メンバー規模別〉

20人未満の小規模団体・グループでは「事務所や活動拠点の提供」が利用サービスのトップにあがっている。一方、100人以上の大規模団体・グループでは「活動に関連する研修機会の提供」、50～100人未満では「活動費等の助成」を半数以上があげるなど、利用サービスの利用内容にはそれぞれ特徴がある。

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別にみた利用サービスは、障害者の福祉活動では「事務所や活動拠点の提供」、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」、「ボランティア募集への協力」などが半数以上を占め、他の分野の割合を上回っている。また、子育て(乳幼児)に関する活動では「助成金に関する情報提供」、災害時のボランティア活動では「活動に関連する研修機会の提供」、「活動・組織運営に関する相談」、まちづくりなどに関する活動では「活動費等の助成」がそれぞれ他の分野を上回っている。

図表 3-7-4-②利用している活動支援機関のサービス(参加メンバー規模別/主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	運営活動・組織に関する相連	提供する活動・研修機会の提供	ボランティア募集への協力	拠点の提供	事務所や活動	貸与・提供	活動に必要な	活動費等の助成	助成金に関する情報提供	その他	無回答
全体=利用[複数回答]	1827	36.0	42.3	36.6	43.3	40.0	40.9	28.7	5.0	6.8		
参加メンバー規模別	10人未満	299	35.8	34.1	34.4	39.5	37.1	35.1	25.1	5.7	7.0	
	10~20人未満	569	38.1	39.0	39.0	45.0	41.1	37.8	27.1	5.6	6.7	
	20~30人未満	317	30.9	46.4	35.3	42.6	36.3	43.8	32.2	5.4	6.3	
	30~50人未満	232	35.3	43.5	36.6	42.2	44.4	40.9	29.7	3.9	6.0	
	50~100人未満	176	37.5	44.9	35.8	50.6	42.0	50.6	31.8	2.8	5.7	
	100人以上	222	38.3	53.6	35.1	42.3	40.5	46.8	29.7	5.0	8.6	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	332	31.9	39.5	50.0	58.4	52.1	46.7	35.8	3.6	3.3	
	高齢者の福祉活動	324	45.1	50.0	38.0	38.0	38.6	44.8	25.9	2.8	6.5	
	教育、文化、スポーツ振興	101	27.7	29.7	21.8	38.6	36.6	26.7	26.7	5.9	5.9	
	地域の美化・環境保全に関する活動	94	37.2	34.0	18.1	39.4	33.0	31.9	28.7	11.7	2.1	
	子育て(乳幼児)に関する活動	87	40.2	35.6	42.5	46.0	43.7	40.2	44.8	5.7	5.7	
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	75	34.7	36.0	38.7	45.3	37.3	42.7	32.0	6.7	8.0	
	災害時のボランティア活動	54	51.9	63.0	29.6	33.3	51.9	46.3	25.9	3.7	9.3	
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	59	27.1	37.3	23.7	37.3	33.9	40.7	23.7	5.1	13.6	
	まちづくりなどに関する活動	54	37.0	33.3	31.5	31.5	35.2	48.1	27.8	7.4	1.9	
	健康や医療に関する活動	47	40.4	57.4	44.7	25.5	36.2	34.0	31.9	6.4	4.3	
	国際交流・国際協力に関する活動	32	31.3	40.6	43.8	53.1	43.8	31.3	40.6	6.3	6.3	
	防災、防犯、交通安全などの活動	28	28.6	39.3	14.3	35.7	42.9	48.4	21.4	-	10.7	
	人権擁護に関する活動	20	35.0	40.0	45.0	50.0	40.0	35.0	40.0	15.0	5.0	
	その他	212	29.7	39.2	36.3	49.5	32.5	39.6	23.6	6.6	8.0	

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

5. 期待しているボランティア活動支援機関のサービス

現在、ボランティア活動支援機関を「利用している」団体・グループがもっとも期待している支援やサービスは「活動費等の助成」であり、その割合は 26.1%に及んでいる。以下、「事務所や活動拠点の提供」(13.8%)、「活動に関連する研修機会の提供」なども1割を超えており、もっとも期待している支援やサービスのトップ3となっている。

〔参考〕前回調査でも「活動費等の助成」の割合(20.6%)が最大であったが、今回は26.1%にその割合は増大している。

図表 3-7-5-①期待している支援機関のサービス(全体)

調査数		<単一回答: %>													
		談 営 に 関 す る 相 談	活 動 ・ 組 織 運 営	提 供 る 研 修 機 会 の	活 動 に 関 連 す る	募 集 へ の 協 力	ボ ラ ン テ ィ ア	提 点 の 提 供	事 務 所 や 活 動	貸 与 ・ 提 供	備 品 や 機 器 の	活 動 に 必 要 な	成 活 動 費 等 の 助	助 成 金 に 関 す る 情 報 提 供	そ の 他
全体	1827	7.8	11.5	7.8	13.8	6.5	26.1	4.1	11.8	20.5					

〈参加メンバー規模別〉

いずれの規模においても「活動費等の助成」がもっとも多いが、「活動・組織運営に関する相談」、「ボランティア募集への協力」は小規模であるほど多く、「活動に関連する研修機会の提供」、「事務所や活動拠点の提供」は規模が大きいほど多い傾向にある。

図表 3-7-5-②期待している支援機関のサービス(参加メンバー規模別)

調査数		<単一回答: %>													
		談 営 に 関 す る 相 談	活 動 ・ 組 織 運 営	提 供 る 研 修 機 会 の	活 動 に 関 連 す る	募 集 へ の 協 力	ボ ラ ン テ ィ ア	提 点 の 提 供	事 務 所 や 活 動	貸 与 ・ 提 供	備 品 や 機 器 の	活 動 に 必 要 な	成 活 動 費 等 の 助	助 成 金 に 関 す る 情 報 提 供	そ の 他
参加メンバー規模別	10人未満	299	9.7	10.0	10.4	11.7	5.7	23.4	4.3	22.7					
	10～20人未満	569	8.1	12.5	7.4	14.4	6.7	23.9	4.0	20.9					
	20～30人未満	317	7.3	11.0	6.6	13.6	6.9	31.2	2.1	18.6					
	30～50人未満	232	8.6	10.8	9.5	12.9	6.0	28.4	4.0	19.0					
	50～100人未満	176	8.0	11.9	7.4	14.8	6.3	25.6	4.5	20.5					
	100人以上	222	5.0	12.6	5.9	15.8	7.7	27.0	4.5	19.4					

〈主たる活動分野別〉

子育て（乳幼児）に関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動、まちづくりなどに関する活動などでは「活動費等の助成」に期待する団体・グループが多く、いずれも3割を超えている。一方、災害時のボランティア活動では「活動に関連する研修機会の提供」、青少年（児童）の健全育成に関する活動では「事務所や活動拠点の提供」などへ期待する割合が他の分野よりも高くなっている。

図表 3-7-5-③期待している支援機関のサービス(主たる活動分野別)

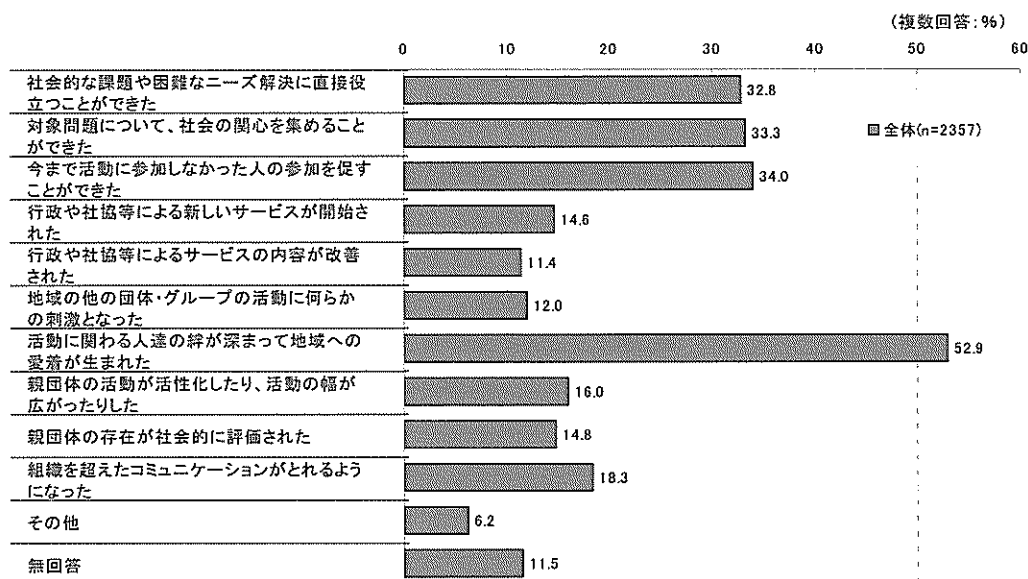
調査数	主たる活動分野別										＜単一回答：％＞	
	談話・活動に関する相連	提供する研修機会の	活動に関する	ボランティア募集への協力	拠点の提供	事務所や活動	貸与・提供	活動に必要な備品や機器の	活動費等の助	助成金に関する情報提供	その他	無回答
障害者の福祉活動	332	5.4	9.0	9.3	18.4	10.6	26.8	21.2	16.3			
高齢者の福祉活動	324	11.7	14.5	8.3	10.8	3.1	26.2	4.9	19.1			
教育、文化、スポーツ振興	101	5.9	13.9	6.9	18.8	6.9	17.8	9.9	15.8			
地域の美化・環境保全に関する活動	94	8.5	6.4	2.1	13.8	8.5	34.0	2.2	22.3			
子育て(乳幼児)に関する活動	87	9.2	14.9	6.9	16.1	3.4	35.6	1.1	12.6			
青少年(児童)の健全育成に関する活動	75	5.3	6.7	8.0	22.7	5.3	28.0	2.1	20.0			
災害時のボランティア活動	54	11.1	24.1	5.6	9.3	7.4	22.2	3.7	13.0			
自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	59	6.8	5.1	8.5	13.6	5.1	27.1	9.5	25.4			
まちづくりなどに関する活動	54	7.4	11.1	5.6	9.3	1.9	33.3	3.7	22.2			
健康や医療に関する活動	47	12.8	17.0	14.9	6.4	27.7	6.4	14.9				
国際交流・国際協力に関する活動	32	3.1	15.6	6.3	12.5	6.3	25.0	3.1	25.0			
防災、防犯、交通安全などの活動	28	7.1	17.9	7.1	7.1	10.7	28.6	3.1	17.9			
人権擁護に関する活動	20	5.0	15.0	20.0	15.0	25.0	5.0	15.0				
その他	212	6.6	9.9	7.5	14.2	8.0	25.9	4.2	21.7			

(8) 活動に対する自己評価

1. 活動の社会的効果

実施しているボランティア活動の社会的な効果について、半数を超える団体・グループが「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」(52.9%)としている。以下「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」、「対象問題について、社会の関心を集めることができた」、「社会的な課題や困難なニーズ解決に直接役立つことができた」が33%前後であがっている。一方、「行政や社協等によるサービスの内容が改善された」、「地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった」などを評価する団体・グループは1割強にとどまっている。

図表 3-8-1-①活動の社会的効果<全体>



<参加メンバー規模別>

規模を問わず「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」ことを評価する団体・グループが多いが、大規模団体・グループほど多くのボランティア活動の社会的な効果や意義を評価する傾向が強い。

<主たる活動分野別>

多くの活動分野の団体・グループで「活動に関わる人達の絆が深まって地域への愛着が生まれた」がトップにあがっているが、その中であって健康や医療に関する活動では「社会的な課題や困難なニーズ解決に直接役立つことができた」、人権擁護に関する活動や国際交流・国際協力に関する活動では「対象問題について、社会の関心を集めることができた」がもっとも多くなっている。

4. ボランティア活動の課題

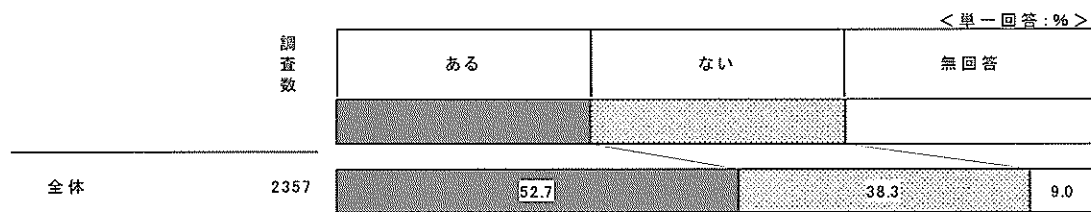
(1) 活動における苦勞

1. 苦勞の有無

団体・グループの立ち上げ時（活動を開始する前後）に苦勞した経験が「ある」団体・グループは 52.7%であり、半数を超えている。一方、「ない」とした団体・グループは 38.3%であり、苦勞した経験が「ある」団体・グループよりも約 14 ポイント少ない。

〔参考〕 前回調査では 48.1%の団体・グループが苦勞した経験が「ある」としているが、今回は 52.7%と、わずかに増加傾向となった。

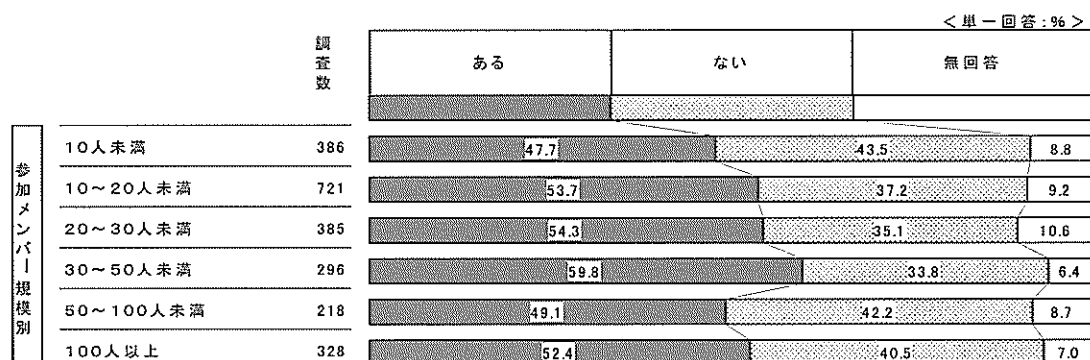
図表 4-1-1-①苦勞の有無(全体)



＜参加メンバー規模別＞

苦勞した経験が「ある」団体・グループは 30～50 人未満の中堅規模団体・グループに多く、その割合は 6 割近くに及んでいる。一方、10 人未満の団体・グループと 50 人以上の団体・グループでは苦勞した経験が「ある」の割合がやや少なく、「ない」とした団体・グループがそれぞれ 4 割超となっている。

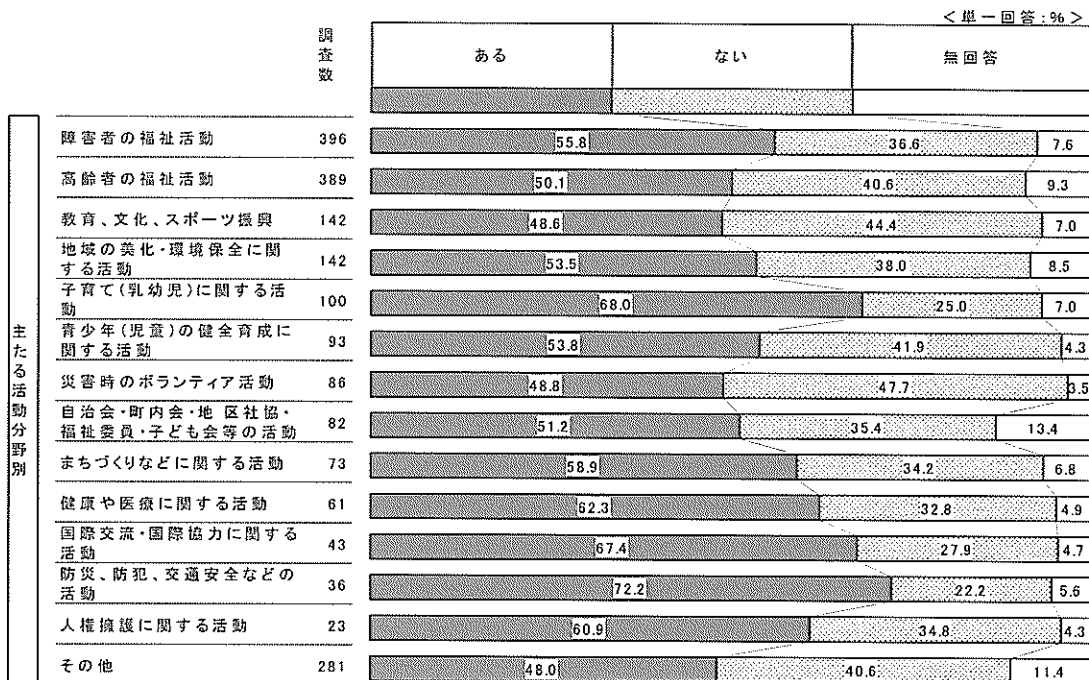
図表 4-1-1-②苦勞の有無(参加メンバー規模別)



〈主たる活動分野別〉

苦労した経験が「ある」団体・グループは防災、防犯、交通安全などの活動の72.2%を最大に、子育て（乳幼児）に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動、健康や医療に関する活動、人権擁護に関する活動で高い。一方、教育、文化、スポーツ振興や災害時のボランティア活動で「ある」とした割合は半数を割り込んでおり、苦労した経験を持つ団体・グループは相対的に少ない。

図表 4-1-1-③苦労の有無〈主たる活動分野別〉

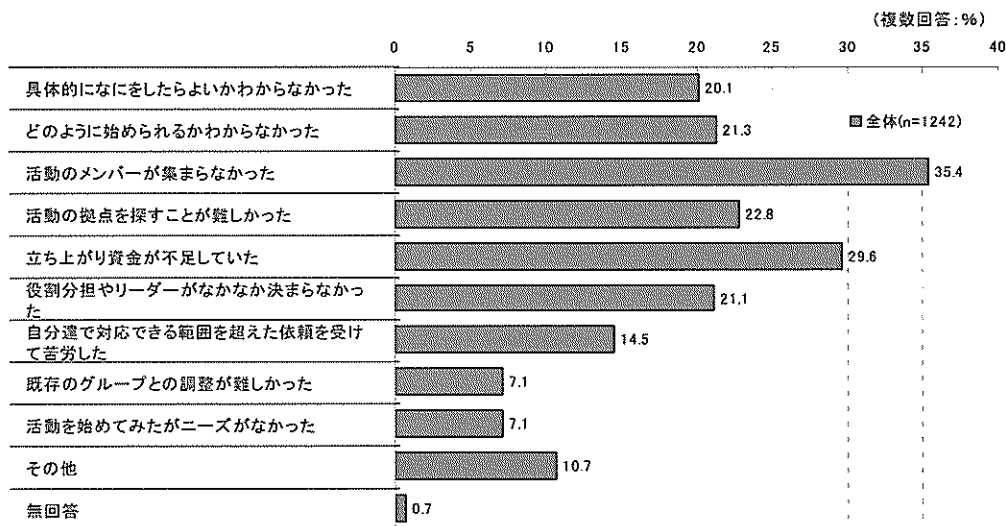


2. 苦労の内容

苦労した経験が「ある」団体・グループにおける具体的な内容は「活動のメンバーが集まらなかった」ことであり、その割合は35.4%に及んでいる。ついで「立ち上がり資金が不足していた」（29.6%）が多くなっている。以下「活動の拠点を探ることが難しかった」、「どのように始められるかわからなかった」、「役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった」、「具体的になにをしたらよいかかわからなかった」が21%前後となっている。

〔参考〕前回調査においても「活動のメンバーが集まらなかった」が30.5%でもっとも多くなっているが、今回は前回よりも約5ポイント増加し、メンバーの確保難が強まっている。また、「立ち上がり資金が不足していた」も21.4%から大きく増加している。

図表 4-1-2-①苦勞の内容<全体>



〈参加メンバー規模別〉

10人未満の団体・グループでは「活動のメンバーが集まらなかった」や「活動を始めてみたがニーズがなかった」が他の規模に比べると高い割合になっている。また、30人以上規模では「役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった」など組織の問題が30人未満規模よりも多くなっている。

〈主たる活動分野別〉

自治会・町内会・地区社協等の活動では「役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった」、まちづくりなどに関する活動では「自分達で対応できる範囲を超えた依頼を受けて苦勞した」、「既存のグループとの調整が難しかった」、健康や医療に関する活動では「具体的になにをしたらよいかわからなかった」、「どのように始められるかわからなかった」、防災、防犯、交通安全などの活動では「活動のメンバーが集まらなかった」などに苦勞を感じる団体・グループが他の分野よりも多くなっている。

図表 4-1-2-②苦勞の内容<参加メンバー規模別/主たる活動分野別>

(複数回答:%)

	調査数	具体的になにをしたか らよいかわからな かった	どのよう に始め られた かわか らな かつ た	活動の メン バー が 集 ま ら な か つ た	活動の 拠 点 を 探 す こ と が 難 し か つ た	立ち 上 が り 資 金 が 不 足 し て い た	役 割 分 担 や リ ー ダ ー が な か な か 決 ま ら な か つ た	自 分 連 で 対 応 で き る 範 圍 を 超 え た 依 頼 を 受 け て 苦 勞 し た	既 存 の グ ル ー プ と の 調 整 が 難 し か つ た	活 動 を 始 め て み た が ニ ー ズ が な か つ た	そ の 他	無 回 答	
全体	1242	20.1	21.3	35.4	22.8	29.6	21.1	14.5	7.1	7.1	10.7	0.7	
参加メンバー規模別	10人未満	184	16.8	21.7	40.8	20.7	31.0	16.8	13.0	4.3	14.1	11.4	0.5
	10～20人未満	387	19.9	23.0	36.2	23.8	27.6	17.8	13.4	4.1	8.0	10.1	0.5
	20～30人未満	209	22.0	22.5	36.8	19.6	33.5	19.6	14.4	8.1	3.3	12.0	0.5
	30～50人未満	177	22.6	24.3	33.9	23.7	30.5	27.1	15.8	9.0	5.1	9.6	0.6
	50～100人未満	107	24.3	16.8	34.6	25.2	29.0	25.2	16.8	10.3	8.4	9.3	0.9
	100人以上	172	16.9	15.7	26.7	23.8	27.3	25.6	15.1	10.5	2.9	11.6	1.7
	主たる活動分野別	障害者の福祉活動	221	18.1	21.7	38.9	23.1	29.0	19.9	14.0	4.5	11.8	10.4
高齢者の福祉活動	195	27.2	24.6	29.2	16.4	25.1	22.1	13.3	6.7	7.7	7.2	0.5	
教育、文化、スポーツ振興	69	13.0	24.6	24.6	29.0	34.8	14.5	10.1	10.1	13.0	13.0	-	
地域の美化・環境保全に関する活動	76	14.5	13.2	35.5	27.6	32.9	27.6	11.8	6.6	2.6	7.9	1.3	
子育て(乳幼児)に関する活動	68	7.4	17.6	30.9	30.9	41.2	11.8	17.6	2.9	1.5	5.9	-	
青少年(児童)の健全育成に関する活動	50	18.0	36.0	36.0	16.0	32.0	20.0	14.0	10.0	8.0	2.0	-	
災害時のボランティア活動	42	31.0	26.2	40.5	16.7	11.9	26.2	16.7	11.9	4.8	7.1	-	
自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	42	16.7	16.7	38.1	21.4	16.7	35.7	11.9	4.8	11.9	4.8	-	
まちづくりなどに関する活動	43	18.6	11.6	39.5	14.0	32.6	23.3	20.9	16.3	2.3	7.0	-	
健康や医療に関する活動	38	44.7	39.5	44.7	21.1	26.3	28.9	13.2	5.3	7.9	15.8	-	
国際交流・国際協力に関する活動	29	17.2	31.0	27.6	37.9	31.0	10.3	17.2	3.4	13.8	24.1	-	
防災、防犯、交通安全などの活動	26	19.2	23.1	53.8	15.4	30.8	26.9	15.4	15.4	3.8	15.4	-	
人権擁護に関する活動	14	21.4	14.3	35.7	50.0	50.0	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3	-	
その他	135	15.6	17.8	40.7	26.7	28.9	19.3	19.3	7.4	3.7	14.8	1.5	

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

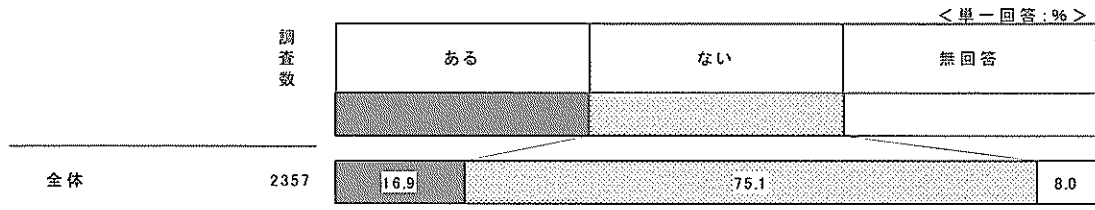
(2) 活動継続の意向

1. 中断意向の有無

これまでに団体・グループとしての活動をやめよう、休止しようと考えた経験が「ある」団体・グループは16.9%にとどまり、「ない」とした団体・グループ(75.1%)が多数を占めている。

〔参考〕前回調査では活動をやめよう、休止しようと考えた経験が「ある」団体・グループは10.5%であるが、今回は16.9%にその割合が増加している。

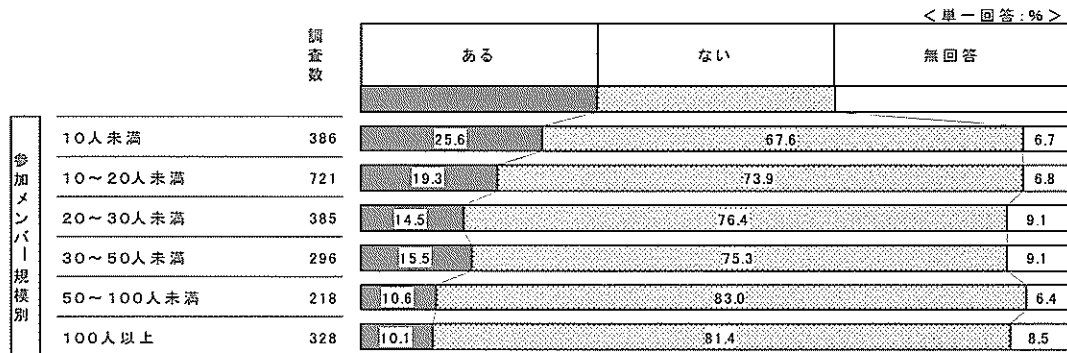
図表 4-2-1-①中断意向の有無<全体>



<参加メンバー規模別>

10人未満の団体・グループにおいて、活動をやめよう、休止しようと考えた経験の「ある」団体・グループは25.6%となっている。活動停止、休止の意向経験出現率は小規模団体・グループほど高く、50人以上の大規模団体・グループに比べると約2.5倍の出現率となっている。

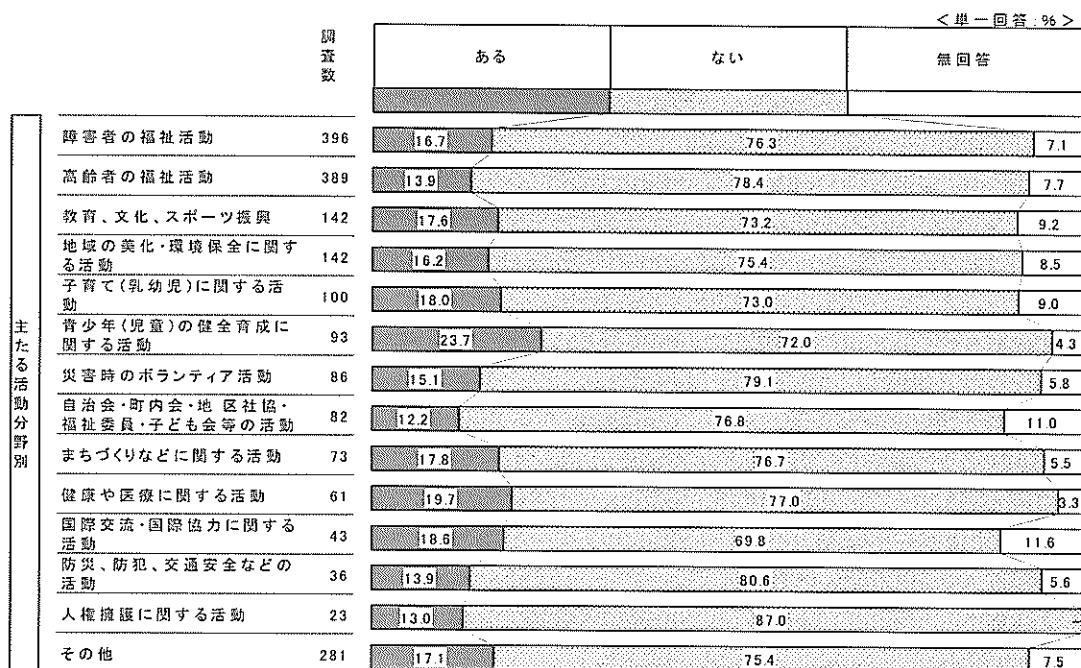
図表 4-2-1②中断意向の有無<参加メンバー規模別>



<主たる活動分野別>

活動停止、休止の意向経験のある団体・グループは、青少年（児童）の健全育成に関する活動の23.7%がもっとも多く、健康や医療に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動、子育て（乳幼児）に関する活動などの分野でやや高くなっている。一方、自治会・町内会・地区社協等の活動、人権擁護に関する活動、高齢者の福祉活動、防災、防犯、交通安全などの活動では13%前後にとどまっている。

図表 4-2-1-③中断意向の有無(主たる活動分野別)

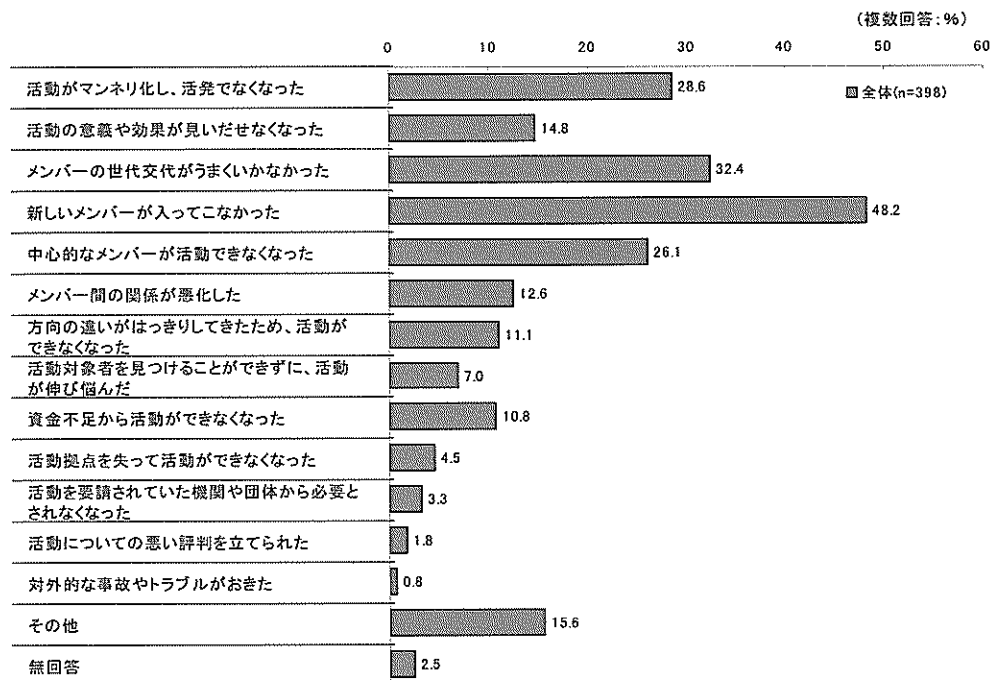


2. 中断意向の理由

活動停止、休止の意向の背景として、もっとも多かったものは「新しいメンバーが入ってこなかった」の48.2%である。さらに、「メンバーの世代交代がうまくいかなかった」(32.4%)、「中心的なメンバーが活動できなくなった」(26.1%)も多く、メンバーの確保が課題となっている。また、「活動がマンネリ化し、活発でなくなった」も28.6%と多い。

〔参考〕選択肢が一部異なるものの、前回調査の「新しいメンバーが入ってこなかった」の割合は38.3%であったが、今回は約10ポイント上昇し、ボランティア参加者の確保が困難になっている状況を映している。

図表 4-2-2-①中断意向の理由〈全体〉



〈参加メンバー規模別〉

10人未満の団体・グループでは「中心的なメンバーが活動できなくなった」(33.3%)、100人以上の団体・グループでは「新しいメンバーが入ってこなかった」や「活動がマンネリ化し、活発でなくなった」ことを活動停止、休止の意向理由としてあげる割合が他の規模を上回っている。

図表 4-2-2-②中断意向の理由(参加メンバー規模別/主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	活動がマン	活動の意	かなかつ	メンバー	新しいメ	中心的名	メンバー	ため、活	方向の違	活動対象	なつた	資金不足	活動拠点	活動を要	活動につ	対外的な	その他	無回
		ナー化し、	義や効果	かつた	の世代交	ンバーが	中心的名	メンバー	ため、活	方向の違	活動対象	なつた	資金不足	活動拠点	活動を要	活動につ	対外的な	その他	無回
全体	398	28.6	14.8	32.4	48.2	26.1	12.6	11.1	7.0	10.8	4.5	3.3	1.8	0.8	15.6	2.5			
参加メンバー規模別	10人未満	99	30.3	11.1	27.3	53.5	33.3	5.1	10.1	8.1	13.1	5.1	4.0	2.0	-	11.1	-		
	10~20人未満	139	29.9	15.8	22.3	45.3	24.5	13.7	11.5	9.4	8.6	3.6	2.2	1.4	0.7	15.8	4.3		
	20~30人未満	56	19.6	14.3	35.7	46.4	21.4	14.3	10.7	3.6	14.3	3.6	1.8	3.6	1.8	21.4	3.6		
	30~50人未満	46	26.1	26.1	58.7	52.2	21.7	19.6	13.0	8.7	6.5	6.5	8.7	-	-	10.9	2.2		
	50~100人未満	23	39.1	-	34.8	34.8	30.4	17.4	8.7	4.3	8.7	13.0	-	-	-	30.4	4.3		
	100人以上	33	45.5	18.2	48.5	54.5	24.2	12.1	12.1	-	15.2	-	3.0	3.0	3.0	12.1	-		
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	66	37.9	24.2	30.3	55.1	31.8	4.5	10.6	9.1	13.6	4.5	3.0	1.5	1.5	9.1	-		
	高齢者の福祉活動	54	18.5	9.3	35.2	37.0	14.8	7.4	3.7	7.4	11.1	1.9	3.7	1.9	-	18.5	3.7		
	教育、文化、スポーツ振興	25	32.0	16.0	24.0	60.0	24.0	12.0	16.0	12.0	12.0	4.0	4.0	-	-	20.0	4.0		
	地域の美化・環境保全に関する活動	23	30.4	17.4	34.8	39.1	21.7	13.0	30.4	4.3	4.3	4.3	-	-	-	21.7	4.3		
	子育て(乳幼児)に関する活動	18	22.2	5.6	22.2	38.9	44.4	11.1	16.7	-	27.8	5.6	5.6	-	-	5.6	-		
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	22	22.7	13.6	36.4	36.4	40.9	9.1	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	-	-	22.7	4.5		
	災害時のボランティア活動	13	38.5	15.4	34.6	53.8	30.8	30.8	7.7	-	7.7	-	-	7.7	-	7.7	-		
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	10	40.0	10.0	60.0	50.0	50.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-		
	まちづくりなどに関する活動	13	53.8	15.4	30.8	36.5	30.8	23.1	15.4	7.7	-	-	7.7	-	-	15.4	-		
	健康や医療に関する活動	12	25.0	16.7	33.3	41.7	16.7	16.7	8.3	-	16.7	16.7	25.0	-	-	25.0	8.3		
	国際交流・国際協力に関する活動	8	50.0	12.5	25.0	37.5	37.5	-	-	82.5	12.5	-	-	-	-	-	-		
	防災、防犯、交通安全などの活動	5	40.0	-	40.0	80.0	20.0	-	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-		
	人権擁護に関する活動	3	33.3	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-		
その他	48	22.9	16.7	22.9	45.8	22.9	16.7	6.3	6.3	8.3	6.3	2.1	2.1	2.1	18.8	2.1			

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

(3) 活動実施のうえでの課題

1. 活動における困難の有無

活動を行ううえで困っていることが「ある」とした割合は75.1%であり、困っていないことが「ない」とした団体・グループは21.1%となっている。

〔参考〕 前回調査における困っていることが「ある」とした割合は69.7%であるが、今回のその割合は5ポイント以上上昇している。

図表 4-3-1-①活動における困難の有無(全体)

		<単一回答: %>		
		ある	ない	無回答
調査数				
全体	2357	75.1	21.1	3.7

〈参加メンバー規模別〉

規模別にみると、困っていることが「ある」とした団体・グループの割合は50～100人未満と10人未満規模でやや低くなっているが、いずれの規模においても70%台で多数を占めている。

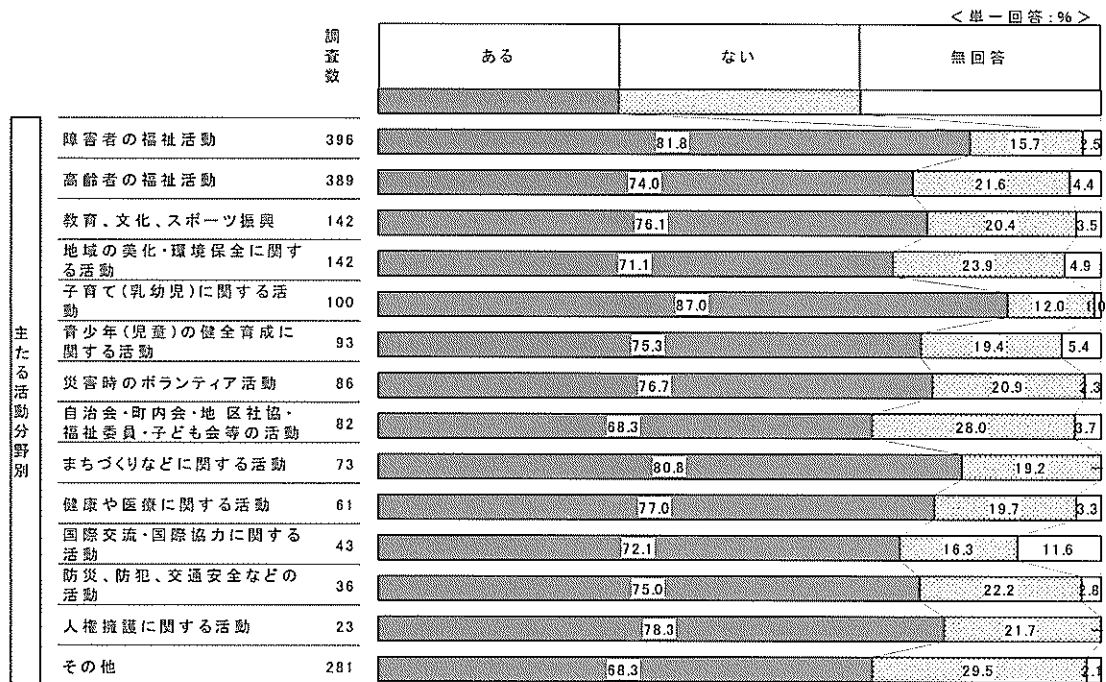
図表 4-3-1-②活動における困難の有無(参加メンバー規模別)

		<単一回答: %>			
		ある	ない	無回答	
調査数					
参加メンバー規模別	10人未満	386	71.5	24.1	4.4
	10～20人未満	721	77.0	19.4	3.6
	20～30人未満	385	75.3	21.0	3.6
	30～50人未満	296	78.0	19.3	2.7
	50～100人未満	218	70.6	25.2	4.1
	100人以上	328	77.4	20.1	2.4

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別には子育て(乳幼児)に関する活動の87.0%が困っていることが「ある」としたのを最大に、障害者の福祉活動、まちづくりなどに関する活動では8割を超える団体・グループが困難や課題を抱えている。一方、自治会・町内会・地区社協等の活動や地域の美化・環境保全に関する活動のその割合は相対的に低いとはいえ、活動に困難を訴える団体・グループは7割前後の高い水準にある。

図表 4-3-1-③活動における困難の有無<主たる活動分野別>

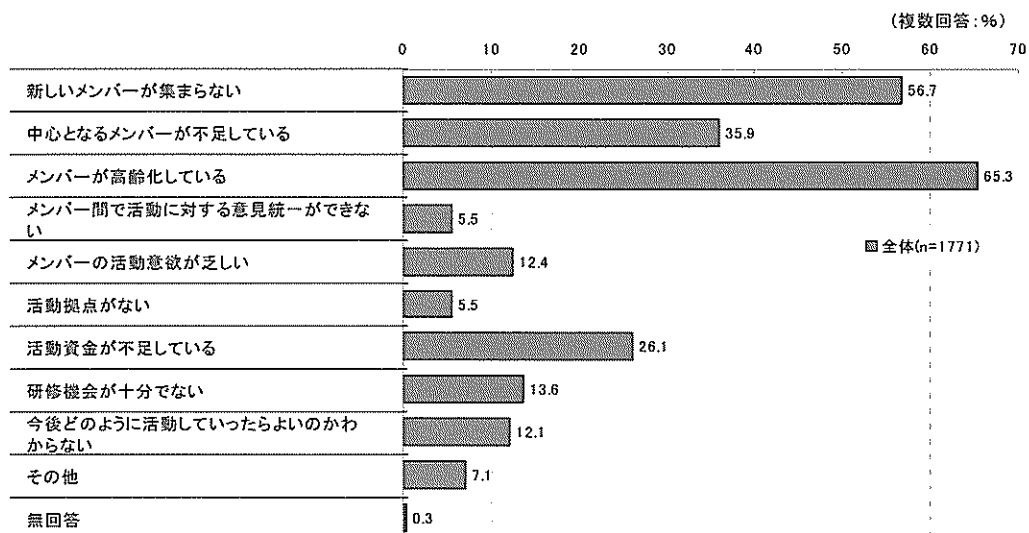


2. 困難の内容

現在、活動を困難にしている原因としてもっとも多くの方があげているのは、「メンバーが高齢化している」ことであり、65.3%に及んでいる。ついで「新しいメンバーが集まらない」(56.7%)、「中心となるメンバーが不足している」(35.9%)が続いている。これらはいずれも“人”に関連したものとなっている。“人”以外では「活動資金が不足している」(26.1%)とした団体・グループが多くなっている。

[参考] 前回調査でも「メンバーが高齢化している」(54.3%)ことと、「新しいメンバーが集まらない」(47.2%)ことが課題として上位にあがっており、今回もその順位に変わりはないものの、割合が10ポイント前後増加しており、メンバーの不足感が増大している。

図表 4-3-2-①困難の内容<全体>



<参加メンバー規模別>

規模を問わず“人”に関連したものが上位を占めている。ただ、10人以上では「メンバーが高齢化している」ことがトップになっているのに対し、10人未満では「新しいメンバーが集まらない」ことをあげる団体・グループが多い。

<主たる活動分野別>

「新しいメンバーが集まらない」ことをあげる団体・グループは、人権擁護に関する活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動、教育、文化、スポーツ振興などの分野に多くなっている。また、「メンバーが高齢化している」ことをあげる団体・グループは、災害時のボランティア活動、地域の美化・環境保全に関する活動などの団体・グループに多くなっている。

図表 4-3-2-②困難の内容<参加メンバー規模別/主たる活動分野別>

(複数回答:96)

	調査数	集まらない新しいメンバーがある	中心となるメンバーが不足している	メンバーが高齢化している	メンバー間での活動に対する意見統一ができない	メンバーの活動意欲が乏しい	活動拠点が無い	活動資金が不足している	研修機会が十分でない	今後どのように活動していったらよいかわからない	その他	無回答	
全体	1771	56.7	35.9	65.3	5.5	12.4	5.5	26.1	13.6	12.1	7.1	0.3	
参加メンバー規模別	10人未満	276	65.2	27.5	53.6	4.7	9.8	5.8	21.4	14.5	12.3	7.6	-
	10～20人未満	555	56.6	33.5	62.0	3.8	9.7	6.1	24.7	15.5	10.1	8.1	0.7
	20～30人未満	290	51.0	35.2	66.2	5.2	11.0	3.1	28.6	12.4	14.5	6.9	0.3
	30～50人未満	231	61.0	35.5	67.1	7.8	16.0	5.2	25.1	14.7	12.1	6.9	-
	50～100人未満	154	53.9	43.5	75.3	6.5	20.1	9.1	27.9	11.7	13.0	7.1	-
	100人以上	254	52.4	46.1	76.4	7.5	14.2	4.7	30.7	9.4	13.0	5.1	0.4
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	324	60.5	42.0	61.1	5.2	12.7	4.3	25.0	20.1	15.4	10.8	0.9
	高齢者の福祉活動	288	53.5	28.5	71.9	2.8	9.0	4.2	18.1	11.5	13.9	3.8	-
	教育、文化、スポーツ振興	108	55.6	27.8	54.6	4.6	11.1	7.4	29.6	13.9	13.0	7.4	-
	地域の美化・環境保全に関する活動	101	54.5	31.7	73.2	7.9	14.9	5.9	28.7	7.9	9.9	6.9	-
	子育て(乳幼児)に関する活動	87	49.4	40.2	40.2	3.4	8.0	11.5	35.6	11.5	10.3	5.7	-
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	70	57.1	32.9	48.6	11.4	11.4	2.9	37.1	12.9	11.4	11.4	-
	災害時のボランティア活動	66	62.1	37.9	80.3	4.5	22.7	-	19.7	13.6	13.6	4.5	-
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	56	48.2	28.6	71.4	5.4	12.5	1.8	12.5	12.5	12.5	7.1	1.8
	まちづくりなどに関する活動	59	47.5	44.1	57.6	8.5	15.3	8.5	28.8	15.3	10.2	1.7	1.7
	健康や医療に関する活動	47	53.2	40.4	68.1	8.5	19.1	8.5	36.2	12.8	12.8	2.1	-
	国際交流・国際協力に関する活動	31	48.4	61.3	45.2	6.5	19.4	9.7	29.0	29.0	16.1	9.7	-
	防災、防犯、交通安全などの活動	27	51.9	40.7	70.4	3.7	22.2	3.7	59.3	11.1	14.8	7.4	-
	人権擁護に関する活動	18	72.2	50.0	72.2	11.1	-	5.6	38.9	11.1	5.6	5.6	-
	その他	192	60.9	36.5	68.2	6.3	10.4	5.2	22.4	12.5	7.8	9.4	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

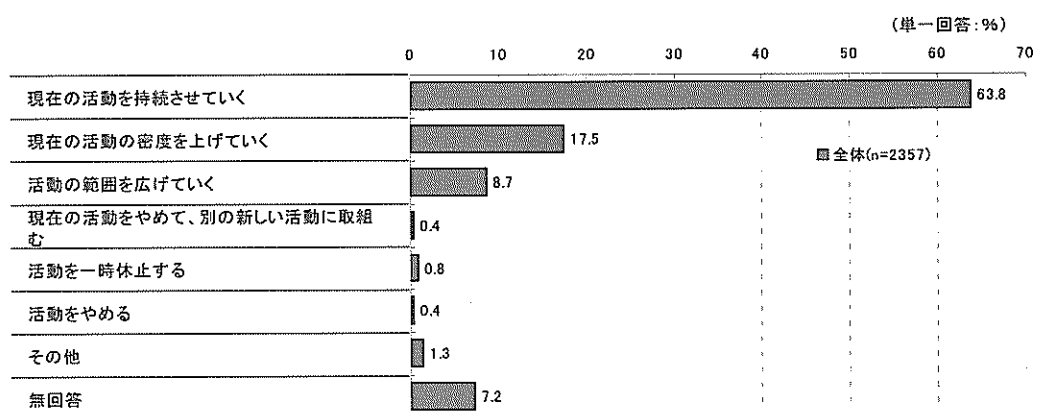
5. 今後の活動方針

(1) 今後の活動意向と方針

今後の活動については63.8%の団体・グループが「現在の活動を持続させていく」としている。一方、「現在の活動の密度を上げていく」(17.5%)、「活動の範囲を広げていく」(8.7%)など発展拡大の意向をもつ団体・グループは合わせて26.2%であった。また、活動休止、停止、変更などの意向は少数であった。

〔参考〕前回調査に比べると、「活動の範囲を広げていく」(17.3%)は大きく減少し、「現在の活動の密度を上げていく」(4.4%)が10ポイント以上増加している。

図表 5-1-1-①今後の活動意向と方針<全体>



<主たる活動分野別>

「現在の活動を持続させていく」とした団体・グループは、自治会・町内会・地区社協等の活動、高齢者の福祉活動で7割前後と特に多くなっている。また「現在の活動の密度を上げていく」は人権擁護に関する活動、災害時のボランティア活動で3割を超え、他の分野を上回る。「活動の範囲を広げていく」とする割合は、全般に少ないが、その中ではまちづくりなどに関する活動が相対的に多くなっている。

図表 5-1-1-②今後の活動意向と方針(主たる活動分野別)

(単一回答:9%)

	調査数	現在の活動を 継続させていく	現在の活動を 度々上げていく	現在の活動を 上げていく 範囲を 広げる	現在の活動を やめて、別の 新しい活動に 取り組む	現在の活動を 一時休止 する	活動を やめる	その他	無回答	
全体	2357	63.8	17.5	8.7	0.4	0.8	0.4	1.3	7.2	
主たる活動分野別	障害者の福祉活動	396	66.7	18.7	5.1	-	0.8	0.3	2.0	6.6
	高齢者の福祉活動	389	69.2	12.9	6.9	0.8	0.8	0.8	0.5	8.2
	教育、文化、スポーツ振興	142	58.5	18.3	12.0	-	1.4	-	2.1	7.7
	地域の美観・環境保全に関する活動	142	64.1	13.4	10.6	0.7	2.1	-	1.4	7.7
	子育て(乳幼児)に関する活動	100	57.0	21.0	13.0	-	-	-	2.0	7.0
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	93	61.3	19.4	11.8	-	1.1	1.1	3.2	2.2
	災害時のボランティア活動	86	52.3	30.2	9.3	-	-	-	-	8.1
	自治会・町内会・地区社協・福祉委員・子ども会等の活動	82	72.0	7.3	8.6	-	1.2	-	-	11.0
	まちづくりなどに関する活動	73	48.8	24.7	17.8	-	2.7	-	1.4	6.8
	健康や医療に関する活動	61	67.2	21.3	9.8	-	-	-	-	1.6
	国際交流・国際協力に関する活動	43	55.8	27.9	11.6	-	-	-	-	4.7
	防災、防犯、交通安全などの活動	36	52.8	25.0	13.9	-	-	-	2.8	5.6
	人権擁護に関する活動	23	47.8	34.8	13.0	-	-	-	-	4.3
	その他	281	65.1	18.1	6.0	0.4	0.4	1.4	1.4	7.1

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

IV. ボランティア 個人対象調査

<表 1-1-1-1 個人対象調査>

性別	人数	割合	総人数	割合
男性	10	100%	10	100%
女性	0	0%	0	0%
合計	10	100%	10	100%

個人対象調査の結果、ボランティアの性別は男性が10名（100%）であり、女性はいませんでした。また、年齢は10代が1名（10%）、20代が2名（20%）、30代が3名（30%）、40代が2名（20%）、50代が1名（10%）、60代以上が1名（10%）であり、年齢層は幅広く分布しています。

<表 1-1-2 個人対象調査結果の割合>

項目	割合	人数	割合
性別	男性	10	100%
年齢	10代	1	10%
	20代	2	20%
	30代	3	30%
	40代	2	20%
	50代	1	10%
	60代以上	1	10%
合計		10	100%

1. ボランティア活動者のプロフィール

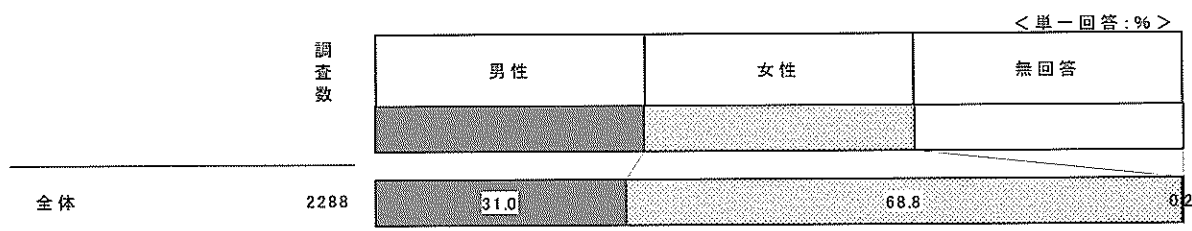
(1) 活動参加者（回答者）の属性

1. 性別

今回調査に回答があった 2,288 人のボランティアのうち、「女性」は 68.8%であり、「男性」(31.0%) の2倍以上の割合を占める。

〔参考〕前回調査における「男性」の割合は 27.1%であったので、今回調査では「男性」の割合がやや増加している。

図表個 1-1-1-①性別<全体>

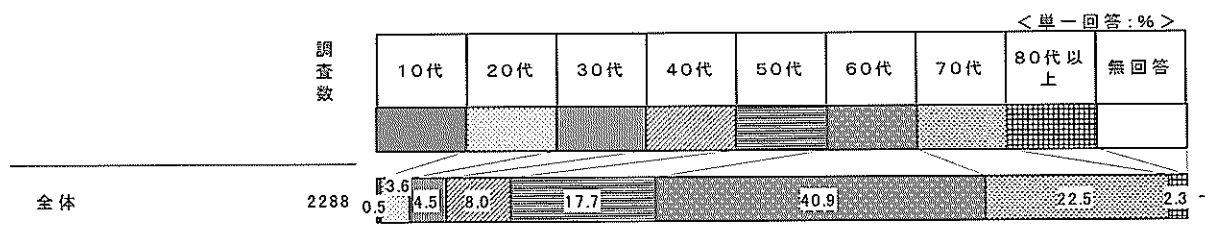


2. 年齢

回答者の年齢は「60代」がもっとも多く、全体の 40.9%に及んでいる。ついで「70代」と「50代」がそれぞれ2割前後の割合で続く。60代以上は全体の 65.7%に及んでいる。一方、50代以下は3割半ばで、ボランティアの約3人に1人となっている。

〔参考〕60歳以上の占める割合は前回調査の 51.7%から 14.0ポイント増加した。

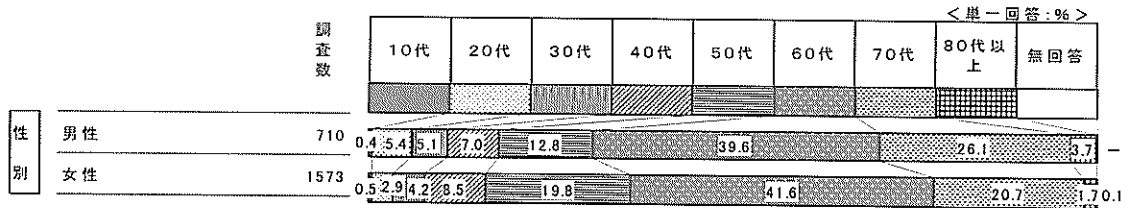
図表個 1-1-2-①年齢<全体>



<性別>

性別にみた年齢構成は、男女ともに「60代」が中心になっていることに変わりはないが、「女性」では50代以下が35.9%で、「男性」のその割合を上回る。「男性」では70代以上の高齢層の占める割合がやや高くなっている。

図表個 1-1-2-②年齢<性別>



3. 職業

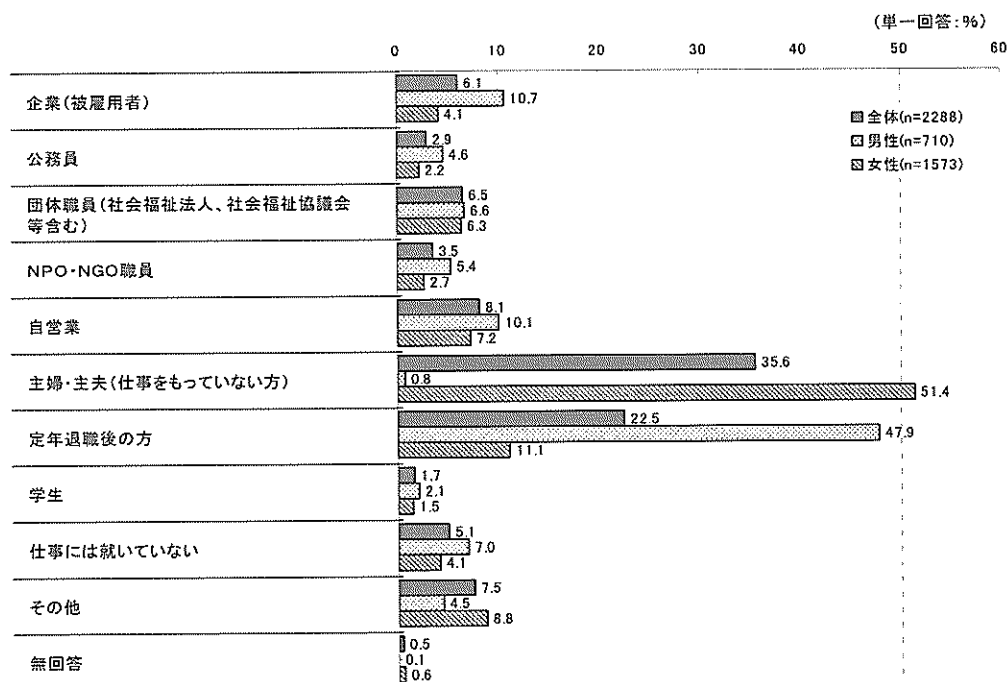
職業をみると、ボランティアの35.6%は「主婦・主夫」となっている。ついで、「定年退職後の方」が22.5%が多い。「自営業」、「団体職員（社会福祉法人、社会福祉協議会等含む）」など就業者のボランティアは合わせても27.1%を占めるにとどまり、ボランティアは非就業者が多くを占めている。

〔参考〕前回調査では「主婦（主夫）」、「定年退職後の方」を合わせた割合が6割超に及んだが、今回も同様にこれらのボランティアが多くの割合を占めている。

<性別>

性別にみた職業は、男性参加者の約半数（47.9%）を「定年退職後の方」が占めている。男性では「自営業」、「団体職員（社会福祉法人、社会福祉協議会等含む）」など有職者の割合が37.4%を占める。一方、女性では「主婦・主夫」（51.4%）を中心に、「定年退職後の方」（11.1%）などの非就業者が68.1%を占める。

図表個 1-1-3-①職業〈全体／性別〉



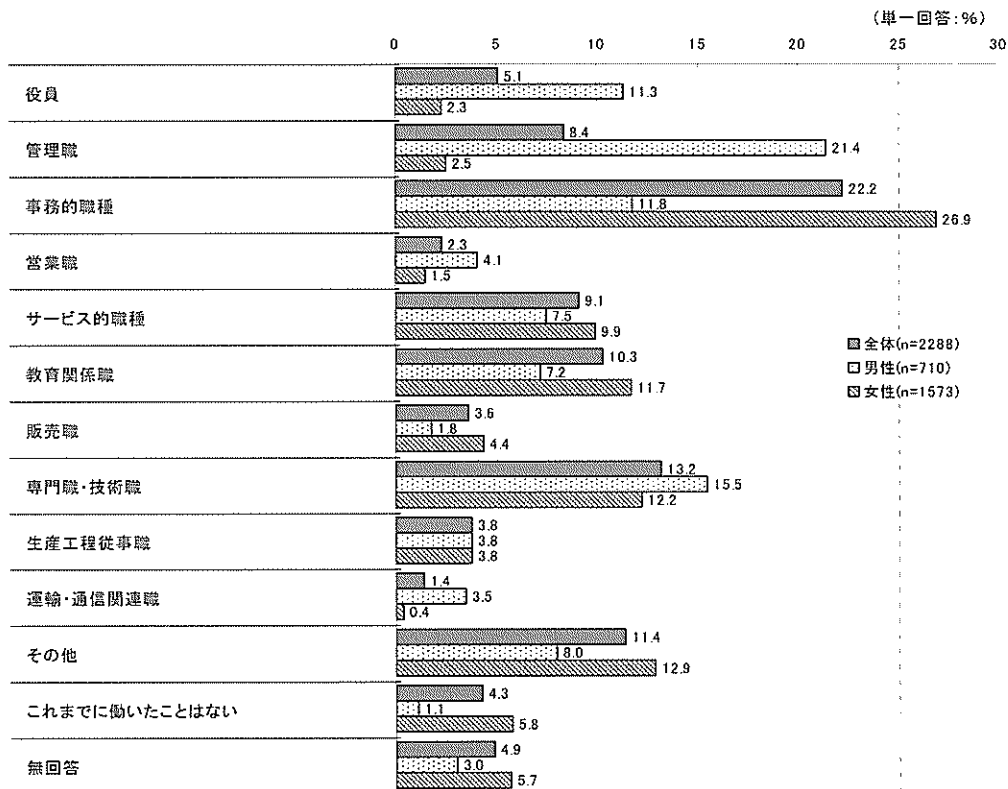
4. 職種

現在の職種（過去に勤務経験のあるボランティアは最後の職種）では、「事務的職種」（22.2%）がもっとも多く、「専門職・技術職」、「教育関係職」が10%台でこれに続いている。以下「サービスの職種」、「管理職」なども比較的多くなっている。「これまでに働いたことはない」としたボランティアは4.3%にとどまり、学生を除くとボランティアの多くは現在の就業者、および過去に就業経験をもつ。

〈性別〉

性別にみた職種は、男性では「管理職」の21.4%がもっとも多く、「専門職・技術職」、「事務的職種」、「役員」などの職種が10%以上で多くなっている。一方、女性では「事務的職種」が26.9%でもっとも多く、以下「専門職・技術職」、「教育関係職」、「サービスの職種」が多い。

図表個 1-1-4-①職種〈全体／性別〉



(2) ボランティア活動歴

1. 初めてボランティア活動をしてからの期間

初めてボランティアをしてから、「5～10年未満」が22.5%でもっとも多いが、「20年以上」、「10～15年未満」なども約2割を占めており、全体の半数超（51.4%）が10年以上のボランティア歴をもつ。一方、ボランティア年数が3年未満は13%台にとどまる。

〔参考〕ボランティア年数が「20年以上」は前回調査の13.8%から20.9%に増加し、「5～10年未満」が30.5%から22.5%に減少している。

図表個 1-2-1-①ボランティア活動歴<全体>

		<単一回答: %>							
調査数		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	無回答
全体	2288	4.8	8.8	11.4	22.5	18.3	12.2	20.9	

<性別>

男女ともに「5～10年未満」、「20年以上」が20%以上で多くなっているが、女性ではボランティア歴10年以上が54.3%に及んでいるのに対し、男性ではそれを約10ポイント下回る44.9%となっている。女性のほうがボランティア歴は長い傾向がある。

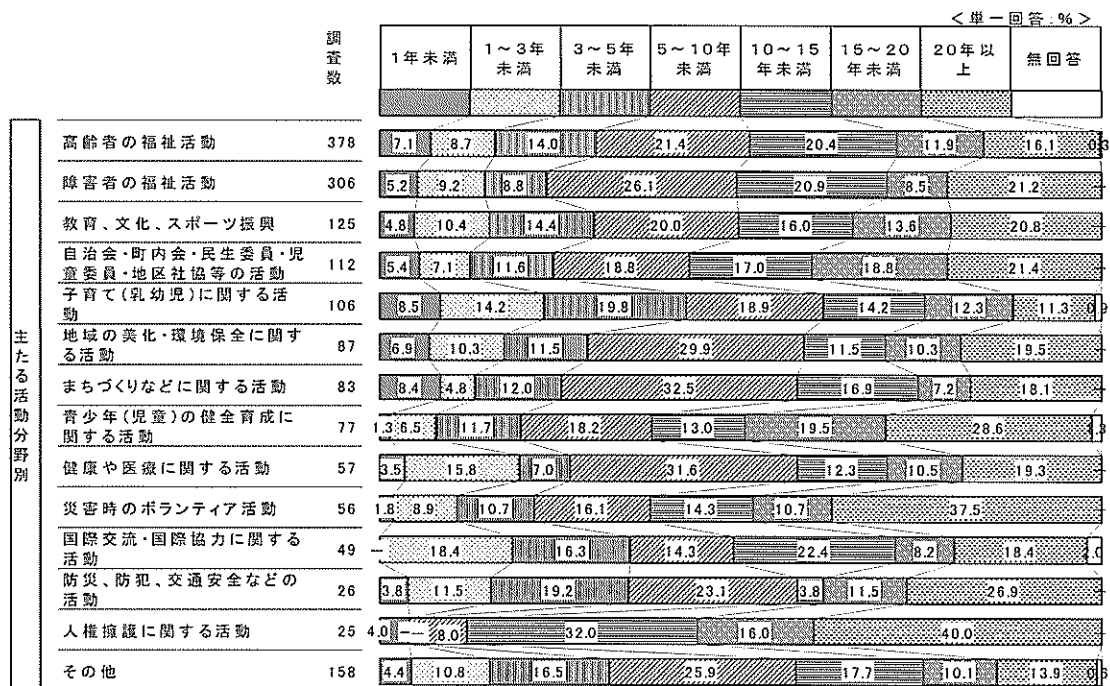
図表個 1-2-1-②ボランティア活動歴<性別>

			<単一回答: %>							
調査数			1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	無回答
性別	男性	710	5.4	10.0	13.9	24.8	15.5	9.7	20.7	
	女性	1573	4.5	8.3	10.3	21.4	19.5	13.8	21.0	

<主たる活動分野別>

主たる活動分野別にボランティア歴が10年以上の長期間に及ぶ割合をみると、人権擁護に関する活動の88.0%を最大に、災害時のボランティア活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動などが6割を超え、これら分野においては長いボランティア歴をもつケースが多い。一方、子育て（乳幼児）に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動、防災、防犯、交通安全などの活動ではボランティア歴5年未満が3割以上を占め、比較的ボランティア歴の短い参加者が多い。

図表個 1-2-1-③ボランティア活動歴(主たる活動分野別)



2. ボランティア活動の現状

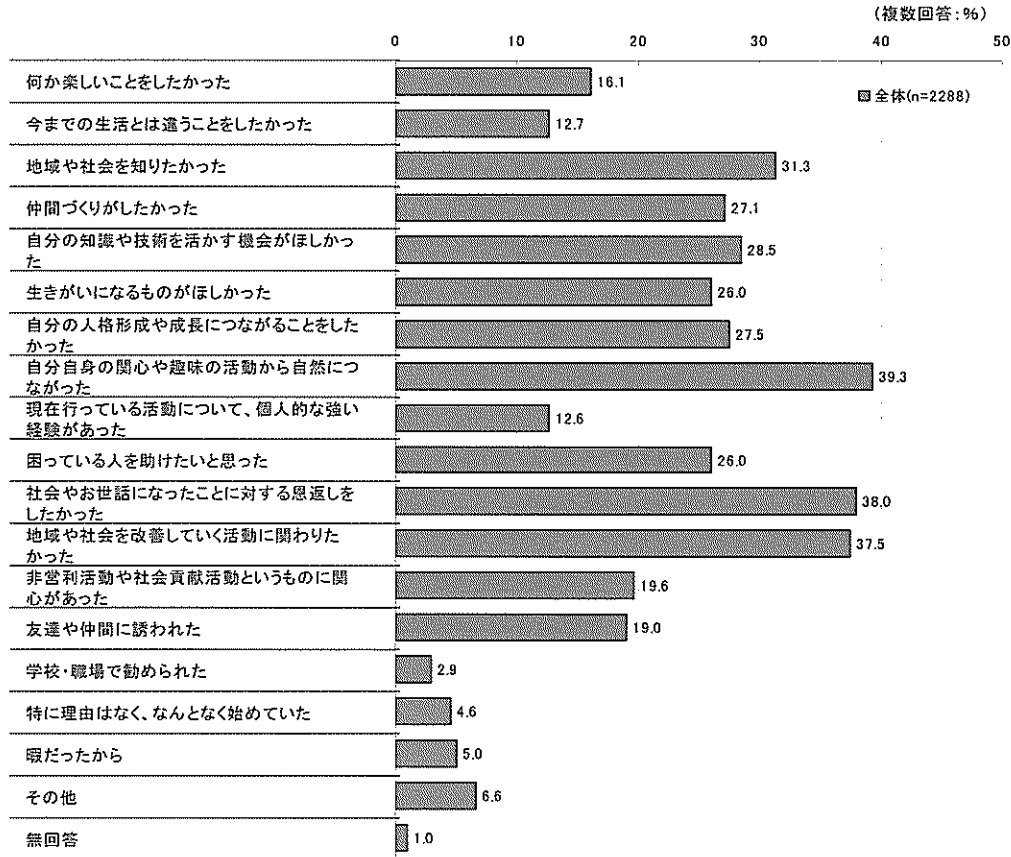
(1) ボランティア活動参加の動機

1. ボランティア活動に参加した理由

活動に参加した動機としてもっとも多くの方があげているのは、「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」(39.3%)であり、個人的興味が背景にある。また、「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」、「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」、「地域や社会を知りたかった」がいずれも3割以上の割合で、動機の上位を占めている。

〔参考〕選択肢の数が異なるものの、前回調査でトップだった「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」は前回調査(40.8%)同様に38.0%と、引き続き高い割合となっている。

図表個 2-1-1-①ボランティア活動参加の動機〈全体〉



<性別>

男性では「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」の42.1%がもっとも多く、ついで「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」、「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」、「自分の知識や技術を活かす機会がほしかった」がそれぞれ3割を超える。一方、女性では「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」が40.9%ともっとも多く、ついで「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」、「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」、「地域や社会を知りたかった」が3割を超える割合で上位にあがっている。

<年齢別>

それぞれの年齢層別における動機をみると、30代以下では「自分の人格形成や成長につながることをしたかった」、40代や50代では「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」、60代以上では「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」がもっとも多い。

図表個 2-1-1-②ボランティア活動参加の動機(性別/年齢別)

(複数回答:96)

	調査数	何か楽しいことをしたかった	今までの生活とは違うことをしたかった	地域や社会を知りたかった	仲間づくりがしたかった	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった	生きがいになるものがほしかった	自分の人格形成や成長につながることをしたかった	自分自身に関心や趣味の活動から自然につながった	個人的な強い経験があった	現在行っている活動について、困っている人を助けたいと思っ	社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった	地域や社会を改善していく活動に関わりたかった	非営利活動や社会貢献活動というものに関心があった	友達や仲間に誘われた	学校・職場で勧められた	特に理由はなく、なんとなく始めていた	暇だったから	その他	無回答	
全体	2288	16.1	12.7	31.3	27.1	28.5	26.0	27.5	39.3	12.6	26.0	38.0	37.5	19.6	19.0	2.9	4.6	5.0	6.6	1.0	
性別	男性	710	17.5	14.1	27.6	25.6	31.4	27.7	23.4	35.8	12.7	29.7	41.0	42.1	23.1	14.6	4.4	5.2	7.2	5.2	1.0
	女性	1573	15.5	12.1	33.0	27.8	27.2	25.2	29.4	40.9	12.7	24.3	36.6	35.4	18.1	21.0	2.3	4.4	4.1	7.2	1.0
年齢別	10代	11	27.3	18.2	-	18.2	9.1	36.4	36.4	36.4	-	36.4	9.1	18.2	9.1	18.2	9.1	-	9.1	27.3	-
	20代	83	44.6	31.3	27.7	33.7	24.1	18.1	50.2	44.6	8.4	33.7	14.5	21.7	18.1	25.3	19.3	10.8	7.2	4.8	-
	30代	102	16.7	17.6	27.5	17.6	20.6	5.9	33.3	28.4	8.8	22.5	19.6	23.5	16.7	19.6	4.9	3.9	4.9	5.9	1.0
	40代	184	23.4	14.7	27.2	26.1	27.7	18.5	30.4	40.2	8.7	22.8	25.0	37.5	15.8	23.9	5.4	3.8	2.2	6.0	-
	50代	404	16.3	11.4	28.0	24.3	30.4	20.0	30.0	45.0	13.6	22.3	28.7	32.9	16.8	17.6	3.2	3.7	5.9	5.7	1.0
	60代	936	13.9	13.1	35.3	28.1	26.6	26.0	26.1	37.6	12.3	25.7	45.8	39.6	20.3	20.1	1.6	5.4	5.9	6.5	1.0
	70代	514	13.2	8.9	31.1	29.2	33.1	37.0	22.6	38.1	14.4	30.2	43.0	42.4	22.2	16.1	1.4	3.5	3.3	7.2	1.6
	80代以上	53	7.5	3.8	20.8	22.6	30.2	41.5	7.5	41.5	22.6	24.5	45.3	39.6	26.4	9.4	-	3.8	5.7	9.4	1.9

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

「自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった」がもっとも多かった分野は、教育、文化、スポーツ振興、国際交流・国際協力に関する活動、子育て(乳幼児)に関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動、障害者の福祉活動などの分野である。「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」ことがもっとも多かった分野は、防災、防犯、交通安全などの活動、健康や医療に関する活動、高齢者の福祉活動などの分野である。また、「地域や社会を改善していく活動に関わりたかった」はまちづくりなどに関する活動、人権擁護に関する活動、自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動などでもっとも多くなっている。

図表個 2-1-1-③ボランティア活動参加の動機(主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	何か楽しいことをしたかった	たかった	今までの生活とは違うことをしたかった	地域や社会を知りたかった	仲間づくりがしたかった	自分の知識や技術を活かす機会がほしかった	た	生きがいになるものがほしかった	自分の人格形成や成長につながることをしたかった	から自然につながった	現在行っている活動について、個人的な強い経験があった	自分自身の関心や趣味の活動から	困っている人を助けたいと思った	社会やお世話になったことに對する恩返しをしたかった	地域や社会を改善していく活動に関わりたかった	非営利活動や社会貢献活動というものに関心があった	友達や仲間と誘われた	学校・職場で勧められた	特に理由はなく、なんとなく始めた	暇だったから	その他	無回答
全体	2288	16.1	12.7	31.3	27.1	28.5	26.0	27.5	39.3	12.6	26.0	34.0	37.5	19.6	19.0	2.9	4.6	5.0	6.6	1.0			
高齢者の福祉活動	378	11.4	11.6	38.9	29.1	23.8	30.7	26.7	30.4	10.8	27.0	45.8	34.4	21.4	20.1	2.1	4.0	7.1	5.0	0.3			
障害者の福祉活動	306	15.4	13.7	27.1	20.6	22.9	25.5	28.4	39.5	8.8	27.8	33.0	27.8	16.0	12.7	0.7	4.6	4.6	5.9	-			
教育、文化、スポーツ振興	125	29.6	12.8	26.4	21.6	38.4	26.4	24.0	56.0	10.4	16.8	28.0	28.8	18.4	15.2	8.0	2.4	5.6	2.4	-			
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	10.7	10.7	45.5	30.4	23.2	14.3	25.9	35.7	13.4	31.3	42.9	55.4	14.3	36.6	0.9	4.5	4.5	6.3	0.9			
子育て(乳幼児)に関する活動	106	23.6	12.3	28.3	25.5	37.7	21.7	32.1	47.2	17.0	24.5	30.2	34.9	10.4	26.4	3.8	0.9	4.7	5.7	-			
地域の美化・環境保全に関する活動	87	19.5	13.8	31.0	26.4	21.8	27.6	23.0	46.0	8.0	19.5	33.3	42.5	20.7	23.0	2.3	4.6	3.4	4.6	1.1			
まちづくりなどに関する活動	83	18.1	7.2	38.6	36.1	31.3	24.1	26.5	43.4	8.4	22.9	25.3	78.3	21.7	15.7	2.4	7.2	6.0	2.4	-			
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	18.2	11.7	24.7	23.4	29.9	26.0	29.9	37.7	11.7	27.3	32.5	41.6	13.0	20.8	10.4	2.6	6.5	5.2	-			
健康や医療に関する活動	57	10.5	19.3	17.5	19.3	28.1	22.8	26.3	29.8	29.8	33.3	47.4	19.3	17.5	12.3	3.5	5.3	8.8	7.0	-			
災害時のボランティア活動	56	5.4	5.4	21.4	21.4	25.0	14.3	19.6	30.4	12.5	28.6	37.5	38.9	28.6	12.5	1.8	10.7	1.8	-	-			
国際交流・国際協力に関する活動	49	24.5	30.6	26.5	24.5	42.9	28.6	30.6	49.0	8.2	36.7	36.7	22.4	18.4	14.3	4.1	6.1	8.2	10.2	-			
防災、防犯、交通安全などの活動	26	11.5	7.7	26.9	30.8	38.5	23.1	15.4	26.9	19.2	38.5	50.0	46.2	23.1	7.7	3.8	7.7	-	7.7	-			
人権擁護に関する活動	25	12.0	4.0	32.0	24.0	44.0	40.0	56.0	56.0	24.0	44.0	28.0	54.0	20.0	20.0	-	8.0	16.0	8.0	-			
その他	158	17.7	17.1	19.6	22.2	32.3	24.7	20.9	39.9	13.3	17.7	38.0	21.5	19.0	16.5	1.9	4.4	4.4	12.7	-			

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

(2) 活動の分野

1. ボランティア活動の分野

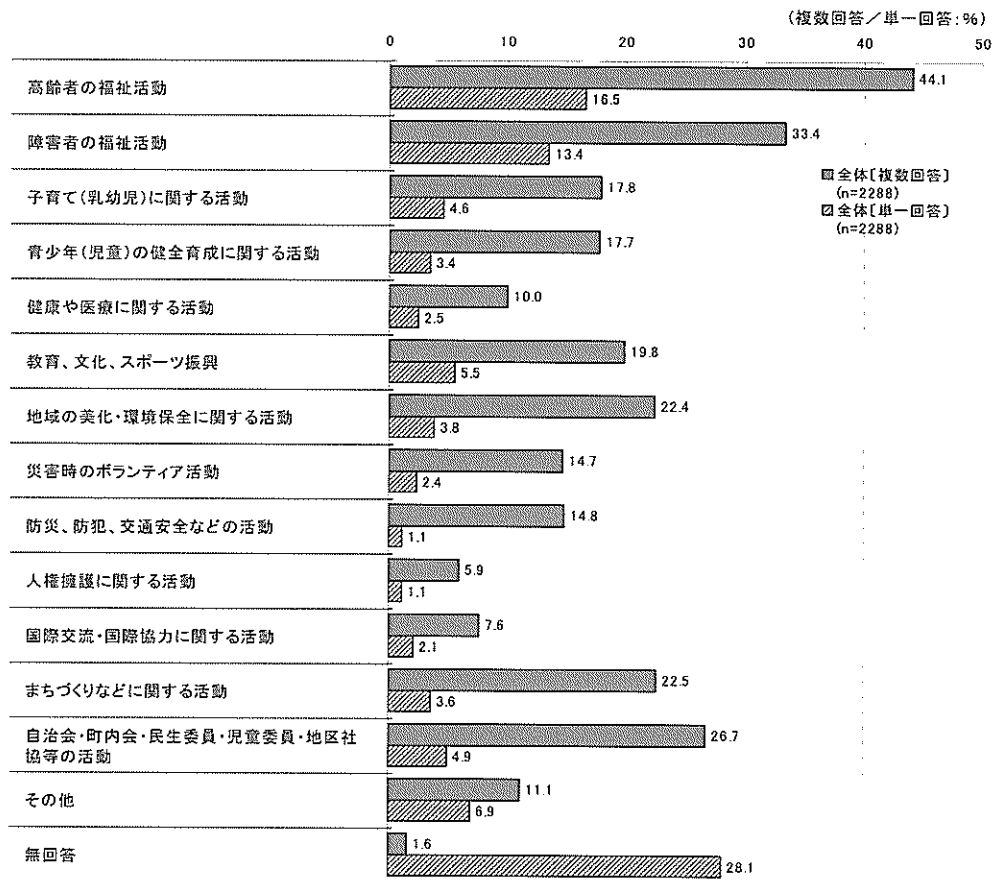
〈全体／複数回答〉

活動の分野でもっとも多かったのは「高齢者の福祉活動」であり、ボランティアの44.1%に及ぶ。ついで「障害者の福祉活動」が33.4%でそれに続く。以下、20%台が「自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動」、「まちづくりなどに関する活動」、「地域の美化・環境保全に関する活動」となっている。一方、「国際交流・国際協力に関する活動」、「人権擁護に関する活動」などの分野は少なく、8%未満となっている。

〈全体／単一回答〉

主な活動として単一回答でたずねた結果においても「高齢者の福祉活動」が16.5%でもっとも多い。「障害者の福祉活動」(13.4%)がそれに続き、複数回答の結果と同順位となっている。単一回答では「教育、文化、スポーツ振興」、「子育て(乳幼児)に関する活動」の順位が上昇している。

図表個 2-2-1-①主なボランティア活動の分野〈複数回答／単一回答〉



〈性別〉

男女ともに「高齢者の福祉活動」が最大の割合となっているが、男性の36.1%に対し、女性では47.7%と、男性の割合を10ポイント以上上回っている。以下、「障害者の福祉活動」、「まちづくりなどに関する活動」、「自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動」などが男女ともにボランティア活動分野の上位にあがっている。「子育て(乳幼児)に関する活動」は女性では23.0%と高いが、男性では6.3%と低い。

〈年齢別〉

「高齢者の福祉活動」、「災害時のボランティア活動」、「自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動」などの分野では、60代以上の比較的高い年齢層の参加率が高くなっている。一方、「国際交流・国際協力に関する活動」、「青少年(児童)の健全育成に関する活動」などの分野では、20代など比較的低い年齢層の参加率が高くなっている。

図表個 2-2-1-②主なボランティア活動の分野(性別/年齢別)

(複数回答:96)

	調査数	高齢者の福祉活動	障害者の福祉活動	子育て(乳幼児)に関する活動	青少年(児童)の健全育成に関する活動	健康や医療に関する活動	教育、文化、スポーツ振興	地域の美化・環境保全に関する活動	災害時のボランティア活動	防災、防犯、交通安全などの活動	人権擁護に関する活動	国際交流・国際協力に関する活動	まちづくりなどに関する活動	児童委員・地区社協等の活動	自治会・町内会・民生委員・その他	無回答	
全体	2288	44.1	33.4	17.8	17.7	10.0	19.8	22.4	14.7	14.8	5.9	7.6	22.5	26.7	11.1	1.6	
性別	男性	710	36.1	29.2	6.3	18.2	8.5	24.4	27.7	18.5	19.0	3.8	7.7	27.3	28.6	12.3	1.3
	女性	1573	47.7	35.3	23.0	17.5	10.7	17.8	20.0	13.1	13.0	6.9	7.5	20.3	25.8	10.6	1.7
年齢別	10代	11	54.5	36.4	9.1	36.4	-	18.2	27.3	9.1	18.2	9.1	46.3	27.3	18.2	9.1	-
	20代	83	18.1	33.7	10.8	26.5	8.4	28.9	22.9	14.5	1.2	3.6	21.7	20.5	1.2	9.6	-
	30代	102	15.7	27.5	25.3	13.7	6.9	13.7	14.7	9.8	7.8	2.0	4.9	18.6	7.8	9.8	2.9
	40代	184	22.3	33.2	25.5	19.6	8.2	28.1	20.7	12.5	8.7	3.8	5.4	22.8	19.6	10.3	1.1
	50代	404	30.7	37.6	20.8	15.8	10.4	23.3	17.6	13.9	11.6	4.7	7.7	18.6	24.3	12.1	1.0
	60代	936	52.7	34.6	17.8	17.5	9.1	16.3	22.0	14.4	16.9	6.7	6.1	20.1	30.4	11.2	1.7
	70代	514	56.0	29.2	13.4	18.1	13.4	20.6	27.2	17.3	19.6	8.0	8.2	30.5	42.1	10.5	1.9
	80代以上	53	49.1	32.1	5.7	13.2	3.8	15.1	35.8	20.8	11.3	-	11.3	26.4	30.2	17.0	1.9

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈活動時間別〉

1か月の活動時間が50時間以上のボランティアでは、多くの分野で割合がもっとも高くなっており、複数分野にまたがる活動をするケースが多いことを示す。

図表個 2-2-1-③主なボランティア活動の分野〈活動時間別〉

(複数回答:96)

	調査数	高齢者の福祉活動	障害者の福祉活動	子育て(乳幼児)に関する活動	青少年(児童)の健全育成に関する活動	健康や医療に関する活動	教育、文化、スポーツ振興	地域の美化・環境保全に関する活動	災害時のボランティア活動	防災、防犯、交通安全などの活動	人権擁護に関する活動	国際交流・国際協力に関する活動	まちづくりなどに関する活動	児童委員・地区社協等の活動	自治会・町内会・民生委員・その他	無回答	
全体	2288	44.1	33.4	17.8	17.7	10.0	19.8	22.4	14.7	14.8	5.9	7.6	22.5	26.7	11.1	1.6	
活動時間別	5時間未満	515	37.5	22.7	15.3	12.8	5.4	15.9	16.9	12.2	11.3	1.7	5.4	12.6	20.4	10.3	2.5
	5～10時間未満	598	44.8	31.8	13.4	13.9	8.9	16.9	20.7	13.2	14.2	3.7	7.2	18.7	23.9	10.2	1.5
	10～20時間未満	520	45.8	38.7	21.2	18.7	10.4	20.2	24.0	13.8	12.7	7.1	8.3	24.6	29.4	9.4	0.8
	20～30時間未満	230	45.2	38.3	18.7	16.5	10.4	24.8	27.0	13.9	10.4	6.5	5.7	27.0	29.1	15.2	0.9
	30～40時間未満	138	58.0	41.3	23.2	24.6	18.1	23.2	29.7	22.5	24.6	10.9	8.7	31.2	34.1	14.5	0.7
	40～50時間未満	97	46.4	47.4	20.6	27.8	17.5	29.9	21.6	16.5	26.8	7.2	14.4	33.0	36.1	12.4	1.0
	50時間以上	155	44.5	38.1	24.5	34.8	15.5	25.2	30.3	25.2	27.7	18.7	11.6	41.9	36.1	12.9	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈活動エリア別〉

小・中学校区などの範囲における活動や市町村全域を範囲とした活動では、「高齢者の福祉活動」が半数前後でもっとも多い。これに対して、在宅での活動が中心のボランティアでは、「障害者の福祉活動」が46.4%ともっとも多い。

図表個 2-2-1-④主なボランティア活動の分野〈活動エリア別〉

(複数回答:96)

	調査数	高齢者の福祉活動	障害者の福祉活動	子育て(乳幼児)に関する活動	青少年(児童)の健全育成に関する活動	健康や医療に関する活動	教育、文化、スポーツ振興	地域の美化・環境保全に関する活動	災害時のボランティア活動	防災、防犯、交通安全などの活動	人権擁護に関する活動	国際交流・国際協力に関する活動	まちづくりなどに関する活動	児童委員・地区社協等の活動	自治会・町内会・民生委員・その他	無回答	
全体	2288	44.1	33.4	17.8	17.7	10.0	19.8	22.4	14.7	14.8	5.9	7.6	22.5	26.7	11.1	1.6	
活動エリア別	小・中学校区などの範囲における活動	334	53.9	22.5	23.1	26.0	5.1	21.6	24.0	12.6	21.0	6.6	5.1	25.7	39.2	6.9	-
	市町村全域を範囲とした活動	1302	47.0	36.9	19.4	15.9	10.1	18.7	22.6	13.4	13.5	5.8	6.8	22.4	25.5	10.6	0.9
	市町村域を超えた活動	235	27.2	29.8	13.6	23.4	14.5	28.1	22.1	21.3	16.6	13.6	16.6	23.4	21.7	14.5	0.4
	在宅での活動が中心	56	35.7	46.4	5.4	7.1	12.5	14.3	14.3	7.1	3.6	-	3.6	23.2	30.4	10.7	1.8
	エリアは特に定まらない	293	36.5	33.8	13.0	16.7	11.3	19.1	23.2	20.8	15.7	2.4	8.9	21.2	24.9	16.0	3.8

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

(3) 活動の内容

1. 行っている具体的な活動

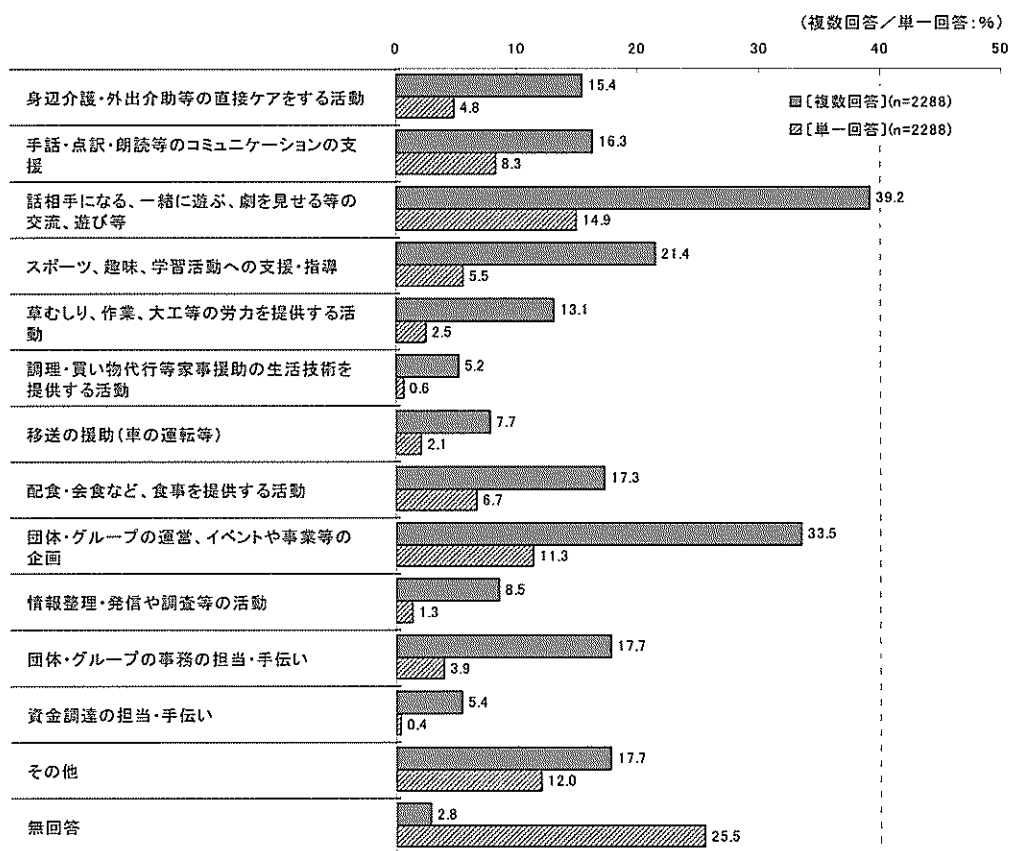
<全体／複数回答>

現在行っている具体的なボランティア活動として、もっとも多くあがっているのは「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」の活動で39.2%を占める。ついで33.5%のボランティアが「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」を行っている。以下、「スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導」、「団体・グループの事務の担当・手伝い」などの活動がそれぞれ2割前後で続き、実施活動の上位にあがっている。

<全体／単一回答>

主な実施活動を単一回答でみた結果でも、「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」(14.9%)と「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」(11.3%)の上位2項目の順位に変化はない。ただし、主な実施活動では「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」や「配食・会食など、食事を提供する活動」などの活動が上位5項目に順位が浮上している。

図表個 2-3-1-①行っている主な具体的な活動<全体／複数回答／単一回答>



<性別>

男性では「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」の40.6%をトップに、「スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導」、「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」の活動が上位3項目となっている。これに対して、女性では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」が46.2%で、以下「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」や「配食・会食など、食事を提供する活動」、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」と続く。

<年齢別>

「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」は年齢層をあまり問わず実施される傾向がみられる。一方、「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」は40代以前の比較的若いボランティアでの実施率が高くなっている。また、「配食・会食など、食事を提供する活動」は60代以降の年齢層の高いボランティアが若い層よりもやや多い傾向となっている。

図表個 2-3-1-②行っている主な具体的な活動(性別/年齢別)

(複数回答:%)

		調査数	身辺介護・外出介助等の直接ケアをする活動	手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援	話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等	スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導	草むしり、作業、大工等の力を提供する活動	調理・買い物代行等家事援助の生活技術を提供する活動	移送の援助(車の運転等)	配食・会食など、食事を提供する活動	団体・グループの運営、イベントや事業等の企画	情報整理・発信や調査等の活動	団体・グループの事務の担当・手伝い	資金調達の担当・手伝い	その他	無回答
全体		2288	15.4	16.3	39.2	21.4	13.1	5.2	7.7	17.3	33.5	8.5	17.7	5.4	17.7	2.8
性別	男性	710	13.1	7.7	23.8	30.3	18.6	2.7	15.8	8.9	40.6	12.7	20.7	6.8	20.1	2.1
	女性	1573	16.5	20.2	46.2	17.5	10.6	6.2	4.1	21.0	30.3	6.6	16.5	4.8	16.5	3.0
年齢別	10代	11	36.4	9.1	63.6	27.3	18.2	-	-	9.1	45.5	18.2	18.2	9.1	9.1	-
	20代	83	12.0	4.8	39.8	26.5	8.4	3.6	1.2	2.4	42.2	12.0	27.7	7.2	10.8	-
	30代	102	6.9	16.7	35.3	16.7	4.9	2.0	3.9	3.9	37.3	14.7	28.4	5.9	14.7	3.9
	40代	184	9.8	17.9	39.1	20.7	9.8	1.6	3.3	7.6	37.0	10.9	22.3	3.3	16.8	2.7
	50代	404	12.6	25.2	32.2	22.0	9.4	4.7	5.0	10.4	32.9	10.4	20.3	6.9	16.3	2.5
	60代	936	19.1	15.2	42.3	19.9	15.3	5.2	10.4	20.0	32.4	7.3	14.6	5.2	17.8	2.6
	70代	514	14.6	13.2	40.5	23.2	15.0	7.6	8.6	25.3	32.9	6.2	15.4	5.1	20.6	3.3
	80代以上	53	15.1	11.3	24.5	26.3	17.0	5.7	9.4	28.3	28.3	7.5	24.5	3.8	17.0	5.7

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈活動時間別〉

1か月のボランティア活動時間が30時間未満では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」がもっとも多くを占めている。これに対し、30時間以上の活動では「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」の割合が高くなっている。

〈活動エリア別〉

小・中学校区などの範囲における活動や市町村全域を範囲とした活動では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」、市町村域を超えた活動では「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」、在宅での活動が中心では「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」がそれぞれの活動の中で、実施割合がもっとも多い。

図表個 2-3-1-③行っている主な具体的な活動〈活動時間別／活動エリア別〉

(複数回答:96)

	調査数	活動時間別														その他	無回答
		ケアをする活動	身辺介護・外出介助等の直接	手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援	話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等	話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等	スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導	草むしり、作業、大工等の力を提供する活動	調理・買い物代行等家事援助の生活技術を提供する活動	移送の援助(車の運転等)	配食・会食など、食事を提供する活動	団体・グループの運営、イベントや事業等の企画	情報整理・発信や調査等の活動	団体・グループの事務の担当・手伝い	資金調達の担当・手伝い		
全体	2288	15.4	16.3	39.2	21.4	13.1	5.2	7.7	17.3	33.5	8.5	17.7	5.4	17.7	2.8		
活動時間別	5時間未満	515	11.5	10.5	36.3	14.4	10.9	3.1	3.7	17.5	21.0	3.3	12.4	2.7	17.3	4.5	
	5～10時間未満	598	13.4	16.6	38.0	18.1	14.0	4.5	8.9	16.6	26.9	5.4	13.0	3.0	16.9	2.8	
	10～20時間未満	520	17.7	18.1	41.9	22.7	12.5	7.1	7.9	19.4	35.2	9.2	17.9	4.4	17.9	1.3	
	20～30時間未満	230	14.8	21.3	43.0	25.7	12.2	3.5	7.8	14.8	38.6	14.3	23.5	8.3	20.4	1.7	
	30～40時間未満	138	22.5	15.2	37.0	27.5	20.3	6.5	15.2	19.6	57.2	13.0	25.4	9.4	18.8	-	
	40～50時間未満	97	19.6	28.9	39.2	38.1	15.5	4.1	7.2	13.4	41.2	11.3	26.8	10.3	16.5	2.1	
	50時間以上	155	22.6	17.4	40.0	31.6	13.5	10.3	11.6	16.1	61.9	20.6	34.8	16.1	18.7	1.3	
	活動エリア別	小・中学校区などの範囲における活動	334	16.5	14.4	47.9	23.4	14.4	4.2	6.6	24.3	33.8	7.8	18.0	6.0	17.1	2.4
市町村全域を範囲とした活動		1302	16.6	18.3	40.3	20.3	13.1	6.2	8.4	18.7	31.4	7.5	16.1	4.4	17.6	1.5	
市町村域を超えた活動		235	8.1	12.3	29.4	28.9	10.6	3.0	6.0	3.4	52.3	19.1	29.8	13.2	20.4	2.1	
在宅での活動が中心		56	16.1	39.3	21.4	8.9	8.9	5.4	3.6	26.8	23.2	1.8	14.3	3.6	10.7	5.4	
エリアは特に定まっていない		293	15.4	10.9	37.2	22.9	13.7	4.1	9.2	13.7	35.8	8.2	18.1	4.8	18.4	5.1	

白抜き文字は最大値 網掛け部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

子育て（乳幼児）に関する活動、高齢者の福祉活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動では「話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等」の実施割合がもっとも高く、障害者の福祉活動では「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」、人権擁護に関する活動、まちづくりなどに関する活動、国際交流・国際協力に関する活動などでは「団体・グループの運営、イベントや事業等の企画」の割合がそれぞれもっとも多い。

図表個 2-3-1-④行っている主な具体的な活動〈主たる活動分野別〉

(複数回答.96)

	調査数	身辺介護・外出介助等の直接ケアをする活動	手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援	劇を見せる等の交流、遊び等	話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び等	スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導	草むしり、作業、大工等の労力を提供する活動	調理・買い物代行等家事援助の生活技術を提供する活動	移送の援助（車の運転等）	配食・会食など、食事を提供する活動	団体・グループの運営、イベントや事業等の企画	情報整理・発信や調査等の活動	団体・グループの事務の担当・手伝い	資金調達を担当・手伝い	その他	無回答
全体	2288	15.4	16.3	39.2	21.4	13.1	5.2	7.7	17.3	33.5	8.5	17.7	5.4	17.7	2.8	
高齢者の福祉活動	378	28.3	7.1	56.6	11.4	14.8	9.3	15.1	29.6	19.6	2.6	9.0	2.6	9.8	0.3	
障害者の福祉活動	306	24.2	59.5	32.4	14.4	6.2	3.3	6.5	7.8	21.9	4.9	14.4	4.2	11.4	-	
教育、文化、スポーツ振興	125	5.6	14.4	30.4	57.6	6.4	2.4	1.6	4.0	33.6	9.6	14.4	0.8	14.4	2.4	
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	6.3	5.4	45.5	18.8	13.4	7.1	5.4	40.2	42.0	8.0	24.1	-	10.7	3.6	
子育て(乳幼児)に関する活動	106	10.4	13.2	71.7	17.0	4.7	5.7	3.8	14.2	27.4	8.5	15.1	3.8	16.0	1.9	
地域の美化・環境保全に関する活動	87	3.4	2.3	19.5	18.4	50.6	1.1	3.4	8.0	42.5	18.4	27.6	8.0	20.7	1.1	
まちづくりなどに関する活動	83	1.2	7.2	30.1	25.3	9.6	2.4	8.4	15.7	68.7	26.5	34.9	8.4	14.5	1.2	
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	6.5	16.9	51.9	45.5	10.4	3.9	2.6	9.1	50.6	3.9	22.1	3.9	15.6	-	
健康や医療に関する活動	57	10.5	3.5	22.8	15.8	3.5	7.0	3.5	12.3	22.8	8.8	19.3	3.5	42.1	-	
災害時のボランティア活動	56	12.5	3.6	14.3	14.3	10.7	-	10.7	12.5	42.9	10.7	19.6	19.6	25.8	3.6	
国際交流・国際協力に関する活動	49	4.1	4.1	10.2	24.5	2.0	-	2.0	-	51.0	8.2	34.7	10.2	30.6	4.1	
防災、防犯、交通安全などの活動	26	19.2	15.4	15.4	15.4	19.2	7.7	7.7	15.4	42.3	11.5	30.8	7.7	23.1	-	
人権擁護に関する活動	25	-	16.0	44.0	8.0	-	-	-	8.0	80.0	32.0	44.0	28.0	20.0	-	
その他	158	3.8	3.8	22.2	13.3	7.0	1.9	2.5	13.9	26.6	7.0	13.3	6.3	50.0	5.1	

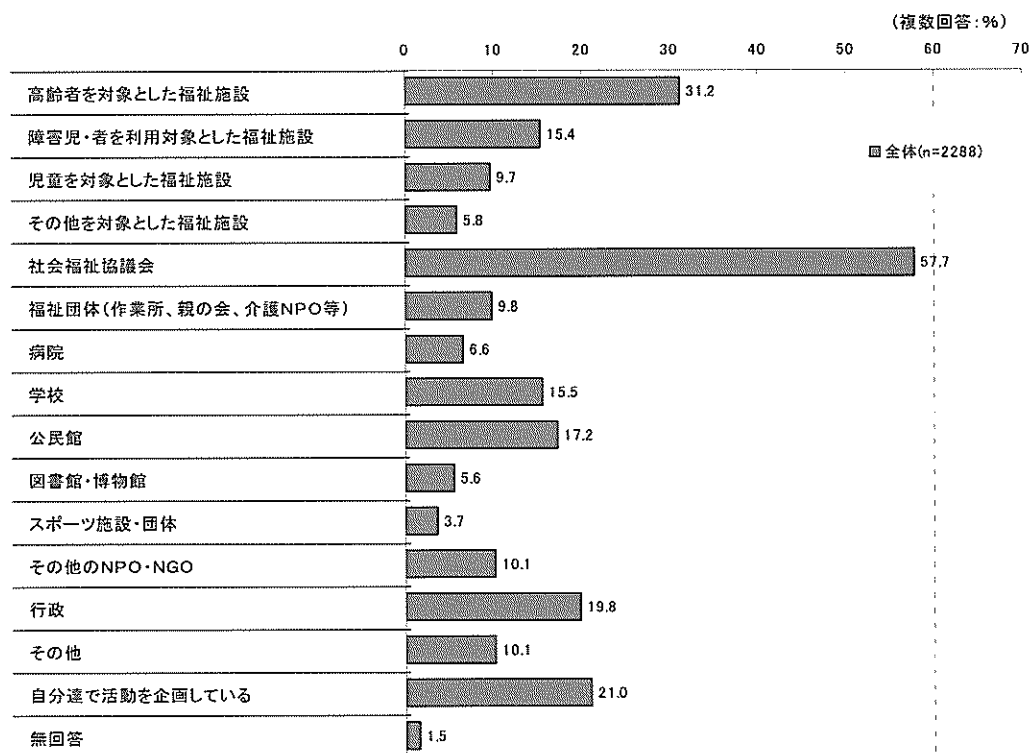
白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

(4) 参加プログラムの実施主体

1. 参加プログラムの実施施設や機関

参加しているボランティア活動のプログラムを実施している施設や機関は「社会福祉協議会」が57.7%で過半数を占めている。ついで「高齢者を対象とした福祉施設」が31.2%が多いが、「社会福祉協議会」とは26.5ポイントの大きな差が開いている。以下、「行政」、「公民館」、「学校」、「障害児・者を利用対象とした福祉施設」などが参加プログラムの主体として10%台であがっている。一方、「自分達で活動を企画している」とした自主企画運営型活動は2割強を占める。

図表個 2-4-1-①参加プログラムの実施施設や機関<全体>



〈性別〉

男女ともに「社会福祉協議会」が50%を超えて最大割合となっている。上位の施設や機関は基本的には変わらないものの、男性では「その他のNPO・NGO」が、女性では「学校」がそれぞれ上位5項目に入っている。

〈年齢別〉

20代を中心に若い年齢層では高齢層などに比べると、「その他のNPO・NGO」などの割合が相対的に高く、60代以上の高い年齢層では「高齢者を対象とした福祉施設」や「社会福祉協議会」の割合が高くなっている。

図表個 2-4-1-②参加プログラムの実施施設や機関(性別/年齢別)

(複数回答:%)

	調査数	福祉施設 高齢者を対象とした福 祉施設	障害児・者を利用対 象とした福祉施設	児童を 対象とし た福祉 施設	その他を 対象とし た福祉 施設	社会福祉協議会	福祉団体(作業所、親 の会、介護NPO等)	病院	学校	公民館	図書館・ 博物館	スポーツ施設・団体	その他の NPO・NG O	行政	その他	自分達 で活動 を企画 してい る	無回答	
全体	2288	31.2	15.4	9.7	5.8	57.7	9.8	6.6	15.5	17.2	5.6	3.7	10.1	19.8	10.1	21.0	1.5	
性別	男性	710	26.6	15.6	9.2	5.8	51.8	10.3	5.9	13.9	16.3	3.4	7.6	16.2	21.0	13.1	19.3	1.4
	女性	1573	35.1	15.3	10.0	5.8	60.3	9.6	6.9	16.1	17.7	6.7	1.9	7.3	19.3	8.7	21.7	1.5
年齢別	10代	11	36.4	18.2	9.1	-	36.4	-	18.2	9.1	9.1	-	-	-	9.1	9.1	18.2	-
	20代	83	10.8	8.4	12.0	3.6	21.7	8.4	2.4	19.3	3.6	2.4	4.8	21.7	9.6	15.7	22.9	3.6
	30代	102	12.7	8.8	14.7	3.9	23.4	8.8	2.9	8.8	8.8	5.9	3.9	15.7	15.7	13.7	25.5	2.0
	40代	184	12.0	10.3	7.6	3.8	42.9	10.3	2.7	17.4	9.8	8.7	3.8	16.8	17.4	17.4	21.2	1.6
	50代	404	18.6	14.6	9.4	2.0	49.5	13.1	7.2	15.8	15.8	7.2	3.2	10.6	20.5	12.9	21.8	1.5
	60代	936	35.6	17.2	9.7	6.1	64.3	9.0	6.4	15.9	18.4	4.8	3.4	8.3	22.6	8.1	19.7	1.0
	70代	514	46.1	16.7	10.1	9.1	68.3	9.5	8.8	14.8	21.8	5.4	3.5	8.2	17.7	7.8	21.2	2.1
	80代以上	53	58.8	17.0	1.9	9.4	71.7	3.8	5.7	11.3	26.4	3.8	11.3	3.8	18.9	3.8	24.5	-

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

ほとんどの分野で「社会福祉協議会」の割合が高いが、高齢者の福祉活動では「高齢者を対象とした福祉施設」、障害者の福祉活動では「障害児・者を利用対象とした福祉施設」、青少年(児童)の健全育成に関する活動では「児童を対象とした福祉施設」、健康や医療に関する活動では「病院」など、直接関連する施設や機関のプログラム実施が多くみられる。

図表個 2-4-1-③参加プログラムの実施施設や機関(主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	高年齢者を対象とした福祉施設	障害児・者を利用対象とした福祉施設	児童を対象とした福祉施設	その他を対象とした福祉施設	社会福祉協議会	福祉団体(作業所、親の会、介護NPO等)	病院	学校	公民館	図書館・博物館	スポーツ施設・団体	その他のNPO・NGO	行政	その他	自分達で活動を企画している	無回答	
全体	2288	31.2	15.4	9.7	5.8	57.7	9.8	6.6	15.5	17.2	5.6	3.7	10.1	19.8	10.1	21.0	1.5	
主たる活動分野別	高齢者の福祉活動	378	56.1	16.4	5.8	7.4	71.4	7.9	5.6	9.5	11.6	2.1	1.6	4.8	11.6	4.0	12.2	0.8
	障害者の福祉活動	306	13.7	31.4	5.2	3.6	72.2	18.3	2.3	11.8	9.2	6.9	2.0	8.2	12.1	6.9	18.3	0.3
	教育、文化、スポーツ振興	125	28.0	6.4	9.6	6.4	39.2	8.8	5.6	28.8	23.2	21.6	11.2	10.4	18.4	11.2	16.8	0.8
	自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	41.4	13.4	12.5	6.3	79.5	5.4	2.7	20.5	32.1	2.7	2.7	4.5	38.4	8.9	17.9	0.9
	子育て(乳幼児)に関する活動	106	12.3	13.2	31.1	7.5	47.2	7.5	4.7	17.0	18.9	17.9	2.8	8.5	21.7	2.8	28.3	2.8
	地域の美化・環境保全に関する活動	87	19.5	6.9	6.9	6.9	43.7	5.7	1.1	12.6	14.9	2.3	5.7	23.0	20.7	16.1	32.2	1.1
	まちづくりなどに関する活動	83	22.9	12.0	6.0	3.6	41.0	4.8	2.4	10.8	18.1	2.4	6.0	25.3	32.5	7.2	37.3	-
	青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	22.1	18.2	36.4	6.5	46.8	7.8	6.5	44.2	23.4	10.4	2.6	7.8	27.3	11.7	28.6	1.3
	健康や医療に関する活動	57	28.1	5.3	3.5	8.8	33.3	7.0	52.6	8.8	10.5	3.5	1.8	7.0	14.0	19.3	8.8	-
	災害時のボランティア活動	56	23.2	5.4	7.1	3.6	44.6	3.6	5.4	12.5	14.3	-	5.4	8.9	19.6	33.9	19.6	1.8
	国際交流・国際協力に関する活動	49	2.0	2.0	2.0	-	20.4	2.0	-	10.2	8.2	4.1	-	28.5	22.4	14.3	40.8	4.1
	防災、防犯、交通安全などの活動	26	11.5	-	7.7	3.8	61.5	3.8	-	15.4	7.7	7.7	3.8	7.7	30.8	15.4	19.2	-
	人権擁護に関する活動	25	20.0	12.0	8.0	4.0	28.0	24.0	8.0	16.0	20.0	-	-	24.0	32.0	16.0	36.0	4.0
	その他	158	24.7	9.5	5.7	5.1	43.0	3.8	8.9	12.7	17.1	1.9	3.2	12.0	14.6	15.2	29.1	1.3

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

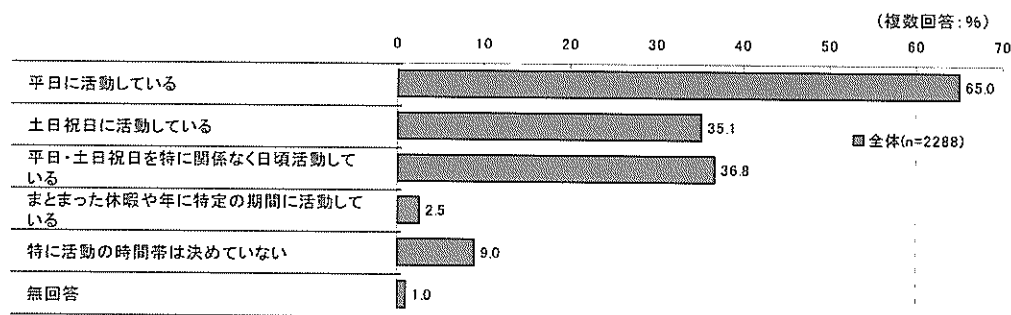
(5) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

ボランティア活動を行う曜日のパターンとしては「平日に活動している」ボランティアが最も多く、65.0%となっている。ついで「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」と「土日祝日に活動している」がそれぞれ36%前後となっている。「特に活動の時間帯は決めていない」とする不定期型ボランティア参加者は1割弱にとどまる。

〔参考〕前回調査との比較では「平日に活動している」と「土日祝日に活動している」ボランティアの割合が大幅に上昇している。

図表個 2-5-1-①ボランティア活動の曜日パターン〈全体〉



<性別>

男性の「平日に活動している」とした割合は53.7%であり、女性の70.2%を16.5ポイント下回る。一方男性では「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」や「土日祝日に活動している」が女性の割合を上回っている。

<年齢別>

30代以下のボランティアでは「土日祝日に活動している」がもっとも多いのに対し、40代以上では「平日に活動している」とした割合が最大になっている。「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」ボランティアも40代以上に多くなっている。

図表個 2-5-1-②ボランティア活動の曜日パターン〈性別／年齢別〉

(複数回答:96)

	調査数	平日に活動している	土日祝日に活動している	特に関係なく平日・土日祝日に活動している	活動している年・特定の期間に	まとまった休暇や	は決めていない	特に活動の時間帯	無回答
全体	2288	65.0	35.1	36.8	2.5	9.0	1.0		
性別	男性	710	53.7	38.9	42.5	2.5	10.8	1.1	
	女性	1573	70.2	33.2	34.2	2.5	8.3	1.0	
年齢別	10代	11	45.5	63.8	18.2	18.2	9.1	-	
	20代	83	37.3	53.0	15.7	14.5	12.0	1.2	
	30代	102	36.3	40.2	18.6	2.9	16.7	2.0	
	40代	184	54.9	40.8	25.0	2.2	14.1	0.5	
	50代	404	58.2	37.1	30.7	2.0	11.4	1.2	
	60代	936	70.9	32.3	39.6	2.1	6.7	0.5	
	70代	514	74.7	33.5	48.2	1.6	7.4	1.8	
	80代以上	53	71.7	22.6	36.8	1.9	11.3	-	

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈職業別〉

企業（被雇用者）や公務員などの就業者では「土日祝日に活動している」がもっとも多くなっている。また、学生も「土日祝日に活動している」が最大割合となっている。これに対し、主婦・主夫、定年退職後の方など非就業者、および自営業では「平日に活動している」としたボランティアの割合がそれぞれもっとも多い。

図表個 2-5-1-③ボランティア活動の曜日パターン〈職業別〉

(複数回答:%)

	調査数	平日に活動している	土日祝日に活動している	平日・土日祝日に活動している関係なく日頃活動している	年に特定の期間に活動している	まとまった休日は決めていない	特に活動の時間帯	無回答
全体	2288	65.0	35.1	36.8	2.5	9.0	1.0	
職業別								
企業(被雇用者)	140	46.4	56.4	21.4	2.9	12.1	1.4	
公務員	67	32.8	53.7	23.9	9.0	13.4	-	
団体職員	148	43.2	43.9	25.7	5.4	17.6	0.7	
NPO・NGO職員	81	39.5	43.2	34.6	6.2	19.8	1.2	
自営業	185	62.2	33.0	37.3	3.2	12.4	0.5	
主婦・主夫	815	74.8	26.7	37.8	1.1	6.4	1.2	
定年退職後の方	515	71.3	34.0	48.2	1.7	7.2	0.4	
学生	38	36.8	60.5	15.8	18.4	7.9	2.6	
仕事には就いていない	116	67.2	25.0	35.3	0.9	6.9	2.6	
その他	172	65.7	43.6	32.6	1.7	9.3	0.6	

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

「平日に活動している」としたボランティアの割合は、健康や医療に関する活動、高齢者の福祉活動、子育て（乳幼児）に関する活動などの分野で高くなっている。また、「平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している」と「土日祝日に活動している」は、人権擁護に関する活動、防災、防犯、交通安全などの活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動などの分野で他の分野よりも高い割合を示す傾向がみられる。

図表個 2-5-1-④ボランティア活動の曜日パターン〈主たる活動分野別〉

(複数回答:%)

	調査数	平日に活動している	土・祝日に活動している	活動している関係なく平日・土日祝日を活動している	年に特定の間をまとめた休暇や活動している期間に	は決めていない	特に活動の時間帯	無回答
全体	2288	65.0	35.1	36.8	2.5	9.0	1.0	
高齢者の福祉活動	378	78.0	25.4	32.0	1.9	6.3	0.5	
障害者の福祉活動	306	65.7	32.0	37.4	0.7	5.6	0.3	
教育、文化、スポーツ振興	125	50.4	36.8	26.4	4.0	14.4	1.6	
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	64.3	21.4	46.4	0.9	8.9	0.9	
子育て(乳幼児)に関する活動	106	74.5	34.9	24.5	1.9	7.5	-	
主たる活動分野別								
地域の美化・環境保全に関する活動	87	42.5	42.5	39.1	6.9	9.2	2.3	
まちづくりなどに関する活動	83	48.2	34.9	37.3	3.6	14.5	1.2	
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	67.5	55.8	44.2	6.5	6.5	1.3	
健康や医療に関する活動	57	80.7	21.1	28.1	1.8	8.8	-	
災害時のボランティア活動	56	41.1	44.6	39.3	1.8	23.2	-	
国際交流・国際協力に関する活動	49	55.1	40.8	24.5	8.2	12.2	-	
防災、防犯、交通安全などの活動	26	53.8	42.3	53.8	3.8	19.2	-	
人権擁護に関する活動	25	64.0	56.0	56.0	4.0	4.0	-	
その他	158	60.8	32.9	36.7	0.6	12.0	0.6	

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

(6) 活動時間帯

1. 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

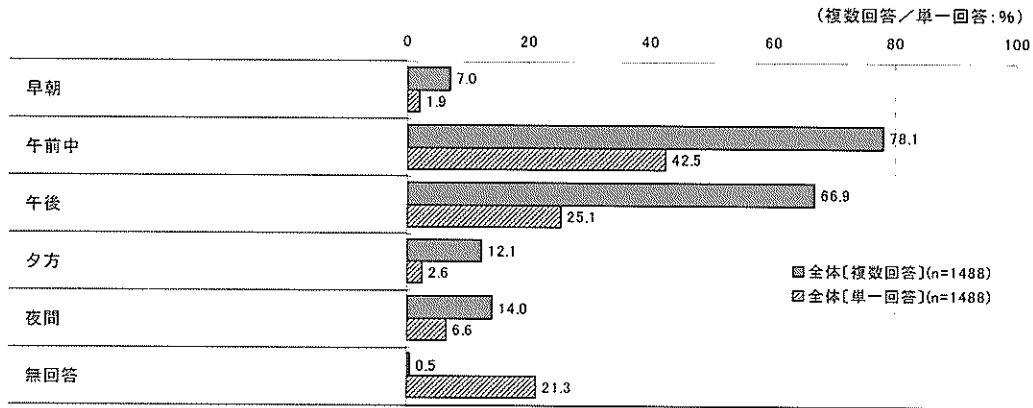
〈全体／複数回答〉

平日に活動をしているボランティアの活動時間帯は「午前中」と「午後」が多く、それぞれ78.1%、66.9%となっている。この時間帯の集中度に比べると「早朝」、「夕方」、「夜間」に活動するボランティアの割合は大きく低下する。

〈全体／単一回答〉

主な時間帯を1つだけ選択した結果は「午前中」が42.5%、「午後」が25.1%で、ボランティアの活動時間帯はこのいずれかに集中している。それ以外の時間帯は合わせても1割程度に過ぎない。

図表個 2-6-1-①平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



<職業別>

いずれの職業でも「午前中」と「午後」に集中していることに変わりはないが、主婦・主夫、仕事には就いていない、定年退職後の方など非就業者では「午前中」に8割超が活動し、同時に「午後」にも7割超が活動している。「夜間」に活動するボランティアは企業（被雇用者）など就業者、「夕方」は学生にやや多くなっている。

図表個 2-6-1-②平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈職業別〉

		(複数回答 %)						
	調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答	
全体〔複数回答〕		1488	7.0	78.1	66.9	12.1	14.0	0.5
職業別	企業〔被雇用者〕	65	6.2	47.7	32.3	12.3	40.0	3.1
	公務員	22	13.6	45.5	54.5	18.2	36.4	-
	団体職員	64	4.7	64.1	51.6	18.8	35.9	-
	NPO・NGO職員	32	9.4	65.6	65.6	21.9	31.3	-
	自営業	115	7.8	69.6	59.1	19.1	21.7	1.7
	主婦・主夫	610	4.9	84.1	71.8	7.2	7.7	0.5
	定年退職後の方	367	7.9	81.2	72.2	12.3	9.0	-
	学生	14	14.3	57.1	57.1	50.0	14.3	-
	仕事には就いていない	78	5.1	83.3	71.8	10.3	11.5	-
	その他	113	14.2	77.9	61.1	20.4	23.0	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

ボランティアの活動時間帯は「午前中」と「午後」に分野を問わず集中していることに変わりはないが、「早朝」は防災、防犯、交通安全などの活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動などで2割を超え、他の分野よりも多くなっている。また、「夜間」は人権擁護に関する活動、防災、防犯、交通安全などの活動、まちづくりなどに関する活動などの分野のボランティア活動が多くなっている。

図表個 2-6-1-③平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈主たる活動分野別〉

(複数回答:%)

	調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体〔複数回答〕	1488	7.0	78.1	66.9	12.1	14.0	0.5
高齢者の福祉活動	295	4.7	83.1	72.2	9.5	4.7	-
障害者の福祉活動	201	3.5	70.6	63.2	7.0	21.9	0.5
教育、文化、スポーツ振興	63	6.3	56.7	68.3	17.5	17.5	1.6
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	72	4.2	84.7	69.4	16.7	11.1	-
子育て(乳幼児)に関する活動	79	2.5	96.2	58.2	8.9	11.4	-
地域の美化・環境保全に関する活動	37	24.3	70.3	59.5	18.9	10.8	2.7
まちづくりなどに関する活動	40	5.0	77.5	67.5	17.5	40.0	-
青少年(児童)の健全育成に関する活動	52	25.0	63.5	61.5	19.2	21.2	1.9
健康や医療に関する活動	46	6.5	89.1	65.2	4.3	4.3	-
災害時のボランティア活動	23	17.4	56.5	60.9	4.3	21.7	-
国際交流・国際協力に関する活動	27	3.7	63.0	48.1	14.8	33.3	-
防災、防犯、交通安全などの活動	14	28.6	71.4	71.4	35.7	42.9	-
人権擁護に関する活動	16	12.5	75.0	68.8	43.8	50.0	-
その他	96	5.2	77.1	66.7	13.5	5.2	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

2. 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

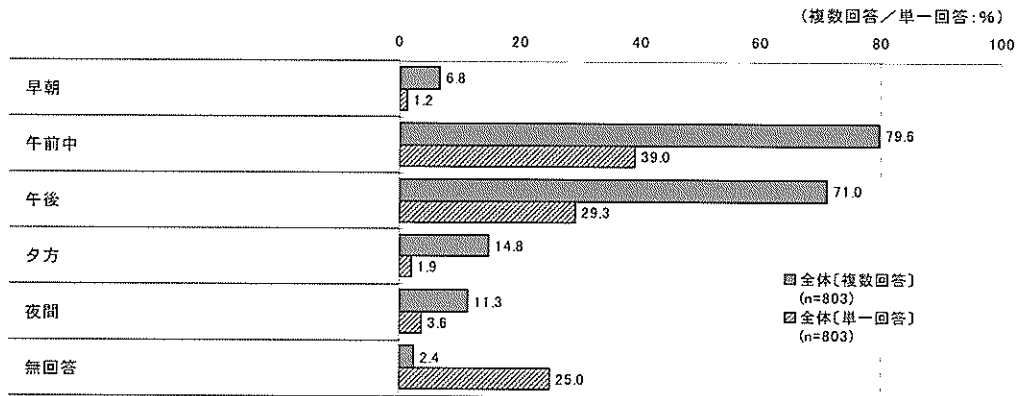
〈全体／複数回答〉

休日に活動をしているボランティアの活動時間帯は、「午前中」と「午後」がそれぞれ約7割～8割弱となっている。この時間帯以外では「夕方」、「夜間」が1割台、「早朝」は1割未満の活動率となっている。

〈全体／単一回答〉

主な時間帯を1つだけ選択した結果は「午前中」が39.0%、「午後」が29.3%となっている。それ以外の時間帯は合わせても1割に満たず、平日の割合をさらに下回る。

図表個 2-6-2-①休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



〈職業別〉

活動時間帯は職業を問わず「午前中」と「午後」に集中し、それ以外の時間帯の活動ボランティアは少数であることに変わりはないが、団体職員は「早朝」、学生や公務員では「夕方」、自営業では「夜間」が、他の職業に比べるとやや多くなっている。

図表個 2-6-2-②休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈職業別〉

		(複数回答:%)						
		調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体〔複数回答〕		803	6.8	79.6	71.0	14.8	11.3	2.4
職業別	企業(被雇用者)	79	3.8	81.0	70.9	15.2	15.2	6.3
	公務員	36	2.8	83.3	66.7	25.0	11.1	5.6
	団体職員	65	18.5	81.5	66.2	20.0	12.3	4.6
	NPO・NGO職員	35	2.9	82.9	74.3	17.1	11.4	2.9
	自営業	61	8.2	85.2	70.5	21.3	18.0	4.9
	主婦・主夫	218	3.7	78.0	67.9	7.3	8.3	0.5
	定年退職後の方	175	6.3	73.7	77.1	13.1	9.7	1.7
	学生	23	4.3	91.3	73.9	26.1	-	-
	仕事には就いていない	29	6.9	93.1	65.5	6.9	6.9	-
	その他	75	14.7	76.0	72.0	24.0	20.0	1.3

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

活動時間帯はほとんどの分野で「午前中」あるいは「午後」が最大割合になっている。時間帯別に特徴をみると、「早朝」は地域の美化・環境保全に関する活動、防災、防犯、交通安全などの活動、健康や医療に関する活動などの分野、「夕方」、「夜間」は防災、防犯、交通安全などの活動、人権擁護に関する活動、まちづくりなどに関する活動などの分野の割合が高い傾向がある。

図表個 2-6-2-③休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈主たる活動分野別〉

(複数回答:%)

	調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体(複数回答)	803	6.8	79.6	71.0	14.8	11.3	2.4
高齢者の福祉活動	96	4.2	80.2	66.7	6.3	4.2	2.1
障害者の福祉活動	98	7.1	79.0	80.6	22.4	17.3	-
教育、文化、スポーツ振興	46	4.3	76.1	80.4	13.0	13.0	2.2
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	24	8.3	79.2	58.3	16.7	12.5	-
子育て(乳幼児)に関する活動	37	8.1	81.1	73.0	5.4	13.5	-
主たる活動分野別 地域の美化・環境保全に関する活動	37	18.9	78.4	59.5	24.3	5.4	8.1
まちづくりなどに関する活動	29	3.4	59.0	82.8	20.7	20.7	3.4
青少年(児童)の健全育成に関する活動	43	2.3	81.4	65.1	16.3	7.0	7.0
健康や医療に関する活動	12	16.7	83.3	83.3	8.3	8.3	8.3
災害時のボランティア活動	25	8.0	88.0	80.0	12.0	4.0	-
国際交流・国際協力に関する活動	20	10.0	80.0	90.0	15.0	5.0	-
防災、防犯、交通安全などの活動	11	18.2	90.9	54.5	36.4	36.4	-
人権擁護に関する活動	14	-	54.3	85.7	28.6	21.4	-
その他	52	1.9	75.0	82.7	15.4	7.7	1.9

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

3. 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯

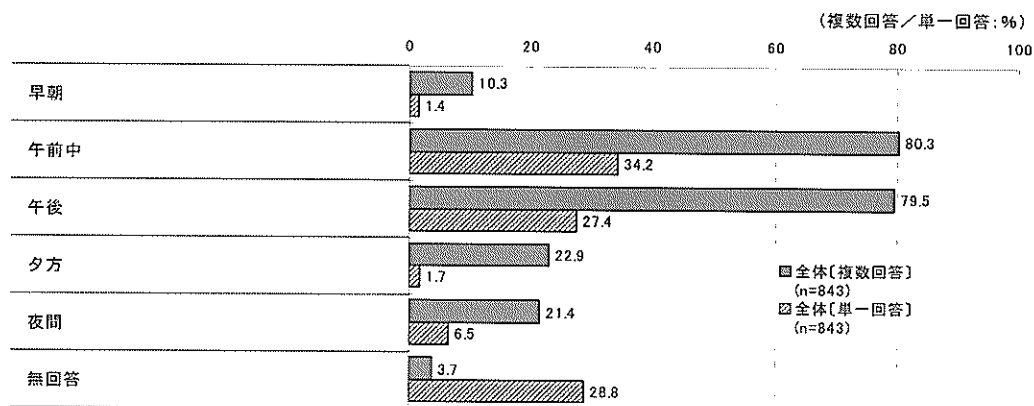
〈全体／複数回答〉

平日・土日祝日に関係なく日頃活動しているボランティアの活動時間帯は「午前中」と「午後」が8割前後でほぼ同率になっている。「午前中」の割合は平日、休日に活動する団体・グループとほとんど変わらないが、「午後」の割合は3パターンの中ではもっとも高くなっている。

〈全体／単一回答〉

主な時間帯を1つだけ選択した結果は「午前中」が34.2%、「午後」が27.4%であり、「午前中」の割合が高い傾向は、3パターンのいずれにも共通している。「早朝」、「夕方」、「夜間」に活動するボランティアの割合はこのケースでも少数である。

図表個 2-6-3-①曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



〈主たる活動分野別〉

ほとんどの分野で「午前中」あるいは「午後」が最大割合になっている状況は平日、休日に活動する団体・グループの傾向と同様であるが、人権擁護に関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動などでは「早朝」、人権擁護に関する活動、まちづくりなどに関する活動などの分野では「夕方」、「夜間」のボランティア活動が他の分野よりも多くなっている。

図表個 2-6-3-②曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯(主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	早朝	午前中	午後	夕方	夜間	無回答
全体(複数回答)	843	10.3	80.3	79.5	22.9	21.4	3.7
高齢者の福祉活動	121	6.6	82.6	77.7	14.9	8.3	1.7
障害者の福祉活動	114	4.4	77.2	86.0	22.8	31.6	5.3
教育、文化、スポーツ振興	33	6.1	84.8	87.9	21.2	18.2	3.0
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	52	13.5	82.7	82.7	32.7	21.2	1.9
子育て(乳幼児)に関する活動	26	7.7	84.6	84.6	26.9	26.9	-
主たる活動分野別							
地域の美化・環境保全に関する活動	34	23.5	70.6	76.5	11.8	17.6	2.9
まちづくりなどに関する活動	31	12.9	90.3	80.6	41.9	48.4	3.2
青少年(児童)の健全育成に関する活動	34	14.7	67.6	73.5	17.6	5.9	5.9
健康や医療に関する活動	16	12.5	91.3	93.8	18.8	12.5	6.3
災害時のボランティア活動	22	22.7	72.7	95.5	36.4	27.3	-
国際交流・国際協力に関する活動	12	16.7	83.3	83.3	25.0	8.3	8.3
防災、防犯、交通安全などの活動	14	14.3	78.6	64.3	21.4	21.4	14.3
人権擁護に関する活動	14	28.6	85.7	100.0	71.4	71.4	-
その他	58	6.9	81.0	81.0	19.0	17.2	5.2

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

(7) 活動の頻度

1. 1か月のボランティア活動時間

1か月のボランティア活動時間は「5～10時間未満」がもっとも多く、ボランティアの4人に1人(26.1%)に及んでいる。ついで「10～20時間未満」と「5時間未満」がほぼ同率の22%台で並ぶ。合わせるとボランティアの7割超は20時間未満の活動となっている。

〔参考〕前回調査では10時間未満は合わせると32.3%であったが、今回調査では48.6%に及んでいる。一方、20時間以上は約10ポイント減少し、短時間のボランティア参加者が増加している。

図表個 2-7-1-① 1か月のボランティア活動時間(全体)

		＜単一回答：％＞							
調査数		5時間未満	5～10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体	2288	22.5	26.1	22.7	10.1	6.0	4.2	6.8	4.1

＜性別＞

女性では月に「5時間未満」の活動が24.3%を占めているが、男性では18.6%と女性を約6ポイント下回る。男性では20時間以上が多く、ボランティア活動は女性に比べると長時間に及ぶ傾向がある。特に男性の「50時間以上」の長時間参加者は約1割を占め、女性の2倍近い割合となっている。

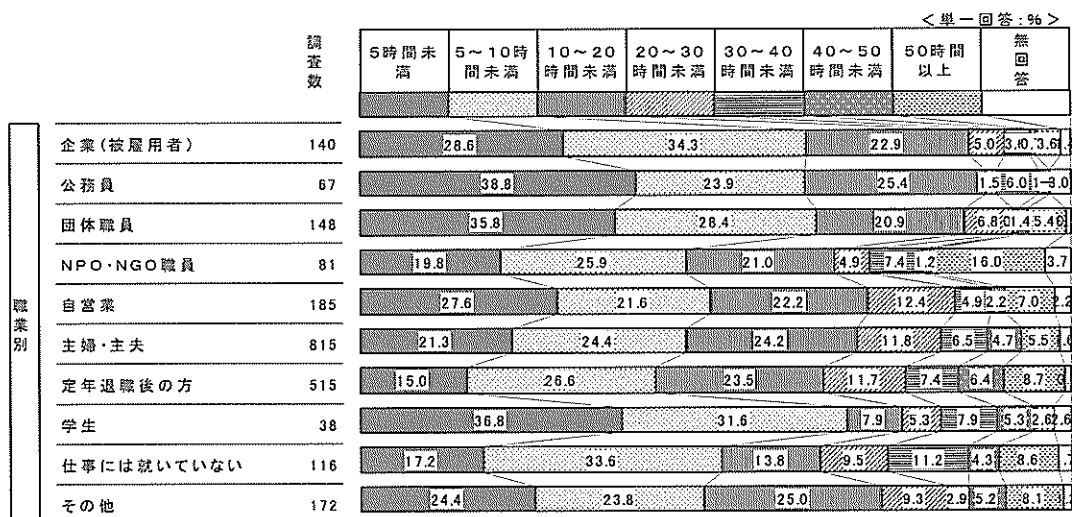
図表個 2-7-1② 1か月のボランティア活動時間(性別)

			＜単一回答：％＞							
調査数			5時間未満	5～10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
性別	男性	710	18.6	25.1	22.4	10.8	7.9	4.8	9.6	0.8
	女性	1573	24.3	26.5	22.9	9.7	5.2	4.0	5.5	3.8

＜職業別＞

職業別には公務員、団体職員では「5時間未満」が多くなっている。学生では10時間未満が68.4%に達する。また、団体職員、企業（被雇用者）、公務員なども6割以上が10時間未満のボランティア活動であり、就業者ではNPO・NGO職員を除き全体に短時間となっている。これに対し、定年退職後の方、主婦・主夫、仕事には就いていない非就業者の活動は「5時間未満」の割合が低く、30時間以上の長時間の割合が高まる傾向がある。

図表個 2-7-1-③ 1か月のボランティア活動時間(職業別)

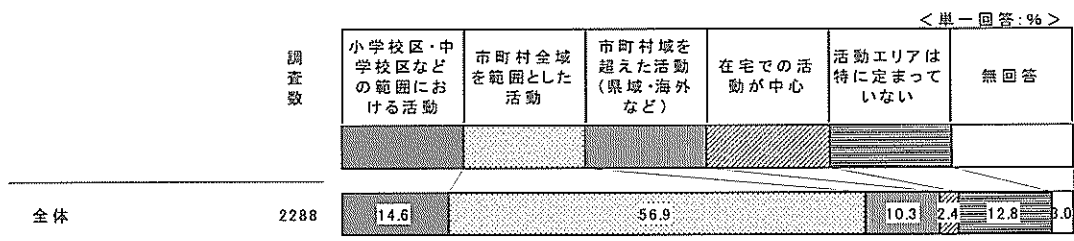


(8) 活動のエリア

1. ボランティア活動を行っているエリア

活動の範囲については、56.9%が「市町村全域を範囲とした活動」としている。「小学校区・中学校区などの範囲における活動」(14.6%)、「在宅での活動が中心」(2.4%)を合わせると、7割以上が市町村を超えない範囲で活動しており、「市町村域を超えた活動(県域・海外など)」の広域での活動は1割程度にとどまる。

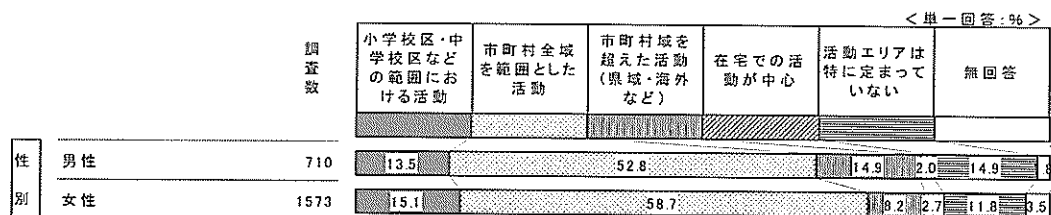
図表個 2-8-1-① ボランティア活動を行っているエリア(全体)



<性別>

「在宅での活動が中心」を含めた男性の市町村内活動は 68.3%であり、女性の 76.5%を約 8 ポイント下回る。男性では「市町村域を超えた活動（県域・海外など）」が 14.9%と、女性に比べて広域での活動がやや多くなっている。

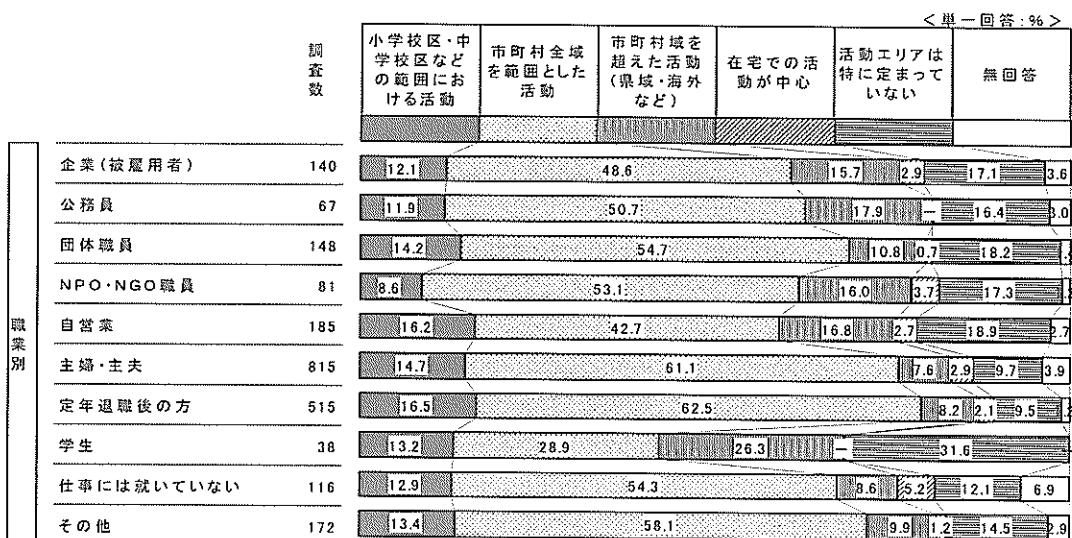
図表個 2-8-1-②ボランティア活動を行っているエリア<性別>



<職業別>

学生を除くといずれの職業でも「市町村全域を範囲とした活動」がもっとも多いことには変わりはない。学生では「市町村域を超えた活動（県域・海外など）」と「活動エリアは特に定まっていない」とする割合を合わせると 57.9%を占め、広域での活動が突出して多くなっている。また、「市町村域を超えた活動（県域・海外など）」は、学生のほか、公務員、自営業、NPO・NGO職員、企業（被雇用者）などの就業者にやや多くなっている。

図表個 2-8-1-③ボランティア活動を行っているエリア<職業別>



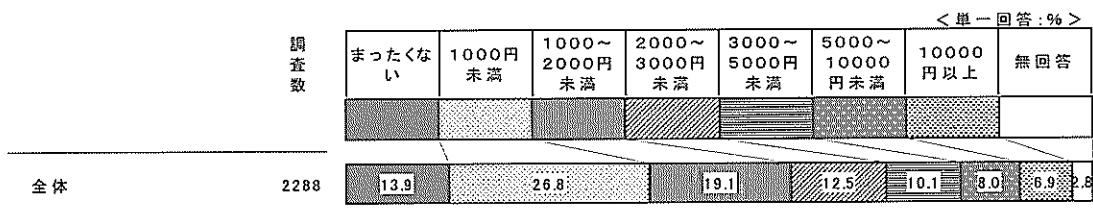
(9) 活動経費

1. 日頃の活動に要する支出金額

ボランティア活動にともなう1か月間の支出について、約4割のボランティアが1,000円未満(0円を含む)としている。一方、活動に3,000円以上支出しているボランティアも4人に1人(25.0%)を占めている。

[参考] 前回調査では「0円」と「1,000円未満」を合わせて24.3%であったが、今回は40.7%に増加し、1,000円以上支出の占める割合が増加している。(注：前回調査は無答率が高い)

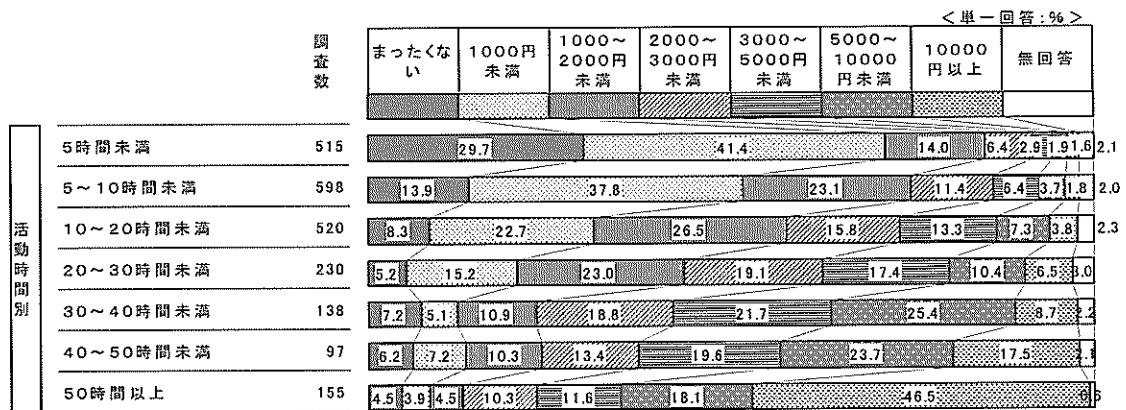
図表個 2-9-1-①日頃の活動に要する支出金額<全体>



<活動時間別>

1か月の活動時間が5時間未満のボランティアでは7割超が月間支出1,000円未満となっている。活動時間の増大とともに支出は増えており、50時間以上のボランティアでは1,000円未満の割合が1割未満にとどまり、「10,000円以上」が半数近くを占める。

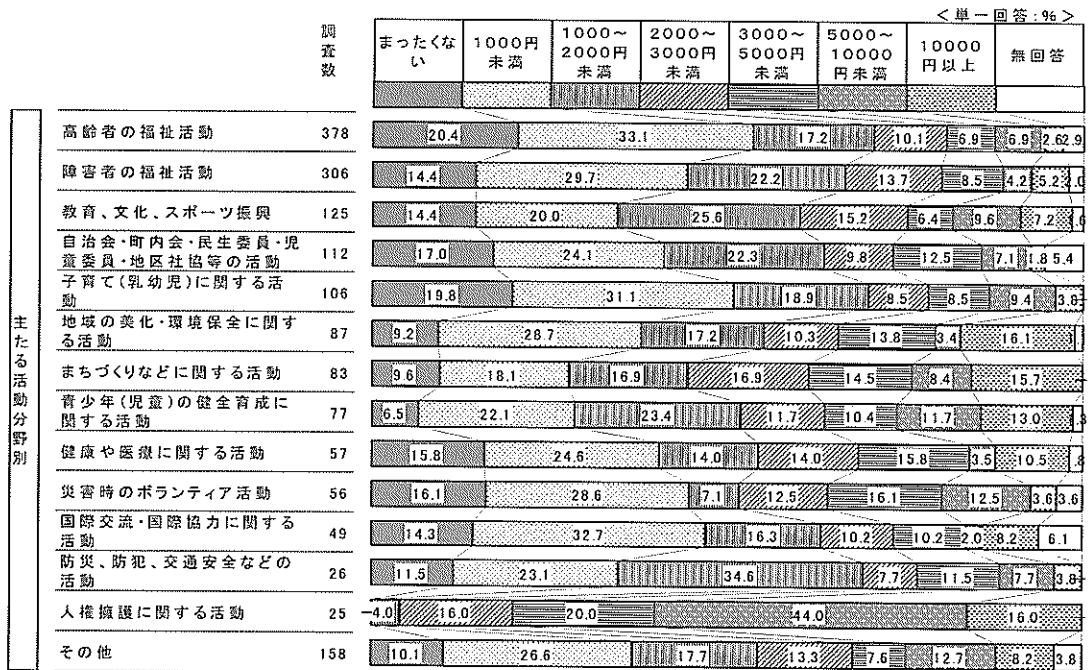
図表個 2-9-1-②日頃の活動に要する支出金額<活動時間別>



<主たる活動分野別>

高齢者の福祉活動、子育て（乳幼児）に関する活動、国際交流・国際協力に関する活動などの分野では、月間支出 1,000 円未満が半数前後占め、小額支出のボランティアが多くなっている。これに対し、青少年（児童）の健全育成に関する活動、まちづくりなどに関する活動の分野では、月間 5,000 円以上の支出が 24% 台に及び、他の分野に比べると支出額が大きいボランティアが多くなっている。

図表個 2-9-1-③日頃の活動に要する支出金額<主たる活動分野別>

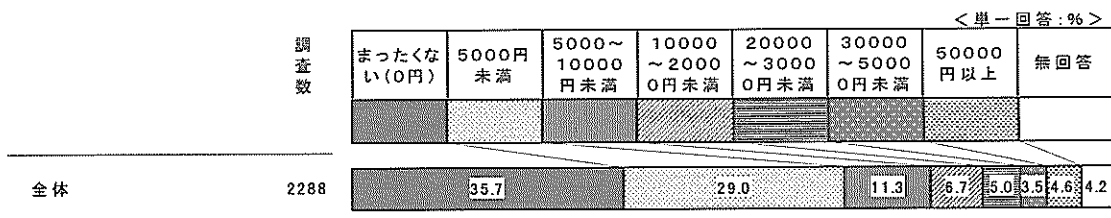


2. まとまった大きな支出金額

研修や制服、備品などの購入のために支出した年間費用が「まったくない（0円）」としたボランティアは35.7%であり、およそ6割のボランティアでは一定以上の支出がある。ただ、支出額は年間に0円を含めて「5,000円未満」が約3分の2を占め、10,000円以上のまとまった大きな支出があるボランティアは19.8%となっている。

〔参考〕前回調査では10,000円以上の割合が35.4%であったが、今回は19.8%にとどまっている。（注：前回調査は無答率が高い）

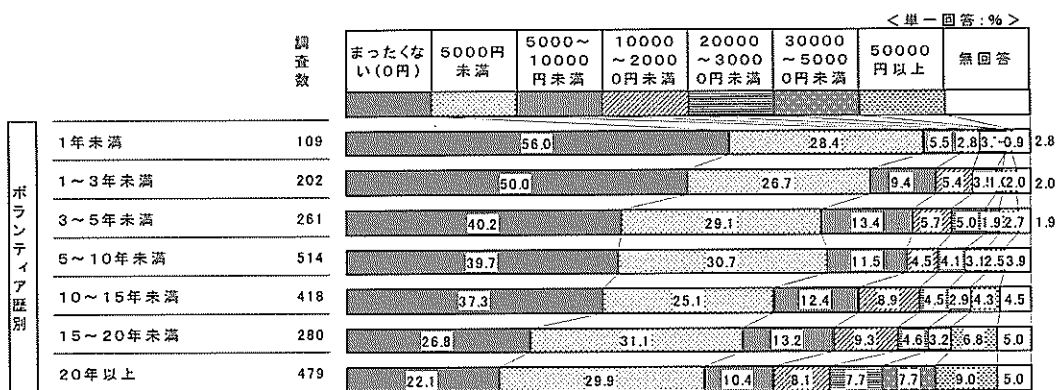
図表個 2-9-2-①まとまった大きな支出金額〈全体〉



〈ボランティア歴別〉

ボランティア年数別にみた年間のまとまった支出は、年数が増大するほど大きくなる傾向が顕著となっている。ボランティア歴5年未満では「まったくない（0円）」と「5,000円未満」を合わせると84.4%を占めているが、20年以上では52.0%にその割合は低下し、30,000円以上が16.7%となっている。

図表個 2-9-2-②まとまった大きな支出金額〈ボランティア歴別〉



〈活動手当別〉

「交通費、食事、材料費など個人負担」のボランティアでも、まとまった支出が「まったくない(0円)」とする割合は36.7%にとどまり、約6割はなんらかの支出をしている。うち約2割のボランティアが、年間に10,000円以上の支出をしている。

図表個 2-9-2-③まとまった大きな支出金額(活動手当別)

		〈単一回答: %〉										
調査数		まったくない(0円)	5000円未満	5000~10000円未満	10000~20000円未満	20000~30000円未満	30000~50000円未満	50000円以上	無回答			
活動手当支給別	交通費、食事、材料費など個人負担	1470	36.7		29.2		11.4	6.3	5.2	3.3	4.7	3.4
	交通費などの実費が手当てされる	399	36.1		28.6		11.8	6.8	5.5	4.8	4.3	2.3
	回数や時間に応じた費用を手当てされる	184	34.8		31.5		12.0	10.3	3.3	3.3	3.4	4.6
	その他	186	32.3		29.0		10.2	7.0	4.8	4.3	6.5	5.9

3. ボランティア活動に対する手当

ボランティア活動に対する手当は「交通費、食事、材料費など個人負担」としたボランティアは64.2%で、約3人に2人を占める。手当が支給されるケースでも「交通費、食事、材料費などの実費が手当てされる」(17.4%)とする実費支給が多く、「活動量・回数や活動時間に応じた活動費用を手当てされる」ボランティアは1割に満たない。

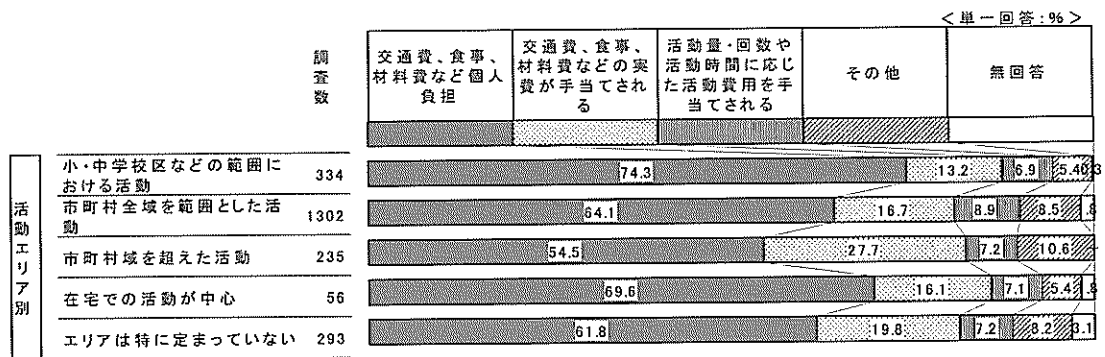
図表個 2-9-3-①ボランティア活動に対する手当(全体)

		〈単一回答: %〉				
調査数		交通費、食事、材料費など個人負担	交通費、食事、材料費などの実費が手当てされる	活動量・回数や活動時間に応じた活動費用を手当てされる	その他	無回答
全体	2288	64.2		17.4	8.0	8.1

〈活動エリア別〉

活動エリア別には小・中学校区などの範囲における活動では「交通費、食事、材料費など個人負担」とした割合が74.3%を占め、実費などが支給されたり、活動に応じた手当が支給されるケースは少ない。手当が支給されるボランティアの割合は、市町村全域を範囲とした活動、市町村域を超えた活動と、活動範囲が拡大するにつれて増加するが、市町村域を超えた活動においても半数超は「交通費、食事、材料費など個人負担」となっている。

図表個 2-9-3-②ボランティア活動に対する手当〈活動エリア別〉



〈主たる活動分野別〉

「交通費、食事、材料費など個人負担」とした主たる活動分野別の割合をみると、まちづくりなどに関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動、障害者の福祉活動、高齢者の福祉活動などのボランティアに多く、いずれも7割前後に及んでいる。これに対し、子育て（乳幼児）に関する活動、自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動などの「交通費、食事、材料費など個人負担」割合は相対的に低く、実費が支給されたり、活動に応じた手当が支給されるケースが他の分野の活動よりも多くなっている。

図表個 2-9-3-③ ボランティア活動に対する手当(主たる活動分野別)

調査数	<単一回答: %>					
	交通費、食事、材料費など個人負担	交通費、食事、材料費などの実費が手当てされる	活動量・回数や活動時間に応じた活動費用を手当てされる	その他	無回答	
高齢者の福祉活動	378	68.3	14.3	8.7	5.8	2.9
障害者の福祉活動	306	69.9	13.1	8.5	7.8	2.7
教育、文化、スポーツ振興	125	51.6	24.0	8.8	4.8	2.8
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	56.3	27.7	5.4	8.0	2.7
子育て(乳幼児)に関する活動	106	51.9	18.9	17.0	11.3	2.8
地域の美化・環境保全に関する活動	87	70.1	19.5	5.7	3.4	2.4
まちづくりなどに関する活動	83	71.1	9.6	7.2	9.6	2.4
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	59.7	23.4	6.5	10.4	2.4
健康や医療に関する活動	57	64.9	14.0	7.0	12.3	2.4
災害時のボランティア活動	56	66.1	23.2	5.4	5.4	2.4
国際交流・国際協力に関する活動	49	61.2	30.6	4.1	4.1	2.4
防災、防犯、交通安全などの活動	26	61.5	7.7	19.2	7.7	3.8
人権擁護に関する活動	25	60.0	16.0	20.0	4.0	2.9
その他	158	61.4	19.6	5.1	12.0	2.9

3. ボランティア活動推進の課題

(1) ボランティア活動推進の課題

1. ボランティアセンターの利用方法

「ボランティアセンターに行ったことや、職員等と話をしたことはない」としたボランティアは17.0%であり、多くのボランティアはセンターとのなんらかの関わりのなかで活動をしている。ただ、利用者でも「頻繁に職員やスタッフと話をしたり、相談したりしている」、「月に1回以上はボランティアセンターに行っている」、「年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている」がそれぞれ約15%から24%となっており、センターとの関わり方についてはかなり個人差が大きい。

〔参考〕一部の選択肢が異なるものの、前回調査においても「月に1回以上はボランティアセンターに行っている」がもっとも多く、全体の傾向に大きな変化はない。ただ「ボランティアセンターに行ったことや、職員等と話をしたことはない」が前回よりも5ポイント増加している。

図表個 3-1-1-①ボランティアセンターの利用方法<全体>

調査数	<単一回答: %>					
	頻繁に職員やスタッフと話をしたり、相談したりしている	月に1回以上はボランティアセンターに行っている	年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている	あまりボランティアセンターに行くことはない	センターに行ったことや、職員等と話をしたことはない	無回答
全体 2288	19.1	24.4	19.2	15.2	17.0	5.2

<主たる活動分野別>

主たる活動分野別には防災、防犯、交通安全などの活動、地域の美化・環境保全に関する活動などの分野で「頻繁に職員やスタッフと話をしたり、相談したりしている」とする割合が高い。一方、健康や医療に関する活動、教育、文化、スポーツ振興、災害時のボランティア活動などの分野では「ボランティアセンターに行ったことや、職員等と話をしたことはない」とする割合がいずれも25%を超えている。

図表個 3-1-1-②ボランティアセンターの利用方法<主たる活動分野別>

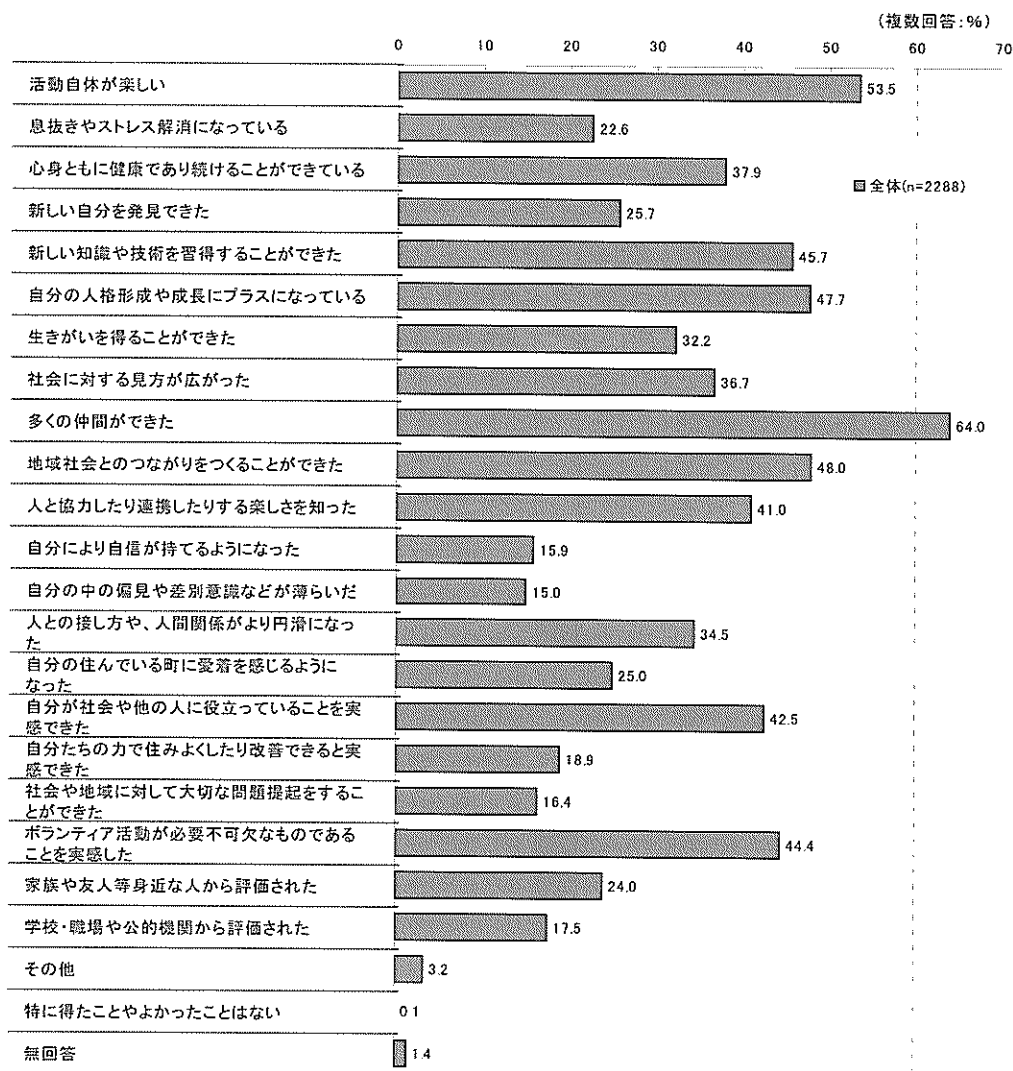
主たる活動分野別	調査数	<単一回答: %>					
		頻繁に職員やスタッフと話をしたり、相談したりしている	月に1回以上はボランティアセンターに行っている	年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている	あまりボランティアセンターに行くことはない	センターに行ったことや、職員等と話をしたことはない	無回答
高齢者の福祉活動	378	20.4	27.0	19.0	14.0	12.4	7.1
障害者の福祉活動	306	19.0	31.4	19.3	15.7	12.4	2.3
教育、文化、スポーツ振興	125	8.0	23.2	17.6	20.8	28.0	2.4
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	8.9	27.7	21.4	13.4	19.6	8.9
子育て(乳幼児)に関する活動	106	17.0	20.8	17.0	17.0	23.6	4.7
地域の美化・環境保全に関する活動	87	26.4	17.2	21.8	16.1	14.9	3.4
まちづくりなどに関する活動	83	22.9	27.7	16.9	16.9	12.0	3.6
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	19.5	24.7	16.9	15.6	19.5	3.9
健康や医療に関する活動	57	5.3	22.8	22.8	12.3	29.8	7.0
災害時のボランティア活動	56	16.1	14.3	17.9	23.2	25.0	3.6
国際交流・国際協力に関する活動	49	14.3	26.5	8.2	26.5	22.4	0.0
防災、防犯、交通安全などの活動	26	34.6	15.4	26.9	7.7	15.4	
人権擁護に関する活動	25	20.0	20.0	16.0	24.0	16.0	4.0
その他	158	16.5	24.7	18.4	19.0	17.7	3.8

2. ボランティア活動で得られたこと

ボランティア活動で得られたことのトップは「多くの仲間ができた」(64.0%)であり、人間関係の形成を評価する意見が多い。以下、多い順に「活動自体が楽しい」、「地域社会とのつながりをつくることのできた」、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」、「新しい知識や技術を習得することができた」、「ボランティア活動が必要不可欠なものであることを実感した」、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた」などが多く、いずれも40%以上の高い割合であげられている。これら以外にもボランティア活動で得られたことの項目は比較的高率であがっており、多様な副次的な収穫(メリット)がボランティア活動によって得られていることがわかる。

〔参考〕前回調査とは項目数や一部選択肢の内容も異なっているが、ボランティア活動で得られたことの前回トップの「多くの仲間ができた」(71.3%)は、今回調査でも同様に64.0%でもっとも多い。

図表個 3-1-2-①ボランティア活動で得られたこと<全体>



<性別>

男性に比べると女性のほうがボランティアに対して、より多くの評価をする傾向がある。特に女性では「人と協力したり連携したりする楽しさを知った」で男性を約13ポイント上回ったのを最大に、「自分の人格形成や成長にプラスになっている」、「新しい知識や技術を習得することができた」、「活動自体が楽しい」で男性を10ポイント前後上回った。一方、男性が女性を3ポイント以上上回っているにもものは「自分たちの力で住みよくなり改善できると実感できた」、「社会や地域に対して大切な問題提起をすることができた」の2項目であった。

<年齢別>

20代以下のボランティアでは「活動自体が楽しい」をはじめとして、多くの項目で他の年齢層の評価割合を上回る傾向がある。一方、80代以上を中心に高齢者層では「心身ともに健康であり続けることができている」、「生きがいを得ることができた」、「自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた」、「ボランティア活動が必要不可欠なものであることを実感した」などの項目を評価する傾向が若い世代よりも強い。

図表個 3-1-2-②ボランティア活動で得られたこと<性別/年齢別>

(複数回答:96)

	調査数	活動自体が楽しい	息抜きやストレス解消になっている	心身ともに健康であり続けることができている	新しい自分を発見できた	新しい知識や技術を習得することができた	自分の人格形成や成長にプラスになっている	生きがいを得ることができた	社会に対する見方が広がった	多くの仲間ができた	地域社会とのつながりをつくることができた	人と協力したり連携したりする楽しさを知った	自分により自信が持てるようになった	円滑になった	人との接し方や、人間関係がより円滑になった	自分の住んでいる町に愛着を感じるようになった	自分が社会や他の人に役立っていることを実感できた	自分たちの力で住みよくなり改善できると実感できた	社会や地域に対して大切な問題提起をすることができた	ボランティア活動が必要不可欠なものであることを実感した	家族や友人等身近な人から評価された	学校・職場や公的機関から評価された	その他	特に得たことやよかったことはない	無回答	
全体	2288	53.9	22.6	37.9	25.7	45.7	47.7	32.2	36.7	64.0	48.0	41.0	15.9	15.0	34.5	25.0	42.5	18.9	16.4	44.4	24.0	17.5	3.2	0.1	1.4	
性別	男性	710	48.2	19.9	37.2	22.7	39.4	39.6	32.4	34.6	60.6	48.2	31.8	14.5	14.6	30.6	26.1	43.0	22.3	18.9	41.5	22.3	18.9	3.1	0.3	0.8
	女性	1573	55.9	23.8	38.2	27.1	48.6	51.6	32.0	37.6	65.6	47.9	45.2	16.5	15.3	36.2	24.5	42.3	17.4	15.4	45.6	24.9	16.9	3.2	0.1	1.7
年齢別	10代	11	63.6	18.2	27.3	45.5	63.6	72.7	36.4	63.6	54.5	27.3	54.5	18.2	45.5	54.5	36.4	36.4	27.3	18.2	63.6	18.2	45.5	-	-	-
	20代	83	71.1	45.8	16.9	41.0	65.1	68.7	20.5	42.2	65.1	32.5	51.8	30.1	25.3	44.6	30.1	28.9	15.7	16.9	28.9	27.7	16.9	-	-	-
	30代	102	45.1	24.5	14.7	21.6	39.2	51.0	17.6	39.2	49.0	40.2	33.3	19.6	14.7	20.6	22.5	30.4	23.5	12.7	23.5	13.7	10.8	3.9	-	-
	40代	184	47.8	26.6	13.0	28.8	44.9	54.3	21.7	39.7	66.8	48.9	36.4	16.8	12.5	26.1	21.7	28.8	17.9	17.4	27.2	20.7	16.3	1.6	0.5	1.6
	50代	404	51.7	25.0	25.7	29.2	49.8	52.2	27.7	36.6	62.1	43.8	38.1	15.3	14.9	30.0	20.3	37.4	14.1	14.9	33.4	21.8	17.6	3.5	-	1.5
	60代	936	51.8	20.0	40.2	25.3	45.1	46.4	31.2	38.1	65.4	50.1	41.0	13.6	15.2	36.0	24.7	45.3	19.6	15.2	49.1	24.8	16.9	2.8	0.1	1.8
	70代	514	58.6	20.2	57.4	21.0	38.9	40.7	43.2	32.5	64.6	52.5	44.2	17.1	14.6	39.7	29.8	49.8	21.6	20.6	56.4	26.7	20.6	5.1	0.2	1.4
	80代以上	53	50.9	17.0	67.9	20.8	37.7	35.8	58.5	22.6	66.0	39.6	43.4	15.1	5.7	28.3	22.6	56.6	17.0	13.2	49.1	30.2	11.3	1.9	-	-

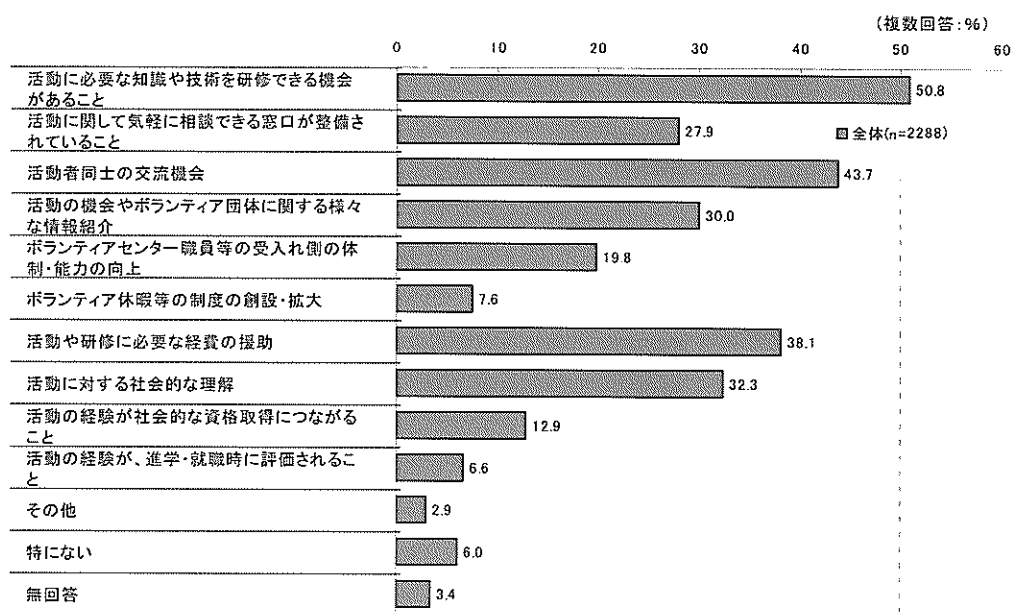
白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

3. 望んでいる社会的支援や環境整備

充実したボランティア活動のために望む社会的支援や環境整備については「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」(50.8%)を半数のボランティアがあげている。ついで「活動者同士の交流機会」、「活動や研修に必要な経費の援助」、「活動に対する社会的な理解」、「活動の機会やボランティア団体に関する様々な情報紹介」を望む意見がそれぞれ30%以上に及んでいる。ボランティア活動へのサポートの要望はスキルアップ、人的交流、経費の負担軽減、情報提供など多岐にわたっている。

〔参考〕前回調査では割合が高い順に、「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」、「活動者同士の交流機会」、「活動や研修に必要な経費の援助」、「活動に対する社会的な理解」となっていた。前回調査とは割合に変動はあるものの、今回調査でもこれら上位項目の順位は同一となっている。

図表個 3-1-3-①望んでいる社会的支援や環境整備<全体>



<性別>

男性と比べて女性に特に多かった要望は「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」であり、男性の割合を13.0ポイント上回る。一方、男性では「ボランティア休暇等の制度の創設・拡大」で、女性の割合を8ポイント近く上回っている。

<年齢別>

年齢別に要望の特徴をみると、20代以下では「活動に対する社会的な理解」、「活動の経験が社会的な資格取得につながる」、「活動の経験が、進学・就職時に評価されること」などを要望する割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

〈中断意向別〉

ボランティア活動の中断意向経験者と非経験者の要望は共通したものも多いが、中断意向経験者では「活動に関して気軽に相談できる窓口が整備されていること」、「活動や研修に必要な経費の援助」、「活動に対する社会的な理解」が非経験者よりも6ポイント前後多くなっている。

図表個 3-1-3-②望んでいる社会的支援や環境整備〈性別／年齢別／中断意向別〉

(複数回答:96)

	調査数	活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること	活動に関する窓口が整備されていること	活動者同士の交流機会	活動の機会やボランティア団体に関する様々な情報紹介	ボランティアセンター職員等の受け入れ体制・能力の向上	ボランティア休暇等の制度の創設・拡大	ボランティア休暇等の費の援助	活動や研修に必要な経費の援助	活動に対する社会的な理解	活動の経験が、進学・就職時に評価されること	その他	特になし	無回答	
全体	2288	50.8	27.9	43.7	30.0	19.8	7.6	38.1	32.3	12.9	6.6	2.9	6.0	3.4	
性別	男性	710	42.0	27.3	41.7	31.5	19.3	13.0	40.4	34.2	13.0	7.2	3.9	6.3	0.8
	女性	1573	55.0	28.3	44.8	29.4	20.2	5.3	37.1	31.5	13.0	6.3	2.4	5.8	4.4
年齢別	10代	11	54.5	18.2	27.3	27.3	9.1	9.1	36.4	45.5	27.3	18.2	-	-	-
	20代	83	49.4	22.9	53.0	41.0	24.1	21.7	41.0	41.0	32.5	24.1	2.4	1.2	-
	30代	102	43.1	26.5	30.4	22.5	18.6	17.6	47.3	33.3	13.7	8.8	2.0	5.9	3.9
	40代	184	53.3	30.4	32.6	31.0	21.7	16.8	45.7	33.2	18.5	10.9	4.9	3.3	2.7
	50代	404	53.2	26.0	38.1	23.0	23.3	10.1	38.6	34.2	15.6	6.7	3.0	5.7	3.5
	60代	936	52.5	27.8	45.1	31.5	17.9	4.6	35.4	28.7	10.1	5.0	2.9	6.7	3.2
	70代	514	47.1	29.6	50.0	32.1	20.2	3.7	40.3	36.4	11.1	4.5	2.9	6.0	4.3
	80代以上	53	49.1	32.1	52.8	32.1	13.2	7.5	30.2	22.6	5.7	5.7	-	13.2	3.8
意向別	中断意向の経験者	639	52.6	33.2	46.3	29.9	22.8	10.2	42.6	36.8	15.3	8.5	4.1	3.4	2.8
	非経験者	1451	50.8	26.3	44.0	30.6	19.2	7.2	36.3	30.9	12.2	5.9	2.4	7.2	2.8

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

主たる活動分野別に要望する項目の特徴をみると、子育て（乳幼児）に関する活動以下、7分野では「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」、国際交流・国際協力に関する活動や自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動の分野などでは「活動者同士の交流機会」、人権擁護に関する活動や青少年（児童）の健全育成に関する活動などの分野では「活動や研修に必要な経費の援助」がそれぞれの分野でもっとも多い。

図表個 3-1-3-③望んでいる社会的支援や環境整備(主たる活動分野別)

(複数回答:96)

	調査数	活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること	活動に関して気軽に相談できる窓口が整備されていること	活動者同士の交流機会	活動の機会やボランティア団体に関する様々な情報紹介	ボランティアセンター職員等の受入れ側の体制・能力の向上	ボランティア休暇等の制度の創設・拡大	活動や研修に必要な経費の援助	活動に対する社会的な理解	活動の経験が社会的な資格取得につながることに	活動の経験が、進学・就職時に評価されること	その他	特にな	無回答
全体	2288	50.8	27.9	43.7	30.0	19.8	7.6	38.1	32.3	12.9	6.6	2.9	6.0	3.4
高齢者の福祉活動	378	53.2	30.2	46.6	30.4	20.4	3.4	29.4	24.6	10.8	5.0	2.4	7.7	3.2
障害者の福祉活動	306	59.5	28.1	37.9	31.0	22.9	5.6	37.3	30.7	19.3	6.2	2.6	5.9	1.6
教育、文化、スポーツ振興	125	48.4	19.2	42.4	28.8	22.4	10.4	36.8	30.4	11.2	6.4	2.4	6.4	4.0
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	50.9	29.5	50.0	37.5	20.5	5.4	35.7	41.1	7.1	4.5	1.8	6.3	5.4
子育て(乳幼児)に関する活動	106	67.0	27.4	46.2	29.2	16.0	5.7	45.3	29.2	14.2	9.4	2.8	3.8	2.8
主たる活動分野別														
地域の美化・環境保全に関する活動	87	28.7	26.4	42.5	32.2	16.1	14.9	42.5	40.2	8.0	10.3	3.4	4.6	2.3
まちづくりなどに関する活動	83	38.6	25.3	44.6	32.5	20.5	18.1	47.0	36.1	20.5	13.3	3.6	6.0	1.2
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	50.6	20.8	42.9	28.6	16.9	10.4	53.2	37.7	11.7	9.1	2.6	6.5	-
健康や医療に関する活動	57	35.1	26.3	40.4	12.3	21.1	1.8	33.3	24.6	15.8	10.5	1.8	8.8	1.8
災害時のボランティア活動	56	57.1	17.9	37.5	32.1	14.3	25.0	39.3	46.4	16.1	5.4	-	-	3.6
国際交流・国際協力に関する活動	49	40.8	28.6	55.1	34.7	14.3	14.3	34.7	32.7	10.2	10.2	6.1	6.1	-
防災、防犯、交通安全などの活動	26	50.0	26.9	46.2	15.4	11.5	3.8	34.6	42.3	11.5	3.8	-	11.5	3.8
人権擁護に関する活動	25	56.0	28.0	44.0	40.0	32.0	20.0	72.0	64.0	8.0	8.0	-	4.0	-
その他	158	39.2	25.3	31.6	22.8	15.8	11.4	38.0	34.8	11.4	5.1	8.2	8.9	3.8

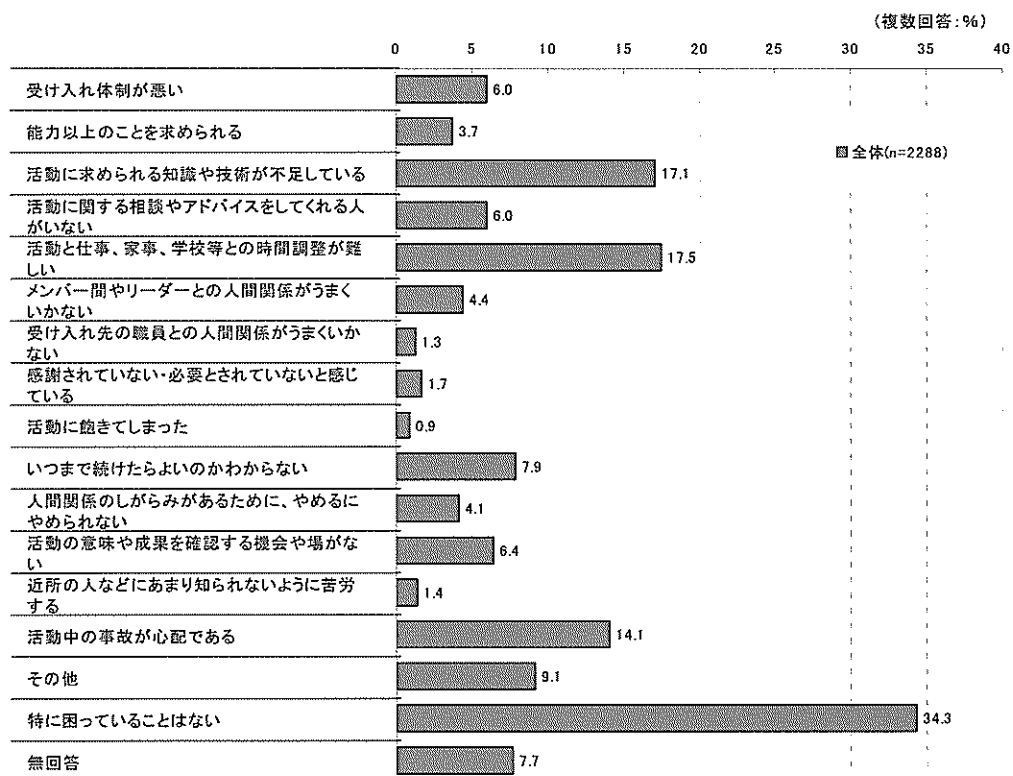
白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

(2) ボランティア活動上の困難と今後の意向

1. ボランティア活動を行うにあたって困っていること

現在、活動をするにあたって「特に困っていることはない」とするボランティアの割合は全体の34.3%で、約3人に1人となっている。それ以外の約6割のボランティアが困っていることがあるとしており、その理由として「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」、「活動に求められる知識や技術が不足している」、「活動中の事故が心配である」などの問題をあげている。

図表個 3-2-1-①ボランティア活動を行うにあたって困っていること<全体>



<年齢別>

活動をするにあたって「特に困っていることはない」とする割合は60代以上の高い年齢層で高く、困っていることがあるボランティアは若い年齢層に多くみられる。「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」は若い年齢層ほど多く、高齢になるにつれて割合は低下する。70代以上の高齢者の困っていることの割合としては「活動中の事故が心配である」がもっとも高くなっている。

図表個 3-2-1-②ボランティア活動を行うにあたって困っていること<年齢別>

(複数回答:%)

	調査数	受け入れ体制が悪い	能力以上のことを求められる	活動に求められる知識や技術が不足している	活動に求められる人がいない	活動に関する相談やアドバイスをしてくれる人がいない	活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい	活動と仕事、家事、学校等との関係がうまくいかない	メンバー間やリーダーとの人間関係がうまくいかない	受け入れ先の職員との人間関係がうまくいかない	感謝されていない・必要とされていないと感じている	活動に飽きてしまった	いつまで続けたらよいかわからない	人間関係のしごらみがあるために、やめるにやめられない	機会や場がない	活動の意味や成果を確認する機会がない	近所の人などにあまり知られないように苦労する	活動中の事故が心配である	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	2288	6.0	3.7	17.1	6.0	17.5	4.4	1.3	1.7	0.9	7.9	4.1	6.4	1.4	14.1	9.1	34.3	7.7			
年齢別	10代	11	-	9.1	45.5	-	27.3	9.1	-	-	9.1	9.1	9.1	-	-	-	9.1	18.2	9.1		
	20代	83	3.6	6.0	25.3	8.4	44.6	4.8	-	-	4.8	1.2	12.0	4.8	7.2	10.8	24.1	8.4			
	30代	102	2.0	2.0	16.7	3.9	33.3	2.9	1.0	2.0	-	4.9	2.9	5.9	2.9	13.7	10.8	27.5	5.9		
	40代	184	4.3	7.6	19.6	3.3	39.1	7.1	1.1	2.2	2.2	9.2	4.3	5.4	1.6	9.2	12.5	25.0	6.5		
	50代	404	6.2	5.0	20.8	3.7	26.2	4.5	1.2	1.5	0.7	6.7	5.0	6.7	1.5	11.6	6.4	27.2	6.9		
	60代	936	7.2	3.2	15.8	6.3	11.5	4.7	1.5	2.0	1.0	6.7	3.7	6.2	1.2	15.2	8.9	36.9	7.2		
	70代	514	6.4	2.3	12.6	8.9	7.0	3.3	1.4	1.4	0.6	11.1	4.1	6.8	0.8	16.9	10.1	36.8	10.3		
	80代以上	53	-	1.9	13.2	1.9	5.7	-	-	-	-	11.3	9.4	1.9	1.9	17.0	7.5	49.1	3.8		

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

<主たる活動分野別>

健康や医療に関する活動分野では45.6%のボランティアが活動をするにあたって「特に困っていることはない」としている。一方、地域の美化・環境保全に関する活動分野のその割合は23.0%にとどまり、困っていることのあるボランティアが大幅に多くなっている。国際交流・国際協力に関する活動、防災、防犯、交通安全などの分野では「活動に求められる知識や技術が不足している」、災害時のボランティア活動やまちづくりなどに関する活動では「活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい」、高齢者の福祉活動や防災、防犯、交通安全などの活動などの分野では「活動中の事故が心配である」がそれぞれ他の分野に比べると高い割合になっている。

図表個 3-2-1-③ ボランティア活動を行うにあたって困っていること(主たる活動分野別)

(複数回答:%)

	調査数	受け入れ体制が悪い	能力以上のことを求められる	活動に求められる知識や技術が不足している	活動に求められる人がいない	活動に関する相談やアドバイスをしてくれる人がいない	活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい	メンバー間やリーダーとの人間関係がうまくいかない	受け入れ先の職員との人間関係がうまくいかない	感謝されていない・必要とされていないと感じている	活動に飽きてしまった	いつまで続けたらよいかわからない	人間関係のしごらみがあるために、やめるにやめられない	機会や場がない	活動の意味や成果を確認する機会がない	近所の人などにあまり知られないように苦労する	活動中の事故が心配である	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	2288	6.0	3.7	17.1	6.0	17.5	4.4	1.3	1.7	0.9	7.9	4.1	6.4	1.4	14.1	9.1	34.3	7.7		
高齢者の福祉活動	378	6.3	3.4	14.3	6.1	9.5	5.6	2.1	1.6	0.8	7.4	2.6	5.3	1.1	20.4	6.3	35.9	7.1		
障害者の福祉活動	306	7.5	3.8	23.5	5.2	16.7	3.9	-	1.6	1.3	5.9	1.6	7.5	0.7	9.8	9.8	34.6	6.5		
教育、文化、スポーツ振興	125	9.6	5.6	17.6	5.6	24.8	4.8	2.4	2.4	0.8	3.2	3.2	6.4	2.4	13.6	4.8	36.0	4.0		
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	4.5	3.6	17.0	6.3	16.1	2.7	0.9	-	1.8	8.9	11.6	4.5	0.9	17.9	5.4	34.8	5.4		
子育て(乳幼児)に関する活動	106	4.7	0.9	17.0	6.6	27.4	0.9	0.9	0.9	-	5.7	2.8	3.8	0.9	16.0	9.4	30.2	7.5		
主たる活動分野別																				
地域の美化・環境保全に関する活動	87	8.0	5.7	19.5	10.3	24.1	4.6	1.1	2.3	-	16.1	5.7	6.9	2.3	8.0	8.0	23.0	8.0		
まちづくりなどに関する活動	83	3.6	6.0	15.7	3.6	30.1	9.6	1.2	2.4	2.4	14.5	4.8	7.2	2.4	13.3	8.4	34.9	6.0		
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	3.9	3.9	18.2	1.3	22.1	2.6	1.3	2.6	-	7.8	6.5	11.7	1.3	9.1	7.6	35.1	5.2		
健康や医療に関する活動	57	7.0	5.3	1.8	3.5	19.3	8.8	3.5	5.3	1.8	3.5	3.5	7.0	-	8.8	5.3	45.6	3.5		
災害時のボランティア活動	56	5.4	3.6	16.1	3.6	32.1	5.4	-	1.8	1.8	8.9	5.4	3.6	3.6	12.5	5.4	30.4	7.1		
国際交流・国際協力に関する活動	49	4.1	8.2	26.5	8.2	24.5	6.1	-	2.0	2.0	8.2	4.1	10.2	4.1	12.2	8.2	36.7	2.0		
防災、防犯、交通安全などの活動	26	-	-	26.9	-	15.4	7.7	-	-	-	-	-	11.5	-	19.2	11.5	30.8	7.7		
人権擁護に関する活動	25	4.0	4.0	12.0	4.0	16.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	12.0	8.0	8.0	12.0	24.0	36.0	-		
その他	158	5.1	1.9	13.9	8.2	8.9	2.5	1.3	-	1.3	9.5	1.9	8.2	2.5	10.8	20.3	34.2	7.6		

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

2. ボランティア活動中断、休止の意向

これまでに活動を中断、やめたいと思ったことが「ない」ボランティアは 63.4%を占め、「ある」(27.9%)とするボランティアを大きく上回る。

図表個 3-2-2-① ボランティア活動中断、休止の意向(全体)

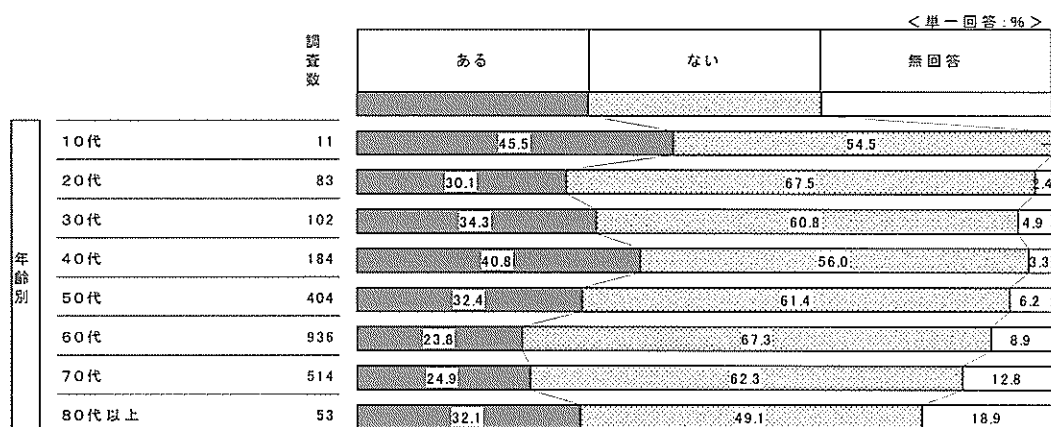
<単一回答: %>

調査数	ある	ない	無回答
全体 2288	27.9	63.4	8.7

<年齢別>

中断、やめたいと思ったことが「ある」ボランティアは、20～30代の若い年齢層では3割台で、10代を除くと40代で40.8%となる。それ以降は減少に転じ、60代、70代では20%台にまで低下している。ライフステージなどが影響していることがうかがえる。

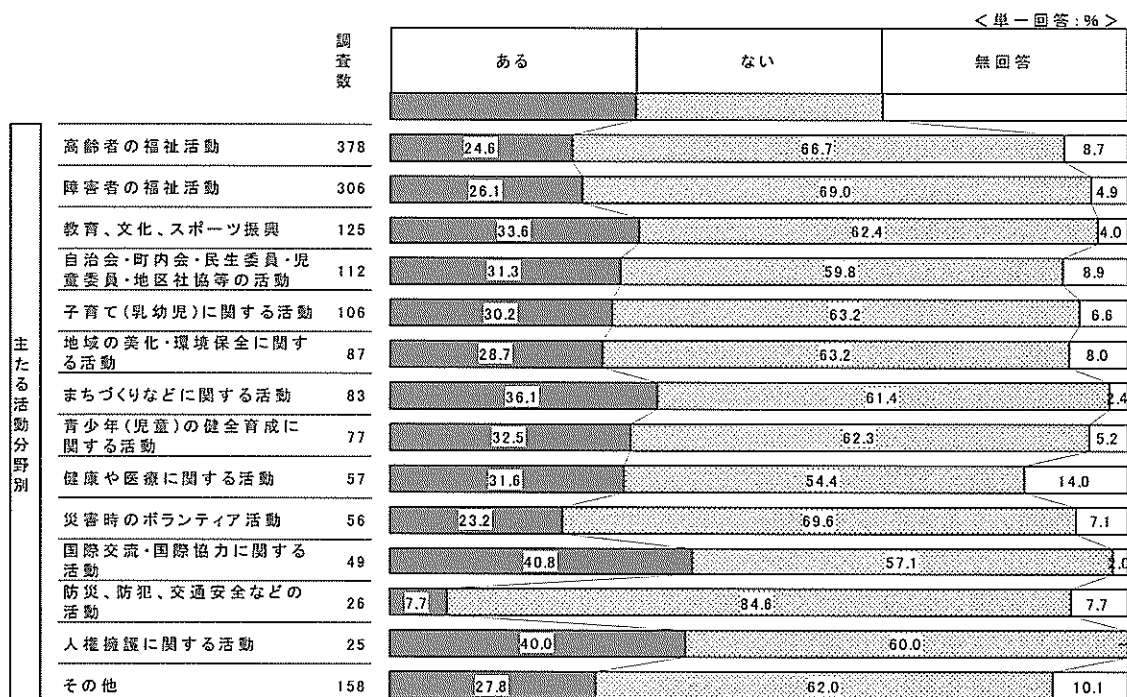
図表個 3-2-2-②ボランティア活動中断、休止の意向<年齢別>



<主たる活動分野別>

中断、やめたいと思ったことの「ある」割合は、国際交流・国際協力に関する活動や人権擁護に関する活動、まちづくりなどに関する活動分野のボランティアに多くなっている。一方、防災、防犯、交通安全などの活動分野のボランティアが中断、やめたいと思ったことの「ある」割合は7.7%に過ぎず、「ない」が84.6%と高い割合となっている。

図表個 3-2-2-③ボランティア活動中断、休止の意向<主たる活動分野別>



3. 中断、やめたいと思った理由

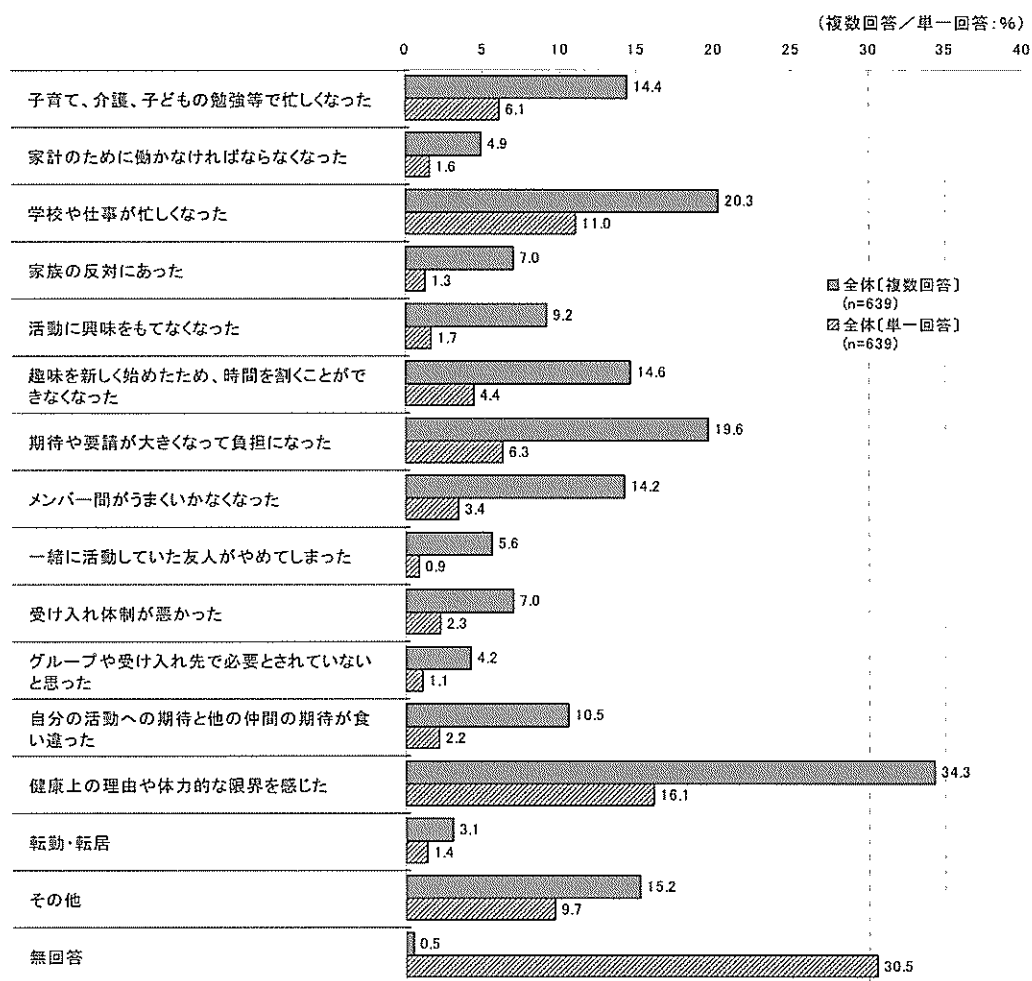
<全体/複数回答>

中断、やめたいと思ったボランティアにおけるその理由のトップは、「健康上の理由や体力的な限界を感じた」であり、34.3%に及んでいる。以下第2グループは「学校や仕事が忙しくなった」と「期待や要請が大きくなって負担になった」が20%前後で続く。ついで第3グループには「趣味を新しく始めたため、時間を割くことができなくなった」、「子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった」、「メンバー間がうまくいかなくなった」などの理由がいずれも14%台であがっている。

<全体/単一回答>

中断、やめたいと思ったことについての主な理由をみても、「健康上の理由や体力的な限界を感じた」(16.1%)がもっとも多く、ついで「学校や仕事が忙しくなった」など、上位5項目は複数回答と同一となっている。

図表個 3-2-3-①中断、やめたいと思った理由<全体/複数回答/単一回答>



<性別>

いずれも「健康上の理由や体力的な限界を感じた」がもっとも多いが、男性に比べて女性に多い理由としては、約 13 ポイント差の「子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった」(17.9%)をはじめ、「期待や要請が大きくなって負担になった」(21.8%)などの理由である。一方、男性では「学校や仕事が忙しくなった」(29.5%)が女性よりも約 13 ポイント多くなっている。

<年齢別>

中断、やめたいと思ったことの原因として、40代以前の年齢層では「学校や仕事が忙しくなった」ことをもっとも多くあげている。これに対して、60代以降では「健康上の理由や体力的な限界を感じた」をあげるボランティアがもっとも多くなっている。50代は「学校や仕事が忙しくなった」と「健康上の理由や体力的な限界を感じた」が同率になっている。

図表個 3-2-3-②中断、やめたいと思った理由(性別/年齢別)

(複数回答:9%)

		調査数	子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった	家計のために働かなければならなくなった	学校や仕事が忙しくなった	家族の反対にあった	活動に興味をもてなくなった	趣味を新しく始めたため、時間を割くことができなくなった	期待や要請が大きくなって負担になった	メンバー間がうまくいかなかった	一緒に活動していた友人がやめてしまった	受け入れ体制が悪かった	グループや受け入れ先で必要とされていないと思った	自分の活動への期待と他の仲間との期待が食い違った	健康上の理由や体力的な限界を感じた	転勤・転居	その他	無回答
全体[複数回答]		639	14.4	4.9	20.3	7.0	9.2	14.6	19.6	14.2	5.6	7.0	4.2	10.5	34.3	3.1	15.2	0.5
性別	男性	176	5.1	1.1	29.5	8.5	11.4	17.0	13.6	16.5	6.8	9.1	5.1	10.8	33.5	1.1	14.8	-
	女性	463	17.9	6.3	16.8	6.5	8.4	13.6	24.9	13.4	5.2	6.3	3.9	10.4	34.6	3.9	15.3	0.6
年齢別	10代	5	20.0	-	40.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	40.0	20.0	20.0	-
	20代	25	20.0	-	68.0	8.0	8.0	8.0	20.0	16.0	-	-	8.0	8.0	4.0	4.0	8.0	-
	30代	35	28.6	2.9	37.1	5.7	8.6	8.6	17.1	17.1	8.6	2.9	2.9	20.0	17.1	2.9	11.4	-
	40代	75	26.7	14.7	53.3	9.3	10.7	14.7	29.3	13.3	8.0	2.7	9.3	9.3	17.3	2.7	12.0	-
	50代	131	21.4	9.2	23.7	6.9	14.5	13.7	21.4	16.8	6.1	8.4	3.8	13.0	23.7	4.6	12.2	1.5
	60代	223	8.1	1.8	11.2	7.6	8.5	19.7	21.5	14.8	5.4	9.0	4.5	11.7	35.0	2.2	15.2	0.4
	70代	128	7.8	2.3	1.6	5.5	6.3	9.4	10.9	10.9	5.5	8.6	1.6	5.5	59.4	3.1	18.8	-
	80代以上	17	-	-	-	5.9	-	11.8	11.8	5.9	-	-	-	5.9	70.6	-	41.2	-

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

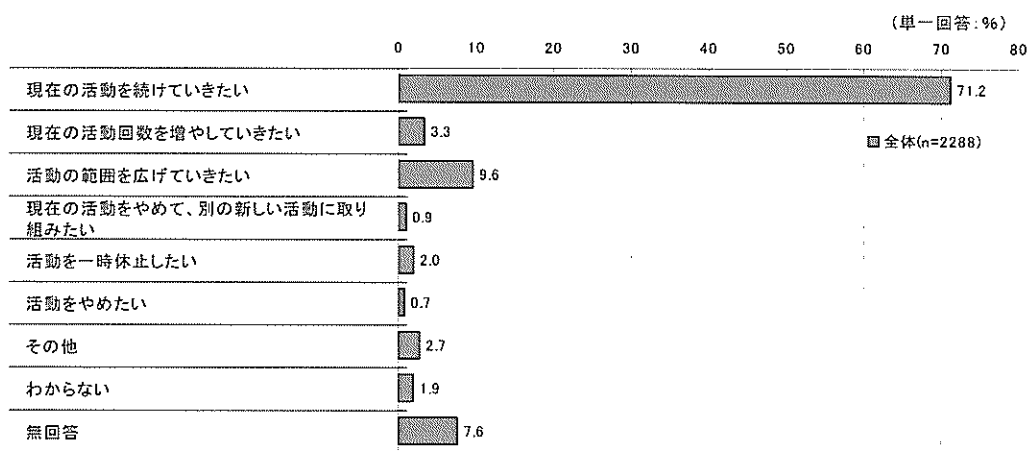
4. 今後の活動への意向

(1) 今後の活動への意向

「現在の活動を続けていきたい」(71.2%) がもっとも多く、ボランティアの7割以上が現在の活動の継続意向となっている。また、「活動の範囲を広げていきたい」(9.6%) や「現在の活動回数を増やしていきたい」(3.3%) など拡充する方向での継続意向は合計で1割以上となっている。一方、「活動を一時休止したい」や「活動をやめたい」とするものは合計で3%程度にとどまり、多くはボランティア継続の意向をもっている。

〔参考〕 選択肢の表現に一部異なる部分があるが、前回調査と比較しても「現在の活動を続けていく」(74.0%) とする意見が約4人に3人に達し、現在の活動の継続意向をもつボランティアが多数派を形成する状況に大きな変化はない。

図表個 4-1-1-①今後の活動への意向(全体)



<性別>

女性では「現在の活動を続けていきたい」とする現行継続型が73.4%で、男性を約7ポイント上回る。一方、「活動の範囲を広げていきたい」や「現在の活動回数を増やしていきたい」の拡充型は男性に多くなっている。

<年齢別>

「活動の範囲を広げていきたい」や「現在の活動回数を増やしていきたい」の拡充型は10～20代を中心に若い年齢層に多い。一方、「現在の活動を続けていきたい」とする現行継続型は50代以上の中高年齢層に多く、その割合は70%を超えている。

図表個 4-1-1-②今後の活動への意向<性別/年齢別>

(単一回答:96)

	調査数	現在の活動を続けていきたい	現在の活動回数を増やしていきたい	活動の範囲を広げていきたい	別の活動の組み合わせたい	現在の活動を一時休止したい	活動をやめたい	その他	わからない	無回答	
全体	2288	71.2	3.3	9.6	0.9	2.0	0.7	2.7	1.9	7.6	
性別	男性	710	65.2	4.8	13.4	1.4	1.5	0.7	2.7	1.3	8.0
	女性	1573	73.4	2.6	7.9	0.7	2.2	0.8	2.7	2.2	7.4
年齢別	10代	11	9.1	9.1	54.5	-	9.1	-	-	-	18.2
	20代	83	44.6	8.4	31.3	1.2	1.2	1.2	6.0	2.4	3.6
	30代	102	56.9	3.9	23.5	2.0	2.0	1.0	4.9	1.0	4.9
	40代	184	61.4	4.3	12.5	1.6	3.3	0.5	1.6	8.2	6.5
	50代	404	72.0	2.5	9.7	0.7	2.0	0.2	2.0	1.5	9.4
	60代	936	74.3	3.2	9.1	1.1	1.4	0.6	2.2	1.2	6.9
	70代	514	77.0	2.9	3.1	0.4	2.7	1.0	2.9	1.4	8.6
	80代以上	53	73.6	-	1.9	-	-	3.8	7.5	3.8	9.4

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈職業別〉

「現在の活動を続けていきたい」は、主婦・主夫の76.4%をはじめ、定年退職後の方、仕事には就いていないなどの非就業者に多くなっている。一方、「活動の範囲を広げていきたい」は学生が47.4%と突出して多くなっている。

図表個 4-1-1-③今後の活動への意向〈職業別〉

(単一回答:%)

	調査数	現在の活動を続けていきたい	現在の活動回数を増やしていきたい	活動の範囲を広げていきたい	別の活動をやめて、別の新しい活動に取り組みたい	活動を一時休止したい	活動をやめたい	その他	わからない	無回答
全体	2288	71.2	3.3	9.6	0.9	2.0	0.7	2.7	1.9	7.6
職業別										
企業(被雇用者)	140	60.0	8.6	12.9	2.9	1.4	-	-	4.3	10.0
公務員	67	64.2	7.5	14.9	-	3.0	1.5	3.0	3.0	3.0
団体職員	148	65.5	1.4	13.5	1.4	5.4	1.4	0.7	2.7	8.1
NPO・NGO職員	81	64.2	2.5	12.3	1.2	1.2	-	4.9	4.9	8.6
自営業	185	67.0	4.9	11.4	1.6	2.2	0.5	2.7	2.7	7.0
主婦・主夫	815	76.4	1.7	5.8	0.9	2.2	0.9	2.9	2.0	7.2
定年退職後の方	515	75.0	4.1	8.3	0.8	1.4	0.6	2.5	0.4	7.0
学生	38	26.3	5.3	47.4	-	-	-	10.5	-	10.5
仕事には就いていない	116	73.3	2.6	10.3	-	1.7	0.9	1.7	2.6	6.9
その他	172	69.8	1.7	11.6	-	0.6	1.2	4.1	0.6	10.5

白抜き文字は最大値 網がけ部分は2番目に大きい数値

〈ボランティア歴別〉

ボランティア歴が3年未満では「活動の範囲を広げていきたい」とする割合が2割前後を占めている。これに対して、3年以上では「現在の活動を続けていきたい」とする回答が7割を超え、活動の拡大意向をもつボランティアは1割程度となっている。

図表個 4-1-1-④今後の活動への意向〈ボランティア歴別〉

(単一回答:%)

	調査数	現在の活動を続けていきたい	現在の活動回数を増やしていきたい	活動の範囲を広げていきたい	別の活動や活動に取り組みたい	現在の活動を一時休止したい	活動をやめたい	その他	わからない	無回答
全体	2288	71.2	3.3	9.6	0.9	2.0	0.7	2.7	1.9	7.6
ボランティア活動歴別	1年未満	109	60.6	4.6	20.2	0.9	-	-	4.6	6.4
	1～3年未満	202	58.9	5.9	19.3	1.0	2.0	-	2.0	8.9
	3～5年未満	261	72.4	4.2	9.6	0.8	1.9	0.8	1.9	6.9
	5～10年未満	514	74.3	3.7	7.6	1.2	2.5	0.4	2.1	6.0
	10～15年未満	418	72.7	2.9	7.7	1.0	2.9	1.2	3.3	6.2
	15～20年未満	280	72.9	1.8	8.2	0.7	1.4	0.7	1.1	10.7
	20年以上	479	73.1	2.3	7.7	0.6	1.5	1.3	4.2	8.1

白抜き文字は最大値 網掛け部分は2番目に大きい数値

〈主たる活動分野別〉

防災、防犯、交通安全などの活動の分野では「現在の活動を続けていきたい」とする回答が9割近くを占めたほか、人権擁護に関する活動、高齢者の福祉に関する活動、青少年（児童）の健全育成に関する活動、地域の美化・環境保全に関する活動などの分野で高くなっている。一方、まちづくりなどに関する活動や災害時のボランティア活動の分野では「活動の範囲を広げていきたい」、「現在の活動回数を増やしていきたい」などの拡充意向をもつボランティアが2割前後を占めており、他の分野よりも多くなっている。

図表個 4-1-1-⑤今後の活動への意向〈主たる活動分野別〉

(単一回答:%)

	調査数	現在の活動を続けていきたい	現在の活動回数を増やしていきたい	活動の範囲を広げていきたい	別の新しい活動に取り組みたい	現在の活動を一時休止したい	活動をやめたい	その他	わからない	無回答
全体	2288	71.2	3.3	9.6	0.9	2.0	0.7	2.7	1.9	7.6
高齢者の福祉活動	378	75.1	3.4	7.4	0.3	1.9	0.8	2.1	1.1	7.9
障害者の福祉活動	306	71.2	3.9	11.8	-	1.6	-	3.6	0.7	7.2
教育、文化、スポーツ振興	125	68.0	3.2	12.0	2.4	1.6	-	1.6	3.2	8.0
自治会・町内会・民生委員・児童委員・地区社協等の活動	112	65.2	2.7	8.9	0.9	2.7	0.9	3.6	3.6	11.6
子育て(乳幼児)に関する活動	106	71.7	5.7	8.5	0.9	0.9	0.9	1.9	2.8	6.6
主たる活動分野別										
地域の美化・環境保全に関する活動	87	72.4	-	13.8	1.1	2.3	-	4.6	-	5.7
まちづくりなどに関する活動	83	56.6	4.8	18.1	3.6	-	2.4	6.0	1.2	7.2
青少年(児童)の健全育成に関する活動	77	74.0	2.6	9.1	1.3	1.3	1.3	1.3	3.9	5.2
健康や医療に関する活動	57	66.7	1.8	3.5	1.8	1.8	1.8	5.3	3.5	14.0
災害時のボランティア活動	56	67.9	7.1	12.5	1.8	1.8	-	-	-	8.9
国際交流・国際協力に関する活動	49	63.3	2.0	12.2	-	4.1	-	-	6.1	12.2
防災、防犯、交通安全などの活動	26	88.5	3.8	3.8	-	-	-	-	-	3.8
人権擁護に関する活動	25	76.0	-	4.0	-	-	4.0	4.0	-	12.0
その他	158	71.5	5.7	8.2	0.6	1.3	0.6	3.2	2.5	6.3

白抜き文字は最大値 網かけ部分は2番目に大きい数値

1. プロフィール

(1) 団体のプロフィール

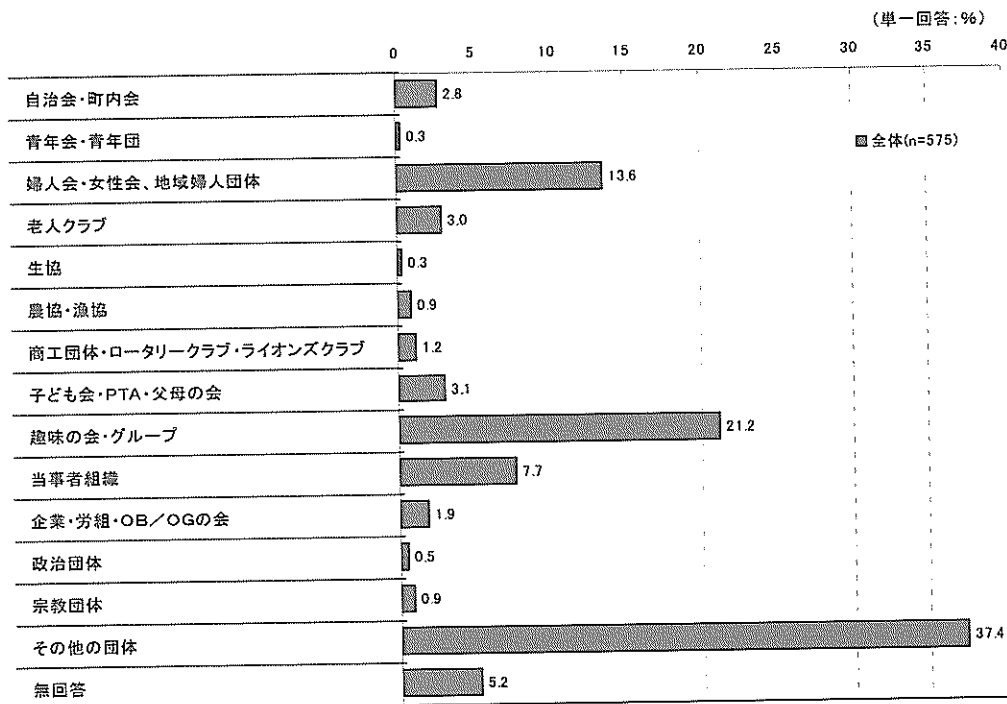
1. ボランティア活動の位置づけ

図表 1-1-1 ボランティア活動の位置づけ(全体)

		< 単一回答: % >			
調査数		ボランティア活動を主目的とした団体・グループである	ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた	活動の一環としてボランティア活動を行っている	無回答
		全体	2357	70.6	2.1

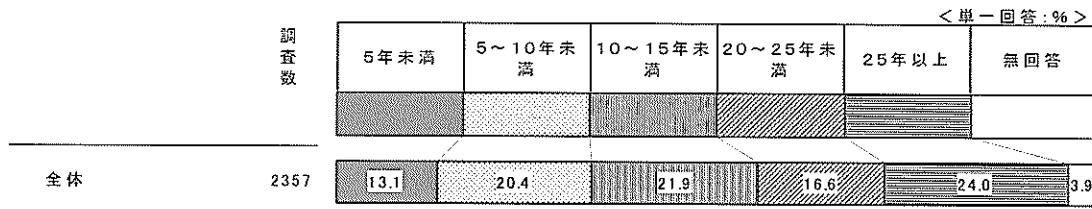
2. 親団体

図表 1-1-2 親団体(全体)



3. 活動歴

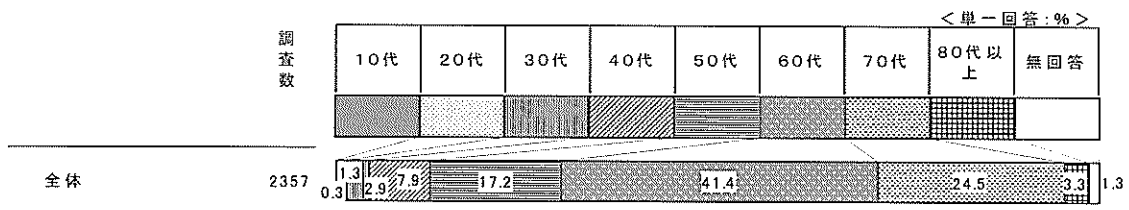
図表 1-1-3 活動歴<全体>



(2) 代表者プロフィール

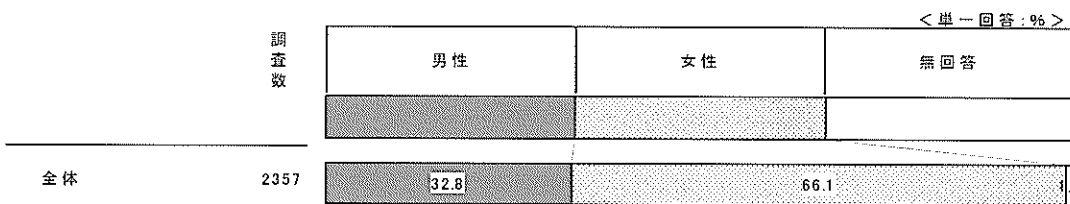
1. 代表者の年齢

図表 1-2-1 代表者の年齢<全体>



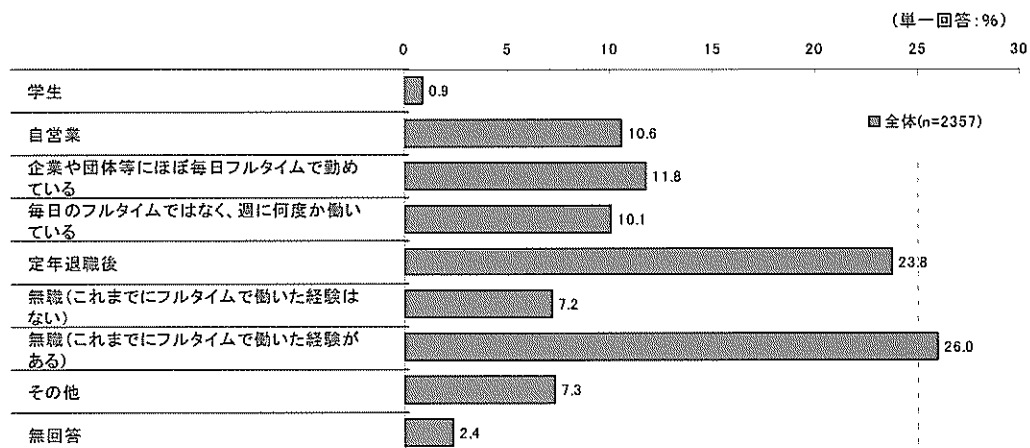
2. 代表者の性別

図表 1-2-2 代表者の性別<全体>



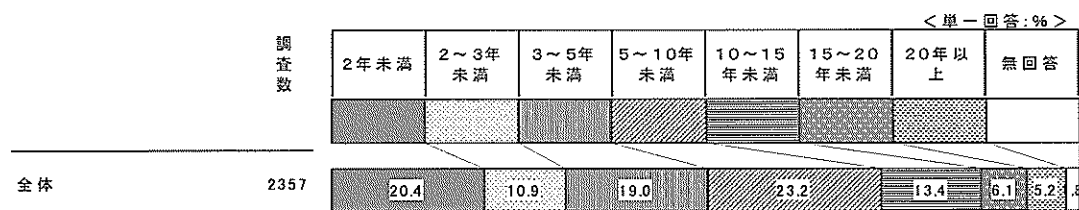
3. 代表者の職業

図表 1-2-3 代表者の職業(全体)



4. 代表としての年数

図表 1-2-4 代表としての年数(全体)

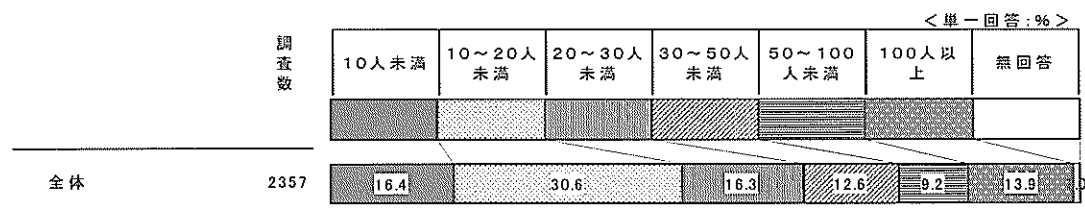


2. ボランティア組織の概要

(1) 構成メンバー

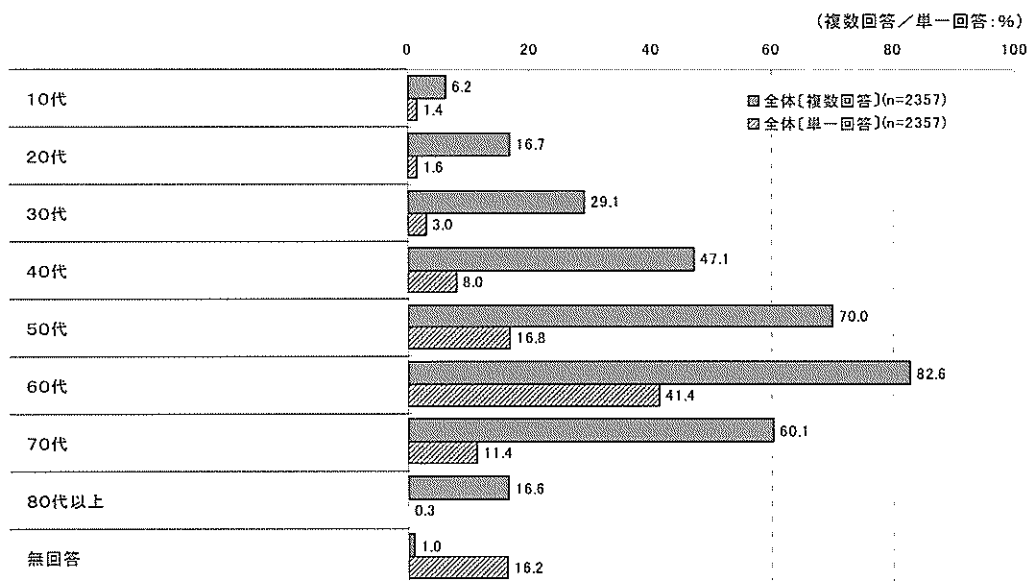
1. 参加メンバーの人数

図表 2-1-1 構成メンバーの人数(全体)



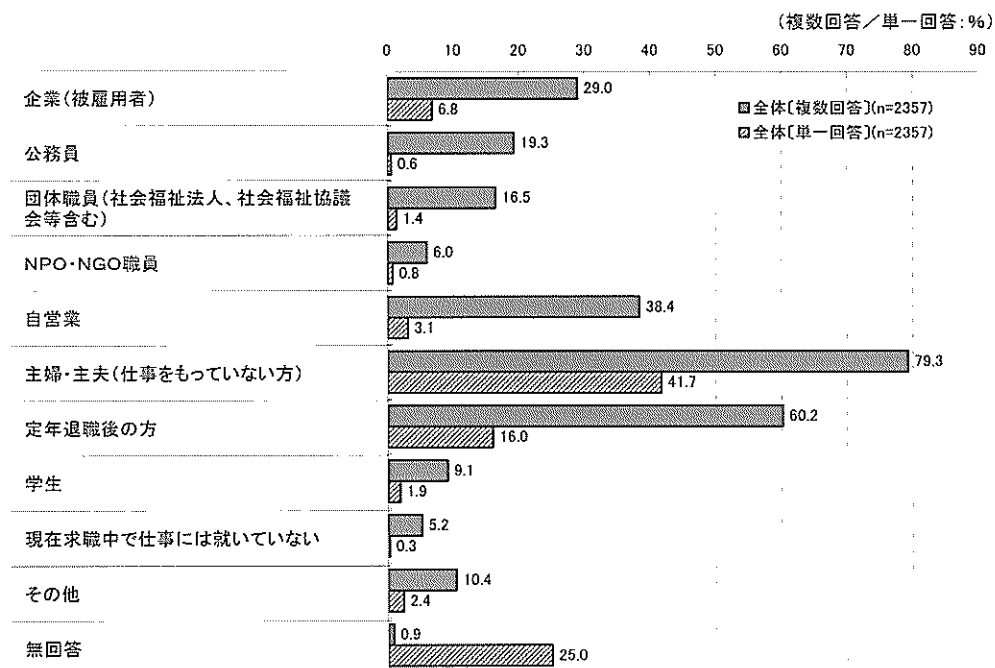
2. 構成メンバーの年齢層

図表 2-1-2 構成メンバーの年齢層<全体/複数回答/単一回答>



3. 構成メンバーの職業

図表 2-1-3 構成メンバーの職業<全体/複数回答/単一回答>



(2) メンバー数の増減と共通性

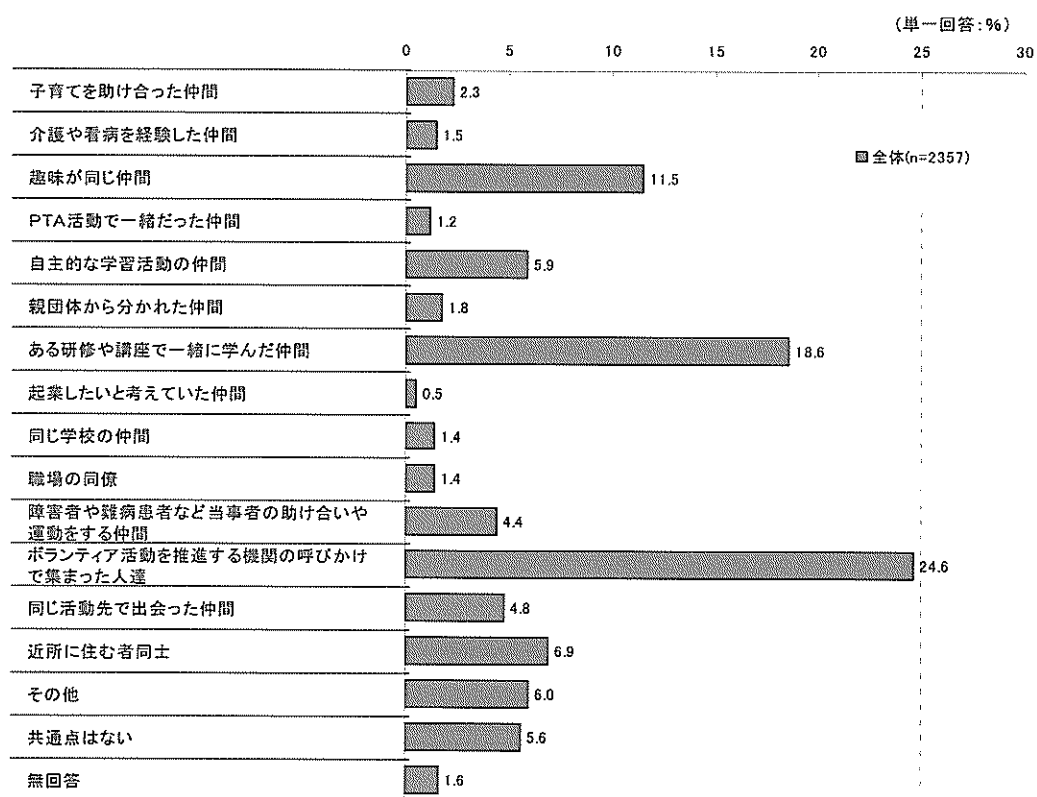
1. 構成メンバー数の増減

図表 2-2-1 構成メンバー数の増減<全体>

		<単一回答: %>			
調査数		増えている	減っている	変わらない	無回答
全体	2357	25.1	23.8	49.9	1.2

2. メンバーの共通点

図表 2-2-2 メンバーの共通点<全体>

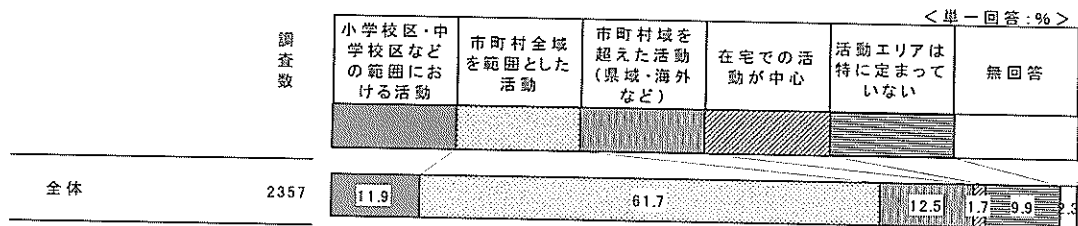


3. 活動の現状

(1) 活動の範囲

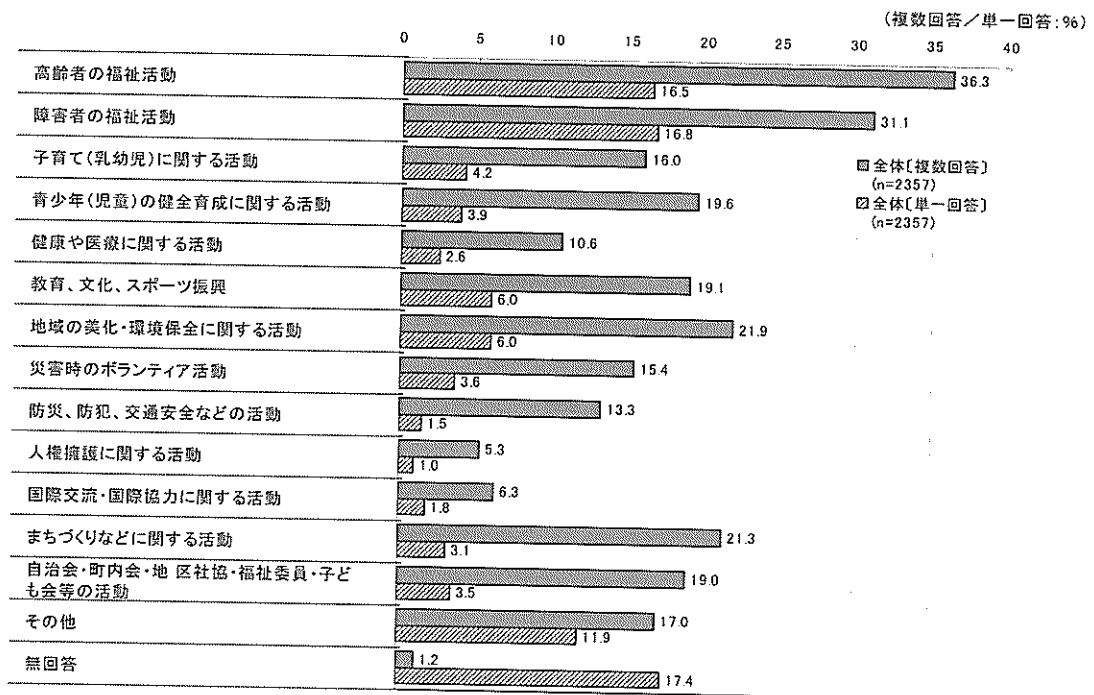
1. 活動エリア

図表 3-1-1 活動エリア<全体>



2. 活動分野

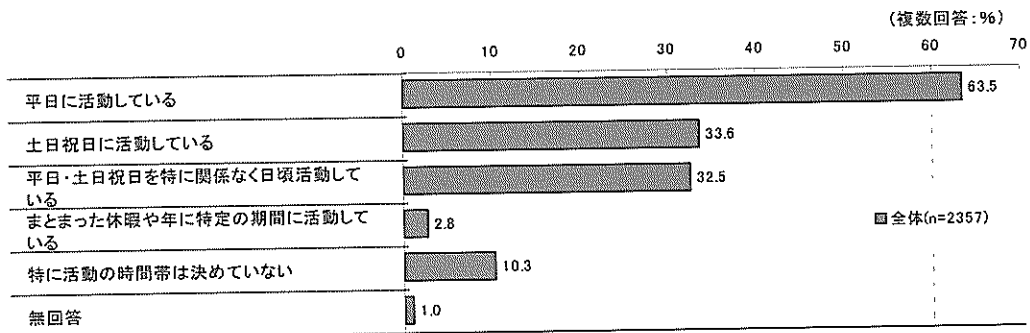
図表 3-1-2 活動分野<全体/複数回答/単一回答>



(2) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

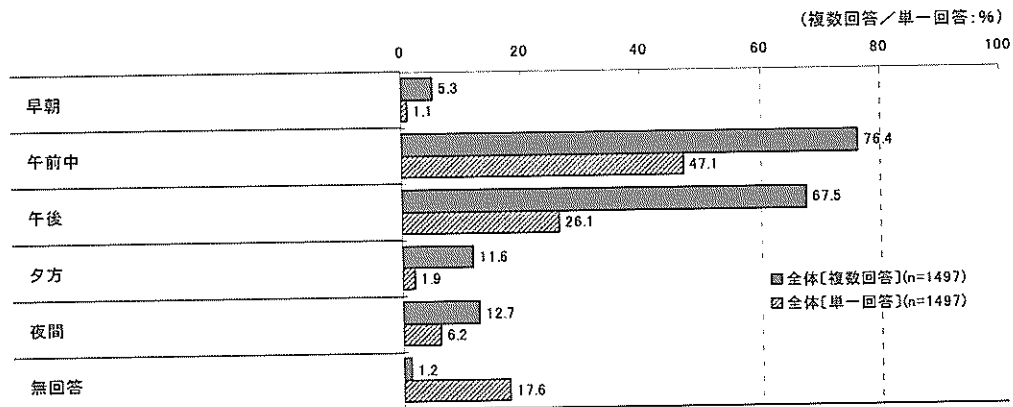
図表 3-2-1 ボランティア活動の曜日パターン(全体)



(3) 活動時間帯

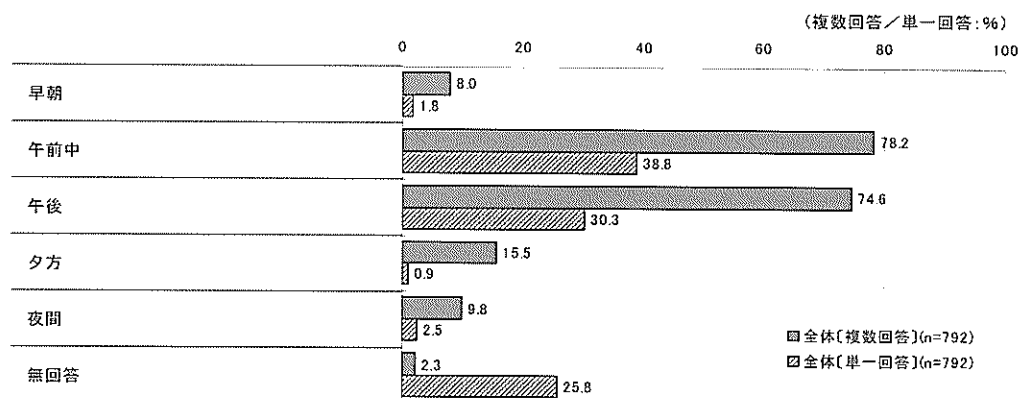
1. 平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

図表 3-3-1 平日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯(全体)



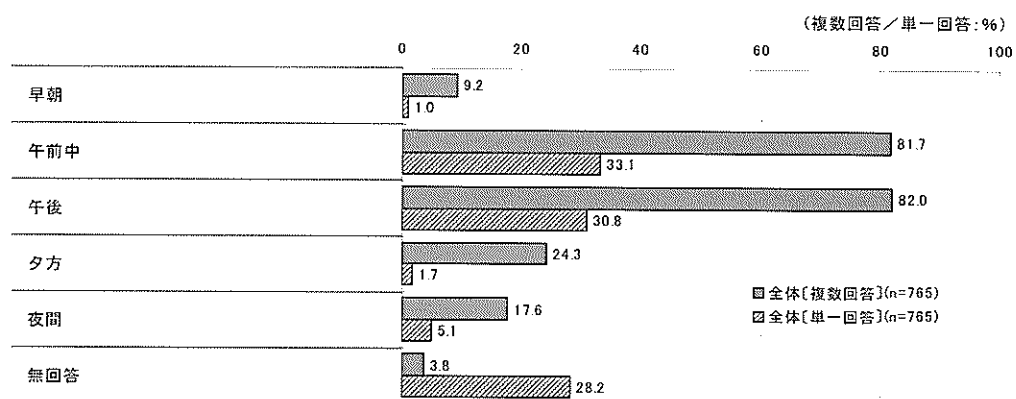
2. 休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯

図表 3-3-2 休日に活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈全体〉



3. 曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯

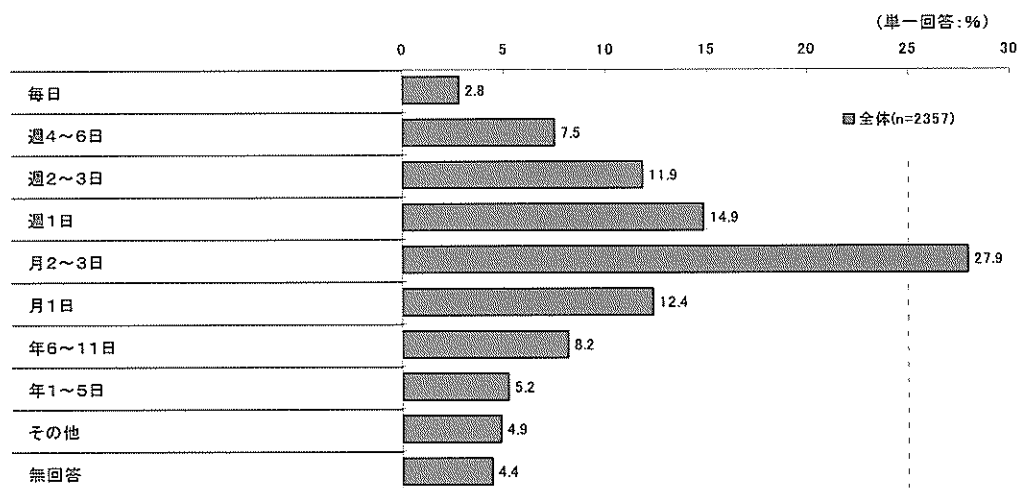
図表 3-3-3 曜日に関係なく活動を行っている団体・グループの活動時間帯〈全体〉



(4) 活動の頻度

1. 活動の頻度

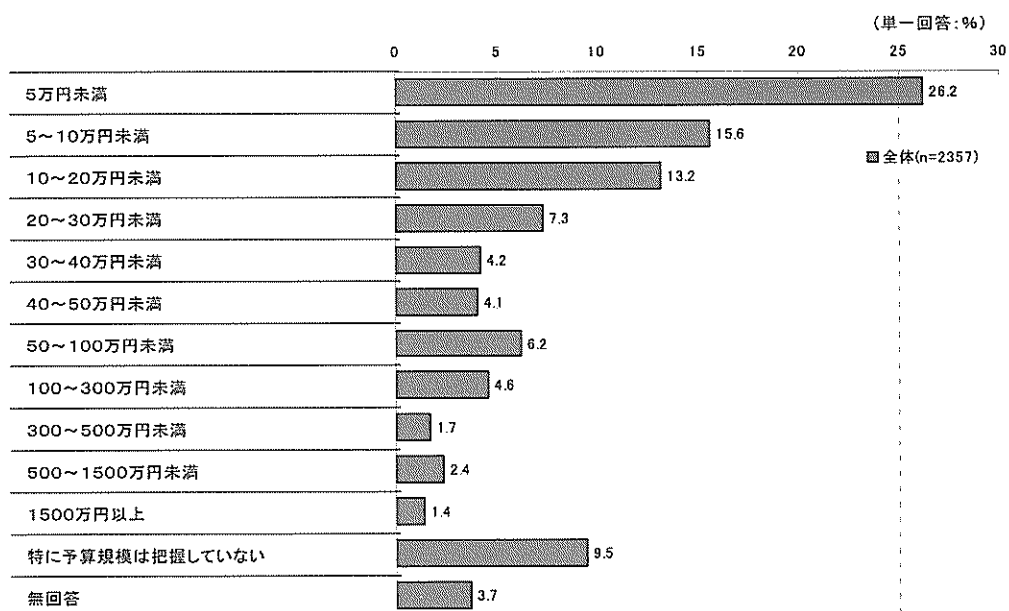
図表 3-4-1 活動の頻度<全体>



(5) 活動の予算

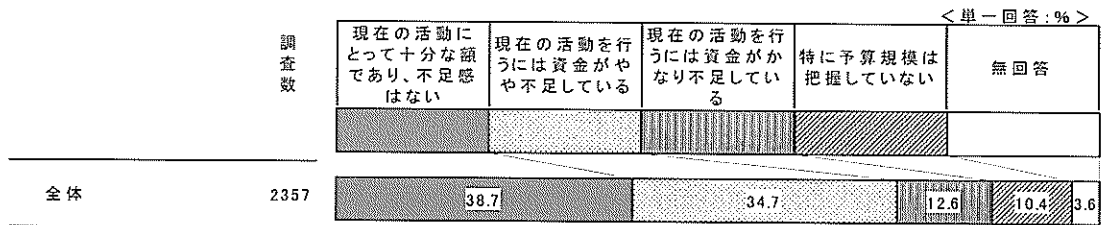
1. 年間予算規模

図表 3-5-1 年間予算規模<全体>



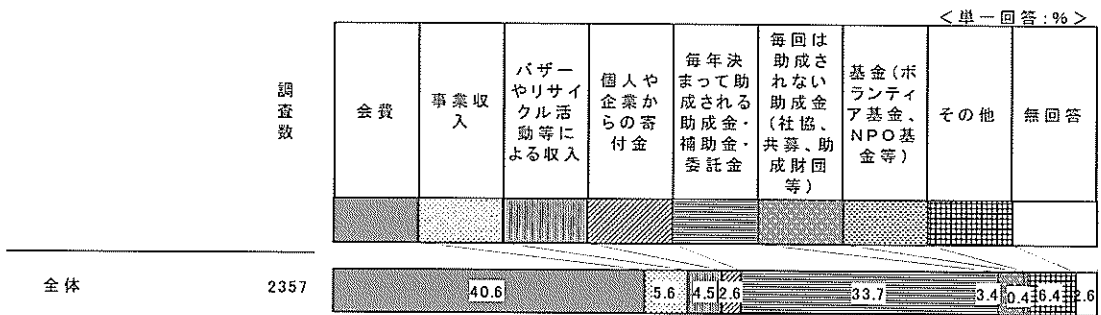
2. 予算規模の適正感

図表 3-5-2 予算規模の適正感<全体>



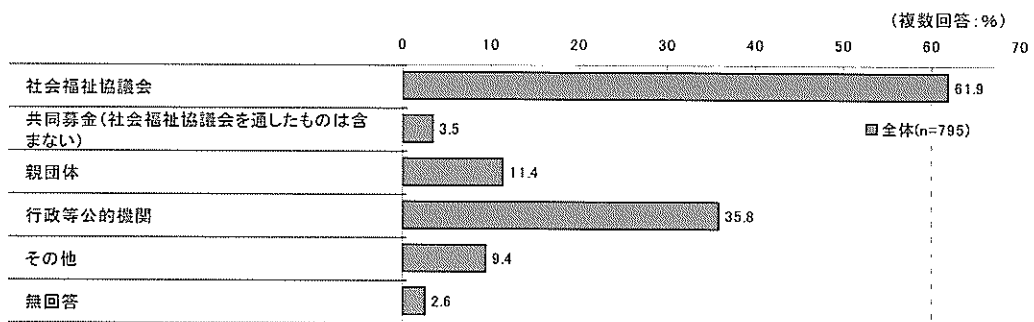
3. 活動経費の主な収入源

図表 3-5-3 活動経費の主な収入源<全体>



4. 助成団体・機関

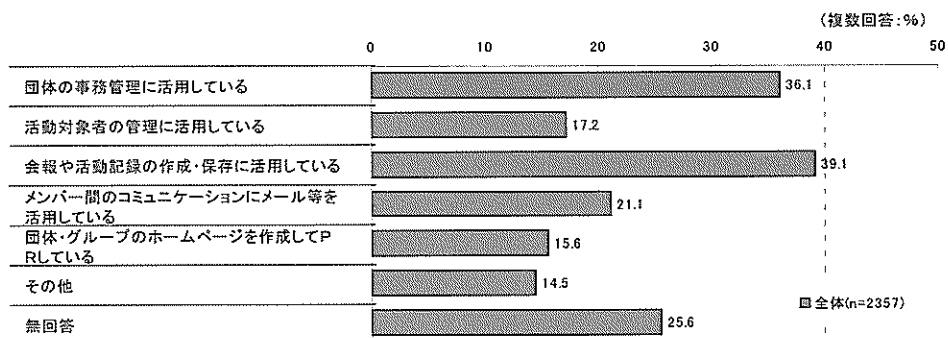
図表 3-5-4 助成団体・機関<全体>



(6) 運営における IT 化

1. 情報技術の活用状況

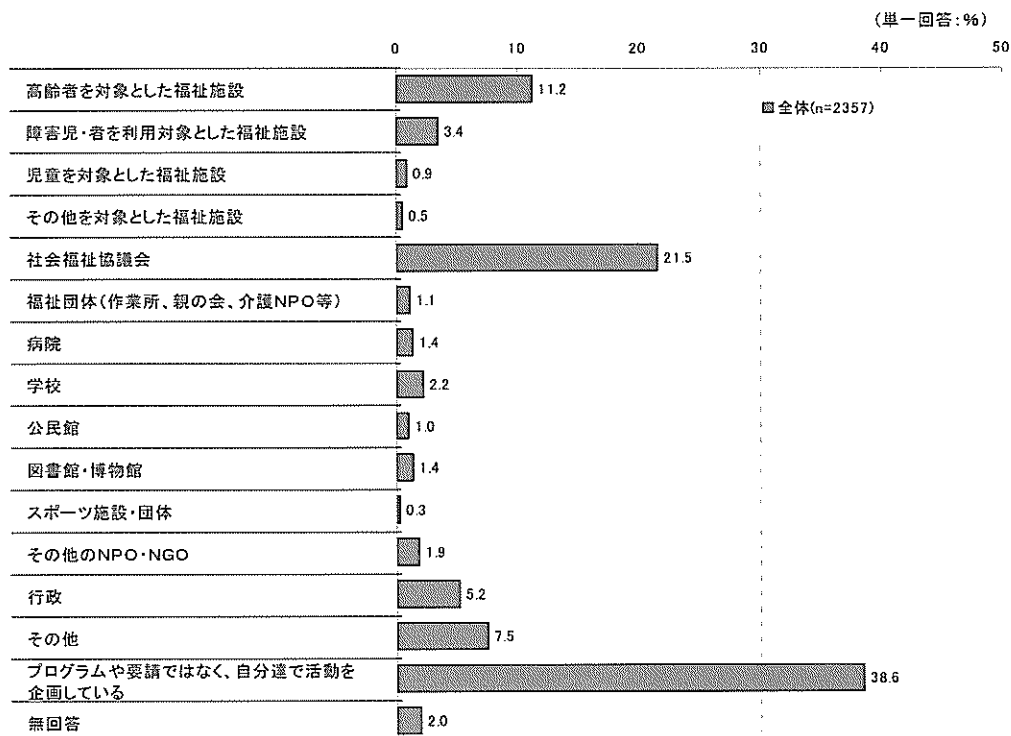
図表 3-6-1 情報技術の活用状況<全体>



(7) 活動プログラムと支援団体

1. 活動プログラムの提供元組織

図表 3-7-1 活動プログラムの提供元組織<全体>



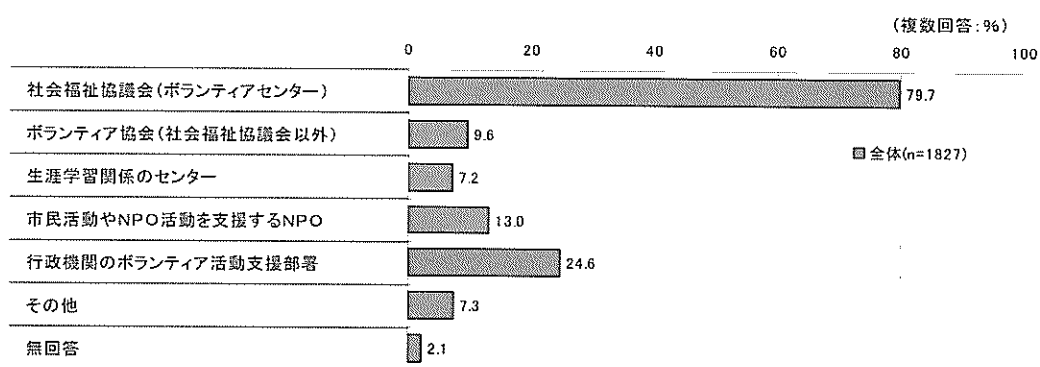
2. ボランティア活動支援機関の利用状況

図表 3-7-2 ボランティア活動支援機関の利用状況(全体)

調査数	<単一回答: %>		
	利用している	利用していない	無回答
全体 2357	77.5	19.2	3.3

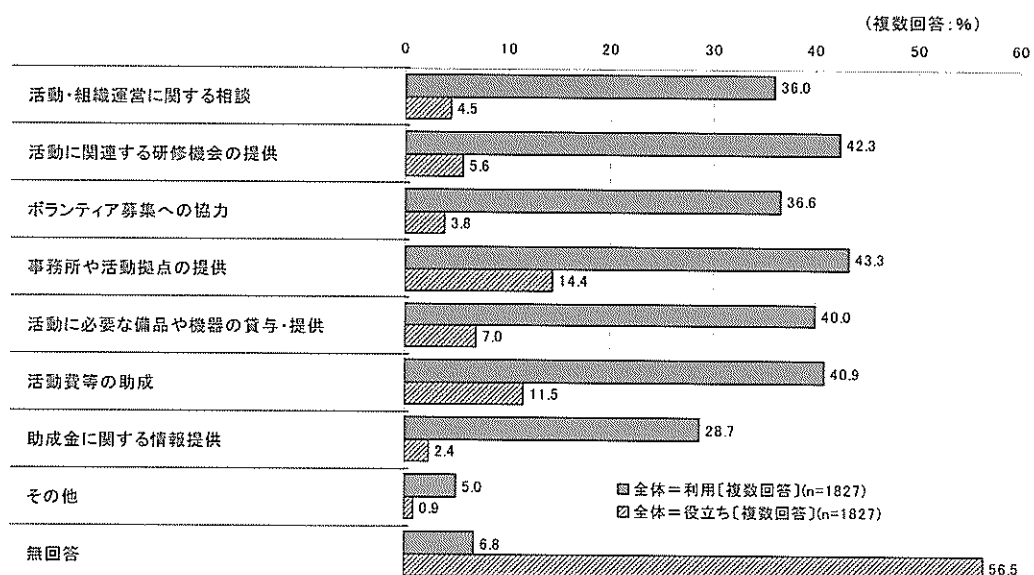
3. ボランティア活動支援機関

図表 3-7-3 ボランティア活動支援機関(全体)



4. 利用している/役立っているボランティア活動支援機関のサービス

図表 3-7-4 利用している/役立っているボランティア活動支援機関のサービス(全体)



5. 期待しているボランティア活動支援機関のサービス

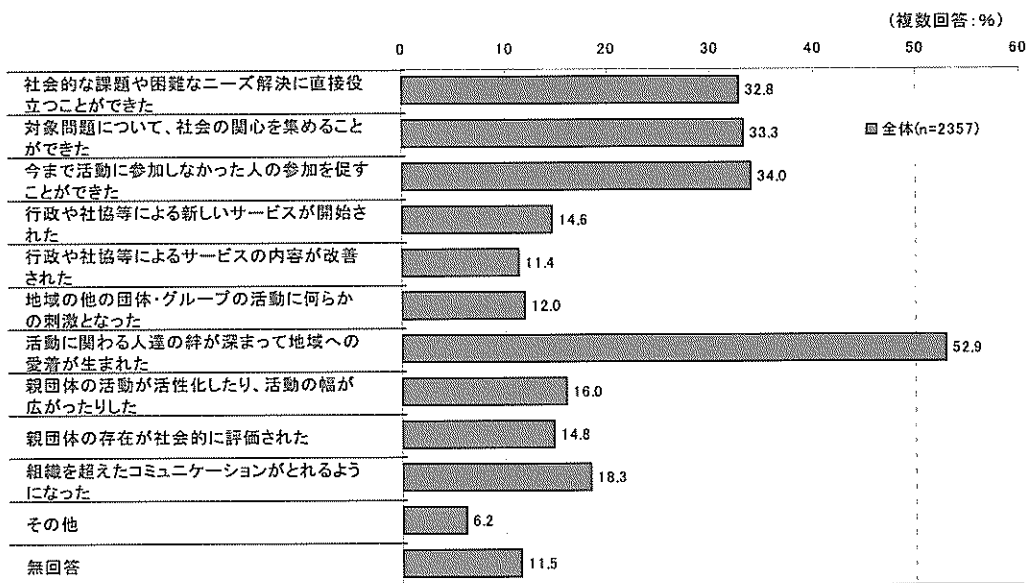
図表 3-7-5 期待している支援機関のサービス<全体>

調査数	<単一回答：％>														
	談 話 に 関 する 相 違	活 動 ・ 組 織 運 営	提 供 の 研 修 機 会	活 動 に 関 連 す る	募 集 へ の 協 力	ボ ラ ン テ ィ ア	拠 点 の 提 供	事 務 所 や 活 動	貸 与 ・ 提 供	備 品 や 機 器 の	活 動 に 必 要 な	成 績	活 動 費 等 の 助 成	助 成 金 に 関 する 情 報 提 供	そ の 他
全体	1827	7.8	11.5	7.8	13.8	6.5	26.1	4.1	1.8	20.5					

(8) 活動に対する自己評価

1. 活動の社会的効果

図表 3-8-1 活動の社会的効果<全体>

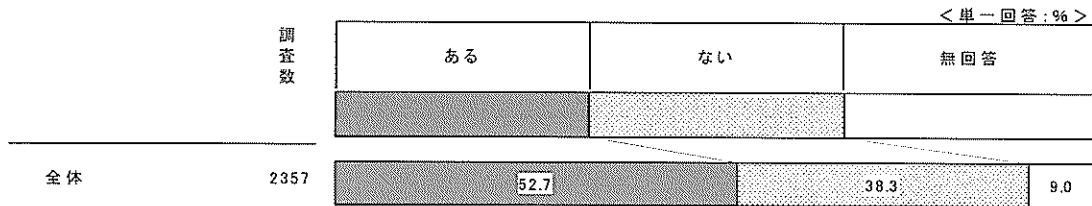


4. ボランティア活動の課題

(1) 活動における苦勞

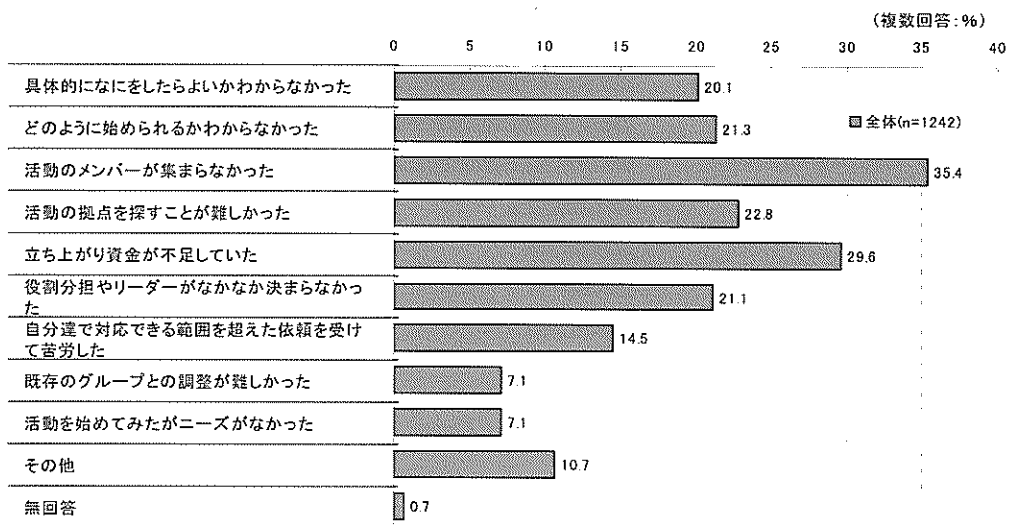
1. 苦勞の有無

図表 4-1-1 苦勞の有無<全体>



2. 苦勞の内容

図表 4-1-2 苦勞の内容<全体>



(2) 活動継続の意向

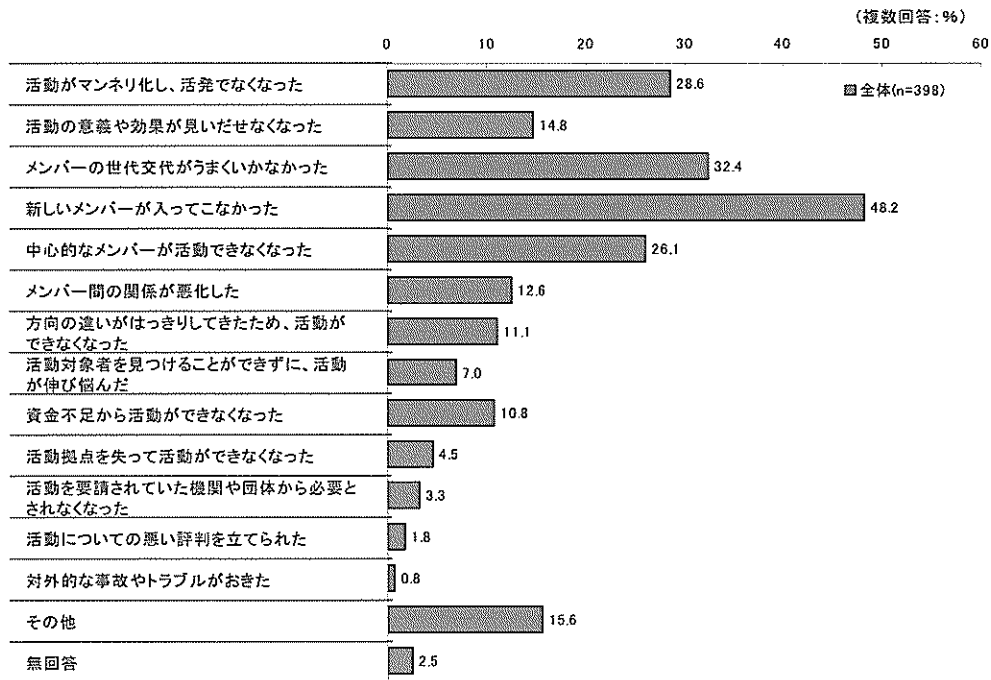
1. 中断意向の有無

図表 4-2-1 中断意向の有無(全体)

		＜単一回答：％＞		
	調査数	ある	ない	無回答
全体	2357	16.9	75.1	8.0

2. 中断意向の理由

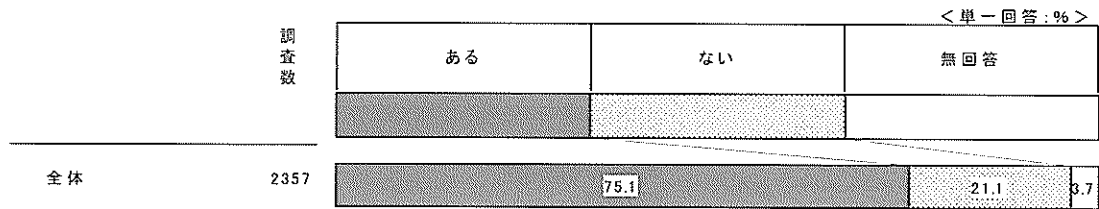
図表 4-2-2 中断意向の理由(全体)



(3) 活動実施のうえでの課題

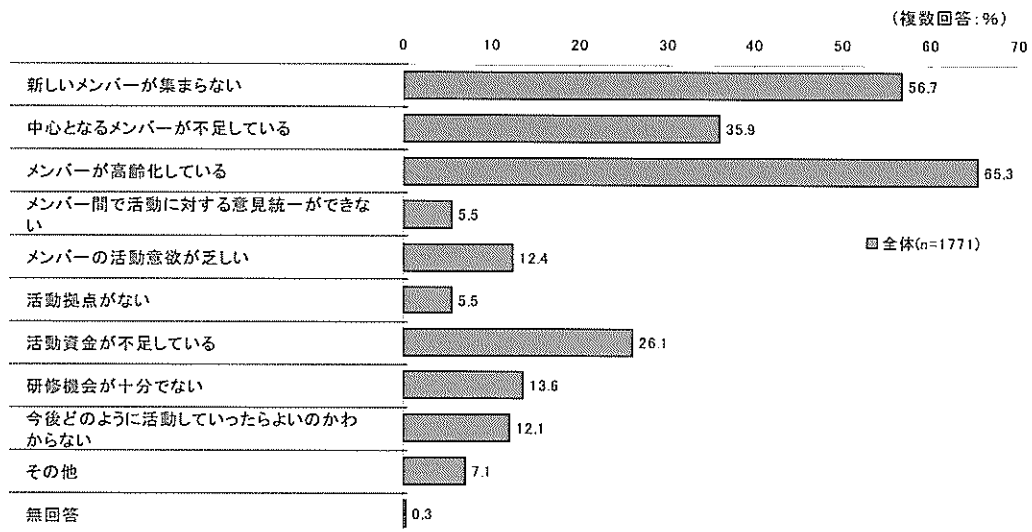
1. 活動における困難の有無

図表 4-3-1 活動における困難の有無<全体>



2. 困難の内容

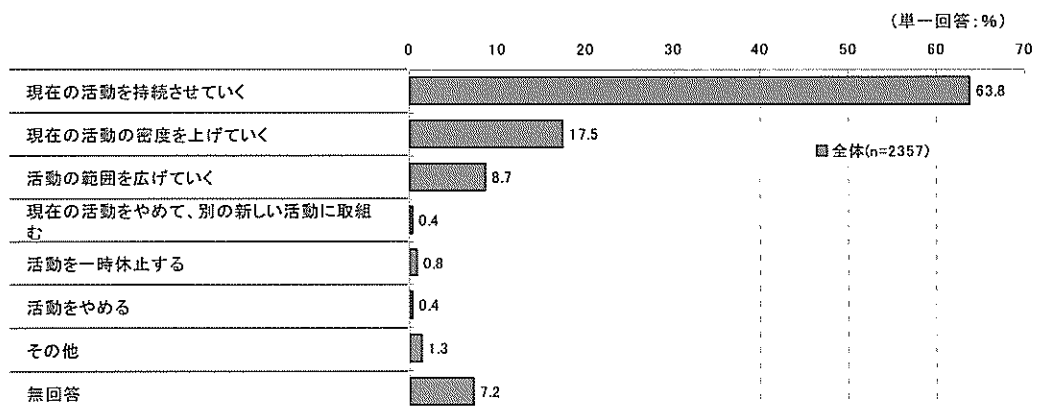
図表 4-3-2 困難の内容<全体>



5. 今後の活動方針

(1) 今後の活動意向と方針

図表 5-1-1 今後の活動意向と方針〈全体〉



パートでロテの看護士で働くこと

勤務の（各答回）看護士満足度（r）

V-2. ボランティア個人対象調査 〈全体値図表編〉

<表 回答一覧>

項目名	項目	項目	項目
10	100	100	100

<表 回答一覧>

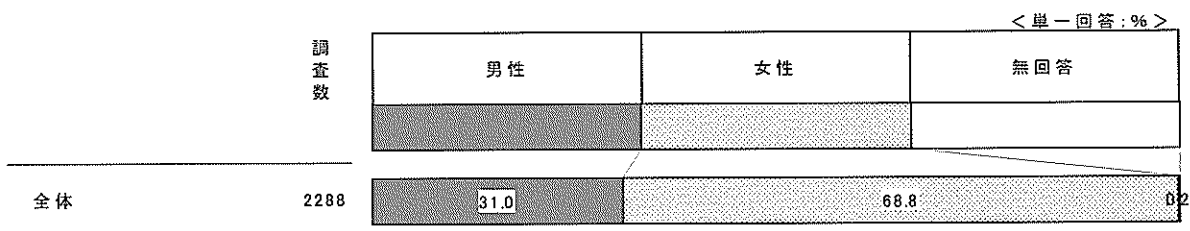
項目名	項目	項目	項目	項目	項目	項目	項目	項目
10	100	100	100	100	100	100	100	100

1. ボランティア活動者のプロフィール

(1) 活動参加者（回答者）の属性

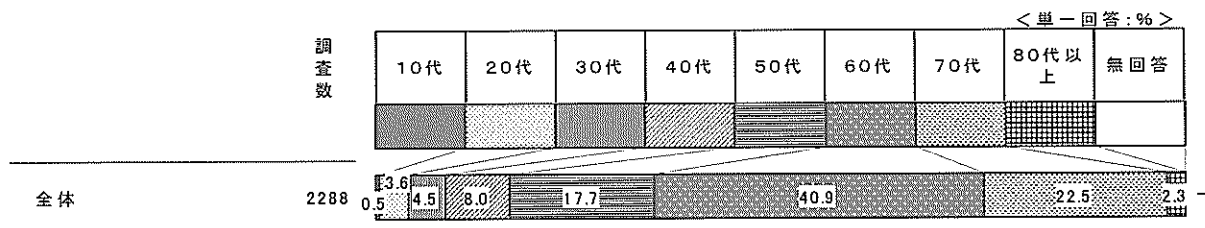
1. 性別

図表個 1-1-1 性別<全体>



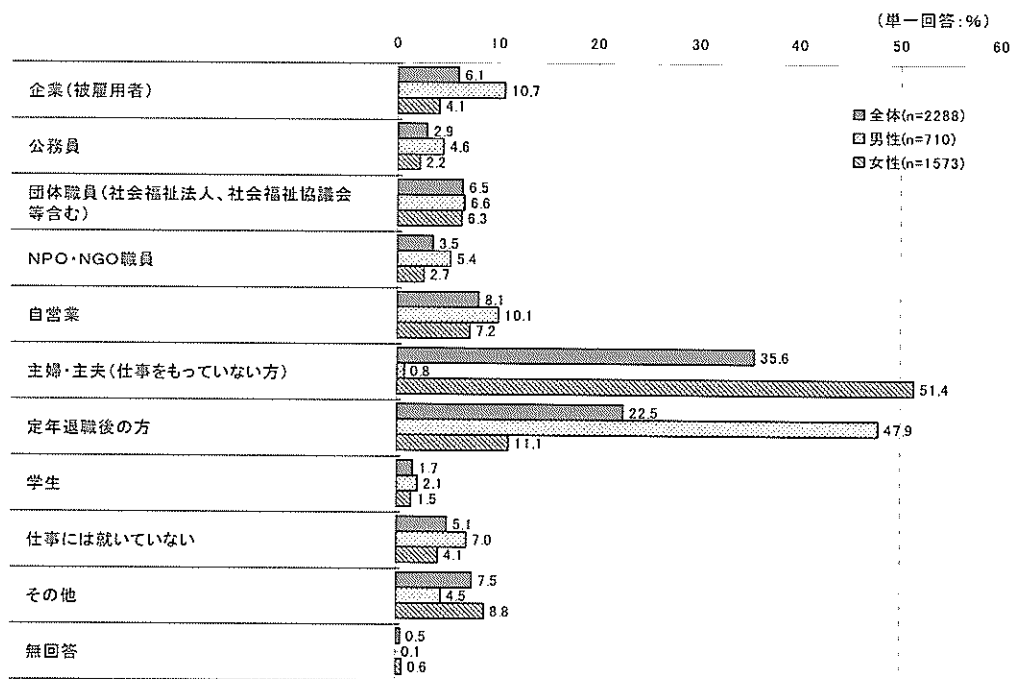
2. 年齢

図表個 1-1-2 年齢<全体>



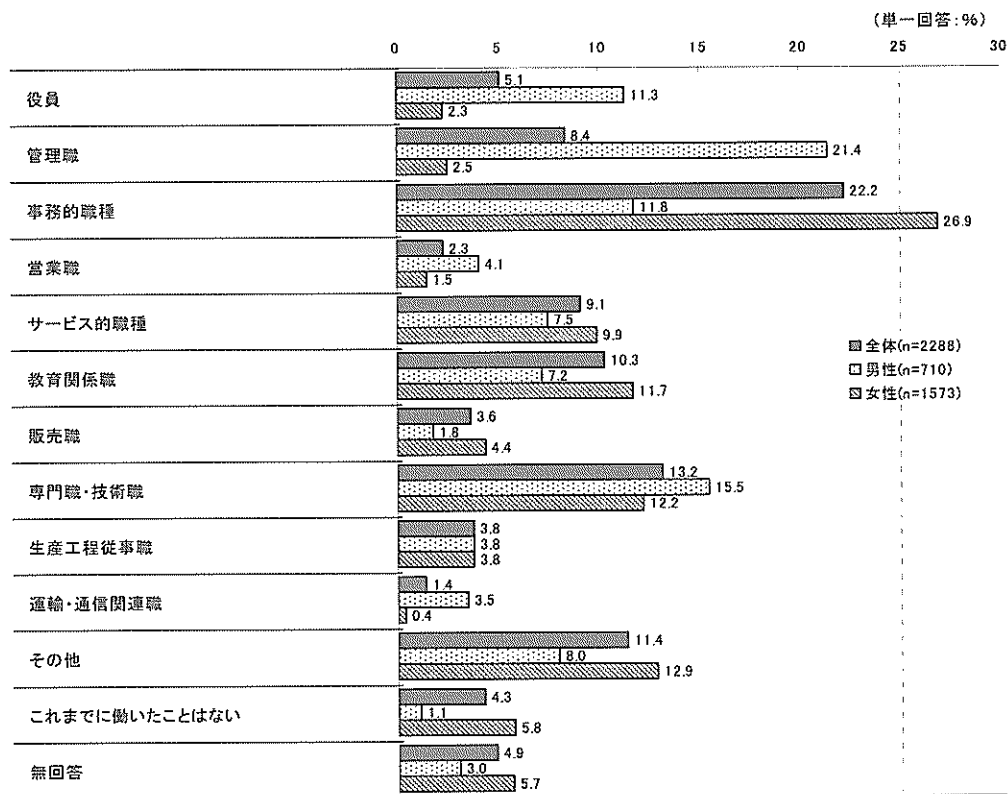
3. 職業

図表個 1-1-3 職業〈全体／性別〉



4. 職種

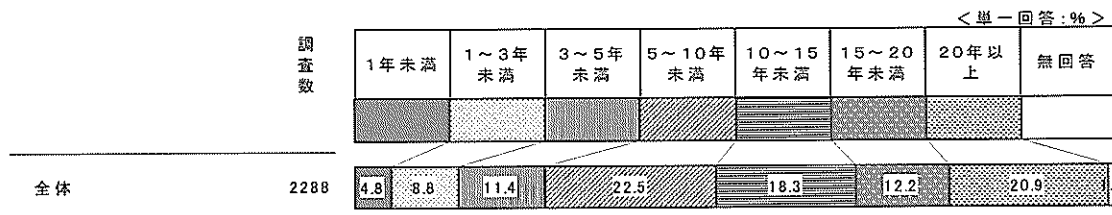
図表個 1-1-4 職種<全体/性別>



(2) ボランティア活動歴

1. 初めてボランティア活動をしてからの期間

図表個 1-2-1 ボランティア活動歴<全体>

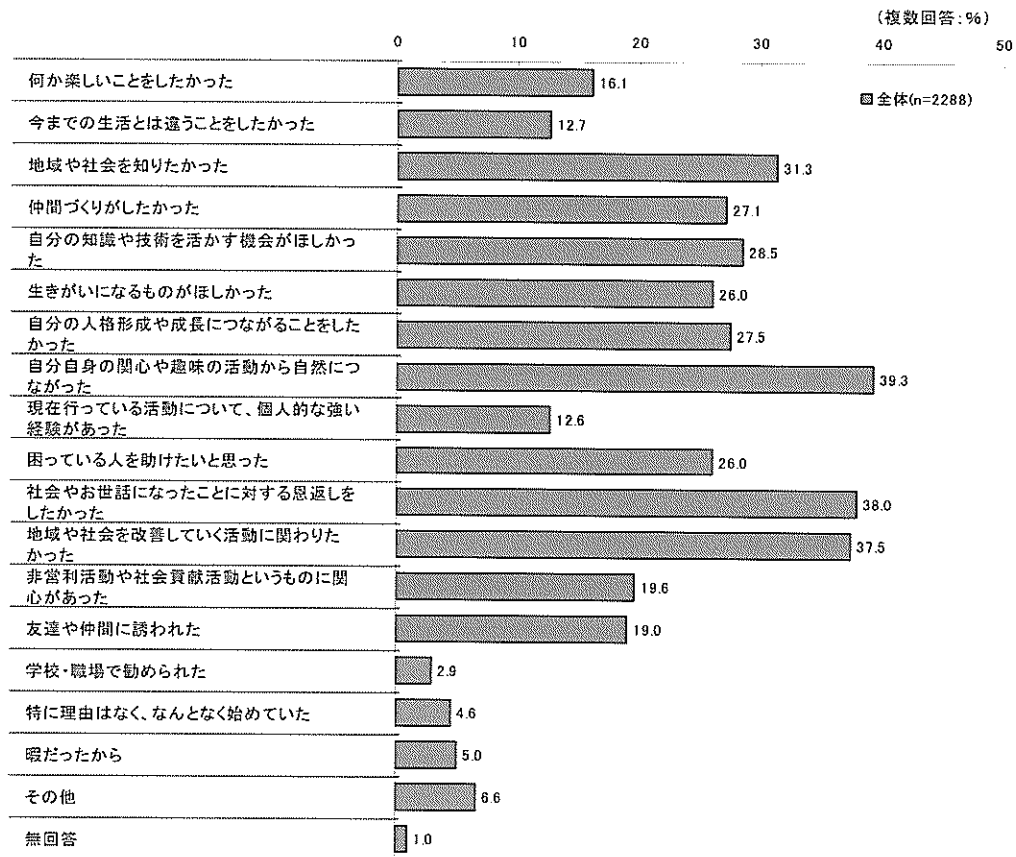


2. ボランティア活動の現状

(1) ボランティア活動参加の動機

1. ボランティア活動に参加した理由

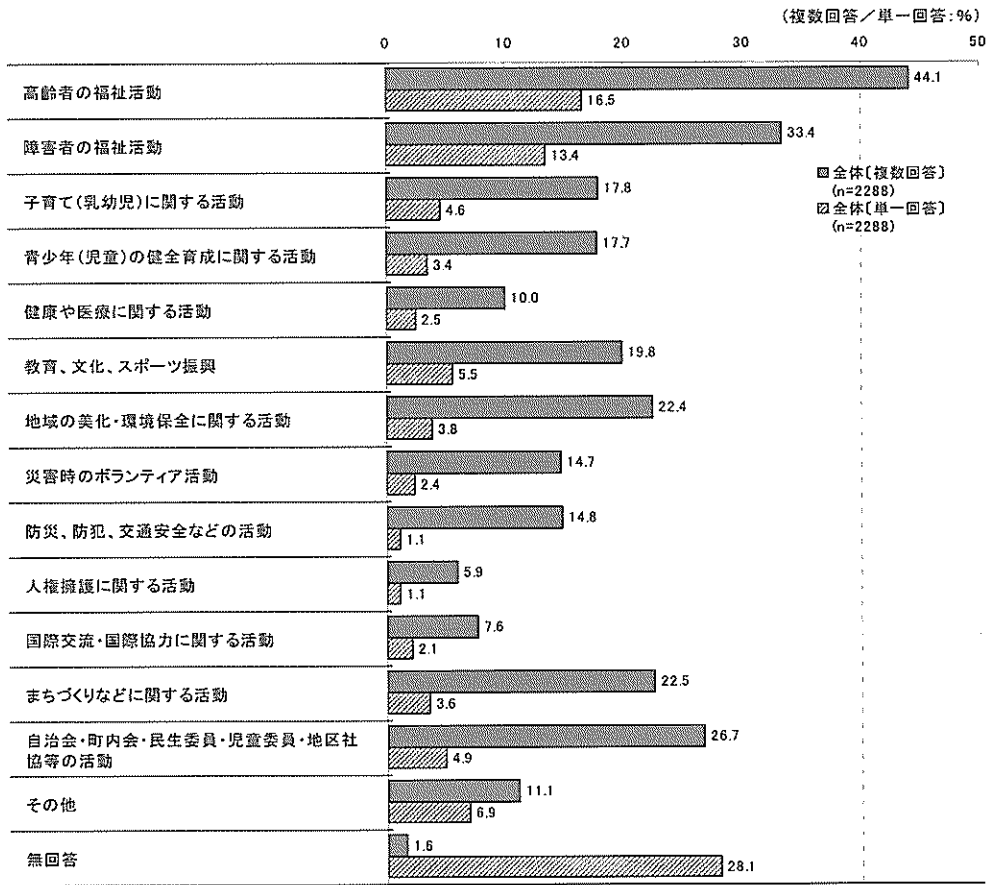
図表個 2-1-1 ボランティア活動参加の動機(全体)



(2) 活動の分野

1. ボランティア活動の分野

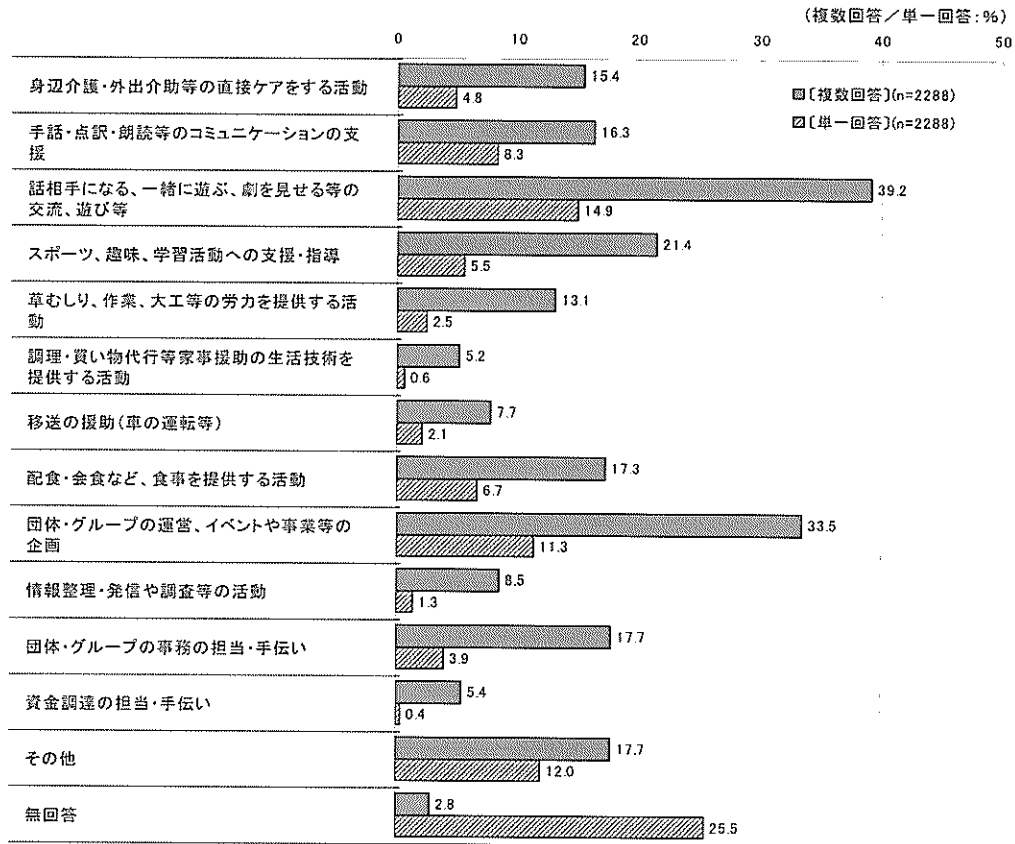
図表個 2-2-1 主なボランティア活動の分野<全体/複数回答/単一回答>



(3) 活動の内容

1. 行っている具体的な活動

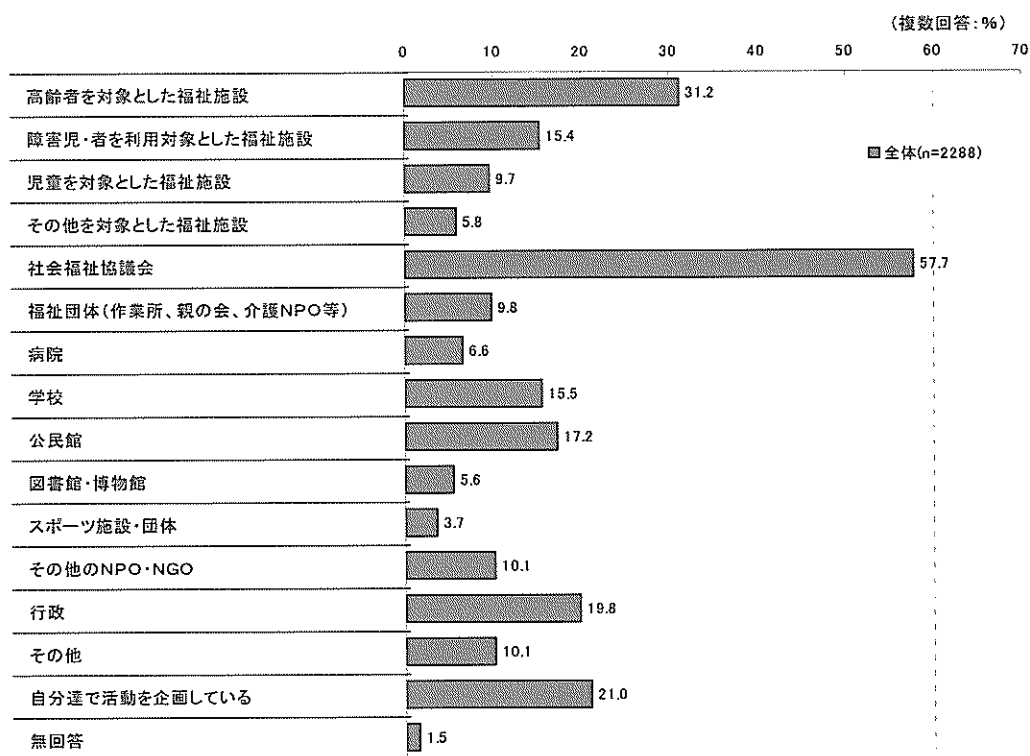
図表個 2-3-1 行っている主な具体的な活動<全体/複数回答/単一回答>



(4) 参加プログラムの実施主体

1. 参加プログラムの実施施設や機関

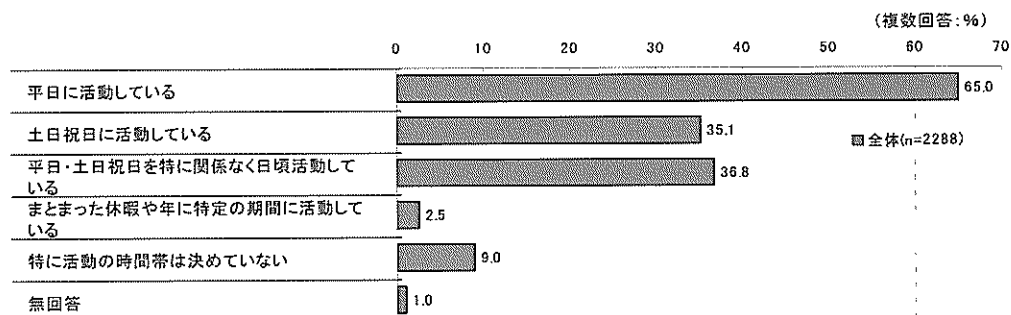
図表個 2-4-1 参加プログラムの実施施設や機関〈全体〉



(5) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

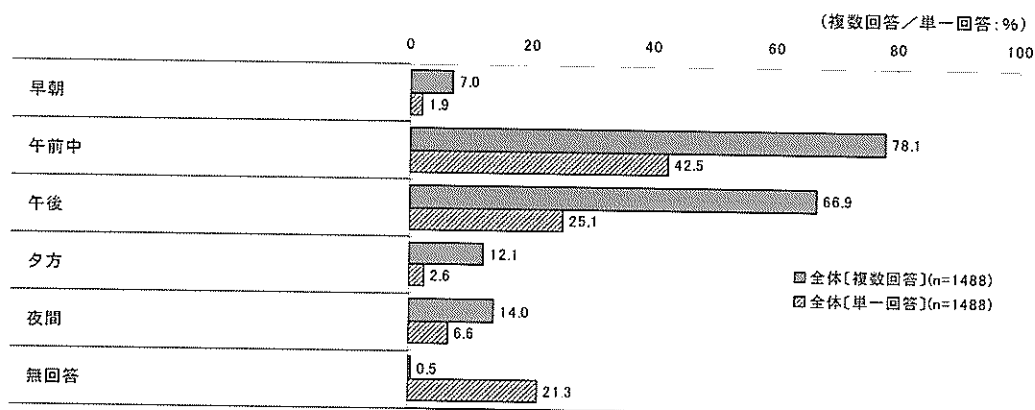
図表個 2-5-1 ボランティア活動の曜日パターン〈全体〉



(6) 活動時間帯

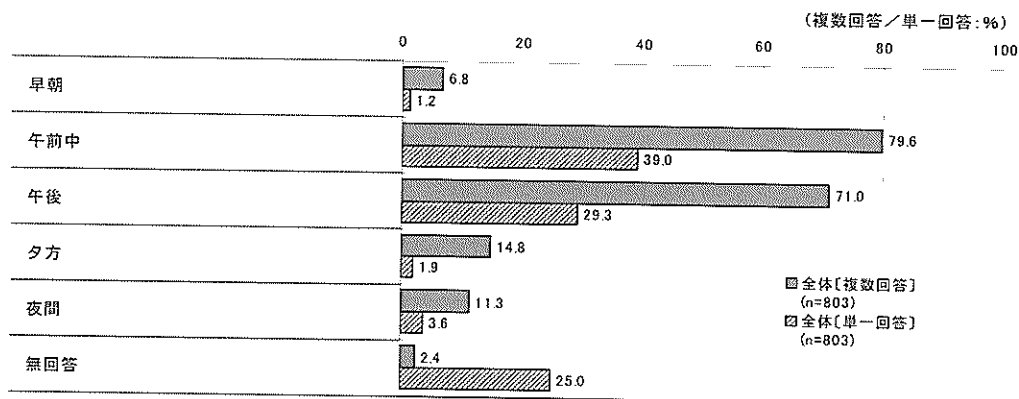
1. 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

図表個 2-6-1 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯<全体/複数回答/単一回答>



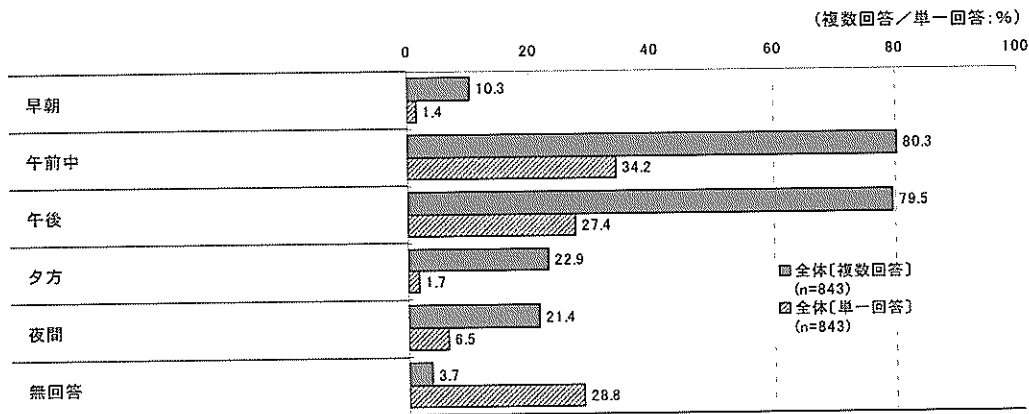
2. 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

図表個 2-6-2 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯<全体/複数回答/単一回答>



3. 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯の時間帯

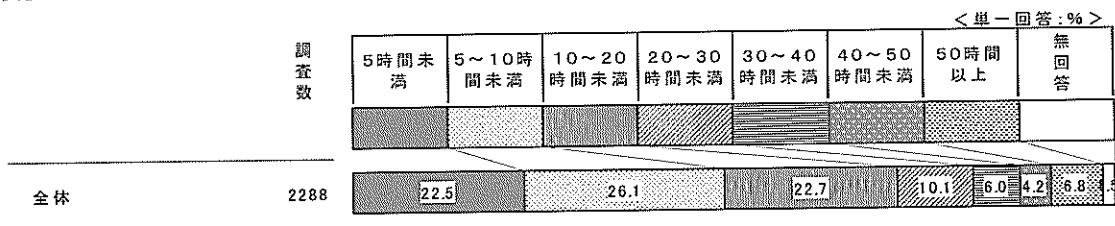
図表個 2-6-3 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯の時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



(7) 活動の頻度

1. 1か月のボランティア活動時間

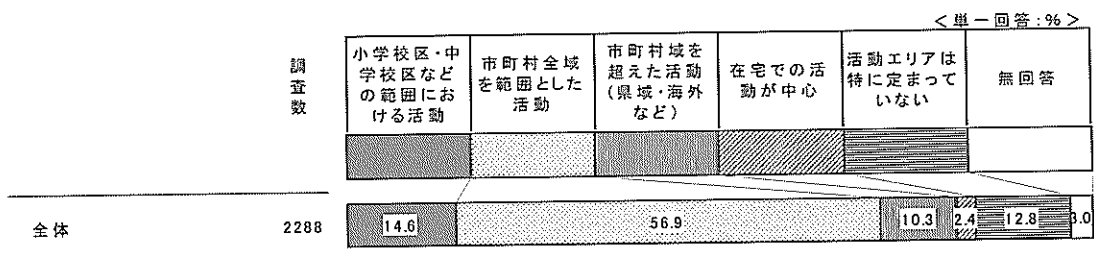
図表個 2-7-11か月のボランティア活動時間〈全体〉



(8) 活動のエリア

1. ボランティア活動を行っているエリア

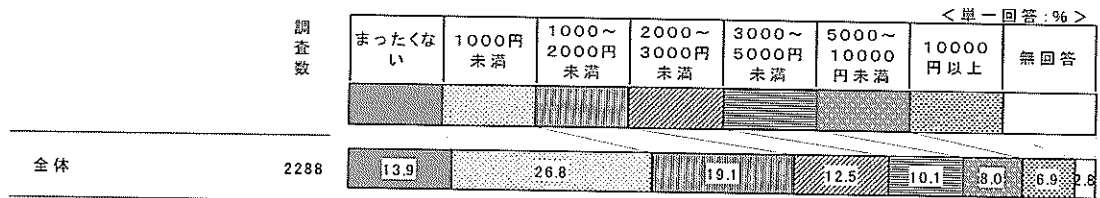
図表個 2-8-1 ボランティア活動を行っているエリア〈全体〉



(9) 活動経費

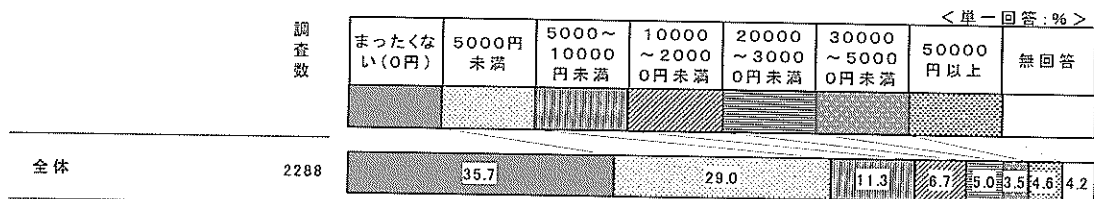
1. 日頃の活動に要する支出金額

図表個 2-9-1 日頃の活動に要する支出金額(全体)



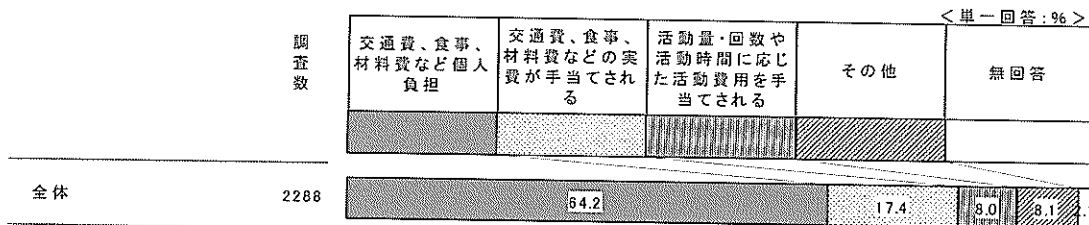
2. まとまった大きな支出金額

図表個 2-9-2 まとまった大きな支出金額(全体)



3. ボランティア活動に対する手当

図表個 2-9-3 ボランティア活動に対する手当(全体)



3. ボランティア活動推進の課題

(1) ボランティア活動推進の課題

1. ボランティアセンターの利用方法

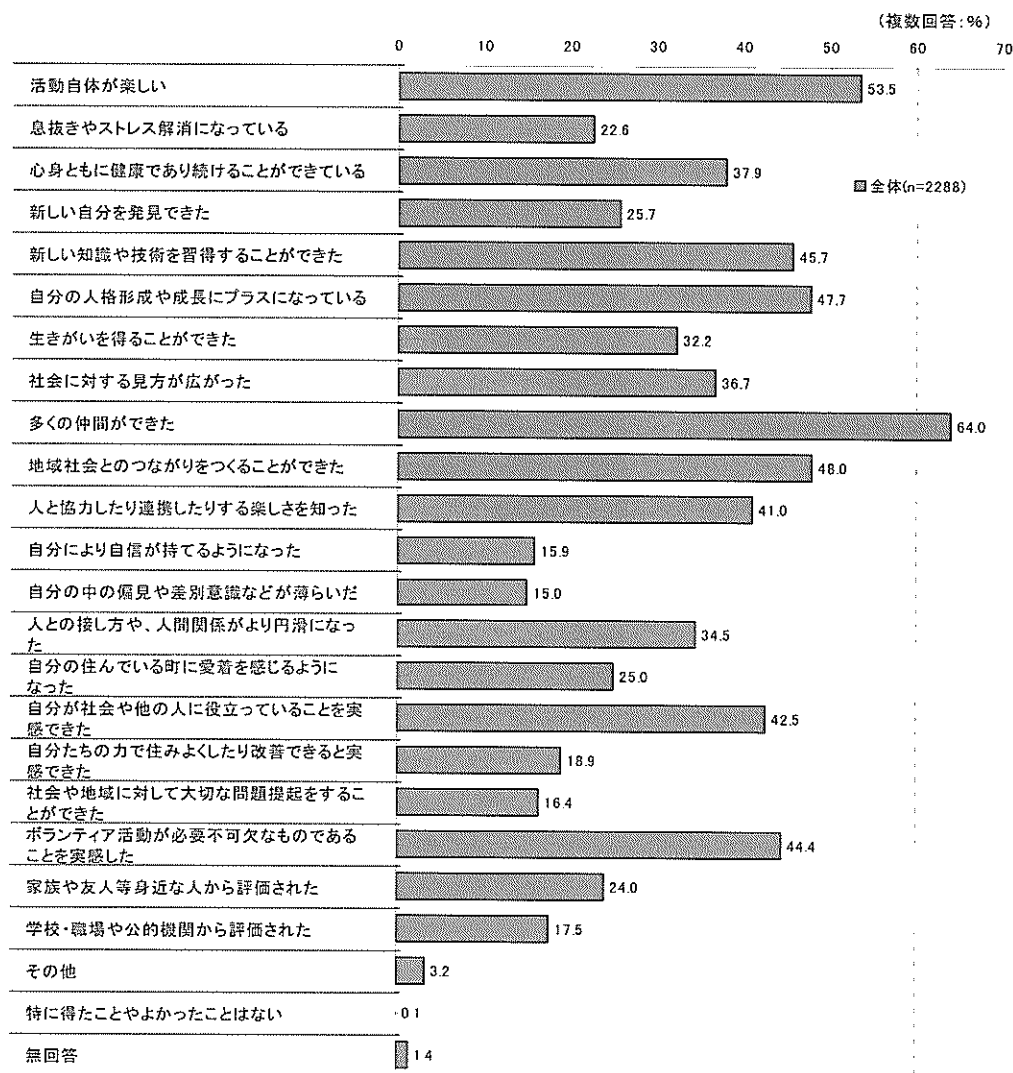
図表個 3-1-1 ボランティアセンターの利用方法<全体>

<単一回答:96>

調査数	頻りに職員 やスタッフと 話をしたり、 相談したりし ている	月に1回以上 はボランティア センターに 行っている	年に数回程 度、ときどき ボランティア センターに 行っている	あまりボラン ティアセン ターに行くこ とはない	センターに 行ったこと や、職員等と 話をしたこと はない	無回答
全体 2288	19.1	24.4	19.2	15.2	17.0	5.2

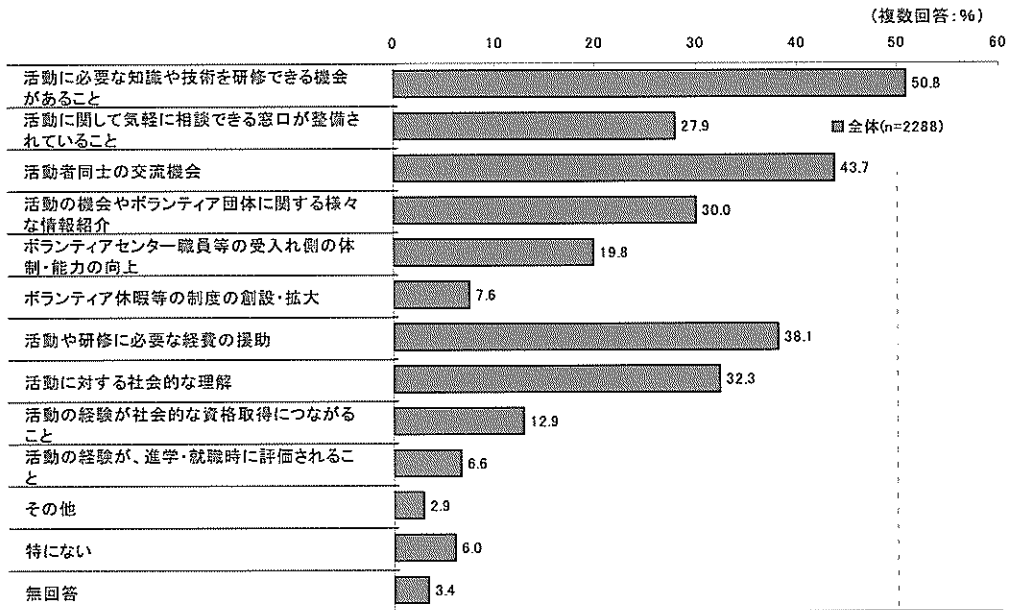
2. ボランティア活動で得られたこと

図表個 3-1-2 ボランティア活動で得られたこと〈全体〉



3. 望んでいる社会的支援や環境整備

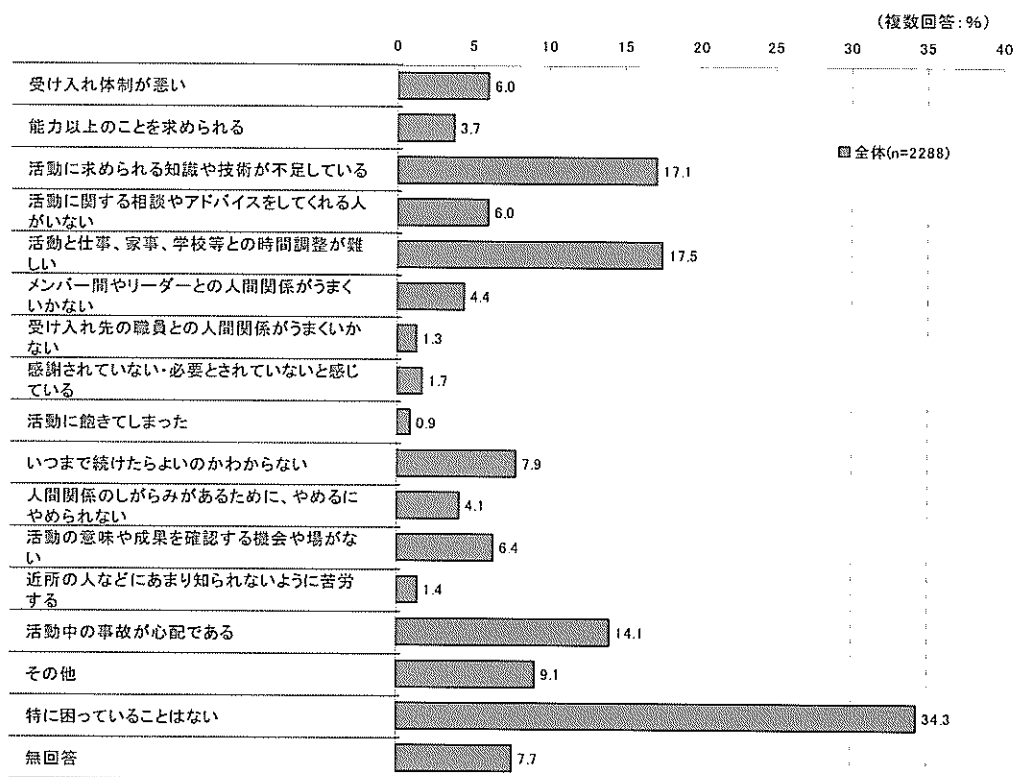
図表個 3-1-3 望んでいる社会的支援や環境整備〈全体〉



(2) ボランティア活動上の困難と今後の意向

1. ボランティア活動を行うにあたって困っていること

図表個 3-2-1 ボランティア活動を行うにあたって困っていること<全体>



2. ボランティア活動中断、休止の意向

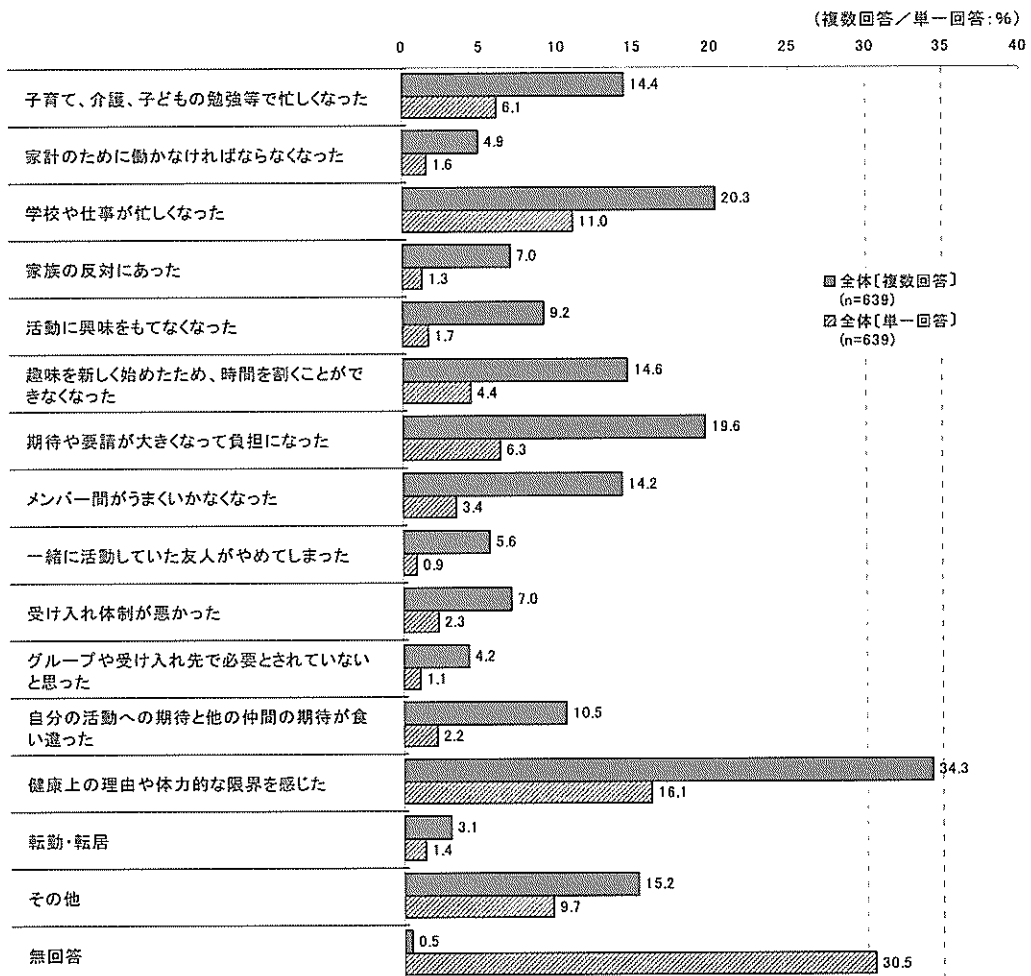
図表個 3-2-2 ボランティア活動中断、休止の意向<全体>

<単一回答: %>

調査数	ある	ない	無回答
全体 2288	27.9	63.4	8.7

3. 中断、やめたいと思った理由

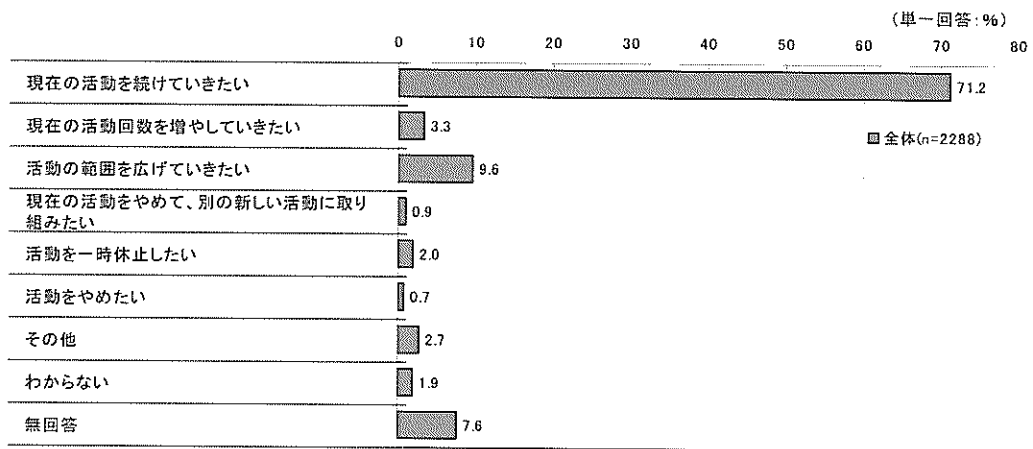
図表個 3-2-3 中断、やめたいと思った理由〈全体／複数回答／単一回答〉



4. 今後の活動への意向

(1) 今後の活動への意向

図表個 4-1-1 今後の活動への意向<全体>



【お願いのお願い】

大聞・有聞のバーコード付を調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。

VI. (資料編)

調査票

バーコード・有聞のバーコード付を調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。

調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。

調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。

調査票(バーコード付)	調査票(バーコード付)
-------------	-------------

調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。

- 1. お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。(1問)
- 2. お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。(1問)
- 3. お願いのお願いは、調査票(バーコード付)の全国へは、全国労働組合連合会が全国へお送りいたします。(1問)

ボランティア組織向けアンケート調査票（団体用）

【調査へのご協力をお願い】

このたび、全国社会福祉協議会では、全国のボランティア活動を行っている団体・個人の多様な活動内容・形態等を調査・把握し、今後のボランティア活動推進のための課題を探ることを目的として、実態調査を行うこととなりました。お手数をおかけしますが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

- ◆本調査の実施・協力団体が機械的にサンプル抽出した結果、回答者の一人として貴団体・グループが選ばれておりますので、ご了承ください。
- ◆ご回答は、各設問にそってお願いします。なお、時点は「平成 21 年 9 月末日現在」を原則としています。この時点の情報がわからない場合は、それ以前の直近で把握できている時点のものでお答えください。
- ◆回答が終わりましたら、同封の返信用封筒にて、平成 22 年 1 月 12 日までに投函ください。切手は不要です。
- ◆この調査結果は統計的に処理・分析いたしますので、貴団体・グループの情報が公表されることは一切ありません。
- ◆ご不明な点については、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

<調査の設問や回答方法等に関するお問い合わせ>

調査委託機関 (株)アクロス 金子・藤波
電話：03 - 5822 - 0311 電子メール：inquiry@across-net.co.jp

<調査の趣旨や実施体制等に関するお問い合わせ>

全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター 園崎
(電話：03 - 3581 - 4656)

貴団体・グループが所在する市区町村名をお書きください。

都・道 府・県	市・区 町・村
------------	------------

問1 貴団体・グループは、ボランティア活動を主たる目的とした団体ですか。当てはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. もともとボランティア活動を主目的とした団体・グループである
(→問 2 へ)
2. もともとは別の活動や事業をしていたが、ボランティア活動をするための団体・グループに分かれた
(→問 2 へ)
3. ボランティア活動を主目的としてはいないが、活動の一環としてボランティア活動を行っている
(→付問 1 へ)

問1 付問1 【活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループのみ】貴団体・グループの親団体はどれですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------|--------------|-------------------|
| 1. 自治会・町内会 | 2. 青年会・青年団 | 3. 婦人会・女性会、地域婦人団体 |
| 4. 老人クラブ | 5. 生協 | 6. 農協・漁協 |
| 7. 商工団体・ロータリークラブ・ライオンズクラブ | | 8. 子ども会・PTA・父母の会 |
| 9. 趣味の会・グループ | 10. 当事者組織(注) | 11. 企業・労組・OB/OGの会 |
| 12. 政治団体 | 13. 宗教団体 | 14. その他の団体 |

注：当事者組織とは、高齢者・障害者団体、患者団体、介護者の会などをさします。

以下の設問について、活動の一環としてボランティア活動を行っている団体・グループの方は、ボランティア活動に関する部分についてお答えください。

問2 貴団体・グループの活動年数は、平成21年9月末日現在で何年になりますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1. 5年未満 | 2. 5～10年未満 | 3. 10～15年未満 |
| 4. 20～25年未満 | 5. 25年以上 | |

問3 貴団体・グループのメンバーは何人ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1. 10人未満 | 2. 10～20人未満 | 3. 20～30人未満 |
| 4. 30～50人未満 | 5. 50～100人未満 | 6. 100人以上 |

問4 貴団体・グループがボランティア活動を行っているエリアについて、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。(複数のエリアでボランティア活動を行っている場合は、最も時間を割いている活動についてお答えください)

- | |
|-------------------------|
| 1. 小学校区・中学校区などの範囲における活動 |
| 2. 市町村全域を範囲とした活動 |
| 3. 市町村域を超えた活動(県域・海外など) |
| 4. 在宅での活動が中心 |
| 5. 活動エリアは特に定まっていない |

問5 貴団体・グループの代表者の年齢・性別・職業についてお答えください。

(1) 年齢は何歳ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | | |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 |
| 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代以上 | | |

(2) 性別はどちらですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

(3) 職業はどちらですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1. 学生 | 2. 自営業 | 3. 企業や団体等にはほぼ毎日フルタイムで勤めている |
| 4. 毎日のフルタイムではなく、週に何度か働いている | 5. 定年退職後 | |
| 6. 無職(これまでにフルタイムで働いた経験はない) | | |
| 7. 無職(これまでにフルタイムで働いた経験がある) | 8. その他 | |

(4) 代表になってから通算で何年たっていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|----------|--|
| 1. 2年未満 | 2. 2～3年未満 | 3. 3～5年未満 | | |
| 4. 5～10年未満 | 5. 10～15年未満 | 6. 15～20年未満 | 7. 20年以上 | |

問6 貴団体のメンバーの状況についておたずねします。

(1) メンバーの年齢層をお答えください。当てはまる番号にいくつでも○をつけ、そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

- | | | | | |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 |
| 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代以上 | | |

(2) メンバーの職業をお答えください。当てはまる番号にいくつでも○をつけ、そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 企業(被雇用者) | 2. 公務員 |
| 3. 団体職員(社会福祉法人、社会福祉協議会等含む) | 4. NPO・NGO職員 |
| 5. 自営業 | 6. 主婦・主夫(仕事をもっていない方) |
| 7. 定年退職後の方 | 8. 学生 |
| 9. 現在求職中で仕事には就いていない | |
| 10. その他() | |

(3) メンバーは1年前と比べて増えていますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 増えている | 2. 減っている | 3. 変わらない |
|----------|----------|----------|

問7 貴団体・グループを立ち上げたメンバーには共通点がありますか。当てはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---|---------------------|------------|
| 1. 子育てを助け合った仲間 | 2. 介護や看病を経験した仲間 | 3. 趣味が同じ仲間 |
| 4. PTA活動で一緒だった仲間 | 5. 自主的な学習活動の仲間 | |
| 6. 親団体から分かれた仲間 | 7. ある研修や講座で一緒に学んだ仲間 | |
| 8. 起業したいと考えていた仲間 | 9. 同じ学校の仲間 | 10. 職場の同僚 |
| 11. 障害者や難病患者など当事者の助け合いや運動をする仲間 | | |
| 12. ボランティア活動を推進する、あるいは受け入れる機関の呼びかけで集まった人達 | | |
| 13. 同じ活動先で出会った仲間 | 14. 近所に住む者同士 | 15. その他 |
| 16. 共通点はない | | |

問8 貴団体・グループが現在行っているボランティア活動はどのような分野の活動ですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

1. 高齢者の福祉活動(高齢者の話し相手や介護、送迎等車の運転など)
2. 障害者の福祉活動(障害者の介護、手助けや手話・点訳など)
3. 子育て(乳幼児)に関する活動(子育てサロンや乳幼児の保育・世話など)
4. 青少年(児童)の健全育成に関する活動(不登校児童支援、児童の学習支援、体験学習)
5. 健康や医療に関する活動(病院や保健機関等でのボランティアなど)
6. 教育、文化、スポーツ振興(PTA 活動、少年野球のコーチ、社会人講師、おまつり、郷土芸能の保存、郷土の歴史編纂など)
7. 地域の美化・環境保全に関する活動(道路・公園や河川の美化・清掃、自然保護、リサイクルなど)
8. 災害時のボランティア活動(現地での活動、援助物資や資金の募集)
9. 防災、防犯、交通安全など、地域社会を暮らしやすくするための活動
10. 人権擁護に関する活動(DV・虐待防止、自殺防止、女性の抱える問題、差別撤廃など)
11. 国際交流・国際協力に関する活動(日本にいる外国人の支援、異文化交流、海外での地域開発・福祉活動など)
12. まちづくりなどに関する活動(まちづくり協議会・コミュニティ協議会等の活動など)
13. 自治会・町内会・区社協・福祉委員・子ども会等の活動
14. その他()

問9 貴団体・グループはいつボランティア活動をしていますか。該当する活動の曜日のパターンをいくつでも選び、それぞれについて当てはまる時間帯にすべて○を、そのうち主な時間帯には1つだけ◎をつけてください。

1. 平日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間)
2. 土日祝日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間)
3. 平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに◎をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間)
4. まとまった休暇や年に特定の期間に活動している
5. 特に活動の時間帯は決めていない

問10 定期的な活動を行っている団体・グループは、その頻度について当てはまる記号に1つだけ○をつけてください。定期的な活動を行っていない団体・グループは、平成20年度(平成20年4～21年3月)の1年間を平均するとおおよそどのような頻度になったかについて、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1. 毎日 | 2. 週4～6日 | 3. 週2～3日 |
| 4. 週1日 | 5. 月2～3日 | 6. 月1日 |
| 7. 年6～11日 | 8. 年1～5日 | 9. その他 |

問 11 貴団体・グループの活動は、ある決まった機関や団体のプログラムや要請にそって行われているものですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 高齢者を対象とした福祉施設 | 2. 障害児・者を利用対象とした福祉施設 |
| 3. 児童を対象とした福祉施設 | 4. その他を対象とした福祉施設 |
| 5. 社会福祉協議会 | 6. 福祉団体(作業所、親の会、介護 NPO 等) |
| 7. 病院 | 8. 学校 |
| 9. 公民館 | 10. 図書館・博物館 |
| 11. スポーツ施設・団体 | 12. その他の NPO・NGO |
| 13. 行政 | 14. その他() |
| 15. 決まった機関や団体のプログラムや要請ではなく、自分達で活動を企画している | |

問 12 貴団体・グループの昨年の予算規模について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|----------------|--------------------|
| 1. 5万円未満 | 2. 5～10万円未満 | 3. 10～20万円未満 |
| 4. 20～30万円未満 | 5. 30～40万円未満 | 6. 40～50万円未満 |
| 7. 50～100万円未満 | 8. 100～300万円未満 | 9. 300～500万円未満 |
| 10. 500～1,500万円未満 | 11. 1,500万円以上 | 12. 特に予算規模は把握していない |

問 13 この予算規模は、貴団体・グループの活動や運営にとって十分な額ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|----------------------------|
| 1. 現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない |
| 2. 現在の活動を行うには資金がやや不足している |
| 3. 現在の活動を行うには資金がかなり不足している |
| 4. 特に予算規模は把握していない |

問 14 貴団体・グループの主な収入源はなんですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|--|
| 1. 会費 | |
| 2. 事業収入 | |
| 3. バザーやリサイクル活動等による収入 | |
| 4. 個人や企業からの寄付金 | |
| 5. 毎年決まって助成される助成金・補助金・委託金 | |
| →それはどこからの助成金ですか。当てはまる番号に <u>いくつでも</u> ○をつけてください。 | |
| [a. 社会福祉協議会 b. 共同募金(社会福祉協議会を通したものは含まない)] | |
| [c. 親団体 d. 行政等公的機関 e. その他] | |
| 6. 毎回は助成されない助成金(社協、共募、助成財団等) | |
| 7. 基金(ボランティア基金、NPO 基金等) | |
| 8. その他 | |

問 15 貴団体・グループでは、団体運営や活動にコンピュータやインターネット等の情報技術を活用していますか。当てはまる番号にいくつでも〇をつけてください。

1. 団体の事務管理に活用している
2. 活動対象者の管理に活用している
3. 会報や活動記録の作成・保存に活用している
4. メンバー間のコミュニケーションにメールやメーリングリスト等を活用している
5. 団体・グループのホームページを作成して PR している
6. その他(具体的に: _____)

問 16 貴団体・グループでは、ボランティア活動を支援する機関を利用していますか。当てはまる番号に1つだけ〇をつけてください。

1. 利用している(→問 16 付問 1・2 へ)
2. 利用していない(→問 17 へ)

問 16 付問 1 【ボランティア活動を支援する機関のサービスを利用している団体・グループのみ】貴団体・グループが利用しているボランティア活動の支援サービスは、どのような機関・団体が実施しているものですか。当てはまる番号にいくつでも〇をつけてください。

1. 社会福祉協議会(ボランティアセンター)
2. ボランティア協会(社会福祉協議会以外)
3. 生涯学習関係のセンター
4. 市民活動や NPO 活動を支援する NPO(NPO 支援センター等)
5. 行政機関のボランティア活動支援部署
6. その他(具体的に: _____)

問 16 付問 2 【ボランティア活動を支援する機関を利用している団体・グループのみ】ボランティア活動を支援する機関のどのようなサービスを利用していますか。利用しているサービスの番号すべてに〇、そのうち貴団体・グループの活動に役立っているものは◎をつけてください。また、現在の利用の有無に関わらず、最も期待している支援について、1つだけ番号を記入してください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 活動・組織運営に関する相談 | 2. 活動に関連する研修機会の提供 |
| 3. ボランティア募集への協力 | 4. 事務所や活動拠点の提供 |
| 5. 活動に必要な備品や機器の貸与・提供 | 6. 活動費等の助成 |
| 7. 助成金に関する情報提供 | |
| 8. その他(具体的に: _____) | |

<最も期待している支援の番号を1つ記入>

問 17 貴団体・グループのボランティア活動は社会的にどのような効果を生んでいると考えていますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 自分達の活動が、社会的な課題や困難なニーズ解決に直接役立つことができた
2. 自分達の活動が対象としている問題について、社会の関心を集めることができた
3. 今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた
4. 自分達の活動が刺激となって、行政や社協等による新しいサービスが開始された
5. 自分達の活動が刺激となって、行政や社協等によるサービスの内容が改善された
6. 自治会や生協等地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった
7. 活動に関わる人達の間で絆が深まって地域への愛着が生まれた
8. 親団体(所属団体)の活動が活性化したり、活動の幅が広がったりした
9. 親団体(所属団体)の存在が社会的に評価された
10. 親団体(所属団体)のメンバーの間で、組織を超えたコミュニケーションがとれるようになった
11. その他(具体的に: _____)

問 18 貴団体・グループが活動を開始する前後に苦労したことはありますか。当てはまる番号に 1つだけ○ をつけてください。

1. ある(→問 18 付問 1 へ)
2. ない(→問 19 へ)

問 18 付問 1 【苦労したことがあると答えた団体・グループのみ】それはどのようなことですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. ボランティア活動をしたい思いがあったが、具体的になにをしたらよいかわからなかった
2. やりたい活動はあったが、どのように始められるかわからなかった
3. 活動のメンバーが集まらなかった
4. 活動の拠点を探ることが難しかった
5. 立ち上がり資金が不足していた
6. 役割分担やリーダーがなかなか決まらなかった
7. 自分達で対応できる範囲を超えた依頼を受けて苦労した
8. 既存のグループとの調整が難しかった
9. 活動を始めてみたがニーズがなかった
10. その他(具体的に: _____)

問 19 これまでに団体・グループとして、活動をやめよう、あるいは、一時休止しようとしたことはありますか。当てはまる番号に 1つだけ○ をつけてください。

1. ある(→問 19 付問 1 へ)
2. ない(→問 20 へ)

問 19 付問 1 【活動をやめよう、あるいは、一時休止しようとしたことがある団体・グループのみ】それはどのような理由からですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 活動がマンネリ化し、活発でなくなった
2. 活動の意義や効果が見いだせなくなった
3. メンバーの世代交代がうまくいかなかった
4. 新しいメンバーが入ってこなかった
5. 中心的なメンバーが活動できなくなった
6. メンバー間の関係が悪化した
7. メンバー間で目指す方向の違いがはっきりしてきたため、活動ができなくなった
8. 活動対象者や受け入れ先を見つけることができずに、活動が伸び悩んだ
9. 資金不足から活動ができなくなった
10. 活動拠点を失って活動ができなくなった
11. 活動を要請されていた機関や団体から必要とされなくなった
12. 活動についての悪い評判を立てられた
13. 対外的な事故やトラブルがおきた
14. その他(具体的に: _____)

問 20 貴団体・グループでは、現在活動を行ううえでなにか困っていることはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある(→問 20 付問 1 へ)
2. ない(→問 21 へ)

問 20 付問 1 【困っていることがある団体・グループのみ】現在どのようなことに困っていますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 新しいメンバーが集まらない
2. 中心となるメンバーが不足している
3. メンバーが高齢化している
4. メンバー間で活動に対する意見統一ができない
5. メンバーの活動意欲が乏しい
6. 活動拠点が無い
7. 活動資金が不足している
8. 研修機会が十分でない
9. 活動の内容がマンネリ化しており今後どのように活動していったらよいのかわからない
10. その他(具体的に: _____)

問 21 貴団体・グループでは、今後の活動をどのようにしていく予定ですか。当てはまる(最も重視する)番号に1つだけ○をつけてください。

1. 現在の活動を持続させていく
2. 現在の活動の密度を上げていく
3. 活動の範囲を広げていく
4. 現在の活動をやめて、別の新しい活動に取り組む
5. 活動を一時休止する
6. 活動をやめる
7. その他(具体的に: _____)

◆ご協力ありがとうございました。返信用封筒(切手不要)に入れて、1月12日までに投函ください。

個人向けアンケート調査票（個人用）

【調査へのご協力をお願い】

このたび、全国社会福祉協議会では、全国のボランティア活動を行っている団体・個人の多様な活動内容・形態等を調査・把握し、今後のボランティア活動推進のための課題を探ることを目的として、実態調査を行うこととなりました。お手数をおかけしますが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

- ◆本調査の実施・協力団体が機械的にサンプル抽出した結果、回答者の一人としてあなたが選ばれておりますので、ご了承ください。
- ◆ご回答は、各設問にそってお願いします。なお、時点は「平成 21 年 9 月末日現在」を原則としています。この時点の情報がわからない場合は、それ以前の直近で把握できている時点のものでお答えください。
- ◆回答が終わりましたら、同封の返信用封筒にて、平成 22 年 1 月 12 日までに投函ください。切手は不要です。
- ◆この調査結果は統計的に処理・分析いたしますので、あなたの個人情報公表されることは一切ありません。
- ◆ご不明な点については、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

<調査の設問や回答方法等に関するお問い合わせ>

調査委託機関 ㈱アクロス 金子・藤波

電話：03 - 5822 - 0311 電子メール：inquiry@across-net.co.jp

<調査の趣旨や実施体制等に関するお問い合わせ>

全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター 園崎

(電話：03 - 3581 - 4656)

問1 最初に、あなた自身についておききします。

(1)性別について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

(2)年齢について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | | |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 |
| 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代以上 | | |

(3)現在のご職業について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 企業(被雇用者) | 2. 公務員 |
| 3. 団体職員(社会福祉法人、社会福祉協議会等含む) | 4. NPO・NGO 職員 |
| 5. 自営業 | 6. 主婦・主夫(仕事をもっていない方) |
| 7. 定年退職後の方 | 8. 学生 |
| 9. 仕事には就いていない | |
| 10. その他() | |

(4)現在、どのような職種のお仕事に就いていますか。【定年退職後の方と、主婦・主夫の方、現在無職の方は、最後に働いていたときの職種をお答えください。】当てはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|------------|------------|
| 1. 役員 | 2. 管理職 | 3. 事務的職種 |
| 4. 営業職 | 5. サービス的職種 | 6. 教育関係職 |
| 7. 販売職 | 8. 専門職・技術職 | 9. 生産工程従事職 |
| 10. 運輸・通信関連職 | 11. その他 (|) |
| 12. これまでに働いたことはない | | |

問2 あなたが初めてボランティア活動をしてから、どれくらいになりますか(平成21年9月末日現在の通算年数)。当てはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～3年未満 | 3. 3～5年未満 | 4. 5～10年未満 |
| 5. 10～15年未満 | 6. 15～20年未満 | 7. 20年以上 | |

ここから先の設問には、あなたが現在行っているボランティア活動全体についてお答えください。
これまでいろいろなボランティア活動を経験してきた方については、現在行っている活動についてのみお答えください。

問3 あなたが現在行っているボランティア活動に参加した理由はなんですか。当てはまる番号に すべて○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 何か楽しいことをしたかった |
| 2. 今までの生活とは違うことをしたかった |
| 3. 地域や社会を知りたかった |
| 4. 仲間づくりがしたかった |
| 5. 自分の知識や技術を活かす機会がほしかった |
| 6. 生きがいになるものがほしかった |
| 7. 自分的人格形成や成長につながることをしたかった |
| 8. 自分自身の関心や趣味の活動から自然につながった |
| 9. 現在行っている活動に関係することについて、個人的な強い経験があった |
| 10. 困っている人を助けたいと思った |
| 11. 社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった |
| 12. 地域や社会を自分たちで住みよくしたり、改善していく活動に関わりたかった |
| 13. 非営利活動や社会貢献活動というものに関心があった |
| 14. 友達や仲間に誘われた |
| 15. 学校・職場で勧められた |
| 16. 特に理由はなく、なんとなく始めていた |
| 17. 暇だったから |
| 18. その他(具体的に:) |

問4 あなたが現在行っているボランティア活動はどのような分野の活動ですか。当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

1. 高齢者の福祉活動(高齢者の話し相手や介護、送迎等車の運転など)
2. 障害者の福祉活動(障害者の介護、手助けや手話・点訳など)
3. 子育て(乳幼児)に関する活動(子育てサロンや乳幼児の保育・世話など)
4. 青少年(児童)の健全育成に関する活動(不登校児童支援、児童の学習支援、体験学習)
5. 健康や医療に関する活動(病院や保健機関等でのボランティアなど)
6. 教育、文化、スポーツ振興(PTA 活動、少年野球のコーチ、社会人講師、おまつり、郷土芸能の保存、郷土の歴史編纂など)
7. 地域の美化・環境保全に関する活動(道路・公園や河川の美化・清掃、自然保護、リサイクルなど)
8. 災害時のボランティア活動(現地での活動、援助物資や資金の募集)
9. 防災、防犯、交通安全など、地域社会を暮らしやすくするための活動
10. 人権擁護に関する活動(DV・虐待防止、自殺防止、女性の抱える問題、差別撤廃など)
11. 国際交流・国際協力に関する活動(日本にいる外国人の支援、異文化交流、海外での地域開発・福祉活動など)
12. まちづくりなどに関する活動(まちづくり協議会・コミュニティ協議会等の活動など)
13. 自治会・町内会・民生委員・児童委員・区社協・福祉委員・子ども会等の活動
14. その他()

問5 あなたが行っている具体的な活動について当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。そのうちの主なものに1つだけ◎をつけてください。

1. 身辺介護・外出介助等の直接ケアをする活動
2. 手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援
3. 話相手になる、一緒に遊ぶ、劇を見せる等の交流、遊び、レクリエーション活動
4. スポーツ、趣味、学習活動への支援・指導
5. 草むしり、作業、大工等の労力を提供する活動
6. 調理・買い物代行等家事援助の生活技術を提供する活動
7. 移送の援助(車の運転等)
8. 配食・会食など、食事を提供する活動
9. 団体・グループの運営、イベントや事業等の企画
10. 情報整理・発信や調査等の活動
11. 団体・グループの事務の担当・手伝い
12. 資金調達の担当・手伝い
13. その他(具体的に:)

問6 あなたが参加しているプログラムを実施している施設や機関とはどこですか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 高齢者を対象とした福祉施設 | 2. 障害児・者を利用対象とした福祉施設 |
| 3. 児童を対象とした福祉施設 | 4. その他を対象とした福祉施設 |
| 5. 社会福祉協議会 | 6. 福祉団体(作業所、親の会、介護 NPO 等) |
| 7. 病院 | 8. 学校 |
| 9. 公民館 | 10. 図書館・博物館 |
| 11. スポーツ施設・団体 | 12. その他の NPO・NGO |
| 13. 行政 | 14. その他() |
| 15. 決まった機関や団体のプログラムや要請ではなく、自分達で活動を企画している | |

問7 あなたはいつボランティア活動をしていますか。該当する活動の曜日のパターンをいくつでも選び、それぞれについて当てはまる時間帯にすべて○を、そのうち主な時間帯には 1 つだけ◎をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 平日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号に <u>すべて○</u> を、 <u>主なものに◎</u> をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間) |
| 2. 土日祝日に活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号に <u>すべて○</u> を、 <u>主なものに◎</u> をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間) |
| 3. 平日・土日祝日を特に関係なく日頃活動している
→ どの時間帯ですか。当てはまる番号に <u>すべて○</u> を、 <u>主なものに◎</u> をつけてください。
(1. 早朝 2. 午前中 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間) |
| 4. まとまった休暇や年に特定の期間に活動している |
| 5. 特に活動の時間帯は決めていない |

問8 あなたは、1 か月に何時間くらいのボランティア活動をしていますか。(実際に活動している時間や、団体運営等の定例会や打ち合わせの時間、活動のための研修の時間などのボランティア活動に関するすべての時間を含めた時間)。当てはまる番号に1 つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|------------|
| 1. 5 時間未満 | 2. 5～10 時間未満 | 3. 10～20 時間未満 | |
| 4. 20～30 時間未満 | 5. 30～40 時間未満 | 6. 40～50 時間未満 | 7. 50 時間以上 |

問9 あなたがボランティア活動を行っているエリアについて、当てはまる番号に1つに○をつけてください。
(複数のエリアでボランティア活動を行っている方は、最も時間を割いている活動についてお答えください)

1. 小学校区・中学校区などの範囲における活動
2. 市町村全域を範囲とした活動
3. 市町村域を超えた活動(県域・海外など)
4. 在宅での活動が中心
5. 活動エリアは特に定まっていない

問10 あなたはボランティア活動に関して、どれくらいのお金を使っていますか。

(1) 交通費や食費などの日頃の活動に要する支出(1か月間のおおよその支出額)はどれくらいの金額ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------|-----------------|------------------|-------------|
| 1. まったくない(0円) | 2. 1000円未満 | 3. 1000～2000円未満 | |
| 4. 2000～3000円未満 | 5. 3000～5000円未満 | 6. 5000～10000円未満 | 7. 10000円以上 |

(2) 研修、制服や備品の購入などのまとまった大きな支出(1年間のおおよその支出額)はどれくらいの金額ですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. まったくない(0円) | 2. 5000円未満 | 3. 5000～10000円未満 |
| 4. 10000～20000円未満 | 5. 20000～30000円未満 | 6. 30000～50000円未満 |
| 7. 50000円以上 | | |

問11 あなたのボランティア活動に対して、次のような手当はありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 無償(交通費、食事、材料費など個人負担) |
| 2. 交通費、食事、材料費などの実費が手当てされる |
| 3. 活動量・回数や活動時間に応じた活動費用を手当てされる |
| 4. その他() |

問12 あなたはボランティアセンターをどのように利用していますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 頻繁にボランティアセンター職員やコーディネーターなどのスタッフと話をしたり、相談したりしている |
| 2. 月に1回以上はボランティアセンターに行っている |
| 3. 年に数回程度、ときどきボランティアセンターに行っている |
| 4. 情報誌をみている程度であり、あまりボランティアセンターに行くことはない |
| 5. センターに行ったことや、ボランティアセンター職員やコーディネーターなどのスタッフと話をしたことはない |

問 13 ボランティア活動を通じて得たことやよかったことはなんですか。当てはまる番号にすべて〇をつけてください。

1. 活動自体が楽しい
2. 息抜きやストレス解消になっている
3. 心身ともに健康であり続けることができている
4. 新しい自分を発見できた
5. 新しい知識や技術を習得することができた
6. 自己の人格形成や成長にプラスになっている
7. 生きがいを得ることができた
8. 社会に対する見方が広がった
9. 多くの仲間ができた
10. 地域社会とのつながりをつくることができた
11. 人と協力したり連携したりする楽しさを知った
12. 自己により自信が持てるようになった
13. 自己の中の偏見や差別意識などが薄らいだ
14. 人との接し方や、人間関係がより円滑になった
15. 自己の住んでいる町に愛着を感じるようになった
16. 自己が社会や他の人に役立っていることを実感できた
17. 自己たちの力で社会や地域を住みよくしたり改善できると実感できた
18. 社会や地域に対して大切な問題提起をすることができた
19. ボランティア活動が社会の中で必要不可欠なものであることを実感した
20. 家族や友人等身近な人から評価された
21. 学校・職場や公的機関から評価された
22. その他(具体的に: _____)
23. 特に得たことやよかったことはない

問 14 あなたがより充実したボランティア活動をしていくために、どのような社会的な支援や環境整備を望みますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること
2. 活動に関して気軽に相談できる窓口が整備されていること
3. 活動者同士の交流機会
4. 活動の機会やボランティア団体・グループに関する様々な情報紹介
5. ボランティアセンター職員やコーディネーター等の受け入れ側の体制・能力の向上
6. ボランティア休暇等の制度の創設・拡大
7. 活動や研修に必要な経費の援助
8. 活動に対する社会的な理解
9. 活動の経験が社会的な資格取得につながる
10. 活動の経験が、進学・就職時に評価されること
11. その他(具体的に: _____)
12. 特にない

問 15 ボランティア活動を行うにあたって、なにか不安や困っていることはありますか。当てはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 受け入れ体制が悪い
2. 能力以上のことを求められる
3. 活動に求められる知識や技術が不足している
4. 活動に関する相談やアドバイスをしてくれる人がいない
5. 活動と仕事、家事、学校等との時間調整が難しい
6. メンバー間やリーダーとの人間関係がうまくいかない
7. 受け入れ先の職員との人間関係がうまくいかない
8. 感謝されていない・必要とされていないと感じている
9. 活動に飽きてしまった
10. いつまで続けたらよいかかわからない
11. 本当はやめたいが義理や人間関係のしがらみがあるために、やめるにやめられない
12. 活動の意味や成果を確認する機会や場がない
13. 近所の人、同じ学校の人、職場の同僚・上司などにあまり知られないように苦勞する
14. 活動中の事故が心配である
15. その他(具体的に: _____)
16. 特に困っていることはない

問 16 これまでにボランティア活動を中断したり、やめたいと思ったことはありますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ある(→問 16 付問 1 へ)

2. ない(→問 17 へ)

問 16 付問 1 これまでにボランティア活動を中断したり、やめたりした(あるいは、やめたいと思った)理由はなんですか。当てはまる番号にすべて○を、主なものに1つ◎をつけてください。

1. 子育て、介護、子どもの勉強等で忙しくなった
2. 家計のために働かなければならなくなった
3. 学校や仕事が忙しくなった
4. 家族の反対にあった
5. 活動に興味をもてなくなった
6. 他に興味がある趣味などを新しく始めたため、活動に時間を割くことができなくなった
7. 期待や要請が大きくなって負担になった
8. メンバー間がうまくいかなくなった
9. 一緒に活動していた友人がやめてしまった
10. 受け入れ体制が悪かった
11. グループや受け入れ先で必要とされていないと思った
12. 自分の活動への期待と他の仲間の期待が食い違った
13. 健康上の理由や体力的な限界を感じた
14. 転勤・転居
15. その他(具体的に: _____)

問 17 あなたの今後の活動予定について、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 現在の活動を続けていきたい
2. 現在の活動回数を増やしていきたい
3. 活動の範囲を広げていきたい
4. 現在の活動をやめて、別の新しい活動に取り組みたい
5. 活動を一時休止したい
6. 活動をやめたい
7. その他(具体的に: _____)
8. わからない

◆ご協力ありがとうございました。返信用封筒(切手不要)に入れて、1月12日までに投函ください。

Ⅶ.〔参考〕 ボランティア個人対象調査 ＜WEB調査＞

＜特全＞特全1-1-1w表図

調査項目	調査結果	調査数
ボランティア	100%	1000
その他	100%	1000
合計	100%	2000

＜特全＞特全2-1-1w表図

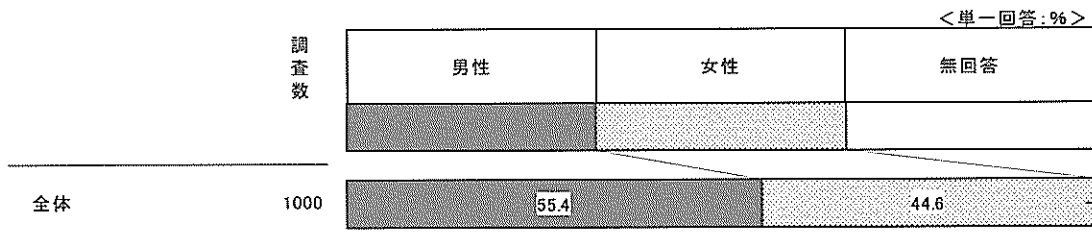
調査項目	調査結果	調査数
ボランティア	100%	1000
その他	100%	1000
合計	100%	2000

1. ボランティア活動者のプロフィール

(1) 活動参加者（回答者）の属性

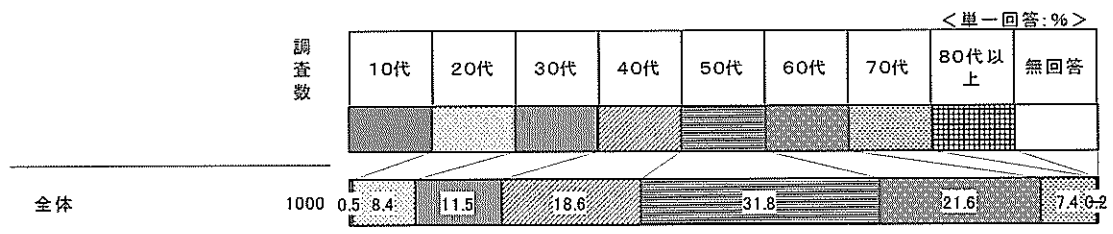
1. 性別

図表w1-1-1 性別<全体>



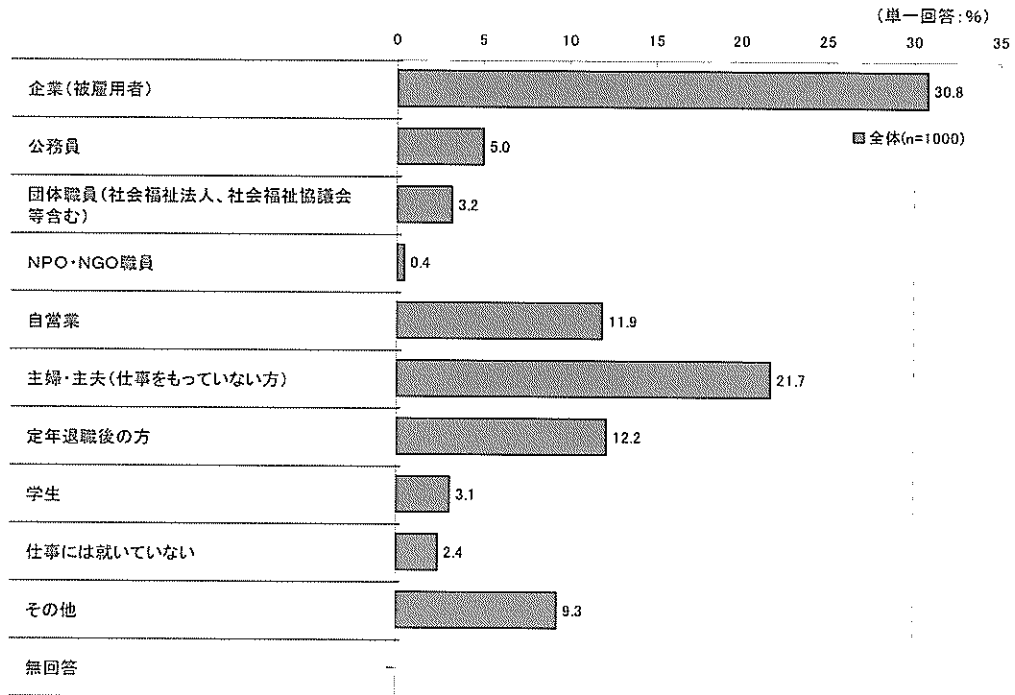
2. 年齢

図表w1-1-2 年齢<全体>



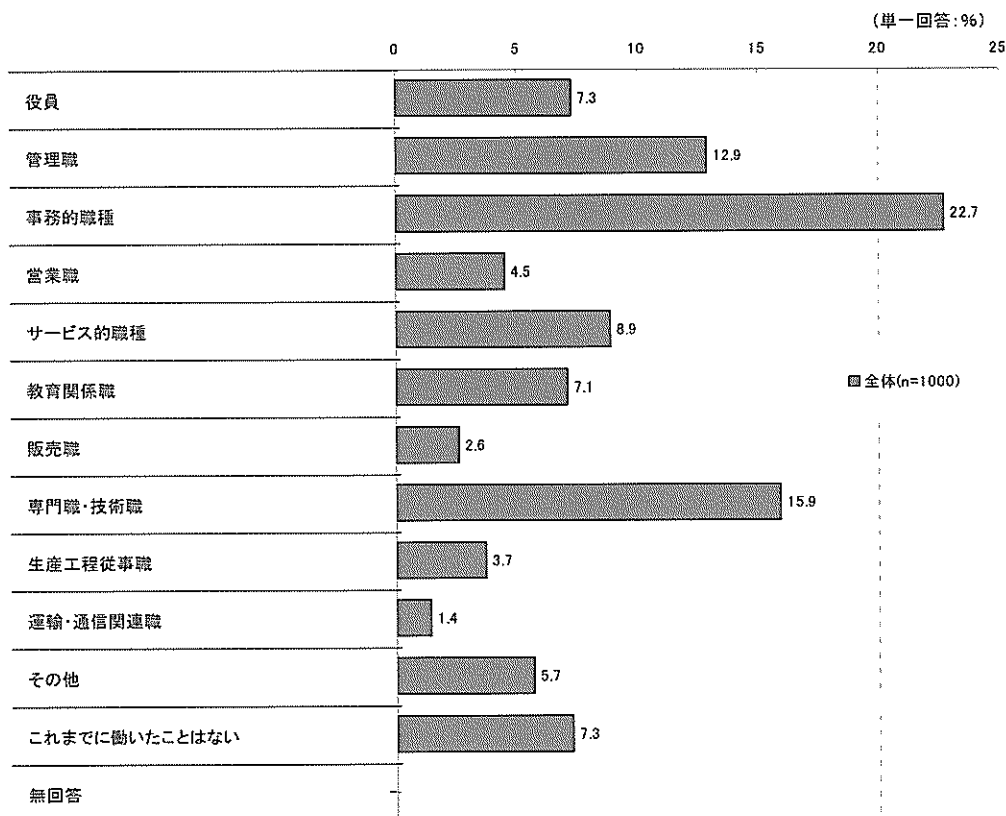
3. 職業

図表w1-1-3 職業(全体)



4. 職種

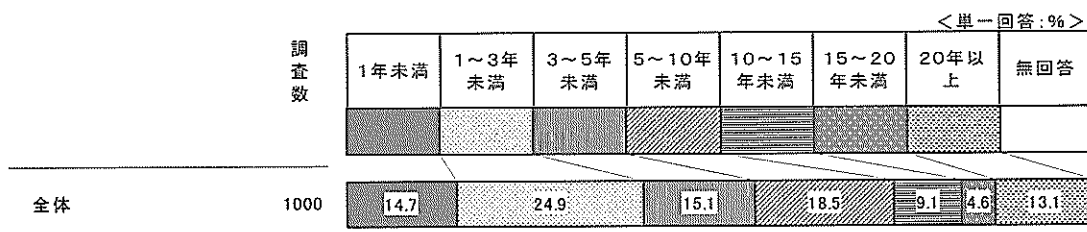
図表w1-1-4 職種<全体>



(2) ボランティア活動歴

1. 初めてボランティア活動をしてからの期間

図表w1-2-1 ボランティア活動歴<全体>

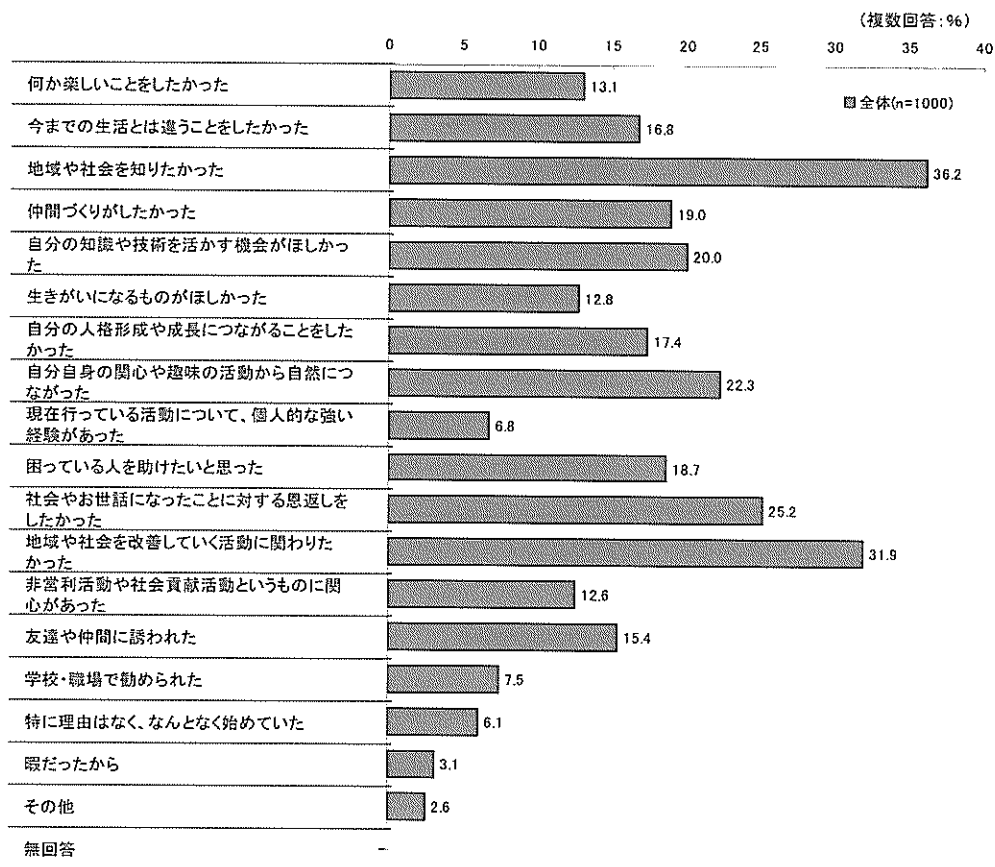


2. ボランティア活動の現状

(1) ボランティア活動参加の動機

1. ボランティア活動に参加した理由

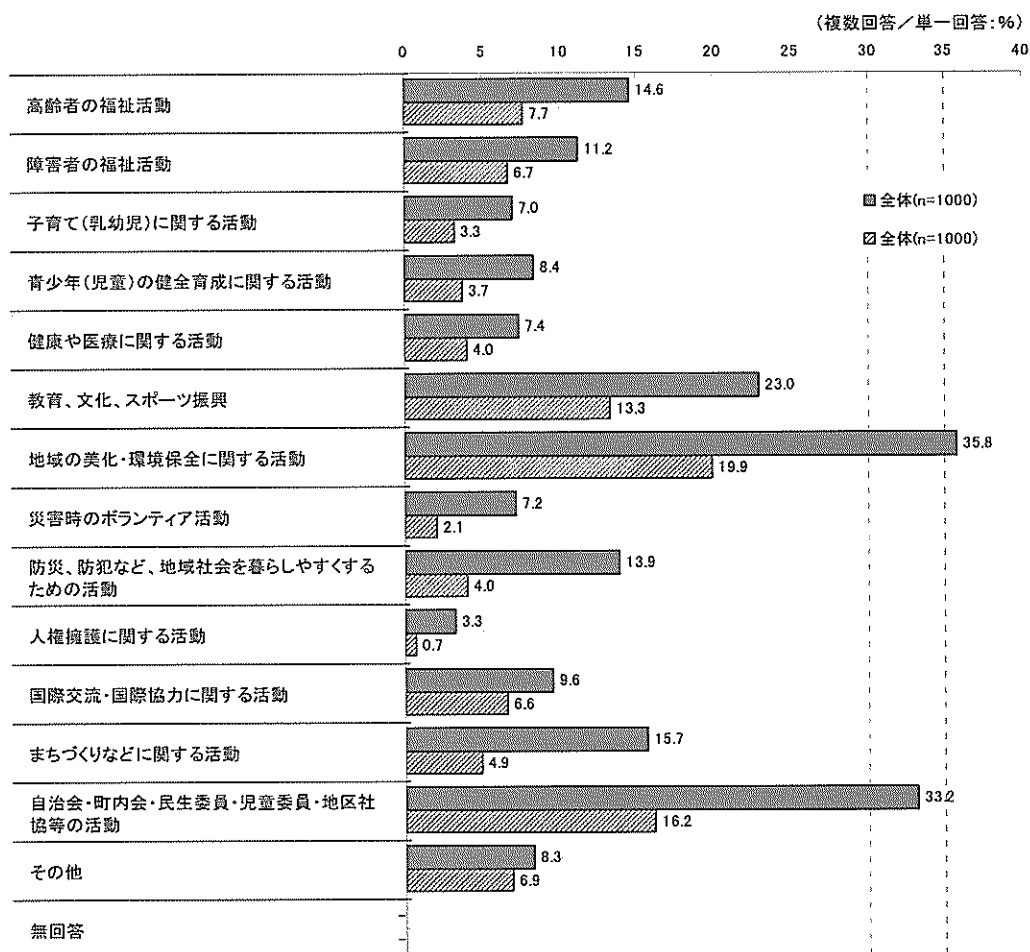
図表w2-1-1 ボランティア活動参加の動機<全体>



(2) 活動の分野

1. ボランティア活動の分野

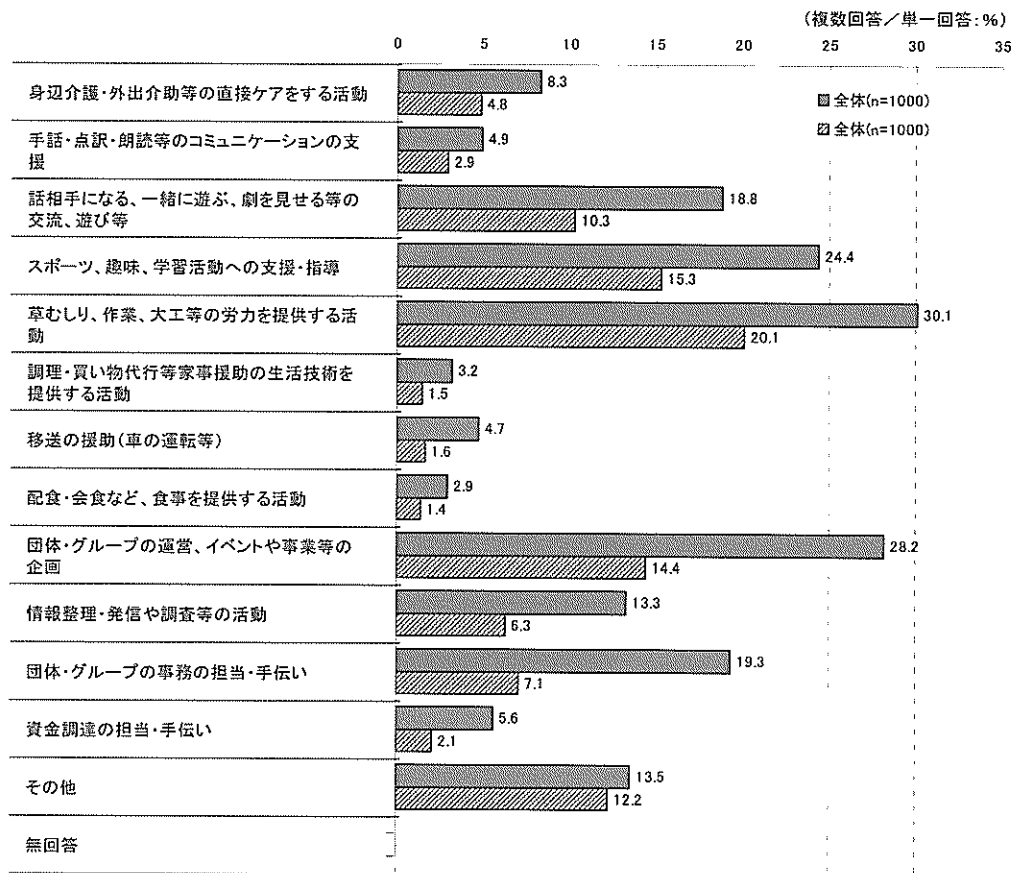
図表w2-2-1 主なボランティア活動の分野<全体/複数回答/単一回答>



(3) 活動の内容

1. 行っている具体的な活動

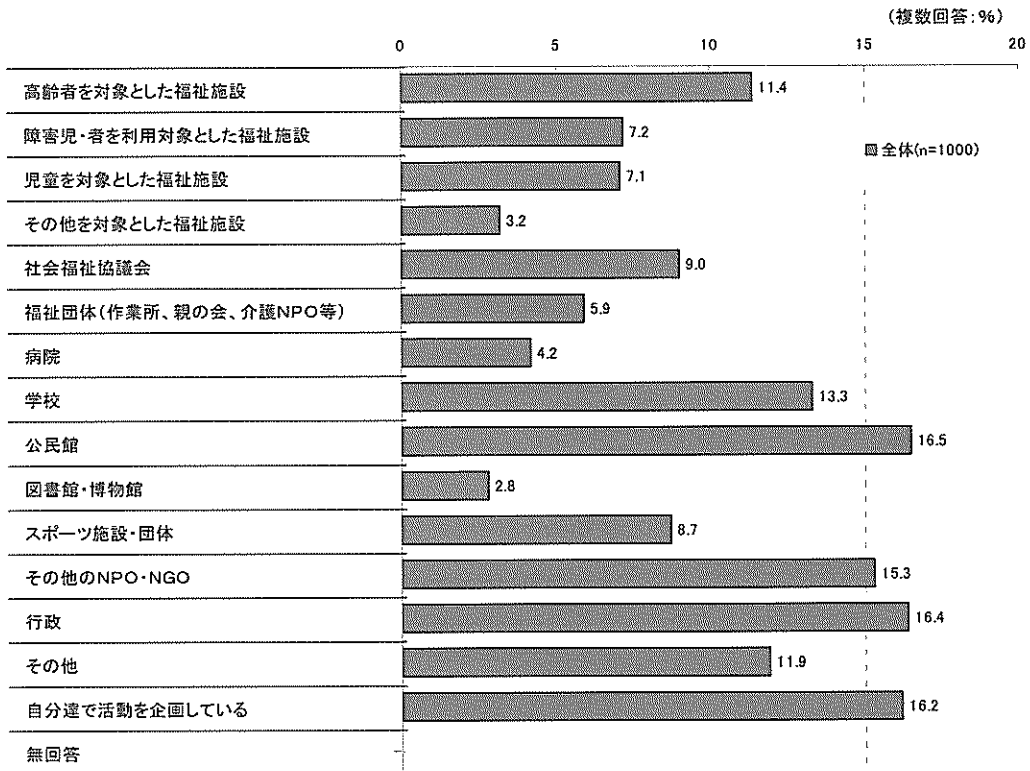
図表w2-3-1 行っている主な具体的な活動<全体/複数回答/単一回答>



(4) 参加プログラムの実施主体

1. 参加プログラムの実施施設や機関

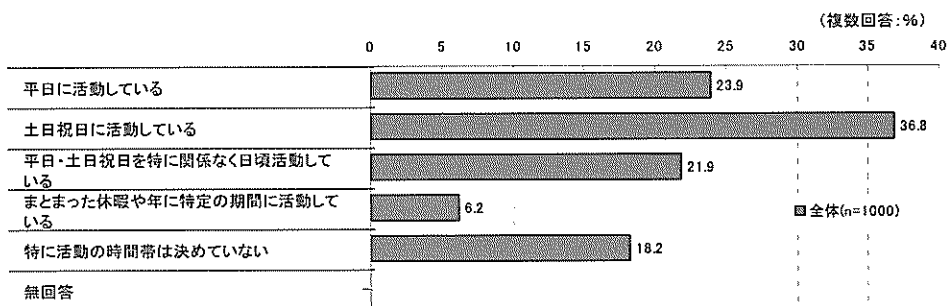
図表w2-4-1 参加プログラムの実施施設や機関(全体)



(5) 活動のパターン

1. ボランティア活動の曜日パターン

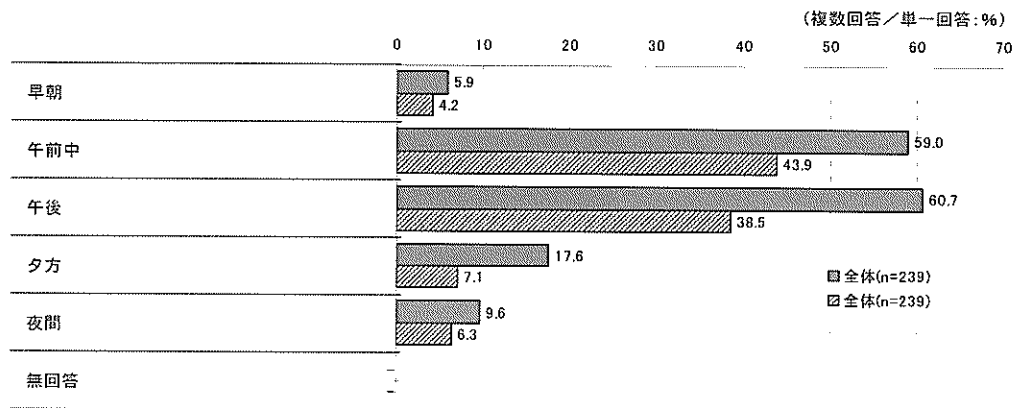
図表w2-5-1 ボランティア活動の曜日パターン(全体)



(6) 活動時間帯

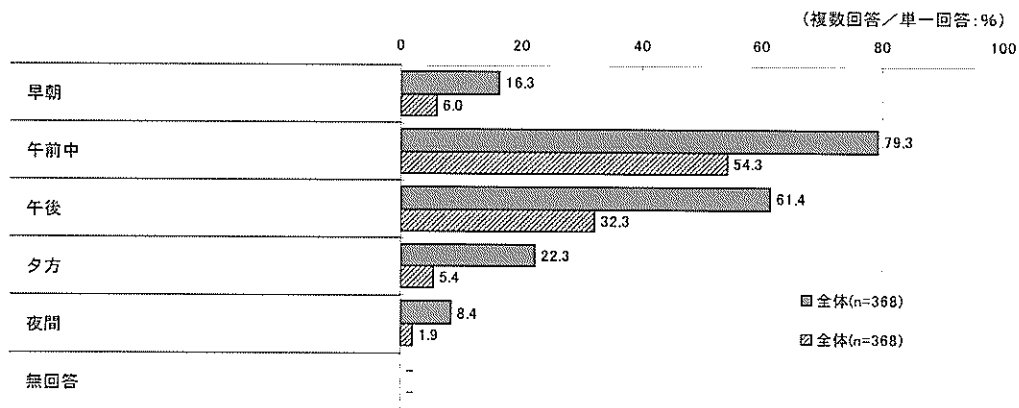
1. 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

図表w2-6-1 平日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



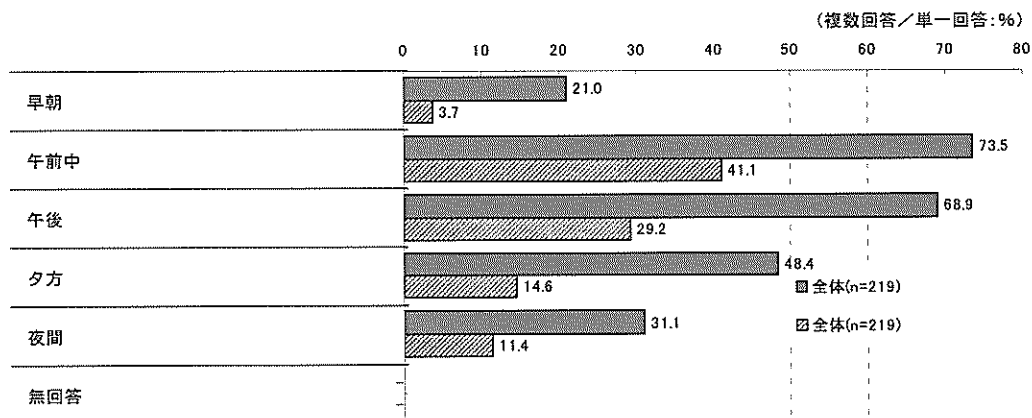
2. 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯

図表w2-6-2 休日に活動を行っているボランティアの活動時間帯〈全体／複数回答／単一回答〉



3. 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯

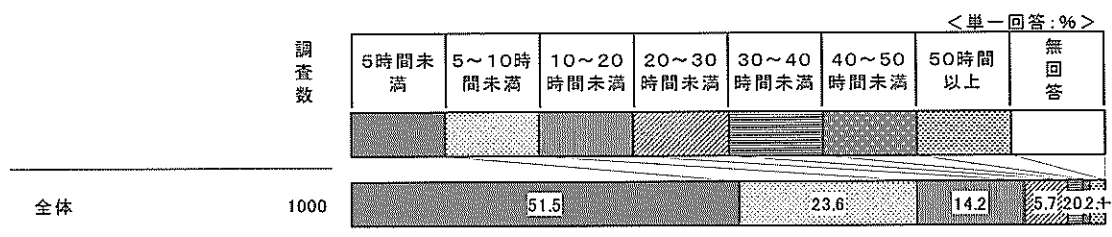
図表w2-6-3 曜日に関係なく活動しているボランティアの活動時間帯(全体/複数回答/単一回答)



(7) 活動の頻度

1. 1か月のボランティア活動時間

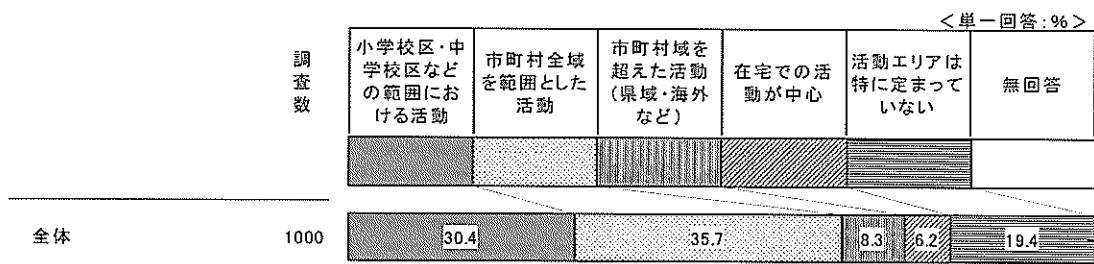
図表w2-7-1 1か月のボランティア活動時間(全体)



(8) 活動のエリア

1. ボランティア活動を行っているエリア

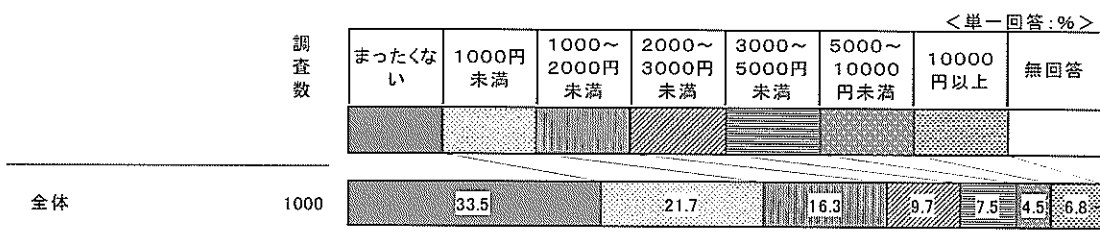
図表w2-8-1 ボランティア活動を行っているエリア<全体>



(9) 活動経費

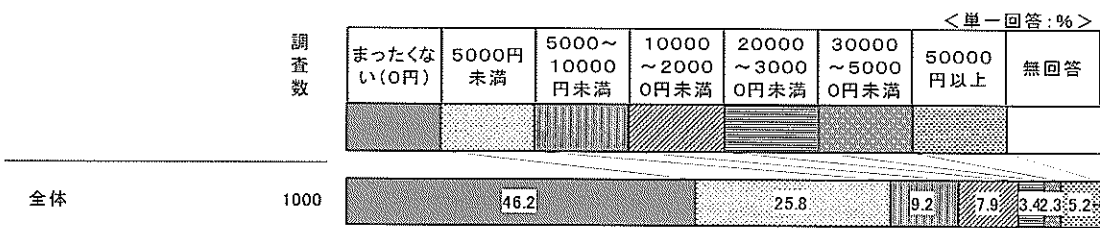
1. 日頃の活動に要する支出金額

図表w2-9-1 日頃の活動に要する支出金額<全体>



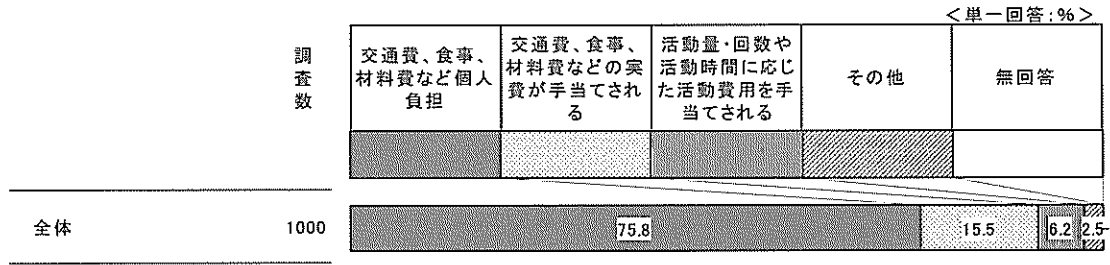
2. まとまった大きな支出金額

図表w2-9-2 まとまった大きな支出金額<全体>



3. ボランティア活動に対する手当

図表w2-9-3 ボランティア活動に対する手当(全体)

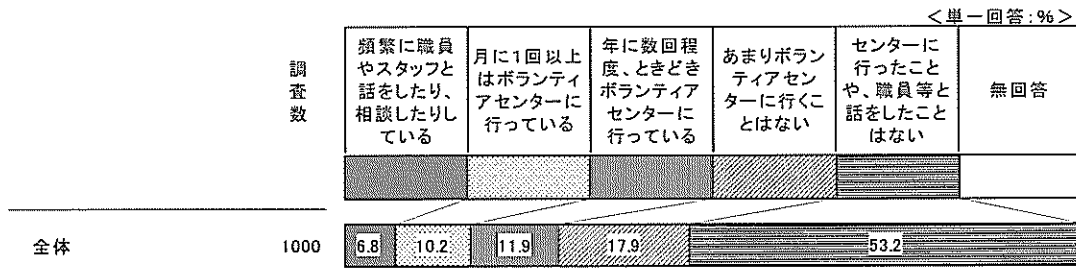


3. ボランティア活動推進の課題

(1) ボランティア活動の支援と促進

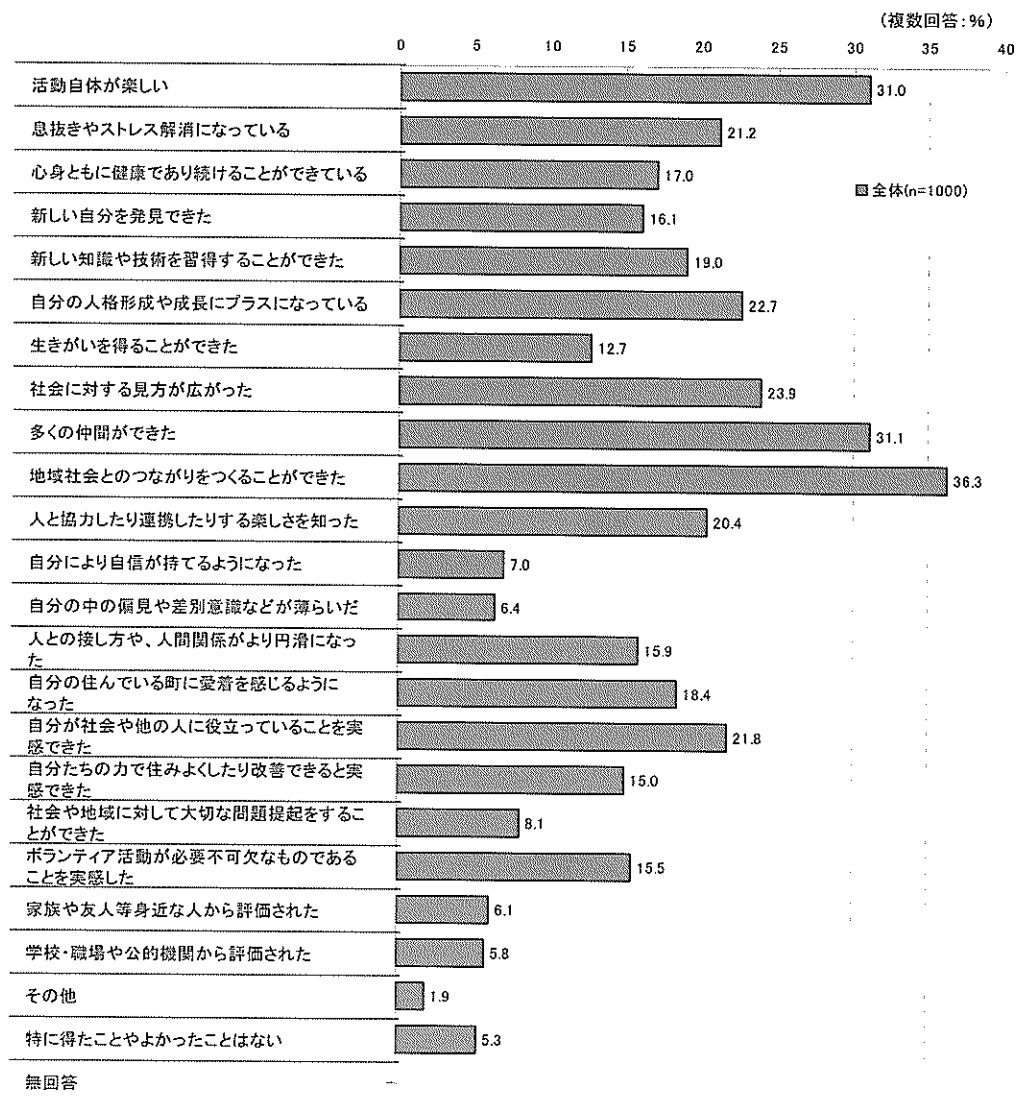
1. ボランティアセンターの利用方法

図表w3-1-1 ボランティアセンターの利用方法(全体)



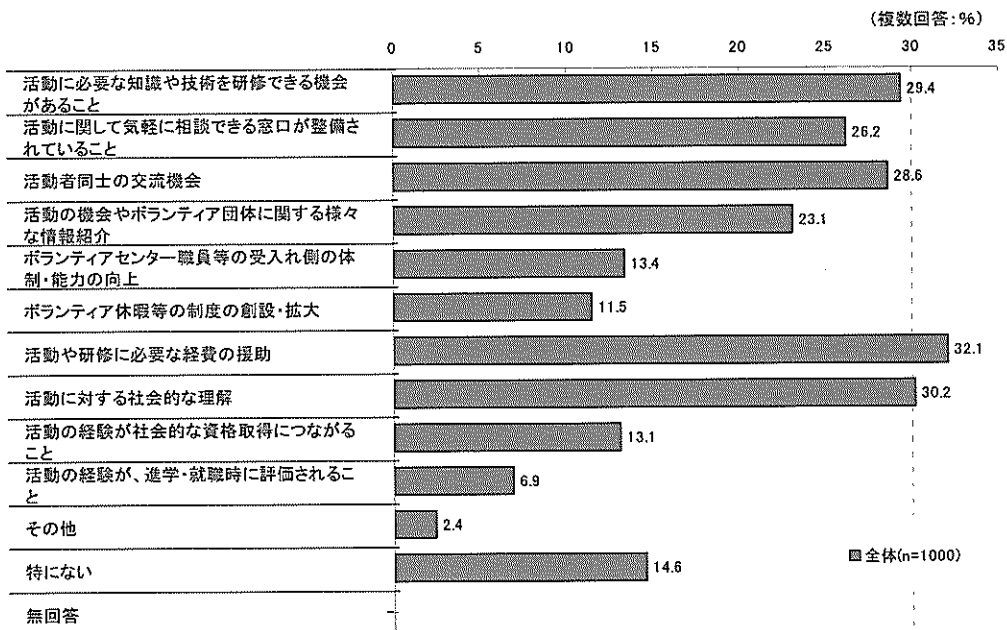
2. ボランティア活動で得られたこと

図表w3-1-2 ボランティア活動で得られたこと(全体)



3. 望んでいる社会的支援や環境整備

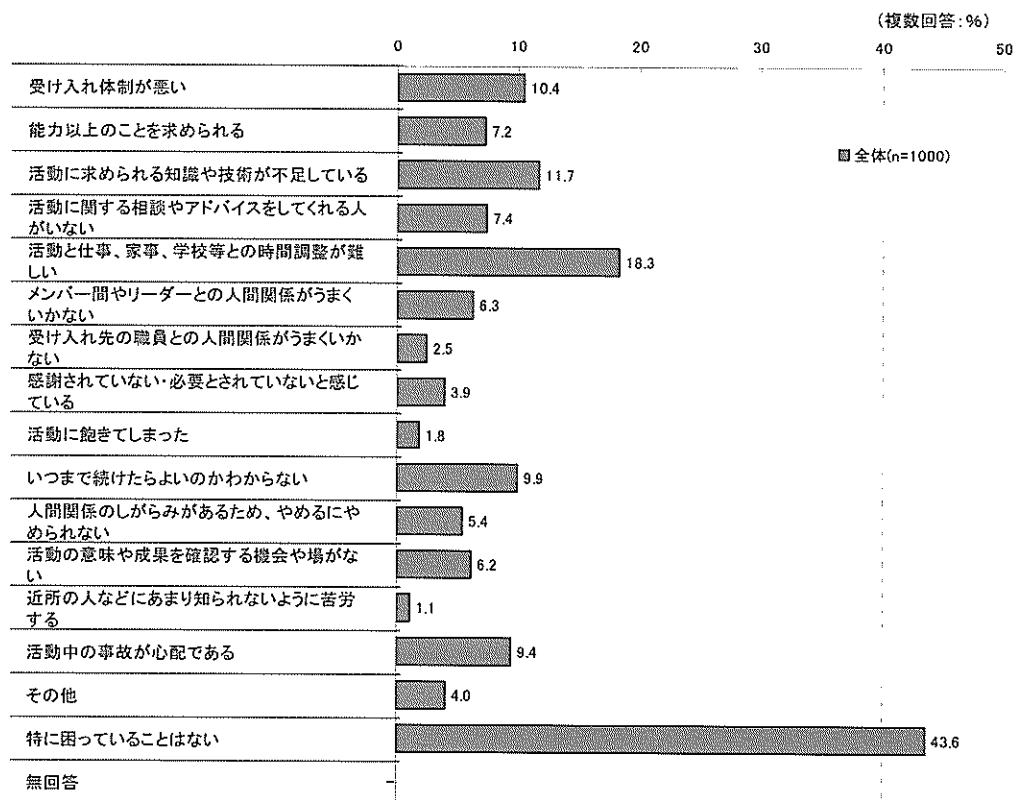
図表w3-1-3 望んでいる社会的支援や環境整備<全体>



(2) ボランティア活動上の困難と今後の意向

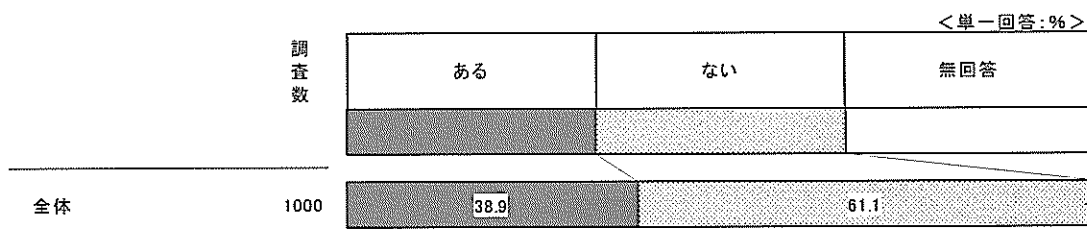
1. ボランティア活動を行うにあたって困っていること

図表w3-2-1 ボランティア活動を行うにあたって困っていること(全体)



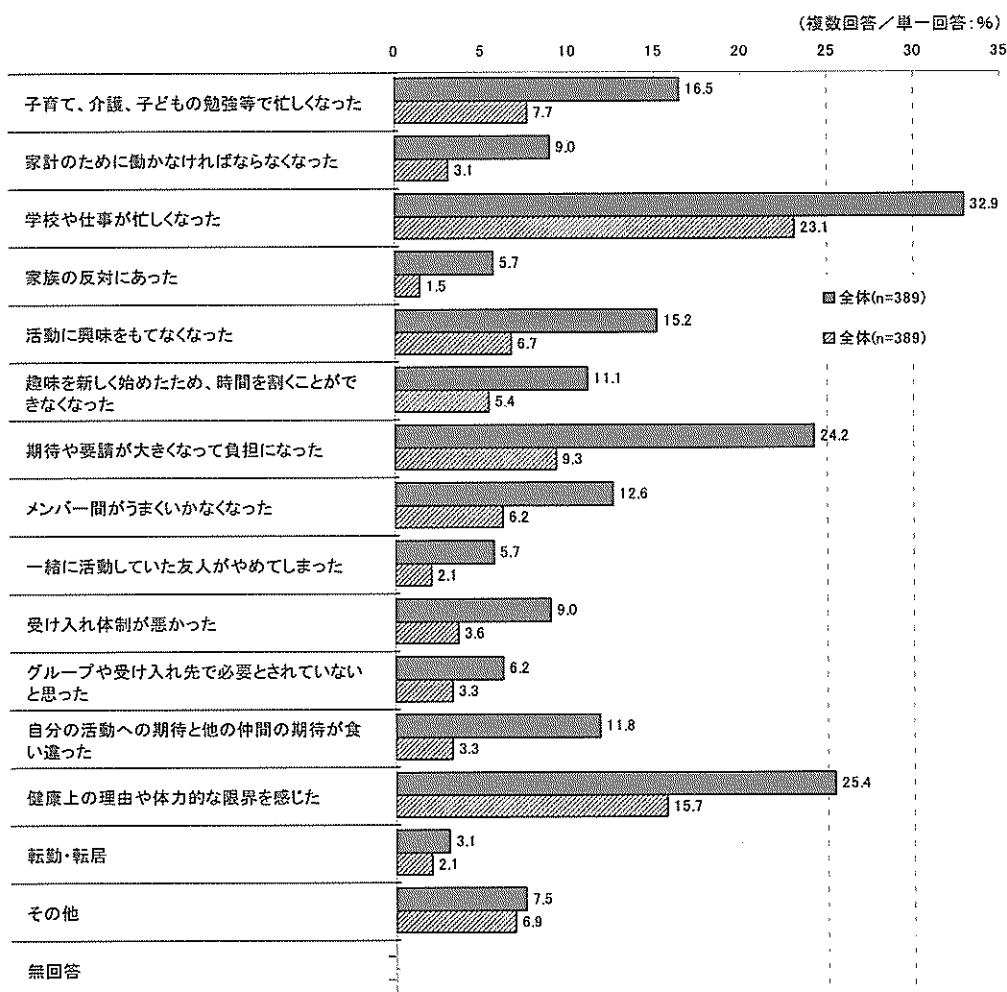
2. ボランティア活動中断、休止の意向

図表w3-2-2 ボランティア活動中断、休止の意向(全体)



3. 中断、やめたいと思った理由

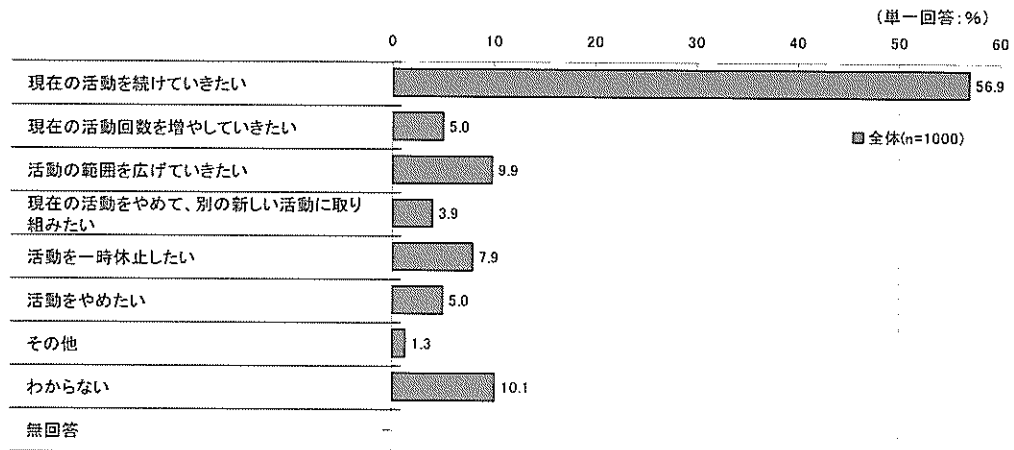
図表w3-2-3 中断、やめたいと思った理由(全体/複数回答/単一回答)

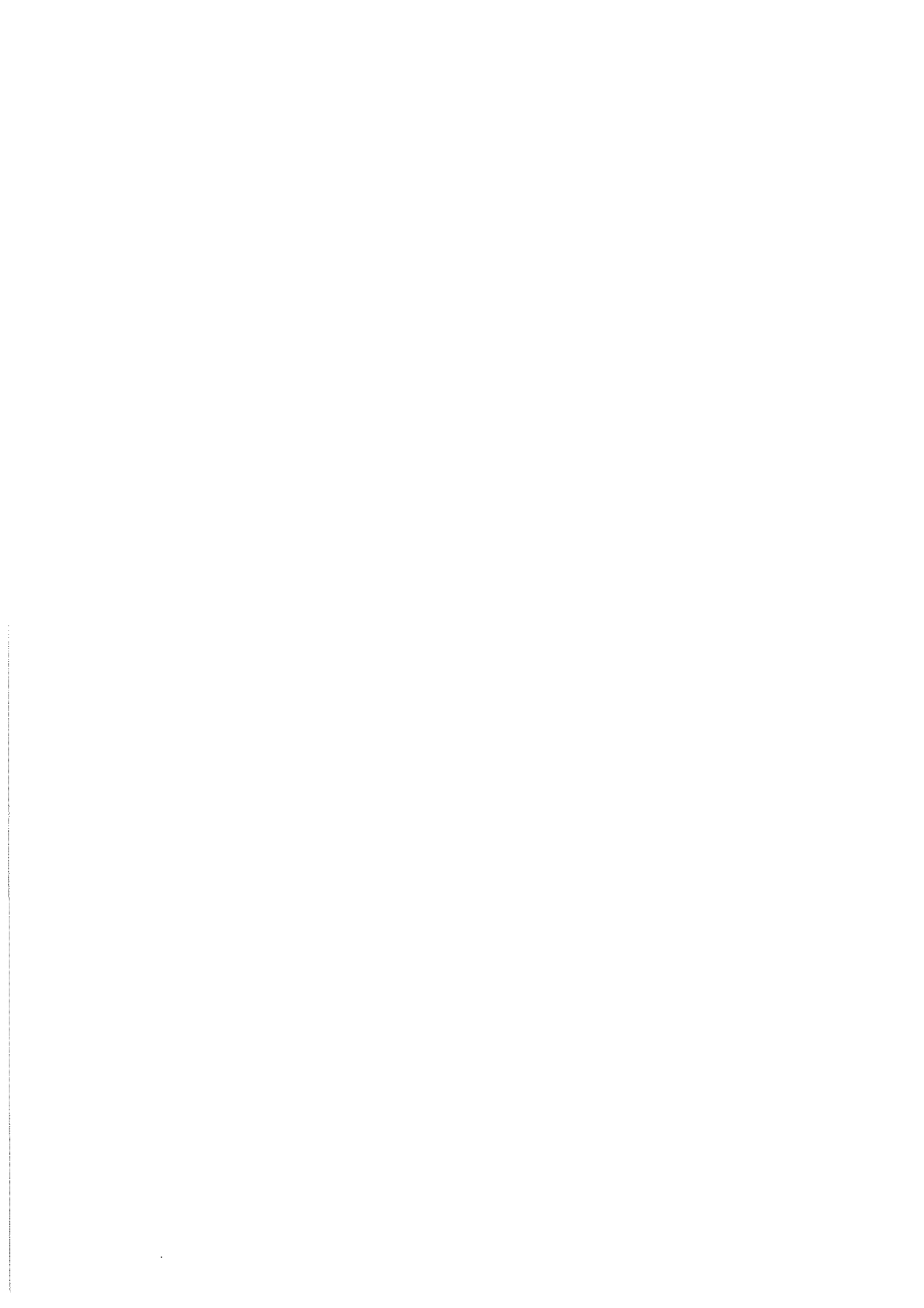


4. 今後の活動への意向

(1) 今後の活動への意向

図表w4-1-1 今後の活動意向〈全体〉





全国ボランティア活動実態調査報告書

平成 22 年 7 月発行

(発行) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
(編集) 全国ボランティア・市民活動振興センター

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
電話 03-3581-4656 FAX03-3581-7858
E-mail : vc00000@shakyo.or.jp

(調査協力) 株式会社アクロス

